

第210図 B-21号住居竈掘方平・断面図、出土遺物

B-22号住居 (第211・212図、第8表、PL.64・77)

B区南東付近にある。周囲に遺構がなく、全く単独で存在している。

位置 X=29726~731、Y=-42722~728

重複遺構 なし

形態 南東から北西を長軸にとる長方形。

方位 N-68°-W

規模 長軸4.30m×短軸3.20m

面積 13.21m²

壁高 12cm

床面 掘方底面は、中央部と、南から西壁に沿って深く掘られている。その底面からローム・ブロックを多く含む黄褐色土を10cmほど埋めて、床面を構築している。

柱穴 確認できなかった。

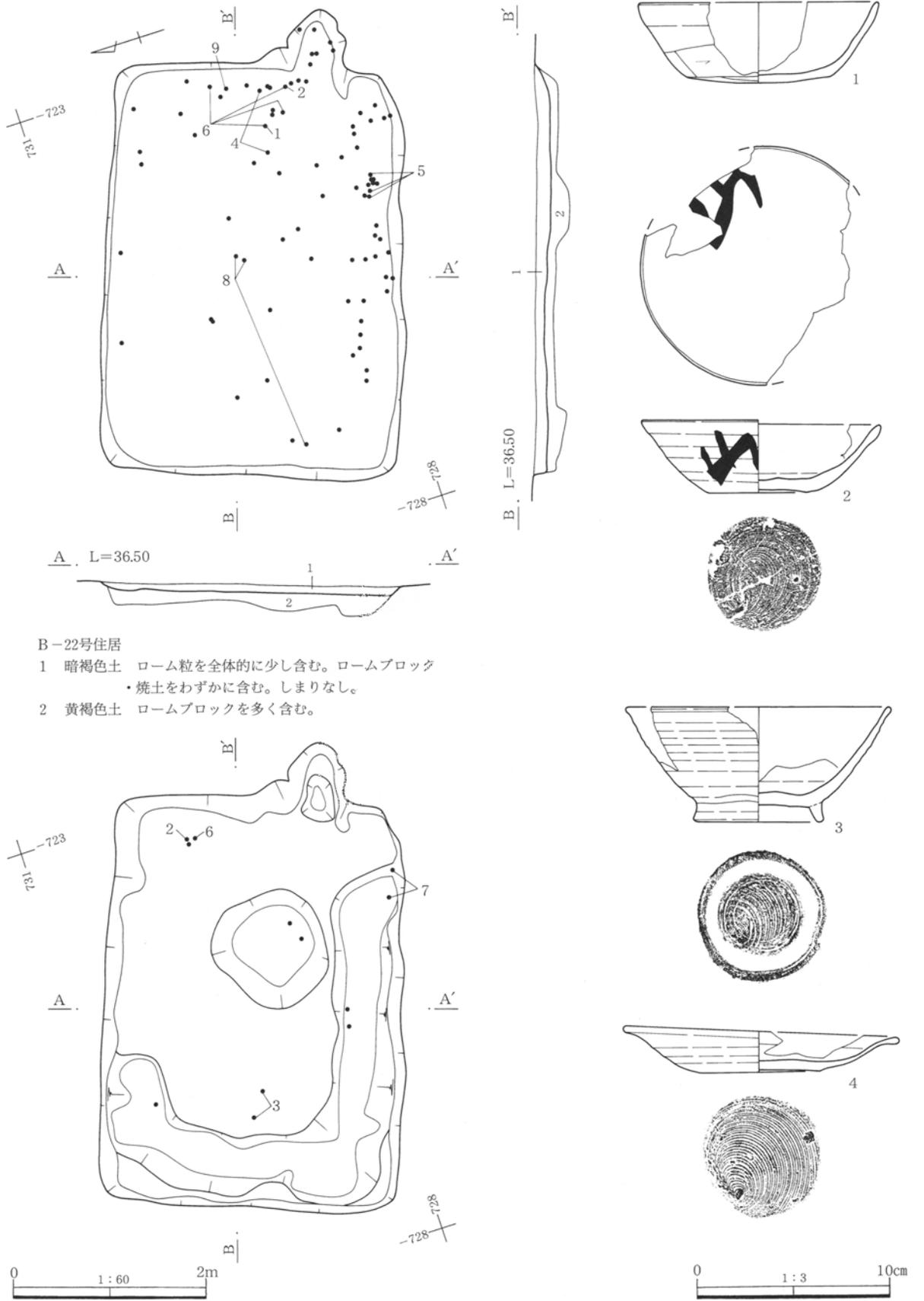
貯蔵穴 調査区内では未確認。

周溝 確認できなかった。

竈 住居東壁のやや南寄りに造られている。焚き口幅63cm、長さ55cmである。覆土には焼土を多く含む。燃焼部付近の使用面下層は、径50cm×30cmの範囲で掘り窪めていた。

遺物 遺物は住居全域から出土しているほか、掘方からも少なからず出土している。1は土師器杯、2は須恵器杯、3は須恵器高台付碗、4は須恵器皿、5~8は土師器甕、9は土師器台付甕である。2の須恵器杯の内外面には墨書があり、いずれも「山」と判読できる。その他、土師器片多数、須恵器片、焼成粘土塊が出土している。

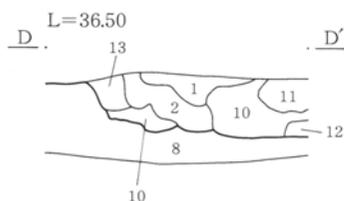
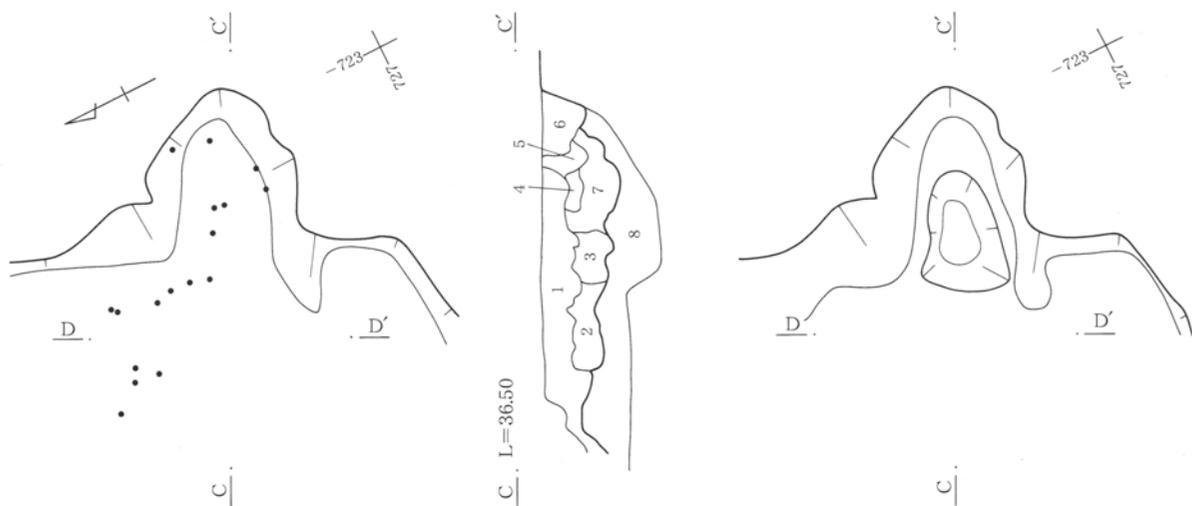
所見 出土遺物と住居の形態から、時期は9世紀後半であると考えられる。



B-22号住居

- 1 暗褐色土 ローム粒を全体的に少し含む。ロームブロック・焼土をわずかに含む。しまりなし。
- 2 黄褐色土 ロームブロックを多く含む。

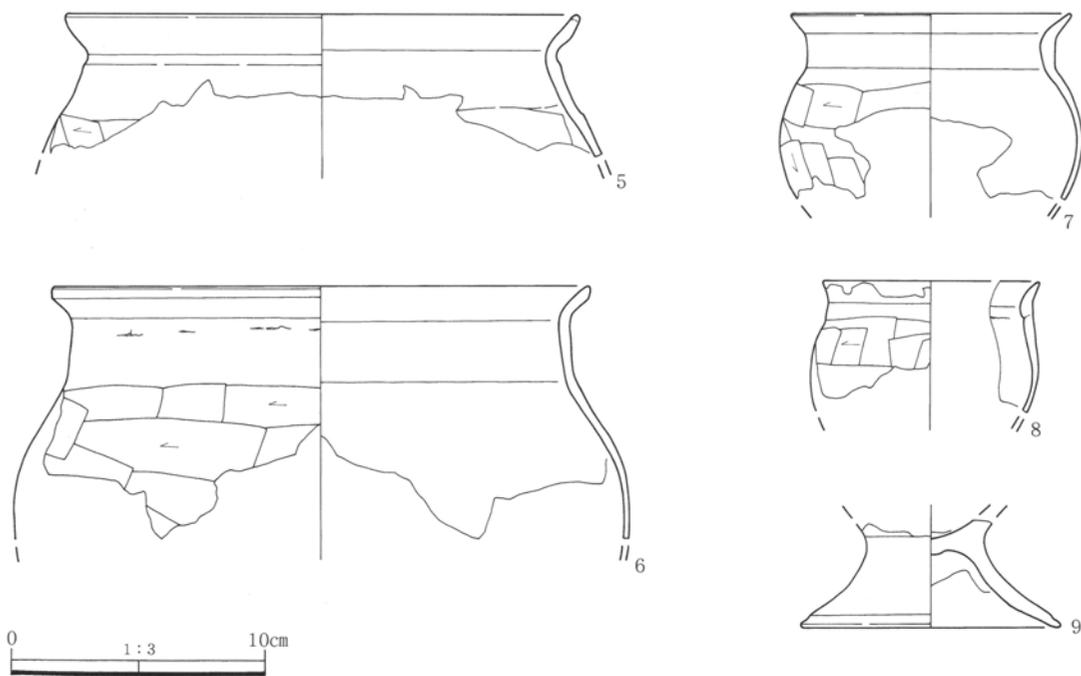
第211図 B-22号住居・掘方平・断面図、出土遺物(1)



- 5 褐色土 ロームブロックをわずかに含む。焼土を少し含む。
- 6 褐色土 ロームブロックを多く含む。
- 7 明褐色土 焼土・焼土ブロックを多く含む。
- 8 暗褐色土 ロームブロックを多く含む。しまりあり。
- 10 暗褐色土 ロームブロック少し含む。焼土粒をわずかに含む。
- 11 褐色土 ロームブロックを多く含む。
- 12 暗褐色土 ロームブロック・焼土粒・炭化物を含む。
- 13 暗褐色土 ロームブロックをわずかに含む。

B-22号住居竈

- 1 にぶい黄褐色土 ローム粒・ロームブロック含む。
- 2 暗黄褐色土 ロームブロックを主体とする。焼土を少し含む。
- 3 明褐色土 ロームブロックを少し含む。焼土を多く含む。
- 4 明褐色土 ロームブロック・焼土を少し含む。焼土粒をわずかに含む。



第212図 B-22号住居竈平・断面図、出土遺物(2)

B-23号住居 (第213・214図)

B区東部南端にある。住居の大部分が調査区外となる。

位置 X=29723~725、Y=-42734~740

重複遺構 なし

形態 大半が調査区外に位置しているため、全形は不明である。

方位 N-5°-E

規模 長軸(1.22)m×短軸5.00m

面積 (4.79)m²

壁高 21cm

床面 掘方底面にはかなり凹凸がある。それらを

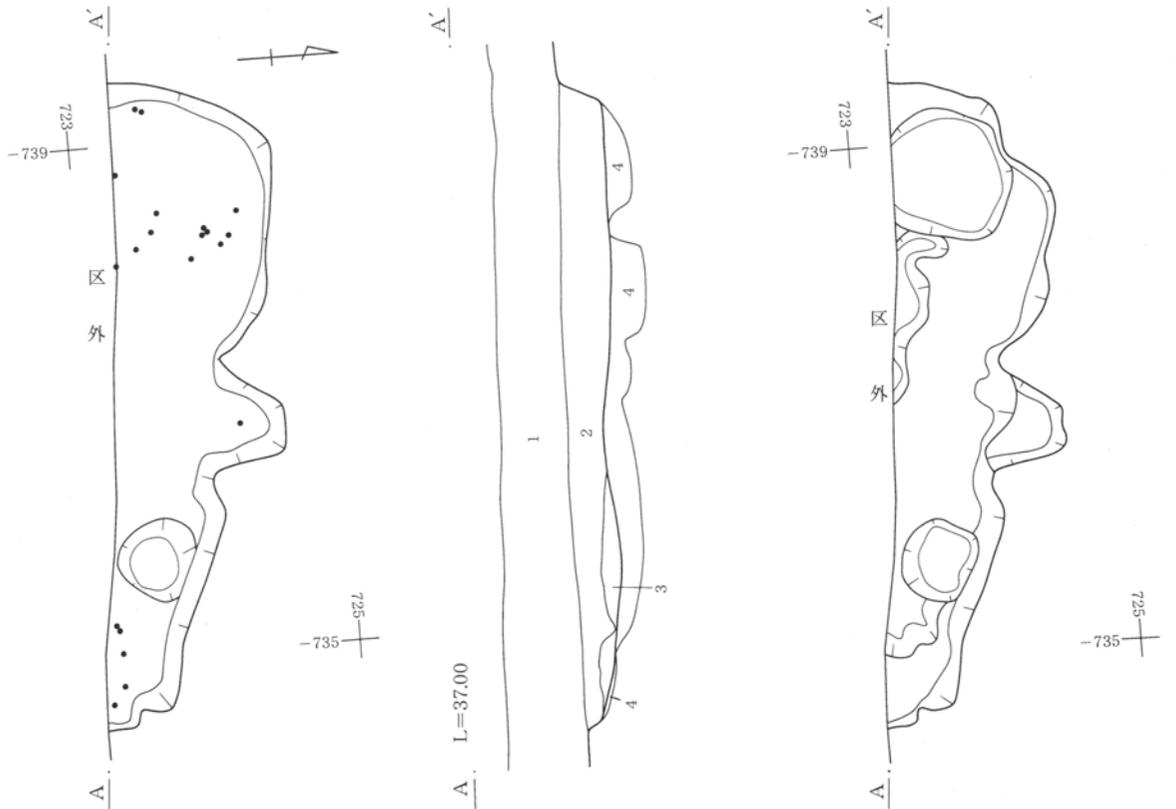
ローム・ブロックを多く含む暗褐色土で20cmほど埋め戻して床面を構築している。

貯蔵穴 竈右袖の脇付近にある。長径58cm、短径56cm、深さ20cmの楕円形である。

竈 住居北壁のほぼ中央に造られている。焚き口幅58cm、長さ47cmである。覆土には焼土を少量含んでいた。

遺物 土師器や須恵器の小破片がわずかに出土しているのみであり、図示できなかった。

所見 全形が不明であり、遺物もあまり出土していない。詳細は不明だが、時期は古代であると考えられる。

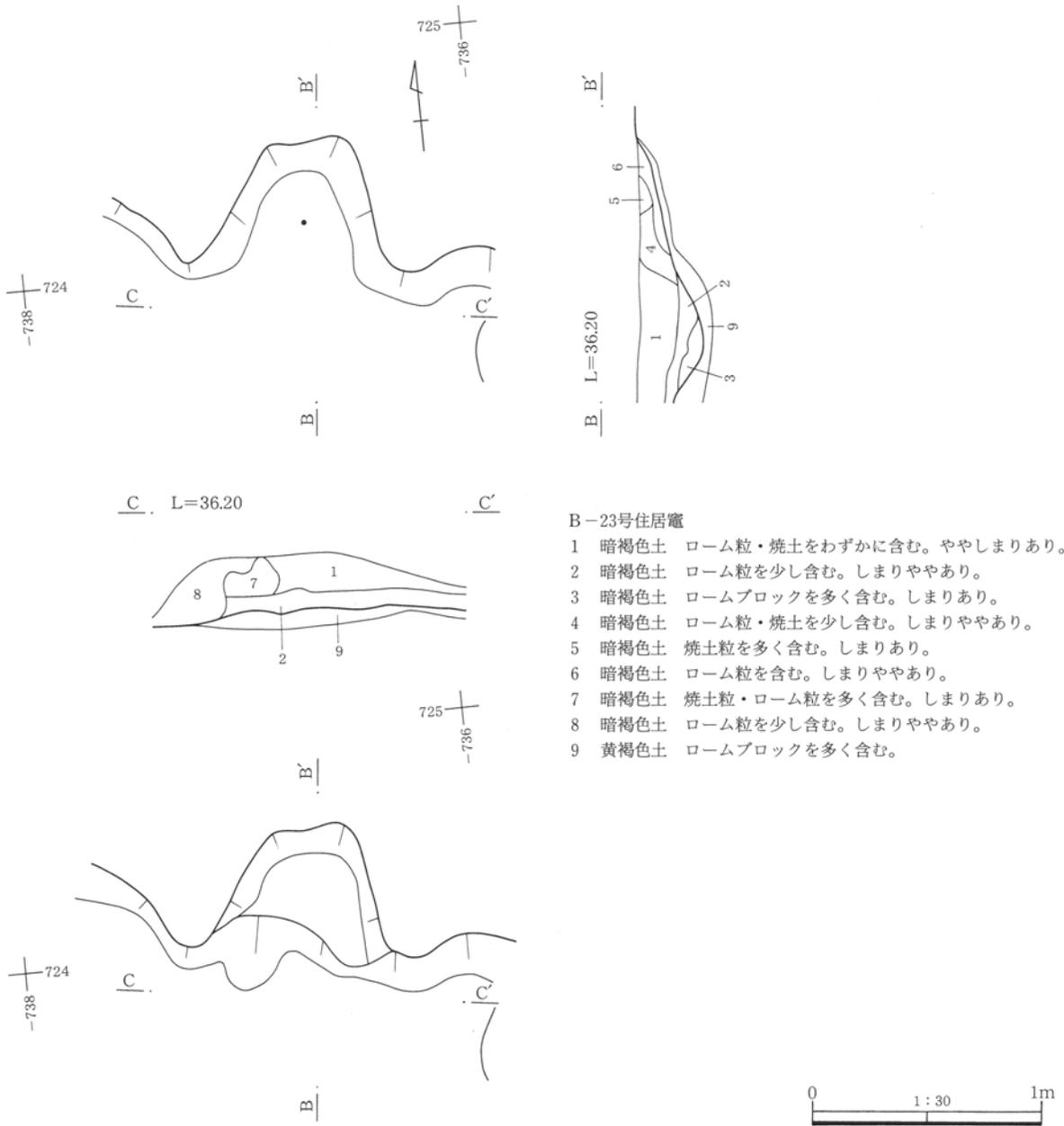


B-23号住居

- 1 表土
- 2 暗褐色土 ローム粒・焼土粒を少し含む。しまりあまりなし。
- 3 暗褐色土 ロームブロックを含む。しまりあまりなし。
- 4 暗褐色土 ロームブロックを多く含む。粘性ややあり。

0 1:60 2m

第213図 B-23号住居・掘方平・断面図



第214図 B-23号住居竈・掘方平・断面図

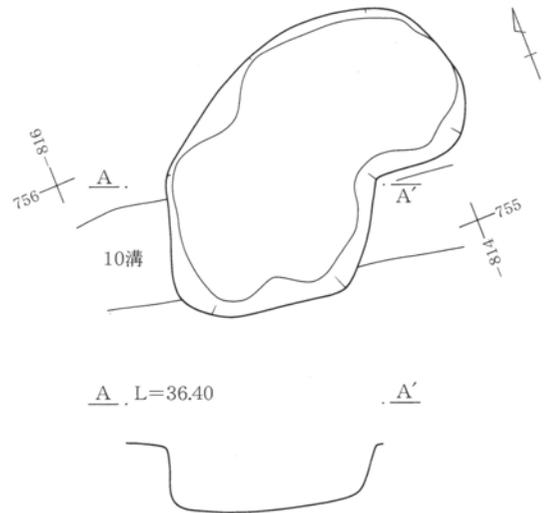
2 土坑・粘土採掘坑

B区では、42基を土坑として認定した。B区は平成14年度と平成17年度とに調査を行っているが、平成17年度はそれまでの方針と異なり、近現代のものまで遺構として認定していた。そのため、平成17年度調査の図面と平成14・15年度調査の図面は、遺構の密度が大きく異なる結果となった。整理作業では、平成17年度調査の調査時に土坑と認定したものをすべて遺構とはせず、ある程度の径と深度を有するか、あるいは、まとめて遺物を出土したもののみを土坑として認定した。土坑の多くは周辺住居よりも時期が新しいと考えられるが、住居の遺物が流れ込んでいると思われる土坑が多く、時期を判断することの難しいものが多かった。いずれにせよ、土坑の時期は周辺住居と同様に古代に属するか、近世以降の比較的新しいもののどちらかであると考えられる。馬骨がまとめて出土した土坑は1基(B-41土坑)ある。馬骨について詳しくは、第5章第3節に取り上げた。

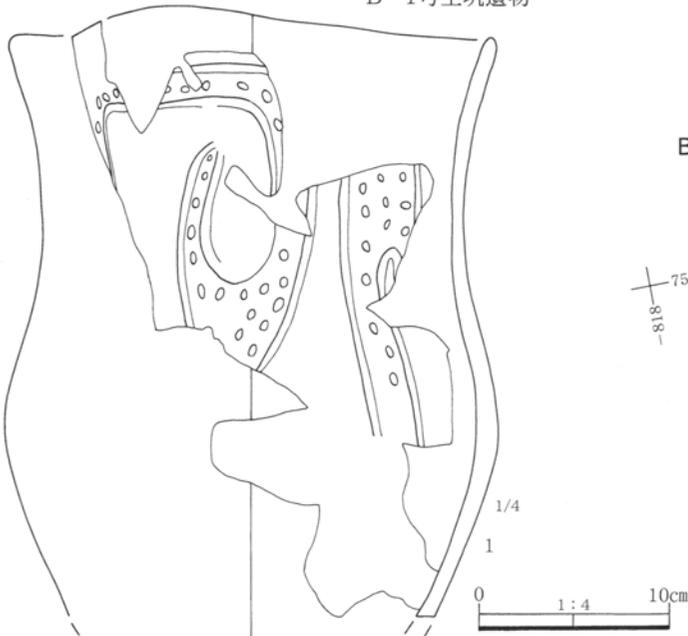
以下、注目すべき土坑について詳述する。それぞれの形態・規模については、一覧表と遺構図を掲げた。

B-1号土坑 (第215図、第8表、PL.77)

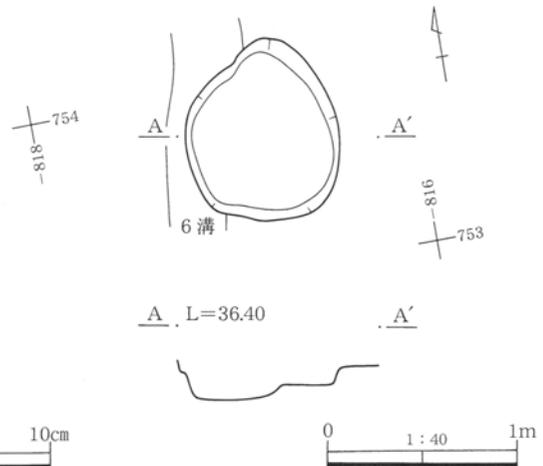
本遺構はB区西側の北壁近くに位置し、B-10号溝と重複する。本遺構はB-10号溝よりも新しい。平面の形状は不整形であり、東北から西南に長軸をとる。断面はやや不整形な箱状である。深さは最も深いところで36cmである。底面はやや丸味を帯びる。本遺構からは、1の縄文土器の破片がまとめて出土している。本遺跡の中では縄文土器が最もまとめて出土した土坑であるが、この縄文土器は混入品であると考えられる。



B-1号土坑遺物

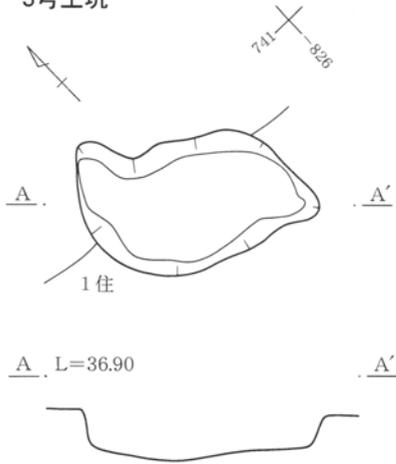


B-2号土坑



第215図 B-1号・2号土坑平・断面図、1号土坑出土遺物

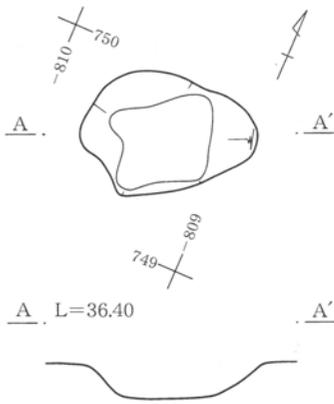
B-3号土坑



B-4号土坑



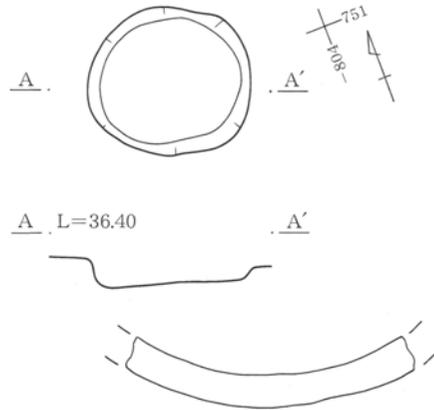
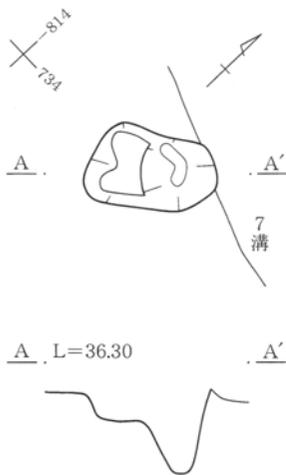
B-5号土坑



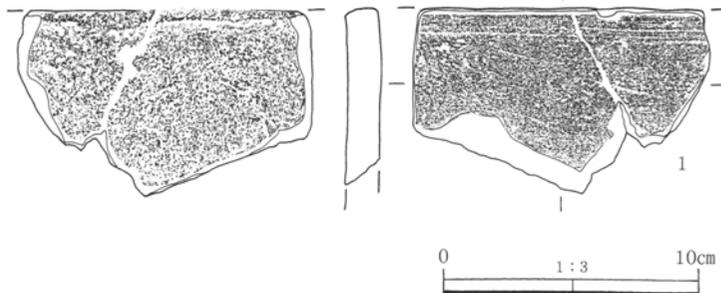
B-6号土坑 (第216図、第8表、PL.77)

本遺構はB区の中央やや西寄りに位置する。平面の形状は円形である。断面は、深度の一定しないやや不整な皿状である。深さは底部の西端が最も深く15cmほどあるが、東側に向かって緩やかに浅くなり、底部の東端は5cmほどである。本遺構からは、1の火鉢片が出土している。その他にも小片の十能瓦片や陶器片が出土していることから、本遺構は近世以降のものであると考えられる。

B-7号土坑



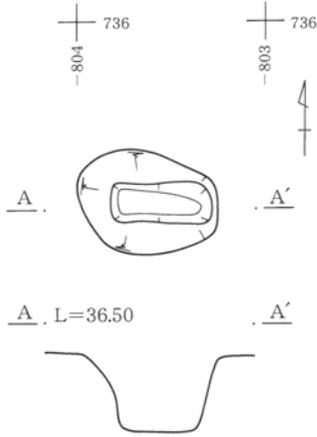
B-6号土坑遺物



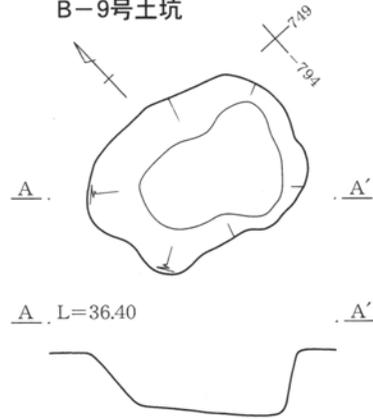
第216図 B-3号~7号土坑平・断面図、6号土坑出土遺物

第4章 細谷八幡遺跡

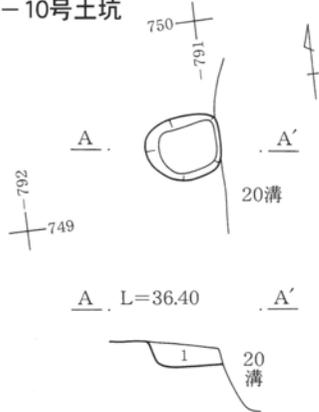
B-8号土坑



B-9号土坑



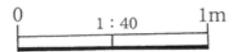
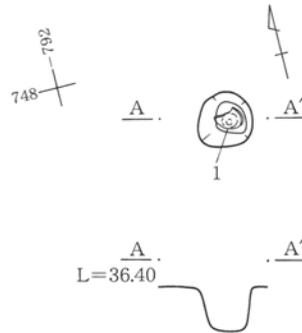
B-10号土坑



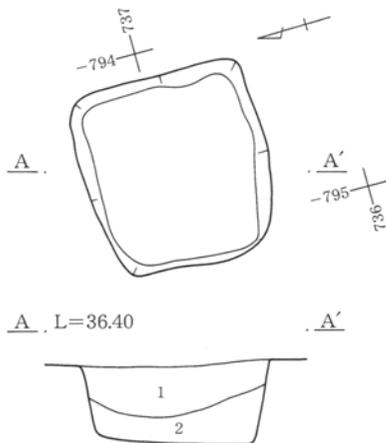
B-10号土坑
1 褐灰色土 灰色粘土を含む。

B-11号土坑 (第217図、第8表、PL.77)

本遺構はB区西側の中央やや北寄りに位置する。平面の形状は円形である。断面は逆台形状であり、深さ23cmである。底部は概ね平坦である。遺物は、1の須恵器高台付碗が出土している。その他、土師器片がわずかに出土している。



B-12号土坑



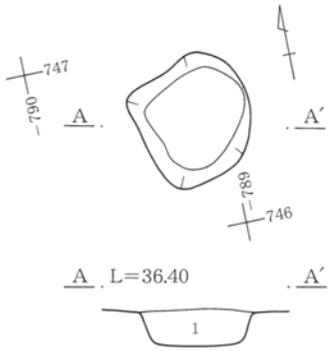
B-12号土坑
1 褐灰色土 ロームブロックをわずかに含む。
2 褐灰色土 ロームブロックを少し含む。

B-11号土坑遺物



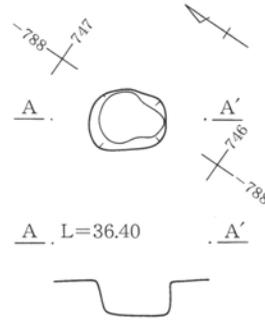
第217図 B-8号~12号土坑平・断面図、11号土坑出土遺物

B-13号土坑

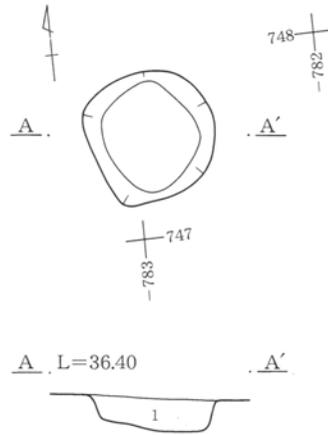


B-13号土坑
1 褐灰色土 しまりあり。

B-14号土坑

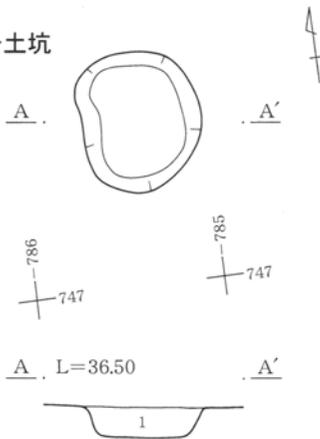


B-16号土坑



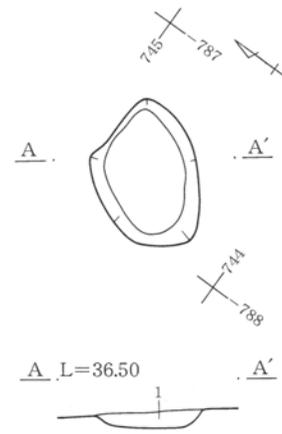
B-16号土坑
1 褐灰色土 ローム粒を含む。しまりあり。

B-15号土坑



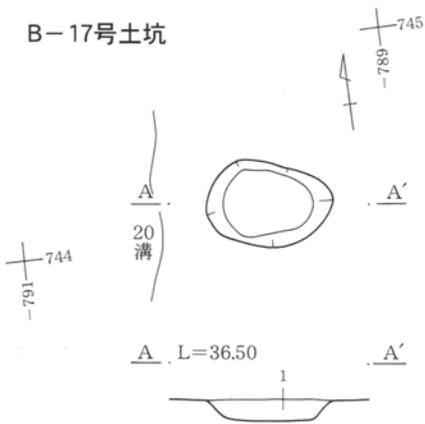
B-15号土坑
1 褐灰色土 ローム粒を含む。しまりあり。

B-18号土坑

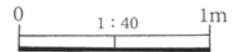


B-18号土坑
1 灰色土 砂質。砂粒を含む。

B-17号土坑

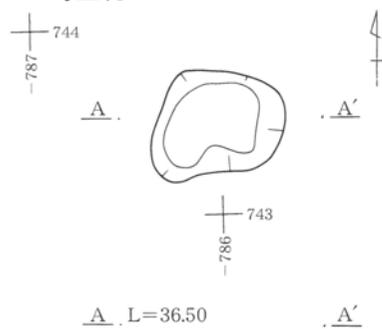


B-17号土坑
1 褐灰色土 ローム粒を含む。しまりあり。



第218図 B-13号~18号土坑平・断面図

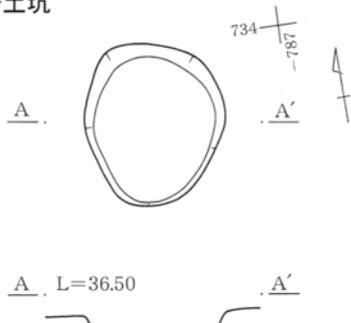
B-19号土坑



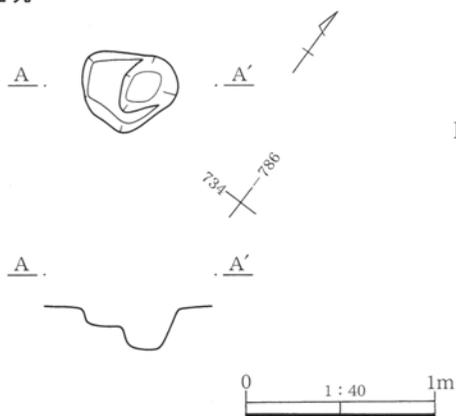
B-19号土坑

1 褐灰色土 ローム粒を含む。しまりあり。

B-20号土坑

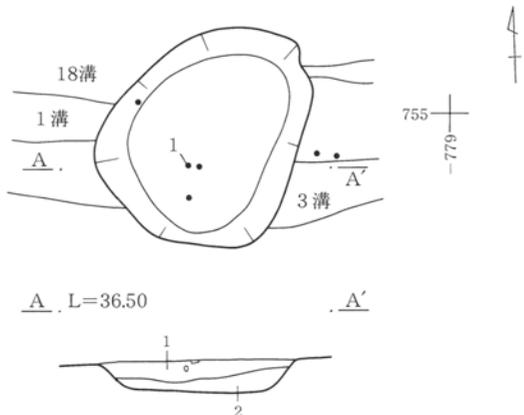


B-21号土坑



B-22土坑 (第219図、第8表、PL.78)

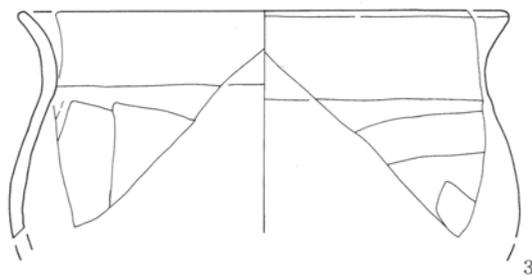
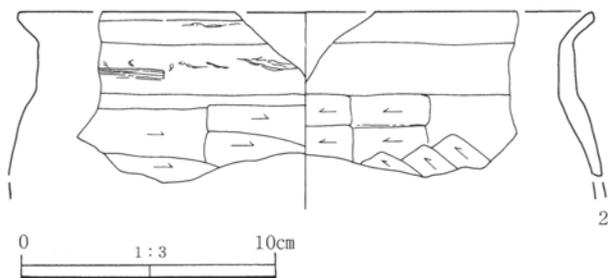
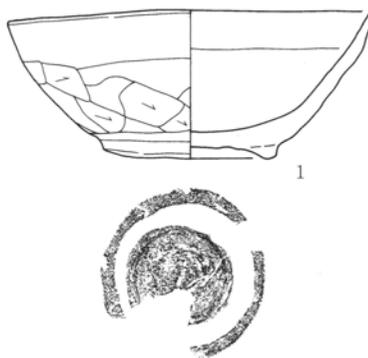
本遺構は、B区の中央やや西寄りの北壁付近に位置し、B-1・3・18号溝と重複する。本遺構は、いずれよりも新しい。平面の形状はやや不整形な楕円形であり、北東から南西に長軸をとる。断面は皿状、底部は平坦であり、深さは13cmほどである。埋土には焼土を含む。本遺構からは、1の土師器高台付碗、2・3の土師器甕が出土している。その他、土師器片、須恵器片、焼成粘土塊が出土している。出土遺物と遺構の切り合い関係から、本遺構の時期は古代と考えられる。



B-22号土坑

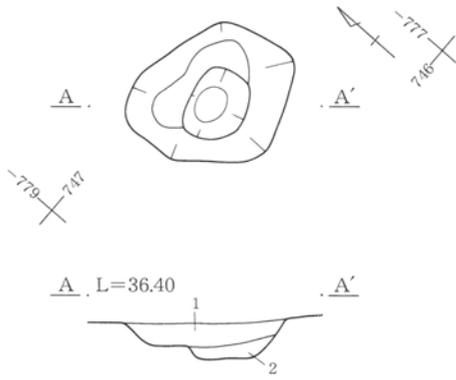
1 暗灰黄色土 ロームブロックを含む。
2 褐灰色土 黄灰色土ブロック・焼土ブロックを含む。

B-22号土坑
遺物



第219図 B-19号~22号土坑平・断面図、22号土坑出土遺物

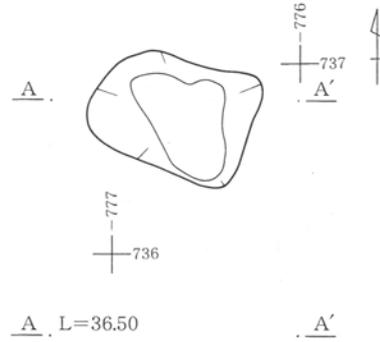
B-23号土坑



B-23号土坑

- 1 褐灰色土 ローム粒を含む。
- 2 灰黄褐色土 ロームブロックを含む。

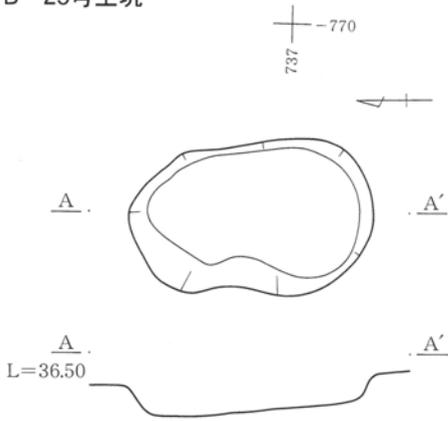
B-24号土坑



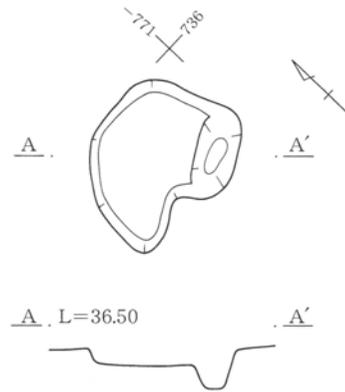
B-24号土坑

- 1 黒褐色土 ローム粒を少し含む。
- 2 黒褐色土 ロームブロックを多く含む。

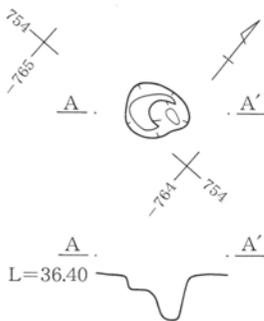
B-25号土坑



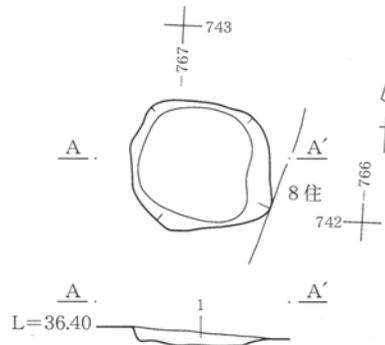
B-26号土坑



B-27号土坑



B-30号土坑



B-28号土坑



B-30号土坑

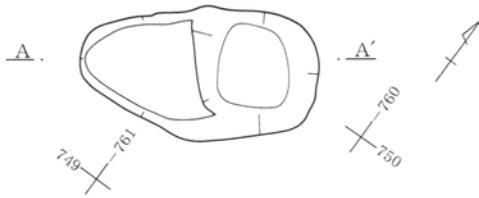
- 1 黄灰色土 焼土、炭化物を含む。

第220図 B-23号~28号・30号土坑平・断面図



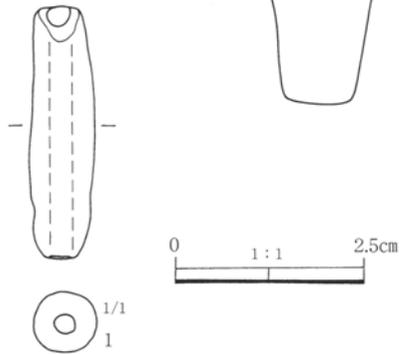
B-29号土坑 (第211図、第8表、PL.77)

本遺構はB区のほぼ中央北寄りに位置する。平面の形状はやや不整な楕円形であり、北東から南西に長軸をとる。断面は北東側が急峻に70cmほど落ち込み、南西側は5~15cmと浅い、2段の落ち込みの土坑である。本遺構からは、1の土錘が出土している。その他、土師器片や須恵器片が出土している。

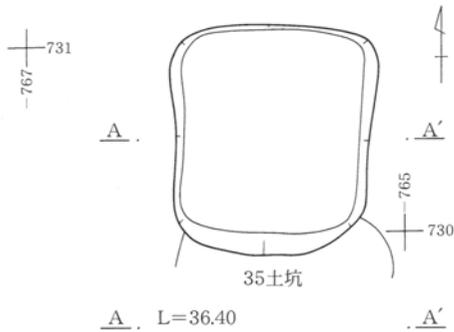


A L=36.40 A'

B-29号土坑遺物



B-34号土坑

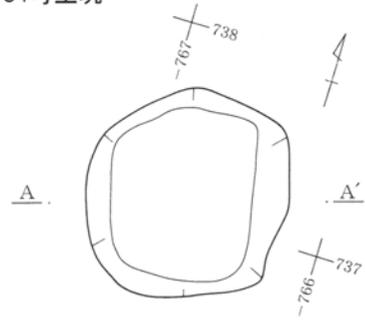


A L=36.40 A'

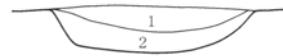


B-34号土坑
1 褐灰色土 しまりあり。

B-31号土坑



A L=36.40 A'



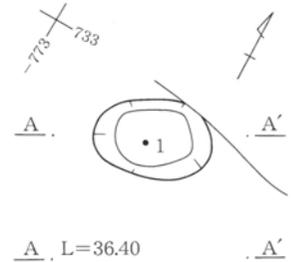
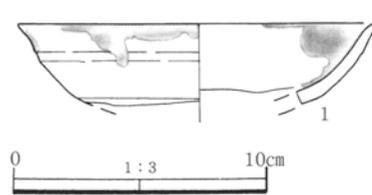
B-31号土坑

1 黒褐色土 褐色強い。しまりあり。
2 黒褐色土 黒色強い。しまりあり。

B-32号土坑 (第221図、第8表、PL.77)

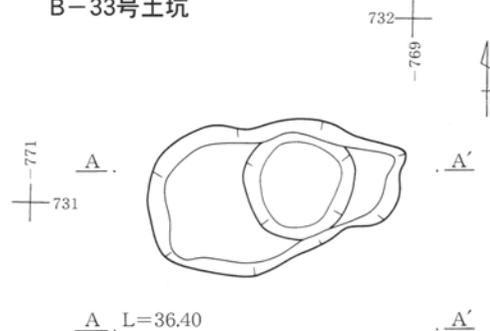
本遺構はB区中央の南側に位置する。平面の形状は楕円形であり、東北から西南に長軸をとる。断面は皿状であり、底面はほぼ平坦である。遺物は1の灰釉陶器片のみ出土している。

B-32号土坑遺物



A L=36.40 A'

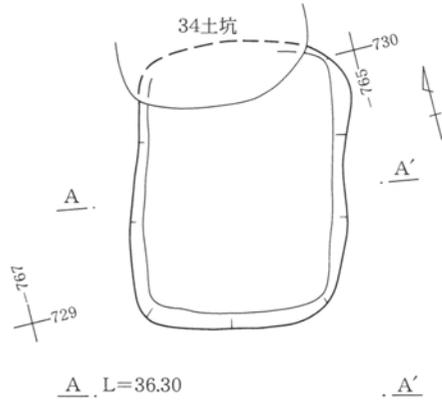
B-33号土坑



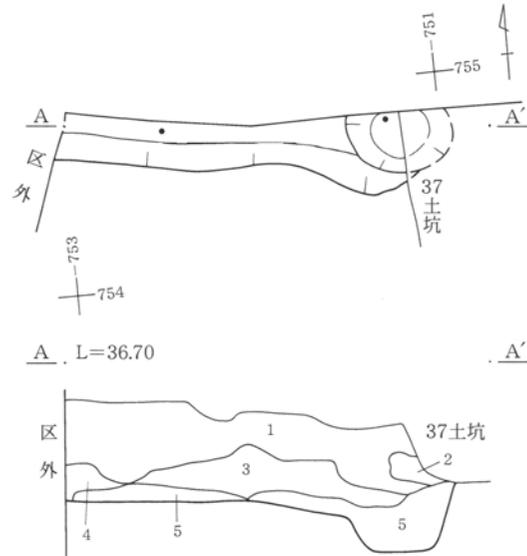
A L=36.40 A'

第221図 B-29号・31号~34号土坑平・断面図、29号・32号土坑出土遺物

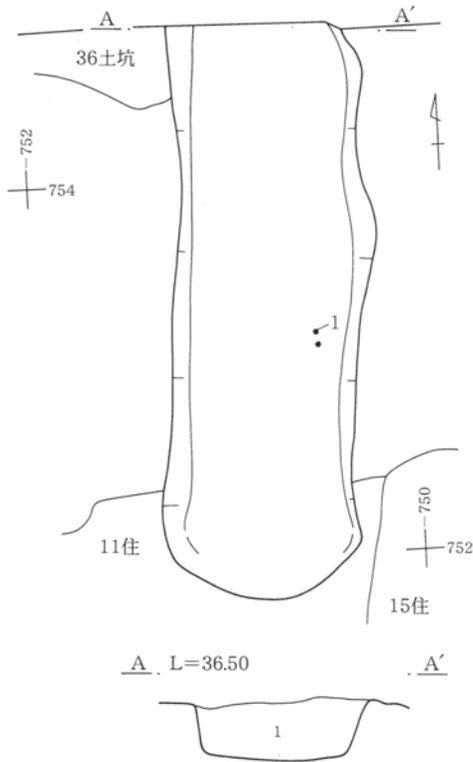
B-35号土坑



B-36号土坑



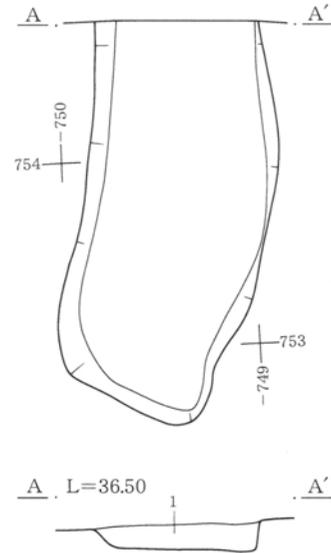
B-37号土坑



B-36号土坑

- 1 明褐色土 ローム粒・ロームブロックを少し含む。
- 2 明褐色土 ローム粒・ロームブロック・炭化物含む。
- 3 にぶい黄褐色土 ローム粒・ロームブロックを少し含む。
- 4 にぶい黄褐色土 ローム粒・ロームブロックを少し含む。粘性ややあり。
- 5 にぶい黄褐色土 ロームブロックを少し含む。しまりあり。

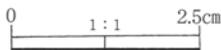
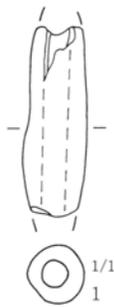
B-38号土坑



B-37号土坑遺物

B-37号土坑

- 1 暗褐色土 ローム粒・ロームブロックを多く含む。



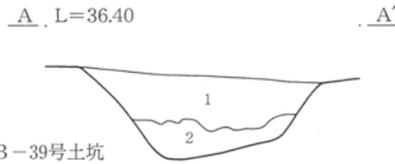
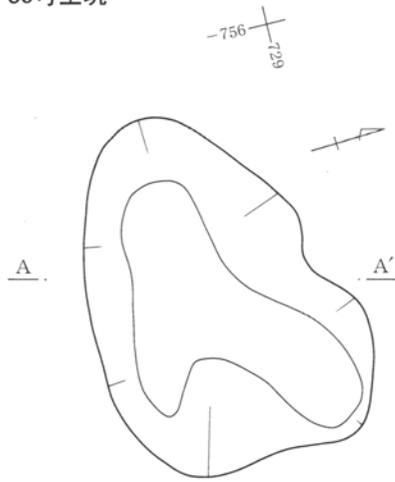
B-38号土坑

- 1 にぶい黄褐色土 ロームブロックを多く含み、明褐色土を斑状に含む。



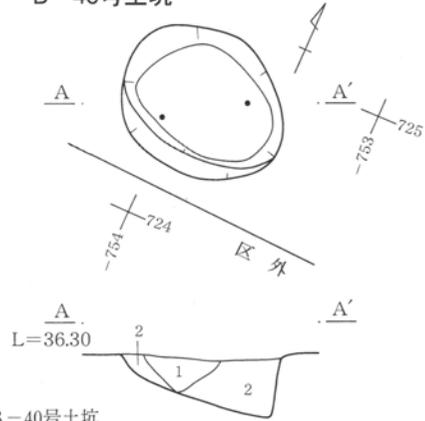
第222図 B-35号~38号土坑平・断面図、37号土坑出土遺物

B-39号土坑



B-39号土坑
 1 暗褐色土 ローム粒を含む。粘性・しまりあり。
 2 暗褐色土 褐色土を少し含む。

B-40号土坑



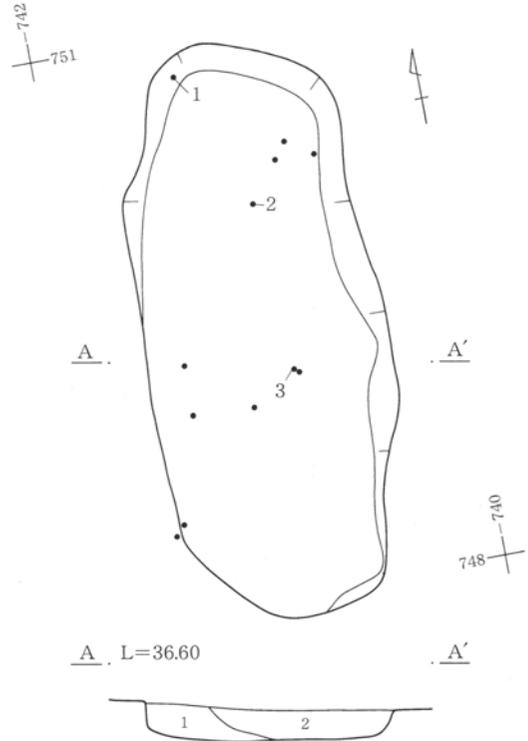
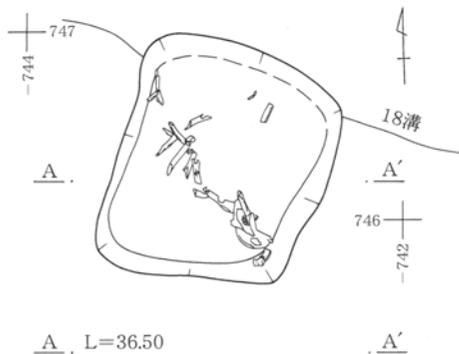
B-40号土坑
 1 にぶい黄褐色土 焼土を多く含む。
 2 暗褐色土 ロームブロックを少し含む。しまりあり。

B-42号土坑 (第223・224図、第8表、PL.62・78)

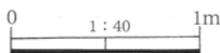
本遺構はB区の東寄りに位置する。平面の形状は、南北に長軸をとるやや不整な長方形である。断面は皿状である。埋土は、ローム・ブロックを含む暗褐色土である。底面は概ね平坦である。遺物は1が須恵器坏、2が須恵器碗、3が刀子である。その他、土師器片や須恵器片が出土している。

B-41号土坑 (第223図、PL.65)

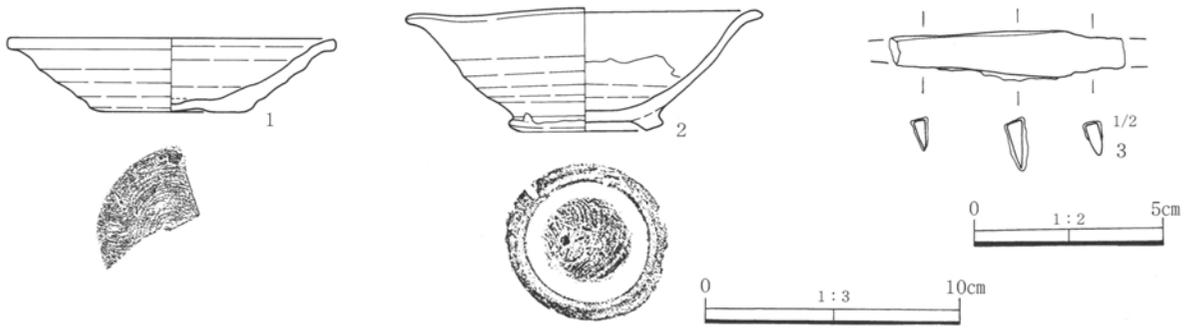
本遺構はB区の中央やや東側に位置し、B-18号溝と重複する。本遺構はB-18号溝よりも新しい。平面の形状はやや不整な長方形である。底面は、西側から東側へ緩やかに低くなる。断面はやや不整形な皿状である。本遺構からは、馬骨が出土している。その他には、遺物は出土していない。



B-42号土坑
 1 暗褐色土 ロームブロックを多く含む。しまりあまりなし。
 2 暗褐色土 灰褐色粒を少し含む。しまりあまりなし。



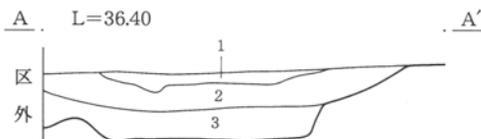
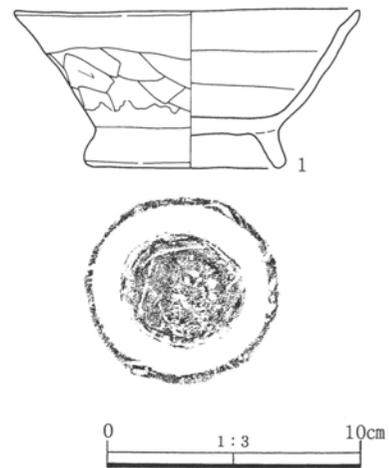
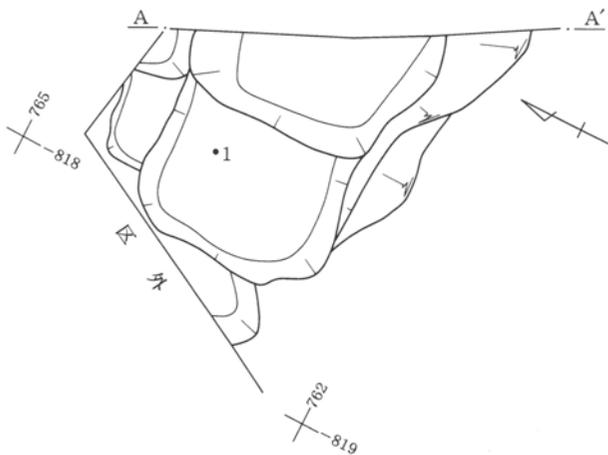
第223図 B-39号~42号土坑平・断面図



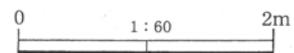
第224図 B-42号土坑出土遺物

B-1号粘土採掘坑 (第225図、第8表、PL.78)
 2区北西隅にある。当初溝として調査を行ったが、底面の形態から粘土採掘坑と判断したものである。
位置 X=29761~765、Y=-42815~819
重複遺構 なし
形態 南側の立ち上がりが確認できたため、全体の形態は不明である。底部の形態からみると、東側・西側・北側には広がっていると推測される。いくつかの土坑が連続するような形態で、それぞれの断面形は皿状である。

規模 検出全長 16.24m 上幅 0.30m
 底幅 0.12m 深さ 0.09m
遺物 1の土師器高台付碗が出土している。
所見 遺物の出土状況と、周囲の攪乱と判断した穴との重複関係から、近世以後の比較的新しい土坑で、近現代まで使用されていた可能性が強いものと考えられる。内部から出土した須恵器片、土師器片については、表面がやや摩滅しており、明らかに混入品である。



B-1号粘土採掘坑
 1 褐灰色土 砂粒を多く含む。
 2 黄灰色土 ロームブロックを含む。しまりあり。
 3 黄灰色土 ロームブロックを多く含む。しまりあり。



第225図 B-1号粘土採掘坑平・断面図、出土遺物

第4章 細谷八幡遺跡

第7表 B区 土坑一覧表

No	位置	大きさ (m)			方位	備考
		長軸	短軸	深さ		
1	754-813	1.91	1.15	0.36	N-65°-E	B-10号溝と重複、本遺構の方が新しい。
2	753-816	0.96	0.80	0.20	N-15°-E	B-6号溝と重複、本遺構の方が新しい。
3	740-826	1.29	0.73	0.27	N-52°-W	B-1号住居と重複、本遺構の方が新しい。
4	740-825	0.58	0.52	0.28	N-27°-W	B-1号住居と重複、本遺構の方が新しい。
5	749-808	0.94	0.64	0.19	N-66°-E	
6	750-804	0.88	0.79	0.15	N-67°-W	
7	733-812	(0.68)	0.40	0.43	N-54°-E	B-7号溝と重複、本遺構の方が新しい。
8	734-803	0.72	0.56	0.41	N-90°	
9	748-794	1.16	0.85	0.34	N-55°-W	
10	749-790	(0.40)	0.35	0.12	N-83°-W	B-20号溝に隣接する。
11	747-791	0.32	0.30	0.23	N-63°-E	
12	736-794	1.02	0.98	0.40	N-90°	
13	746-788	0.73	0.65	0.19	N-17°-E	
14	746-787	0.51	0.33	0.18	N-35°-W	
15	747-785	0.74	0.64	0.16	N-5°-E	
16	747-782	0.75	0.71	0.17	N-25°-E	
17	744-789	0.66	0.45	0.11	N-84°-W	
18	744-787	0.79	0.55	0.09	N-50°-E	
19	743-785	0.76	0.60	0.14	N-58°-E	
20	733-787	0.86	0.75	0.09	N-18°-E	
21	733-786	0.51	0.44	0.21	N-43°-E	
22	754-779	1.26	1.02	0.13	N-40°-E	B-1・3・18号溝と重複、本遺構がいずれよりも新しい。
23	746-777	0.84	0.73	0.19	N-59°-W	
24	736-776	0.94	0.70	0.38	N-76°-E	
25	736-770	1.30	0.77	0.16	N-0°	
26	735-771	0.91	0.77	0.21	N-50°-E	
27	753-764	0.34	0.29	0.23	N-50°-E	
28	752-760	0.68	0.47	0.30	N-53°-E	
29	749-760	1.36	0.71	0.90	N-52°-E	
30	742-766	0.83	0.75	0.08	N-40°-W	
31	736-766	1.20	1.11	0.25	N-37°-E	
32	732-771	0.62	0.42	0.10	N-61°-E	B-14号溝と隣接する。
33	730-769	1.40	0.70	0.29	N-68°-E	
34	729-765	1.22	1.10	0.30	N-0°	B-9号住居と重複、本遺構の方が新しい。
35	728-765	1.52	1.10	0.21	N-14°-E	B-9号住居・B-34号土坑と重複。住居よりも新しくB-34号土坑よりも古い。
36	754-750	(2.08)	0.44	0.67	N-85°-W	B-37号土坑と重複、本遺構の方が古い。
37	751-750	(3.05)	1.00	0.33	N-1°-E	B-36号土坑と重複、本遺構の方が新しい。
38	752-748	(2.15)	0.99	0.14	N-5°-E	
39	727-753	1.93	1.26	0.45	N-89°-W	
40	724-753	0.94	0.79	0.30	N-70°-W	
41	745-742	1.28	1.11	0.32	N-16°-E	B-18号溝と重複、本遺構の方が新しい。
42	747-740	3.09	1.30	0.18	N-0°	

3 溝

B-1号溝 (付図1、第226図、第8表、PL.78)

B区北壁際やや西寄りにある東西方向の溝である。

位置 X=29749~758、Y=-42756~796

重複遺構 B-2号住居、B-3・18・19・20・23号溝と重複する。遺構平面確認により、本遺構はB-2号住居、B-3号溝よりも新しく、B-17・18・20・23号溝よりも古い。

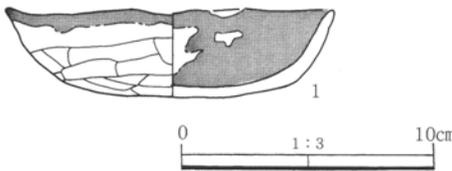
走向 N-88°-W

形態 わずかに蛇行しながら走向する。断面は皿状である。B区北壁際から現れ、B-2号住居と重複する付近で消失する。

規模 検出全長 24.00m 上幅 0.30~0.80m
底幅 0.10~0.30m 深さ 0.15m

遺物 1は土師器坏である。その他、土師器片や須恵器片多数、灰釉陶器片などが出土している。

所見 出土遺物は土師器を中心に古代に属するものが多く出土しているが、溝の深度があまりなく、形態的には不明瞭である。時期は不明である。



第226図 B-1号溝出土遺物

B-2号溝 (付図1)

B区中央西側やや北寄りにある東西方向の溝である。

位置 X=29747~753、Y=-42773~794

重複遺構 B-4・5号住居、B-20号溝と重複する。遺構平面確認と土層断面の観察により、本遺構はいずれよりも新しい。

走向 N-78°-W

形態 ほぼ直線的に走向する。断面は蒲鉾状である。B-20号溝と直交する。B-20号溝の西側付近から現れ、B-4・5号住居と重複した後にB-5号住居の東側で消失する。

規模 検出全長 (2.0) m 上幅 0.40m
底幅 0.30m 深さ 0.12m

遺物 なし

所見 遺物は確認できなかったが、溝の規模・走向・他の遺構との新旧関係などから、時期は近世以降であると考えられる。

B-3号溝 (付図1)

B区北壁際の中央から西側にある東西方向の溝である。

位置 X=29754~760、Y=-42779~820

重複遺構 B-1・11・18・19・20号溝、B-22号土坑と重複する。遺構平面確認により、本遺構はB-18号溝よりも新しく、B-1・11・19・20号溝、B-22号土坑よりも古い。

走向 N-82°-W

形態 ほぼ直線的に走向する。断面は皿状である。B区北西隅付近から北壁際を東方向に走向し、B-1・18号溝と重複した辺りで消失する。

規模 検出全長 (41.01) m 上幅 1.10m
底幅 0.46m 深さ 0.06~0.16m

遺物 なし

所見 重複関係ではB-11号溝よりも古く、B-18号溝よりも新しいことから、古代~近世のいずれかの時期であると考えられる。

B-4号溝 (第228図)

B区西端付近にある南北方向の溝である。

位置 X=29735~753、Y=-42824~826

重複遺構 B-1号住居、B-7・8号溝と重複する。遺構平面確認により、本遺構はB-1号住居よりも新しく、B-7・8号溝よりも古い。

走向 N-0°

形態 ほぼ直線的に走向する。断面は皿状である。B-5号溝と並走する。B区西壁のほぼ中央から現れて、南壁に走行する。

規模 検出全長 16.24m 上幅 0.30m

第4章 細谷八幡遺跡

底幅 0.12m 深さ 0.09m

遺物 なし

所見 遺物が確認できなかったため、時期は不明である。

B-5号溝 (第227~229図、第8表、PL.65・79)

B区西端付近にある南北方向の溝である。

位置 X=29734~757、Y=-42822~825

重複遺構 B-7・8・9号溝と重複する。遺構平面確認により、本遺構はいずれよりも古い。

走向 N-0°

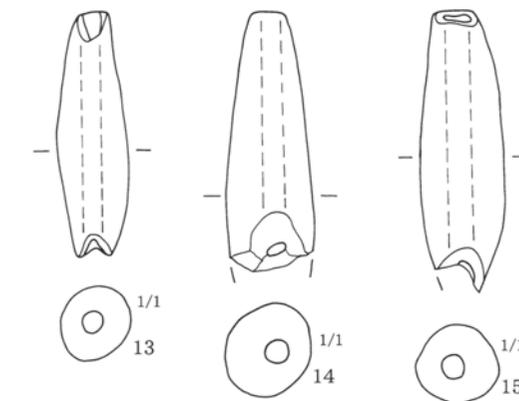
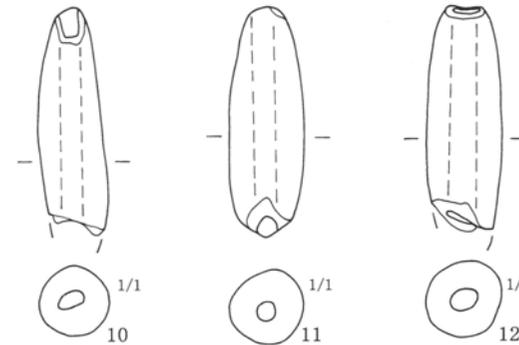
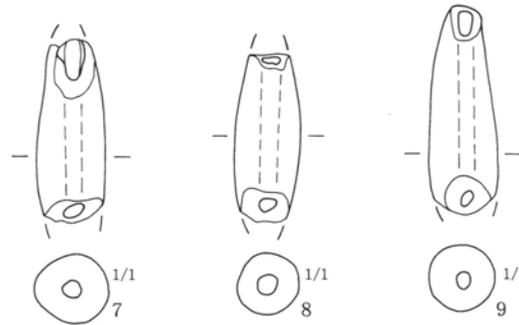
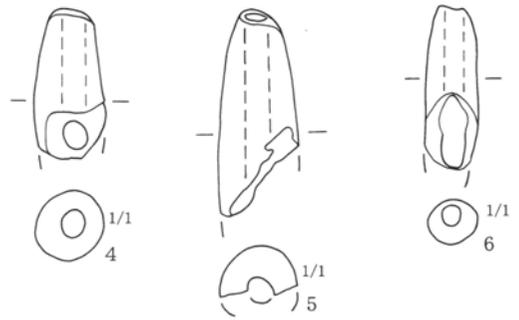
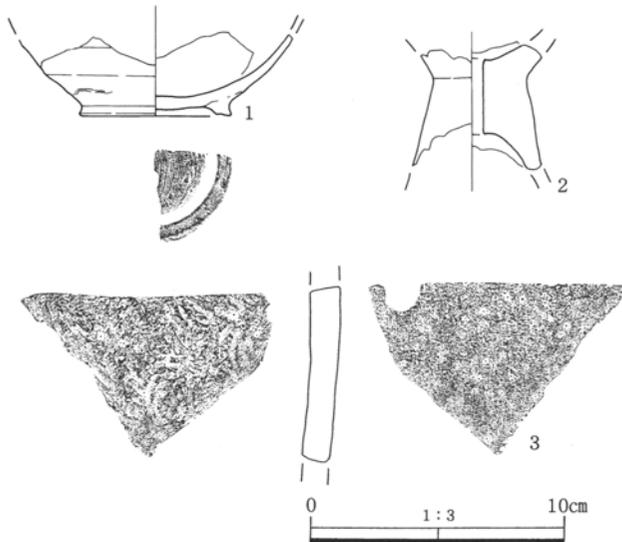
形態 ほぼ直線的に走向する。断面は上位から20cm付近までは緩やかな傾斜であるが、その下位はやや急になる。B区西壁のやや北寄りから現れ、B区南壁に向かって延びていく。

規模 検出全長 20.14m 上幅 1.58m

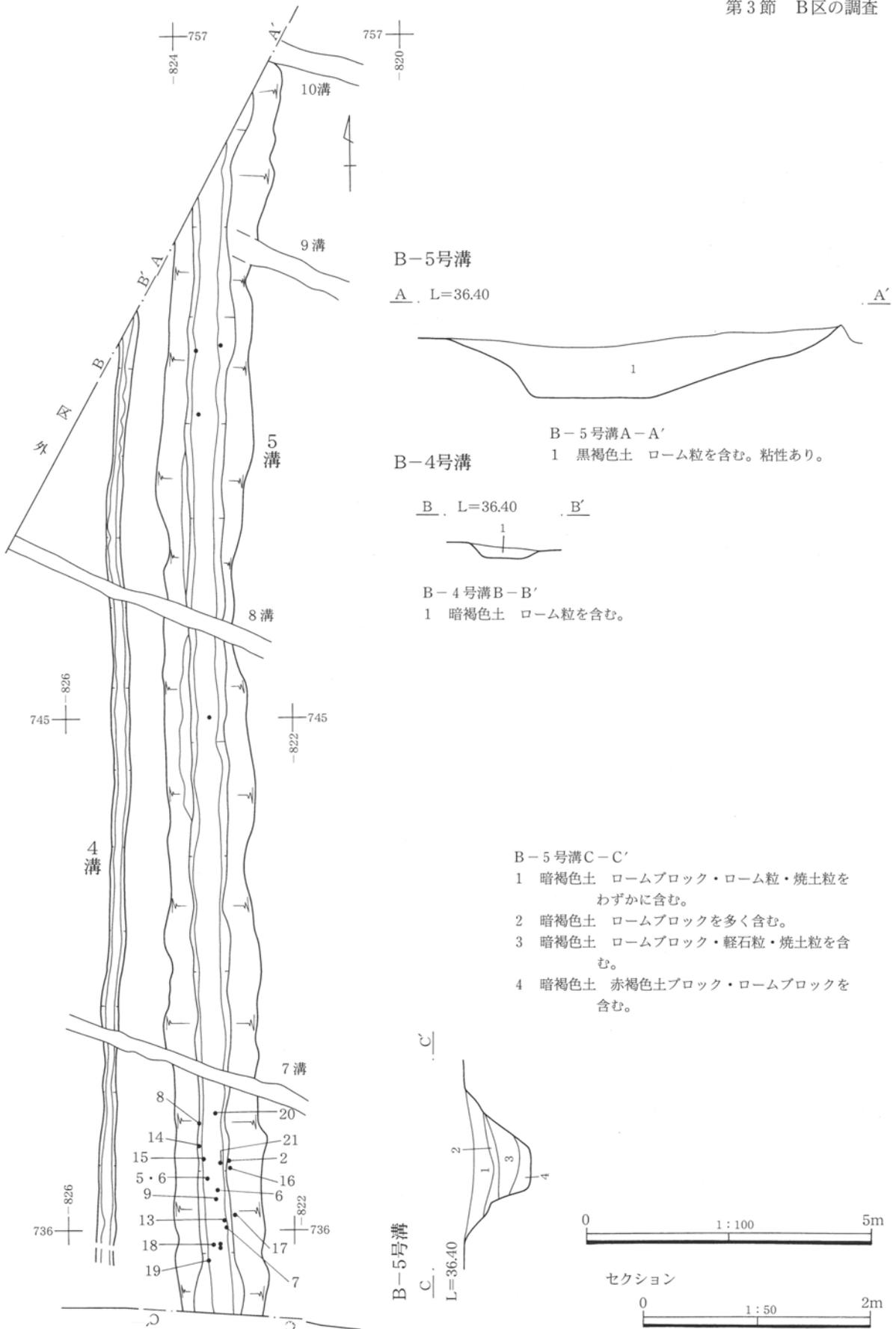
底幅 0.40m 深さ 0.50m

遺物 1は須恵器高台付埴、2は土師器器台、3は須恵器甕、4~22は土錘、24・25は縄文土器片、23は石斧である。その他、土師器片や須恵器片が多数、縄文土器片や灰釉陶器片などが出土している。

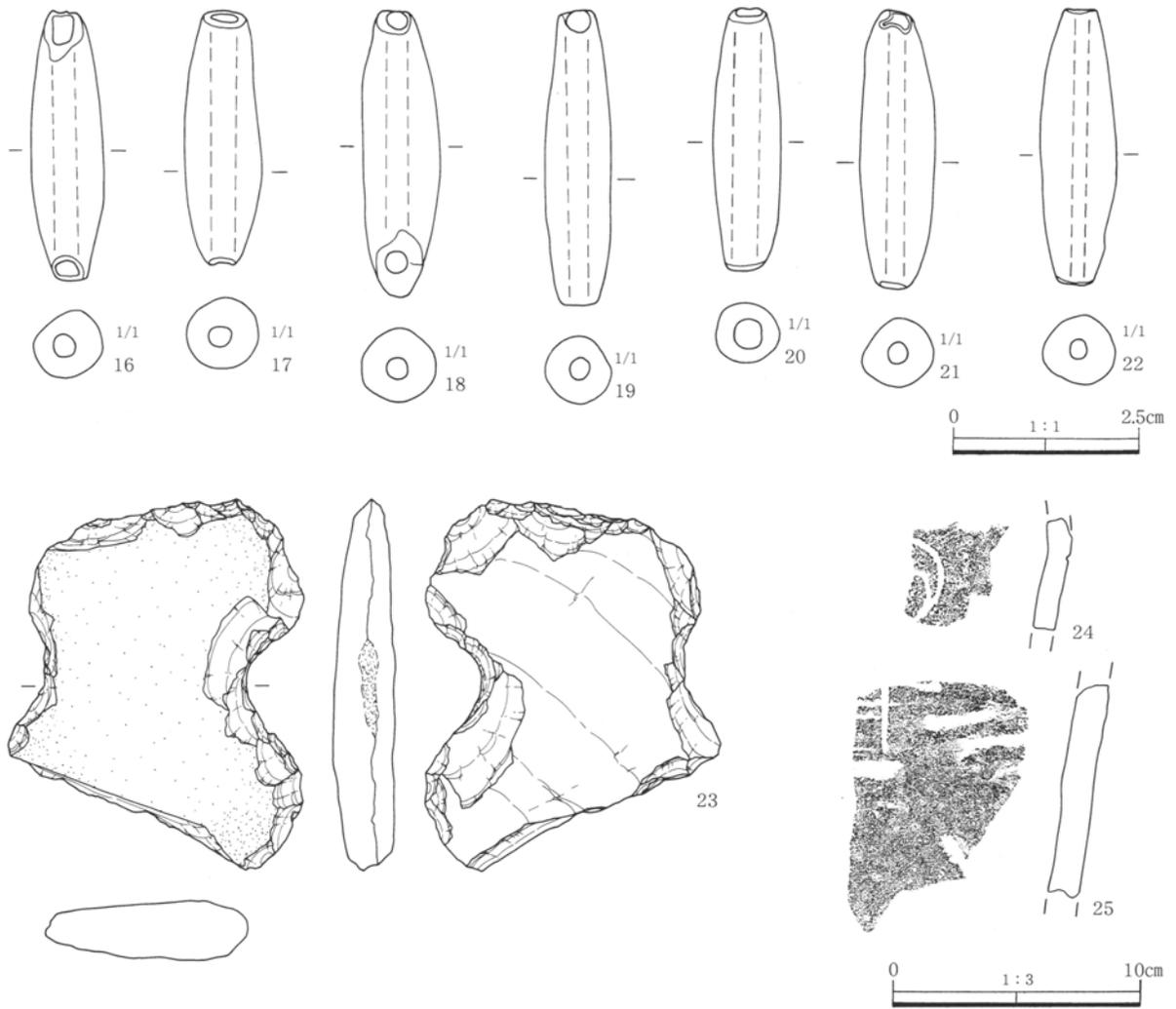
所見 本遺跡の遺構の中では、最もまとまって土錘が出土している。遺物の出土状況から、時期は周辺の住居と同様に古代であると考えられる。



第227図 B-5号溝出土遺物(1)



第228図 B-4号・5号溝平・断面図



第229図 B-5号溝出土遺物(2)

B-6号溝 (第230・231図、第8表、PL.79)

B区西側にある南北方向の溝である。

位置 X=29739~756、Y=-42816~820

重複遺構 B-8・9・10号溝、B-2号土坑と重複する。遺構平面確認により、本遺構はいずれよりも古い。

走向 N-6°-E

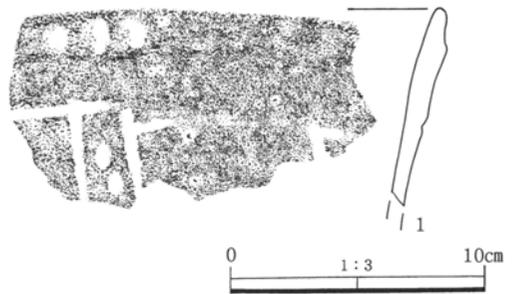
形態 ほぼ直線的に走向する。断面は皿状である。北側はB-10号溝と重複する辺りから現れ、B区南壁に向かって延びていく。B-8・9号溝とはほぼ直交する。

規模 検出全長 (16.88) m 上幅 0.20~0.40m
底幅 0.10~0.22m 深さ 0.10m

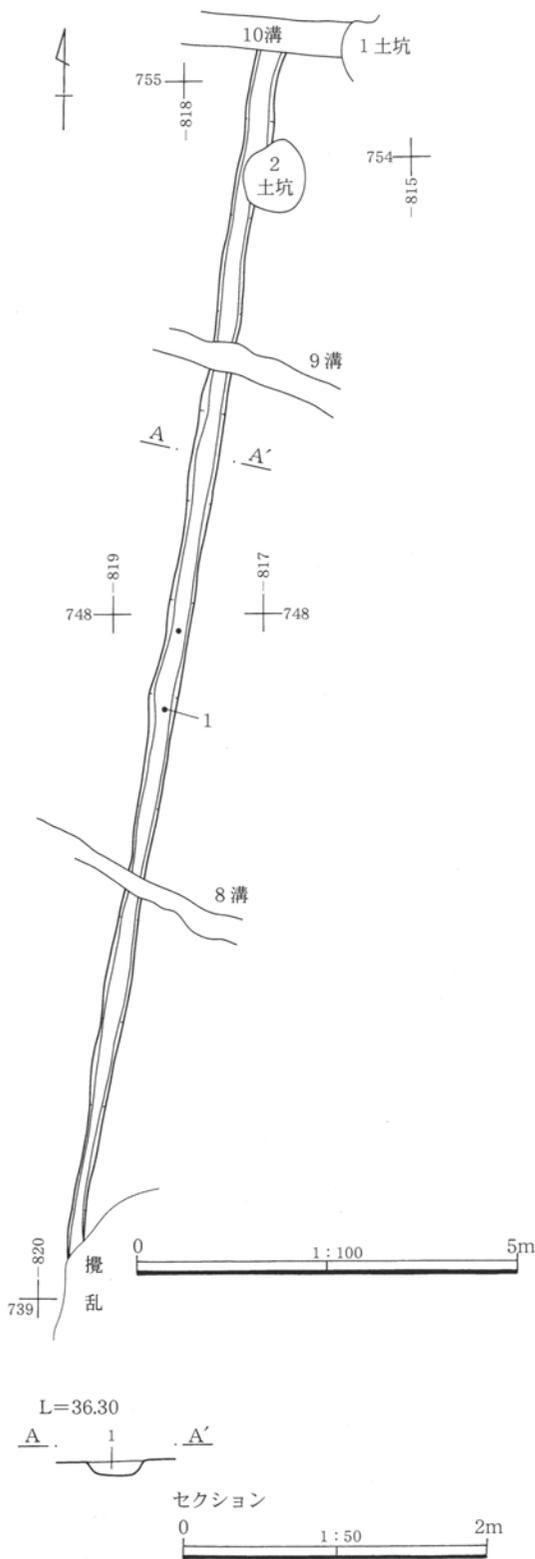
遺物 1の縄文土器片が出土している。その他、土

器や陶器の小破片、縄文土器が少数出土している。

所見 重複関係ではいずれの溝よりも古いが、形態や規模からそれらの溝と時期にあまり大差はないと思われる。時期は近世以降であると考えられる。



第230図 B-6号溝出土遺物



B-6号溝
1 褐灰色土 ローム粒含む。しまりあり。

第231図 B-6号溝平・断面図

B-7号溝 (付図1)

B区南西隅付近にある東西方向の溝である。

位置 X=29732~742、Y=-42807~831

重複遺構 B-1号住居、B-7号土坑、B-4・5号溝と重複する。遺構平面確認により、本遺構はB-1号住居、B-4・5号溝よりも新しく、B-7号土坑よりも古い。

走向 N-67°-W

形態 ほぼ直線的に走向する。断面は蒲針状である。B区西壁南寄りから現れ、南壁に向かって延びていく。

規模 検出全長 (24.85) m 上幅 0.28~0.50m
底幅 0.16~0.20m 深さ 0.06~0.20m

遺物 土師器の小破片が出土しているのみである。

所見 本遺構とB-8・9・11号溝はほぼ並走し、溝の規模や断面の形状も類似している。そのため、これらの遺構は時期がほぼ同じで、何らかの関係があると思われる。溝の覆土や形態から、遺物の多くは流れ込みで、時期は近世以降であると考ええる。

B-8号溝 (付図1)

B区西側中央付近にある東西方向の溝である。

位置 X=29738~749、Y=-42804~827

重複遺構 B-4・5・6・13号溝と重複する。遺構平面確認により、本遺構はB-4・5・6号溝よりも新しく、B-13号溝よりも古い。

走向 N-66°-W

形態 ほぼ直線的に走向する。断面はやや深い逆台形である。B区西壁ほぼ中央から現れ、B-13号溝と重複する辺りで消失する。

規模 検出全長 (23.58) m 上幅 0.54m
底幅 0.38m 深さ 0.05~0.23m

遺物 土師器の甕片と須恵器片が出土しているが、小破片のために図示できなかった。

所見 B-7・9・11号溝と平行する。B-7号溝の所見で述べたように、本遺構の時期は近世以降であると考ええる。

B-9号溝 (付図1)

B区西側中央付近にある東西方向の溝である。

位置 X=29743~753、Y=-42799~823

重複遺構 B-5・6号溝と重複する。遺構平面確認により、本遺構はいずれよりも新しい。

走向 N-68°-W

形態 ほぼ直線的に走向する。断面は逆台形状・蒲鉾状である。B区西壁の中央やや北よりから現れ、B-17号溝の西側で消失する。

規模 検出全長 (24.62) m 上幅 0.44m

底幅 0.20m 深さ 0.10~0.15m

遺物 土師器甕の破片が出土しているが、小破片のために図示できなかった。

所見 前述したとおり、B-7・8・11号溝とほぼ平行している。B-7号溝の所見で述べたように、本遺構の時期は近世以降であると考える。

B-10号溝 (付図1、第232図、第8表、PL.79)

B区西側中央やや北寄りにある東西方向の溝である。

位置 X=29746~757、Y=-42770~823

重複遺構 B-3・4・5号住居、B-1号土坑、B-6・19・20・21・22号溝と重複する。遺構平面確認と土層断面の観察により、本遺構はB-3・4・5号住居、B-6・19・20・21・22号溝よりも新しく、B-1号土坑よりも古い。

走向 N-80°-W

形態 ほぼ直線的に走向する。断面は逆台形もしくはやや深い逆台形である。B区西壁から現れ、B-22号溝とほぼ直交した後に消失する。B-6・19・20・21・22号溝とほぼ直交する。

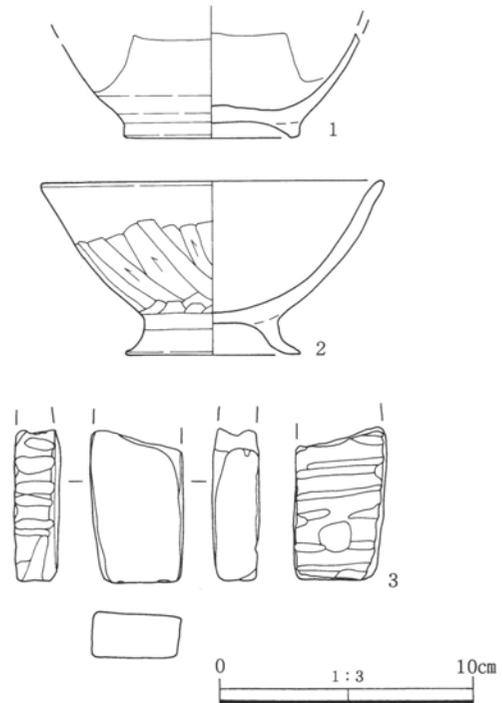
規模 検出全長 53.5m 上幅 0.38~1.02m

底幅 0.14~0.54m 深さ 0.13~0.84m

遺物 1・2は須恵器高台付塊、3は砥石である。これら以外に、土師器や須恵器の小破片のほか、陶器片などの比較的新しいものまで出土している。

所見 B-3~5号住居と重複しているため、住居

から流れ込んだと思われる遺物が多数混在している。比較的新しい遺物も多数出土しているため、時期は近世以降であると考える。



第232図 B-10号溝出土遺物

B-11号溝 (付図1)

B区北西隅付近から、西側やや北寄りにある東西方向の溝である。

位置 X=29752~759、Y=-42798~816

重複遺構 B-3号溝と重複する。遺構平面確認により本遺構はB-3号溝よりも新しい。

走向 N-70°-W

形態 ほぼ直線的に走向する。断面は皿状・逆台形状である。西端はB-3号溝と重複する部分から現れて7mほど走向した後に一端途切れ、B-3号住居の東から再び現れて、B-10号溝と重複する直前で消失する。走向が一致することから、これらの溝を11号溝として同一のものと判断した。前述したように、B-7・8・9号溝と平行している。

規模 検出全長 (11.56) m 上幅 0.40m

底幅 0.25m 深さ 0.07~0.14m

遺物 土師器甕片や縄文土器片が出土しているが、小片のために図示できなかった。

所見 B-7・8・9号溝とほぼ平行する。B-7号溝の所見で述べたように、本遺構の時期は近世以降であると考ええる。

B-12号溝 (付図1、PL.65)

B区西半部やや南寄りにある東西方向の溝である。

位置 X=29729~750、Y=-42760~809

重複遺構 B-9号住居、B-19・20・21・26・28号溝と重複する。遺構平面確認と土層断面の観察により、本遺構はいずれよりも新しい。

走向 N-63°-W

形態 ほぼ直線的に走向する。断面は逆台形である。西端はB-5号土坑の東側で現れ、南壁に向かって延びていく。B-19・20号溝とほぼ直交する。

規模 検出全長 (49.56) m 上幅 0.40m
底幅 0.18~0.21m 深さ 0.17m

遺物 土師器や須恵器、縄文土器の小破片が少数出土しているのみである。

所見 B-7~9・11号溝と走向や規模が類似していることから、本遺構もこれらの溝と同時期である可能性がある。遺物の多くは流れ込みであると判断して、時期は近世以降であると考ええる。

B-13号溝 (付図1)

B区西半部やや南寄りにある東西方向の溝である。

位置 X=29736~739、Y=-42799~809

重複遺構 B-8・19号溝と重複する。遺構平面確認により、本遺構はいずれよりも新しい。

走向 N-79°-W

形態 直線的に走行する。走向が概ね一致することから、本遺構はB-14号溝と同一の可能性がある。断面は、左右がやや非対称な皿状である。西端はB-8号溝東端の3mほど西側から現れ、B-19号溝と重複した後に攪乱によって壊されて確認で

きなくなる。

規模 検出全長 (10.00) m 上幅 0.58m

底幅 0.24m 深さ 0.11m

遺物 須恵器片が1点出土しているが、小片のために図示できなかった。

所見 出土遺物がほとんど確認されなかったが、溝の規模や覆土から時期は近世以降であると考えられる。

B-14号溝 (付図1)

B区中央の南側にある東西方向の溝である。

位置 X=29732~737、Y=-42770~788

重複遺構 B-31号溝と重複する。遺構平面確認により本遺構が新しい。B-21・26・27・28号溝とも重複するはずであるが、重複部分にちょうど攪乱が入ってしまい、新旧関係は不明である。

走向 N-82°-W

形態 ほぼ直線的に走向する。断面は皿状である。西端はB-20・21号土坑の北約2mのところから現れ、B-12号溝と重複する直前で確認できなくなる。B-26・27・31号溝とほぼ直交する。

規模 検出全長 14.70m 上幅 0.57~1.00m
底幅 0.20m 深さ 0.11m

遺物 土師器片や須恵器片がわずかに出土しているのみである。

所見 遺物の多くは混入したものであると判断でき、溝の形態から時期は近世以降であると考ええる。

B-15号溝 (第233図、第8表、PL.66・80)

B区中央やや東寄りにある東西方向の溝である。

位置 X=29732~735、Y=-42742~754

重複遺構 B-16号溝と重複する。土層断面の観察により、本遺構はB-16号溝よりも古い。

走向 N-80°-E

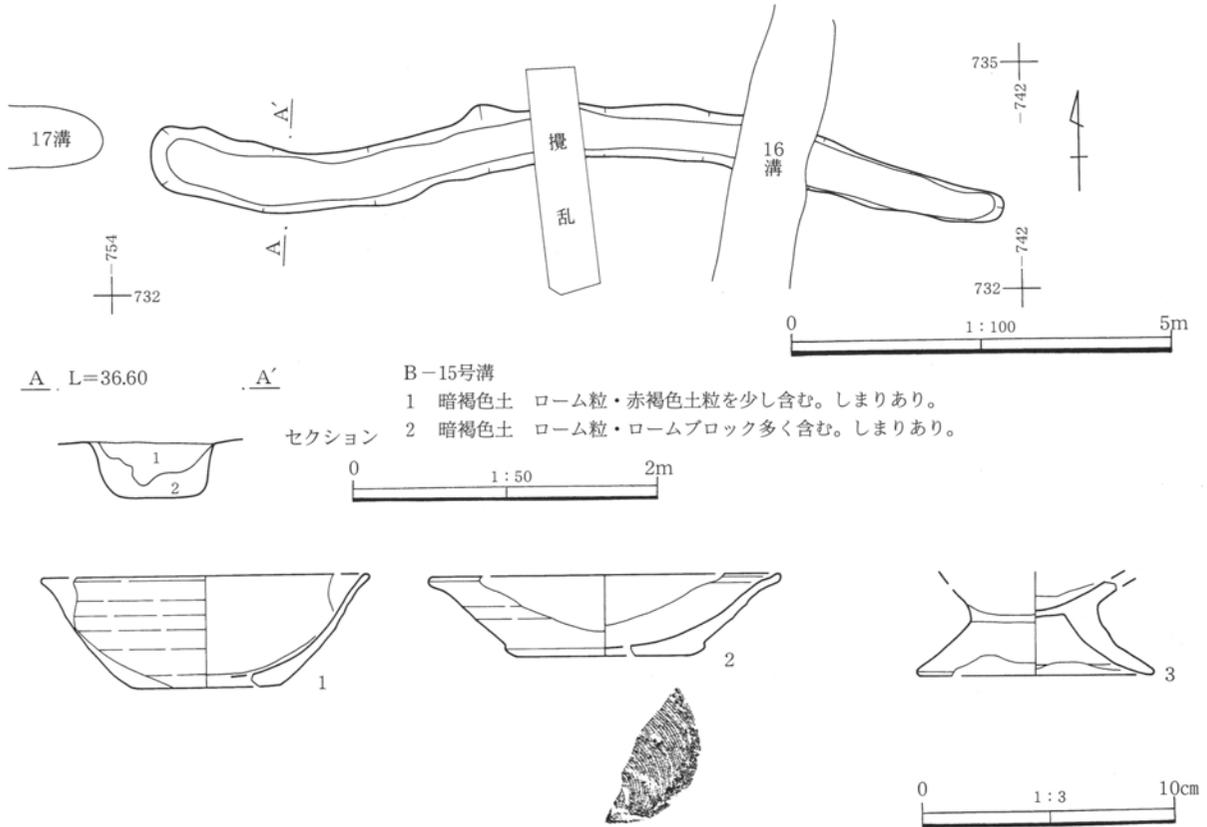
形態 緩やかに蛇行しながら走向する。断面はやや急峻な法面をもつ逆台形である。B-16号溝とほぼ直交する。西端はB-17号溝付近から現れ、B-16号溝と重複した後に消失する。

第4章 細谷八幡遺跡

規模 検出全長 11.4m 上幅 0.66~0.92m
底幅 0.45m 深さ 0.35m

遺物 1・2は須恵器坏、3は土師器の台付甕の台部である。その他、土師器甕や土師器坏片、須恵器甕や須恵器坏片、焼成粘土塊などが多数出土している。

所見 後述するB-17号溝と出土遺物が類似し、溝の上幅もほぼ共通している。B-17号溝との距離は約60cmしかなく、その走向も類似していることから、本遺構とB-17号溝は時期が近いと考えられ、本来は一連のものであった可能性が高い。時期は周辺の住居と同様に古代と考える。



第233図 B-15号溝平・断面図、出土遺物

B-16号溝 (第234図、第8表、PL.66・80)

B区東半部にある南北方向の溝である。

位置 X=29723~748、Y=-42744~750

重複遺構 B-15・18号溝と重複する。遺構平面確認と土層断面の観察により、本遺構はB-15号溝よりも新しく、B-18号溝よりも古い。

走向 N-11°-E

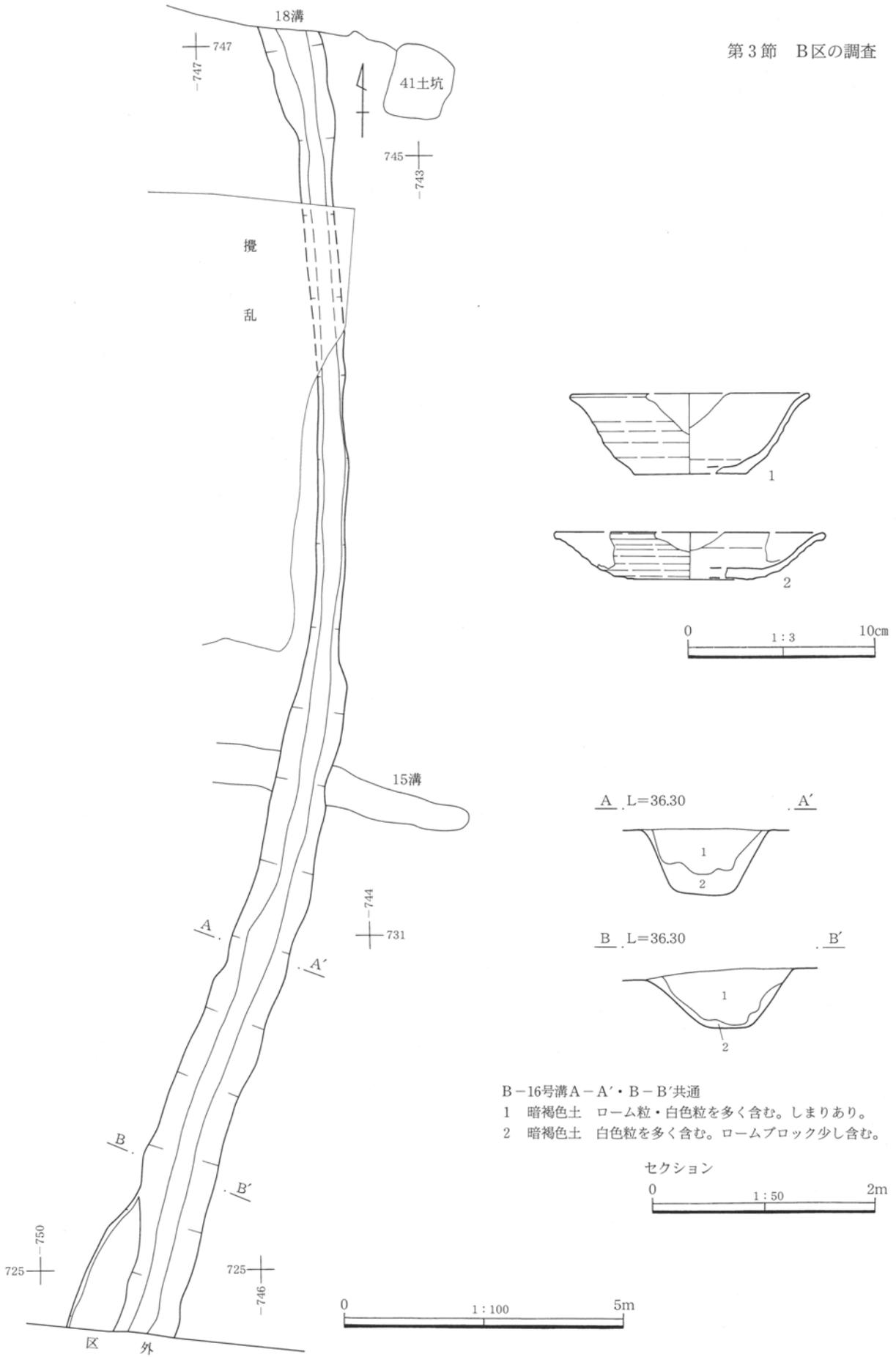
形態 緩やかな弧を描きながら走向する。断面は逆台形である。B-15・18号溝とほぼ直交する。北端はB-18号溝と重複する部分から現れ、調査区南壁へと延びていく。

規模 検出全長 23.92m 上幅 0.52~1.80m

底幅 0.24~0.30m 深さ 0.52~0.56m

遺物 1・2は須恵器坏である。その他、土師器片や須恵器片多数、陶磁器片や縄文土器片少数が出土している。

所見 後述するB-18号溝とその規模や出土土器の時期が共通していることから、本遺構はB-18号溝から分岐したものであると考えられる。時期は、B-18号溝や周辺の住居と同様に古代であると考ええる。



B-16号溝A-A'・B-B'共通
 1 暗褐色土 ローム粒・白色粒を多く含む。しまりあり。
 2 暗褐色土 白色粒を多く含む。ロームブロック少し含む。

セクション
 0 1:50 2m

第234図 B-16号溝平・断面図、出土遺物

B-17号溝 (第235図、第8表、PL.66・80)

B区中央やや南寄りにある東西方向の溝である。

位置 X=29733~736、Y=-42754~762

重複遺構 B-23号溝と重複する。遺構平面確認と土層断面の観察により、本遺構はB-23号溝より古い。

走向 N-85°-W

形態 ほぼ直線的に走行する。断面は皿状である。

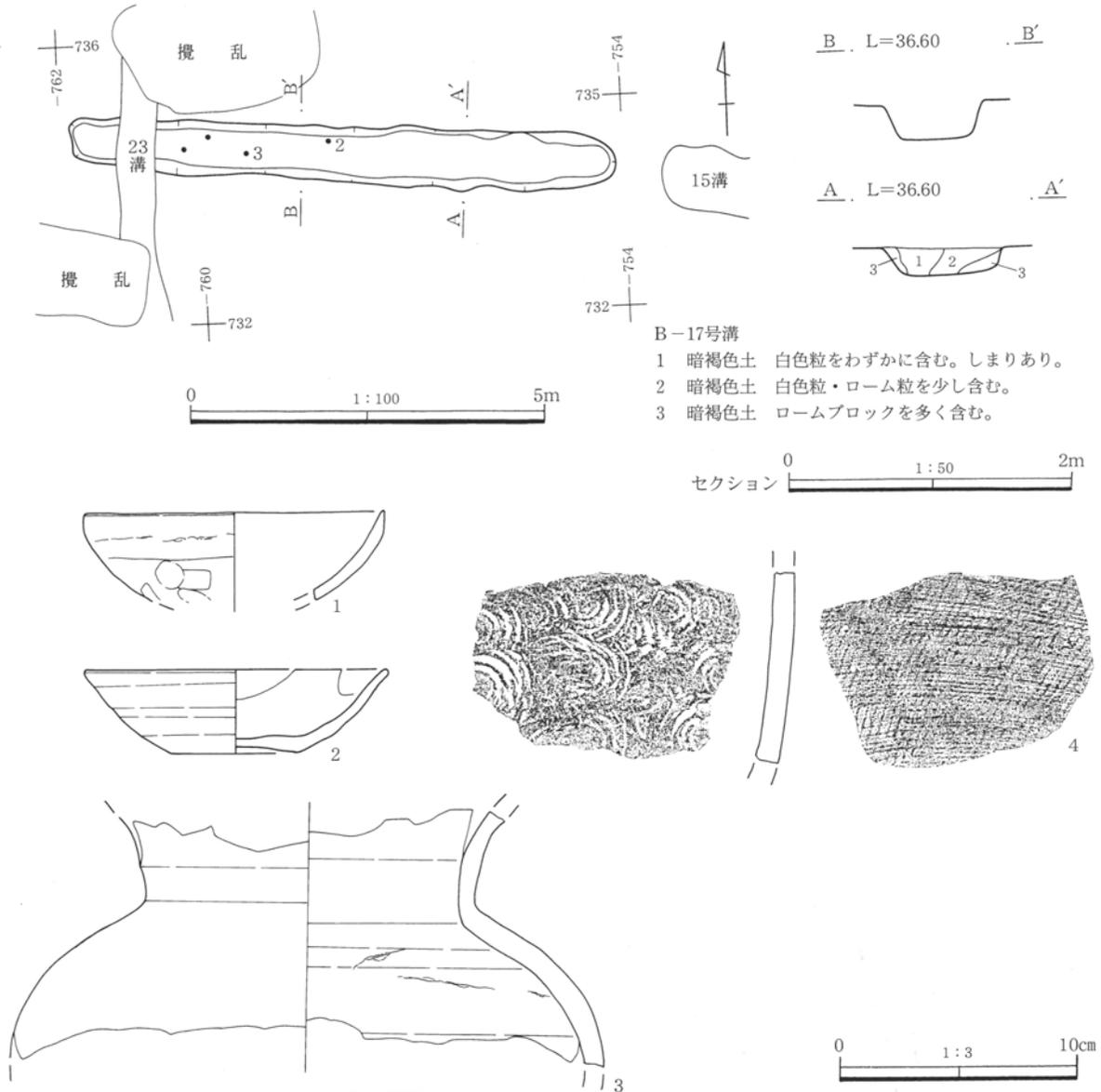
西端はB-23号溝と重複する付近から現れ、東へ走行した後にB-15号溝の手前約60cmの付近で確認できなくなる。

規模 検出全長 7.74m 上幅 0.60~0.90m

底幅 0.44~0.66m 深さ 0.48~0.54m

遺物 遺物はまばらに出土しているのみである。1は土師器坏、2は須恵器坏、3・4は須恵器甕である。その他に須恵器片や灰釉陶器片が出土している。

所見 本遺構の調査は、平成14年度と17年度の2年にわたって行われた。B-15号溝の所見で述べたように、本遺構とB-15号溝は時期が近く、いずれも古代のもので、本来は一連のものであった可能性が強いと考える。



第235図 B-17号溝平・断面図、出土遺物

B-18号溝 (第236~238図、第8表、PL.66・80)

B区の北壁際を東西に横断する長大な溝である。

位置 X=29738~762、Y=-42719~820

重複遺構 B-6・14・15・21号住居、B-41号土坑、B-1・16・19・21・22・23号溝と重複する。遺構平面確認と土層断面の観察により本遺構は、B-6・14・15・21号住居、B-1・16号溝より新しく、B-41号土坑、B-19・21・22・23号溝より古い。

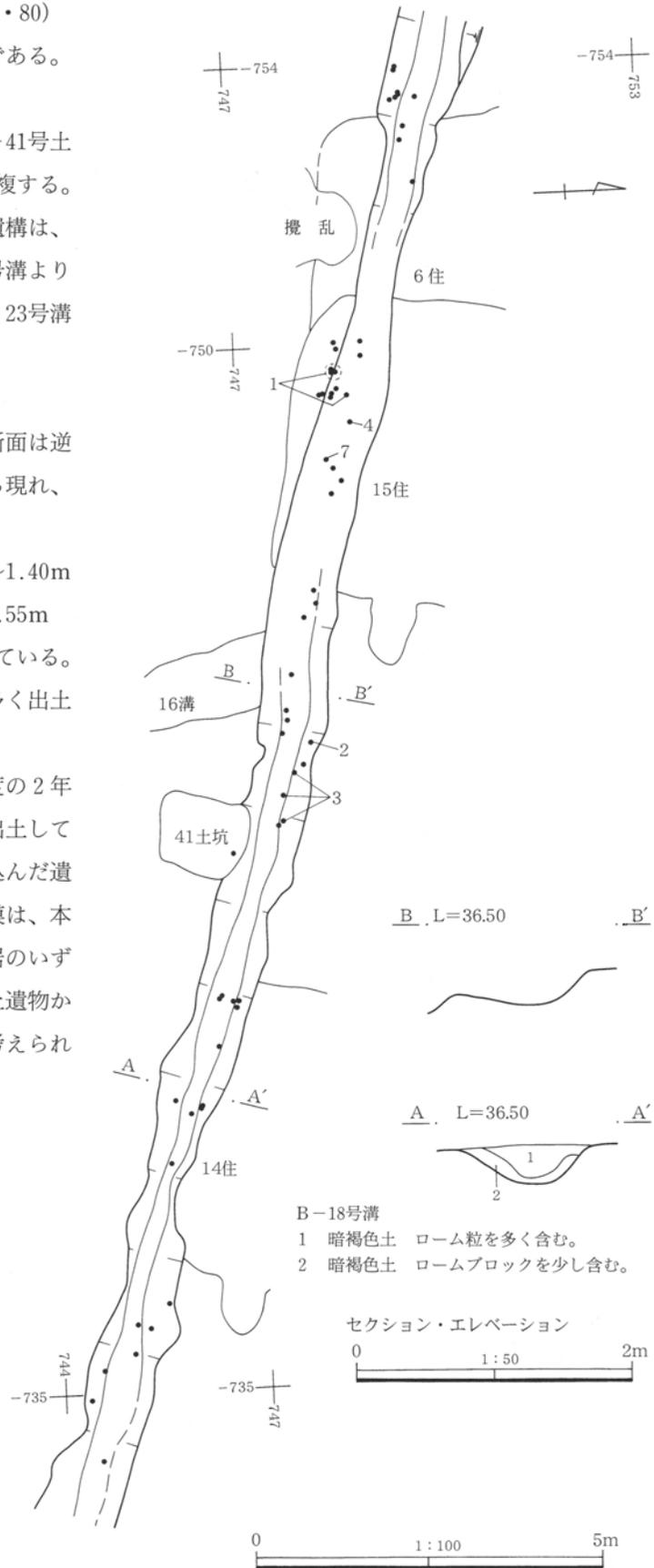
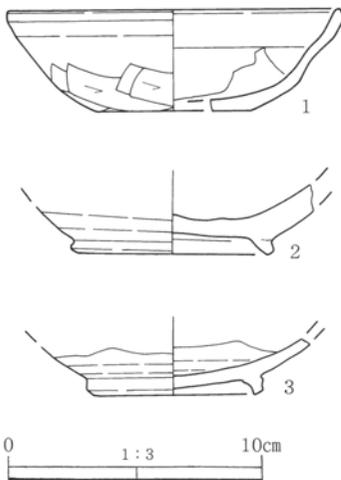
走向 N-72°-W

形態 緩やかに弧を描きながら走向する。断面は逆台形である。西端は調査区北西隅付近から現れ、東壁まで延びていく。

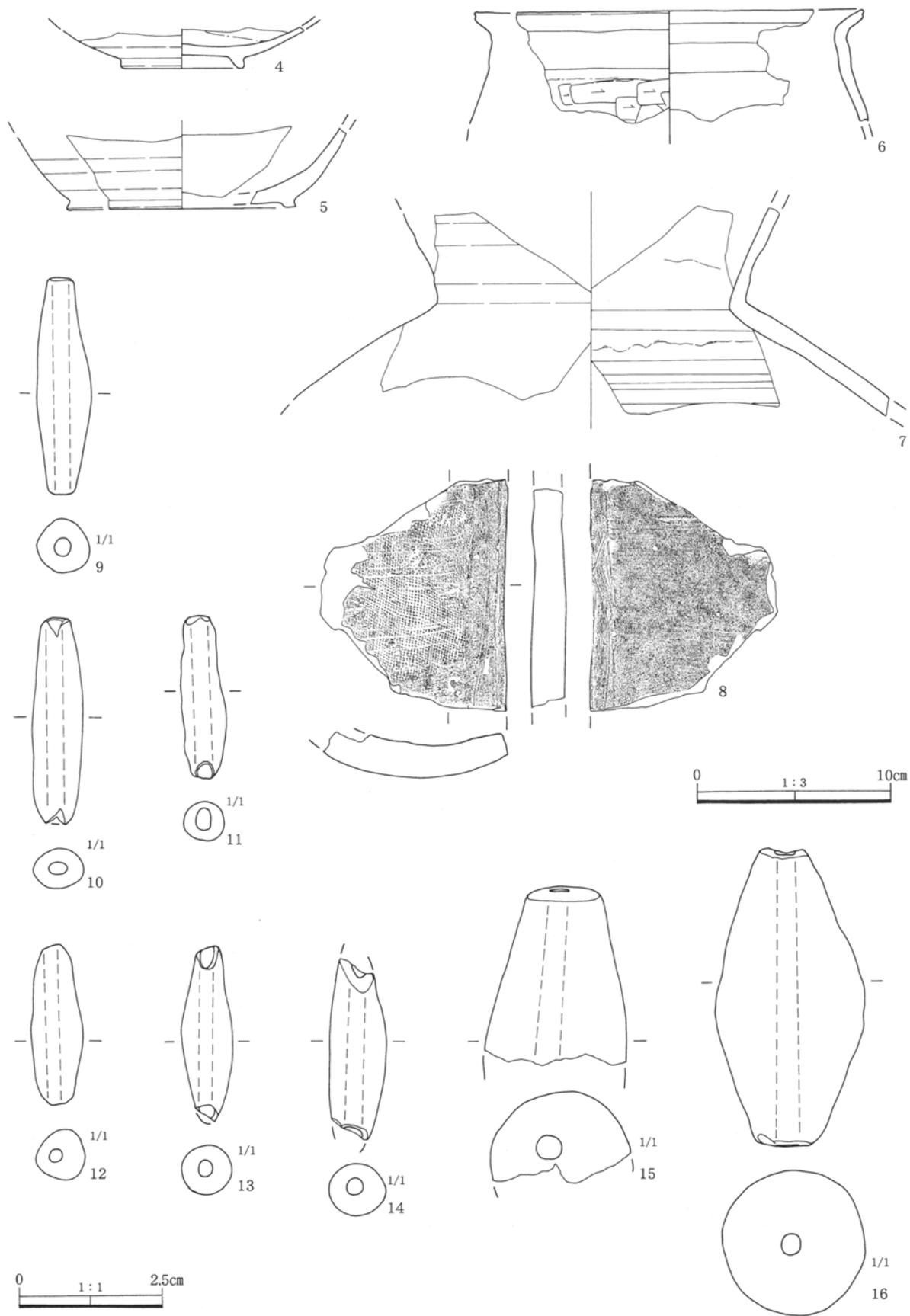
規模 検出全長 (77.74) m 上幅 0.87~1.40m
底幅 0.28~0.60m 深さ 0.23~0.55m

遺物 1~19のような、多彩な遺物が出土している。その他、土師器や須恵器片などが非常に多く出土している。

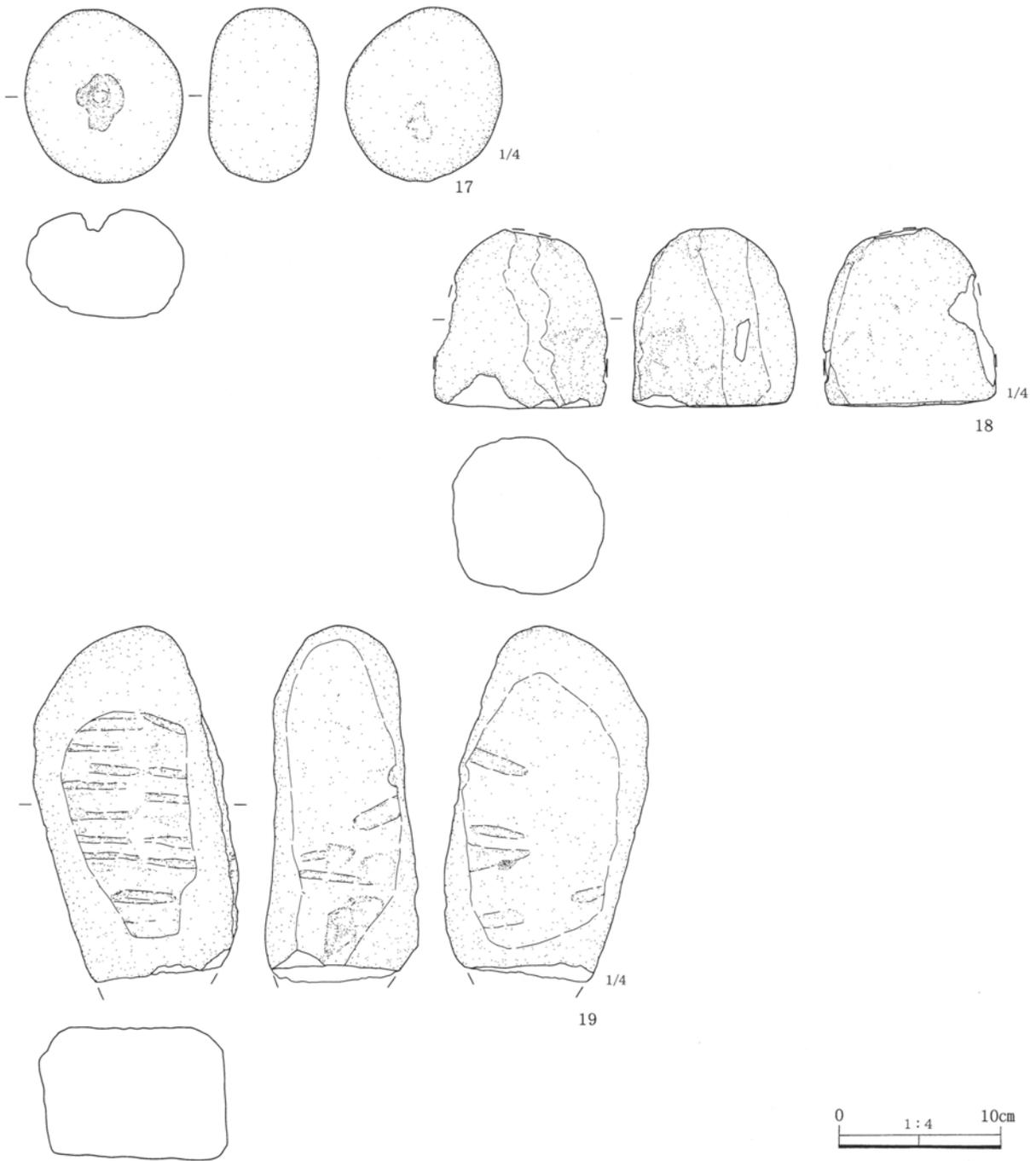
所見 本遺構の調査は、平成14年度と17年度の2年にわたり行われた。非常に多くの遺物が出土している。住居や土坑との重複が多く、流れ込んだ遺物も多いと思われる。確認できた溝の規模は、本遺跡の中で最も大きい。重複している住居のいずれよりも新しいが、溝の覆土の状況と出土遺物から、住居との時間差はさほど大きいとは考えられず、時期は古代であると考えられる。



第236図 B-18号溝平・断面図、出土遺物(1)



第237図 B-18号溝出土遺物(2)



第238図 B-18号溝出土遺物(3)

B-19号溝 (第240図、PL.66)

B区西半部を南北に横断する溝である。

位置 X=29731~760、Y=-42793~804

重複遺構 B-1・3・10・12・13・18号溝と重複する。遺構平面確認により、本遺構はB-1・2・3号溝よりも新しく、B-10・12・13号溝よりも古い。

走向 N-15°-E

形態 北端近くがやや東側に湾曲するものの、他はほぼ直線的に走行する。断面はやや不整な皿状である。B-1・3・10・12・13・18号溝とほぼ直行する。

規模 検出全長 (29.78) m 上幅 0.78~1.56m
底幅 0.50~1.10m 深さ 0.30m

遺物 土師器・須恵器・灰釉陶器・縄文土器の破片などが少数出土しているが、いずれも小破片であり、図示できなかった。

所見 重複関係では、本遺構は近世以降と考えられるB-10号溝よりも古く、古代と考えられるB-18号溝よりも新しい。遺物の出土は少ないが、溝の形態などから、時期は近世以降のものであると考える。

B-20号溝 (第239・240図、第8表、PL.81)

B区中央やや西寄りを南北に横断する溝である。

位置 X=29732~756、Y=-42788~794

重複遺構 B-1・2・3・10・12号溝と重複する。

遺構平面確認と土層断面の観察により、本遺構はB-1・3号溝よりも新しく、B-2・10・12号溝よりも古い。

走向 N-8°-E

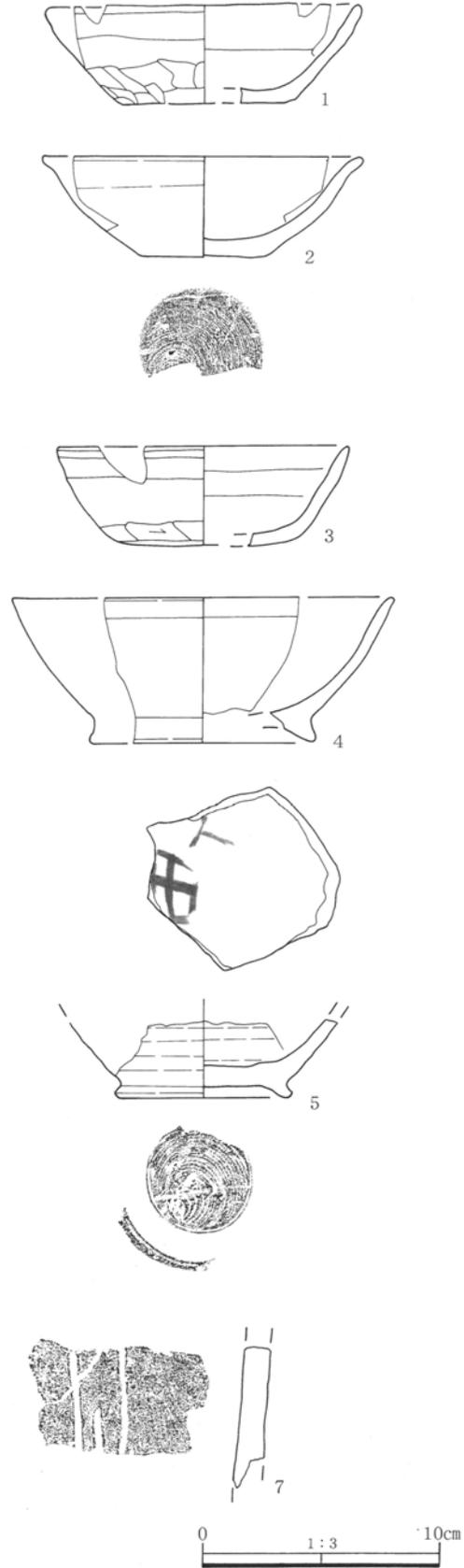
形態 B区中央付近で蛇行して走行する。断面は蒲鉾状、もしくはやや深い逆台形である。B-2・3・10号溝とほぼ直行する。北端はB-1号溝と重複する辺りから現れ、南に走行する。南端は攪乱によって壊された後は確認できない。

規模 検出全長 (24.18) m 上幅 0.60~1.24m
底幅 0.40~0.76m 深さ 0.35m

遺物 1は土師器坏、2・3は須恵器坏、4・5は須恵器高台付埴、6は須恵器壺、7は縄文土器である。その他、土師器片や須恵器片、縄文土器片などが出土している。

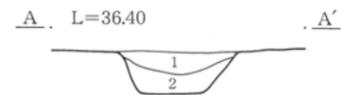
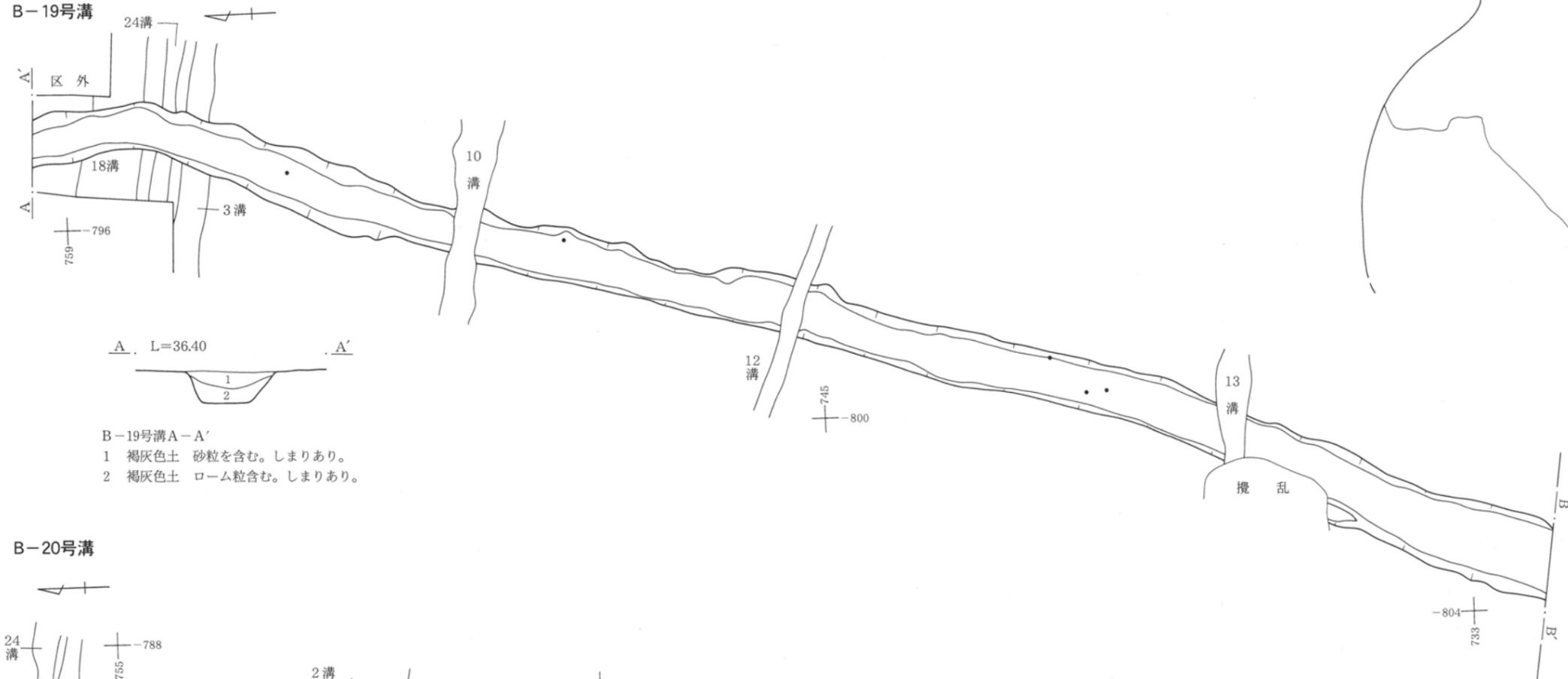
所見 掲出した遺物の多くは、本遺構の南半から出土している。図示しなかったが南半には攪乱が多くあったため、それらに伴う混入遺物も多いと考えられる。出土遺物の時期は古代であるものが多いが、B-19号溝と走向や規模が類似していることから、時期は近世以降であると考えられる。

B-20号溝遺物



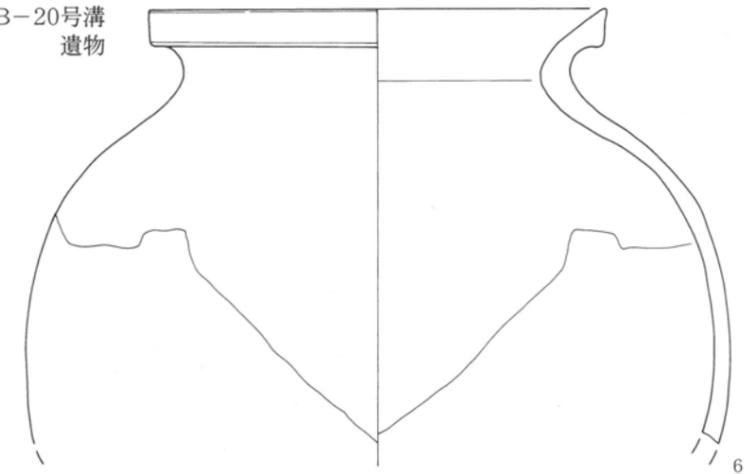
第239図 B-20号溝出土遺物(1)

B-19号溝

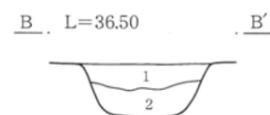
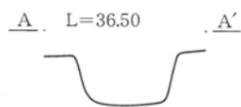
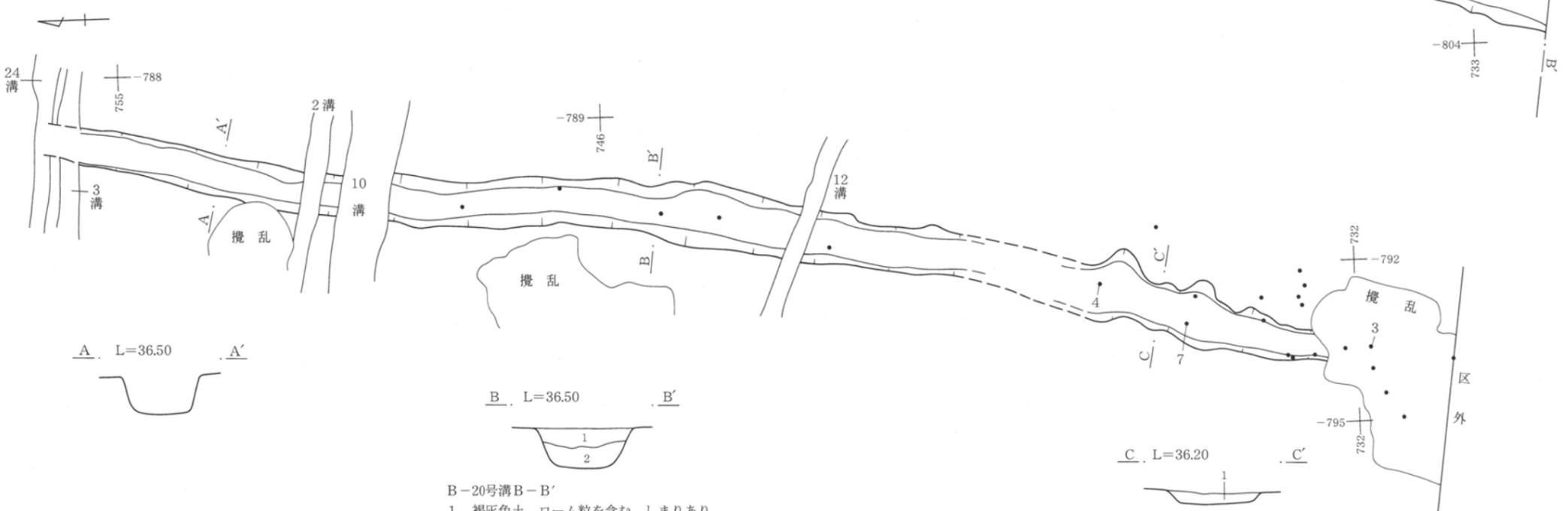


- B-19号溝A-A'
- 1 褐灰色土 砂粒を含む。しまりあり。
 - 2 褐灰色土 ローム粒含む。しまりあり。

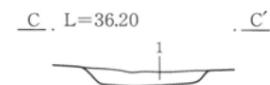
B-20号溝
遺物



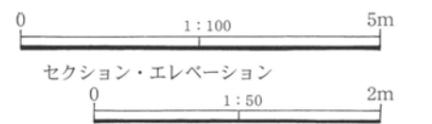
B-20号溝



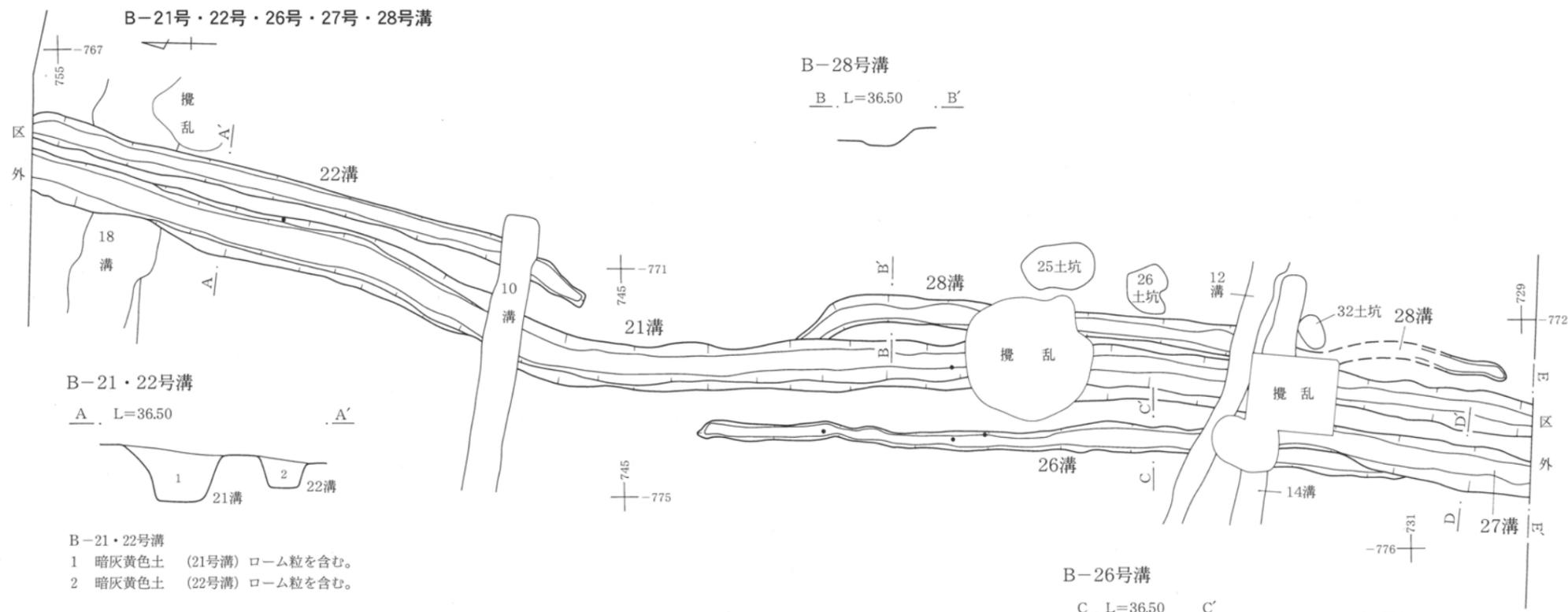
- B-20号溝B-B'
- 1 褐灰色土 ローム粒を含む。しまりあり。
 - 2 黒褐色土 ローム粒を含む。しまりあり。



- B-20号溝C-C'
- 1 褐灰色土 ロームブロックを多く含む。しまりあり。

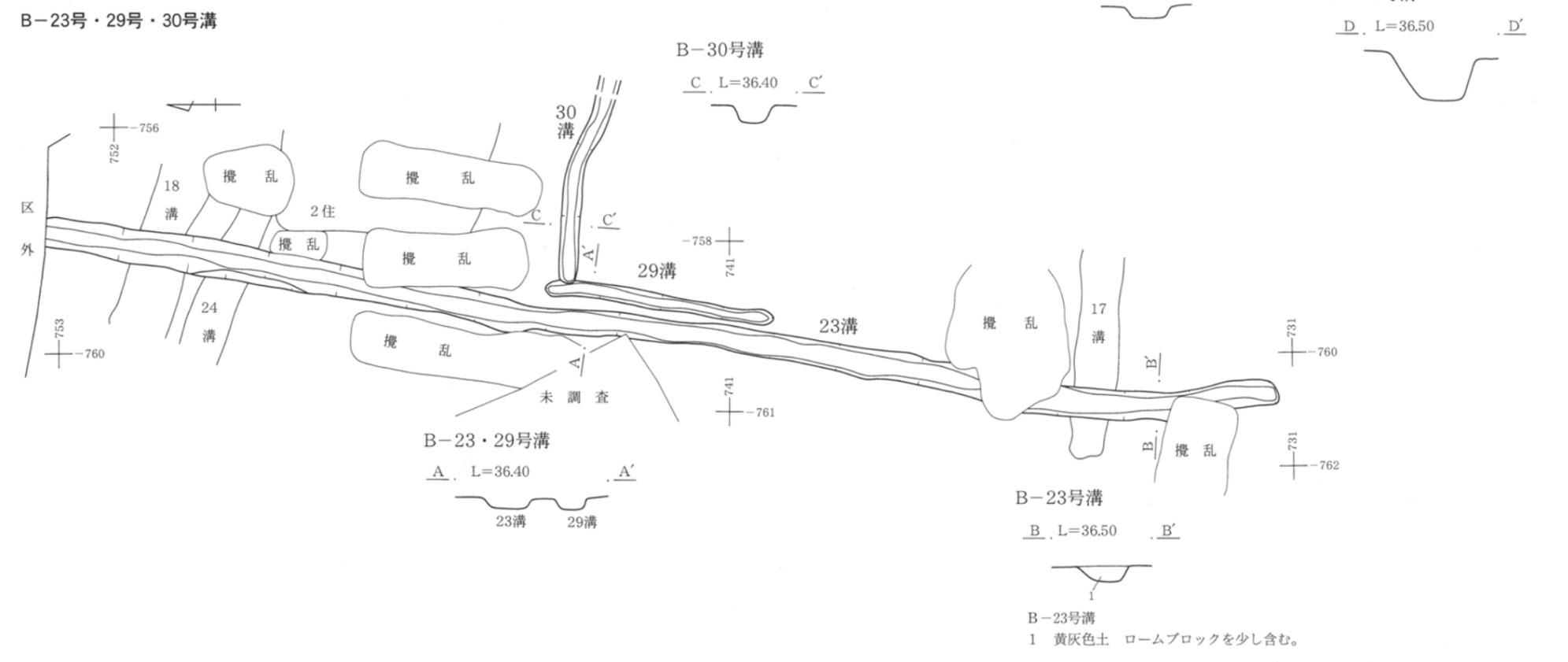


第240図 B-19号・20号溝平・断面図、20号溝出土遺物(2)

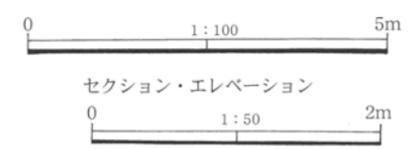
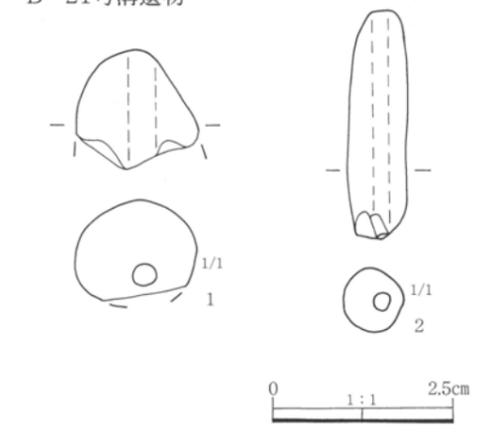


B-21号・27号溝

- B-21・27号溝
- 1 暗灰黄色土 (21号溝) ローム粒を含む。
 - 2 暗灰黄色土 (21号溝) ローム粒を多く含む。
 - 3 暗灰黄色土 (27号溝) ローム粒を含む。
 - 4 暗灰黄色土 (27号溝) ローム粒を多く含む。



B-21号溝遺物



第241図 B-21号~23号・26~30号溝平・断面図、21号溝出土遺物

B-21号溝 (第241図、第8表、PL.81)

B区の中央部を南北に横断する溝である。

位置 X=29728~756、Y=-42768~42774

重複遺構 B-10・12・18・28号溝と重複する。遺構平面確認により、本遺構がB-18・28号溝より新しく、10・12号溝よりも古い。

走向 N-4°-E

形態 B区中央付近で蛇行しながら南北に走行する。断面は逆台形である。B区北壁から現れ、南壁に延びていく。B-18号溝とはほぼ直交する。

規模 検出全長 (27.48) m 上幅 0.93m
底幅 0.36m 深さ 0.44m

遺物 1~2は土錘である。その他、土師器片や須恵器片多数、瓦片などが出土している。

所見 やや蛇行しながら南北に走向する形態が、B-19・20号溝と類似している。遺物の多くが流れ込みであると判断して、時期は近世以降であると考え。

B-22号溝 (第241図)

B区中央の北半部にある南北方向の溝である。

位置 X=29745~756、Y=-42767~772

重複遺構 B-10・18号溝と重複する。遺構平面確認により、本遺構はB-18号溝よりも新しく、B-10号溝よりも古い。

走向 N-14°-E

形態 ほぼ直線的に走向する。断面は逆台形状である。調査区北壁から南へ走行し、B-10号溝付近で確認できなくなる。B-18号溝とはほぼ直交する。

規模 検出全長 (10.4) m 上幅 0.44m
底幅 0.22m 深さ 0.24m

遺物 土師器片や須恵器片、播鉢や陶磁器がわずかに出土しているのみである。

所見 B区に位置している南北走向の溝は、B-16号溝やB-5号溝などを除いて近世以降の比較的新しい溝であるものが多い。走向から判断して、本遺構の時期も近世以降であると考え。

B-23号溝 (第241図)

B区中央付近にある南北方向の溝である。

位置 X=29731~754、Y=-42757~761

重複遺構 B-1・17・18号溝と重複する。遺構平面確認により、本遺構はいずれよりも新しい。

走向 N-8°-E

形態 ほぼ直線的に走向する。断面は逆台形状である。調査区北壁から現れて調査区南壁に延びていき、B-17号溝と重複した後に3mほど走行して消失する。

規模 検出全長 (22.18) m 上幅 0.50m
底幅 0.30m 深さ 0.14m

遺物 土師器片や須恵器片が出土しているが、小片のために図示できるものがなかった。

所見 遺物は古代のものが多いが、B-18号溝やB-2号住居などからの流れ込みもあると考えられる。B-21・22号溝と同様に、走向から判断して近世以降の溝であると考え。

B-24号溝 (付図1)

B区中央にある東西方向の溝である。

位置 X=29745~747、Y=-42763~769

重複遺構 なし

走向 N-76°-W

形態 ほぼ直線的に走向する。断面は逆台形である。B-11号住居の南側に近接して位置している。

規模 検出全長 (5.10) m 上幅 0.40m
底幅 0.26m 深さ 0.07m

遺物 なし

所見 遺物は確認されなかったが、溝の規模から時期は近世以降であると考え。

B-25号溝 (付図1)

B区中央にある東西方向の溝である。

位置 X=29744~746、Y=-42763~768

重複遺構 なし

走向 N-76°-W

形態 ほぼ直線的に走向する。断面は皿状である。

第4章 細谷八幡遺跡

B-11号住居の南側に近接して位置している。走向がB-24号溝とほぼ一致している。

規模 検出全長 (4.50) m 上幅 0.30m
底幅 0.20m 深さ 0.04m

遺物 なし

所見 遺物は確認されなかったが、溝の規模から時期は近世以降であると考えられる。

B-26号溝 (第241図)

B区中央南半部にある南北方向の溝である。

位置 X=29731~744、Y=-42773~775

重複遺構 B-12号溝と重複する。遺構平面確認により、本遺構はB-12号溝よりも古い。

走向 N-0°

形態 ほぼ直線的に走向する。断面は逆台形である。

B区のほぼ中央から現れて南に走行し、B-27号溝と交わる。B-12号溝とはほぼ直交する。本遺構とB-27号溝とは本来は同一のものであったと考えられる。

規模 検出全長 (12.0) m 上幅 0.54m
底幅 0.36m 深さ 0.10m

遺物 わずかな土師器片や須恵器片、軟質陶器片などが出土している。小片のために図示できなかった。

所見 遺物の多くは混入したものであると判断して、溝の規模から時期は近世以降であると考えられる。

B-27号溝 (第241図)

B区中央南半部にある南北方向の溝である。

位置 X=29728~734、Y=-42773~775

重複遺構 なし

走向 N-9°-E

形態 ほぼ直線的に走向する。断面は逆台形である。

B-26号溝と交わりながら現れ、B区南壁に向かって延びていく。本遺構とB-26号溝とは本来同一であったと考えられる。

規模 検出全長 (4.72) m 上幅 0.78m
底幅 0.36m 深さ 0.37m

遺物 土師器・須恵器の小破片がわずかに出土しているのみである。

所見 B-26号溝の所見で述べたように、本遺構の時期は近世以降であると考えられる。

B-28号溝 (第241図)

B区中央南半部にある南北方向の溝である。

位置 X=29729~742、Y=-42771~773

重複遺構 B-12・14・21号溝と重複する。本遺構はいずれよりも古い。

走向 N-5°-E

形態 B-21号溝と重複する部分で蛇行しながら走行する。断面はやや不整な皿状である。

規模 検出全長 (10.78) m 上幅 0.34~0.50m
底幅 0.16~0.20m 深さ 0.12m

遺物 なし

所見 遺物は確認されなかったが、溝の規模から時期は近世以降であると考えられる。

B-29号溝 (第241図)

B区中央やや東寄りにある南北方向の溝である。

位置 X=29740~745、Y=-42758~760

重複遺構 B-30号溝と重複する。遺構平面確認により、本遺構はB-30号溝よりも古い。

走向 N-7°-E

形態 ほぼ直線的に走向する。断面は蒲鉾状である。北端はB-30号溝と直交するあたりで現れ、4mほどで確認できなくなる。

規模 検出全長 4.10m 上幅 0.30m
底幅 0.10m 深さ 0.10m

遺物 なし

所見 遺物が確認できなかったため、時期は不明である。

B-30号溝 (第241図)

B区中央やや東寄りにある東西方向の溝である。

位置 X=29743~744、Y=-42755~759

重複遺構 B-29号溝と重複する。遺構平面確認に

より、本遺構はB-29号溝よりも新しい。

走向 N-90°

形態 わずかに弧を描きながら走行する。断面は逆台形である。西端はB-29号溝付近から現れ、東へ3mほど走行した後に消失する。

規模 検出全長 (3.80) m 上幅 0.36m
底幅 0.16m 深さ 0.17m

遺物 なし

所見 遺物が確認できなかったため、時期は不明である。

B-31号溝 (第242図)

B区中央やや西寄りにある南北方向の溝である。

位置 X=29731~736、Y=-42783~784

重複遺構 B-14号溝と重複する。遺構平面確認により、本遺構はB-14号溝よりも新しい。

走向 N-8°-E

形態 ほぼ直線的に走向する。断面は逆台形状である。北端はB-14号溝と重複するあたりから現れ、南に走行して4mほどで確認できなくなる。

規模 検出全長 (4.60) m 上幅 0.30m
底幅 0.20m 深さ 0.13m

遺物 なし

所見 本遺構はB-32号溝と走向がほぼ同一であることから、本来は同一の溝であった可能性が高い。遺物が確認できなかったため、時期は不明である。

B-32号溝 (第242図)

B区中央やや西寄りにある南北方向の溝である。

位置 X=29471~477、Y=-42781~783

重複遺構 なし

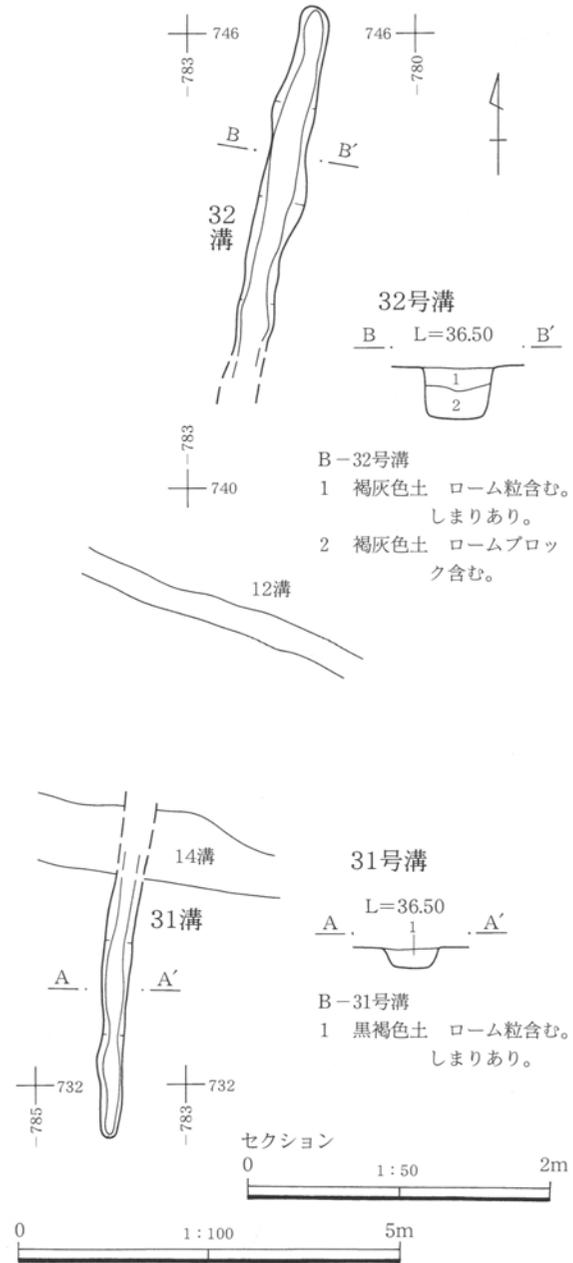
走向 N-11°-E

形態 ほぼ直線的に走向する。断面は箱状である。B-10号溝の南側約2mでB-16号土坑の南東約1.5mの辺りから現れ、5mほど南に走行した後に消失する。

規模 検出全長 (5.36) m 上幅 0.64m
底幅 0.34m 深さ 0.34m

遺物 土師器の甕片が出土しているが、小片のために図示できなかった。

所見 走行がほぼ同一であることから、本遺構はB-31号溝と本来は同一の溝であった可能性が高い。遺物がほとんど確認できなかったため、時期は不明である。



第242図 B-31号・32号溝平・断面図

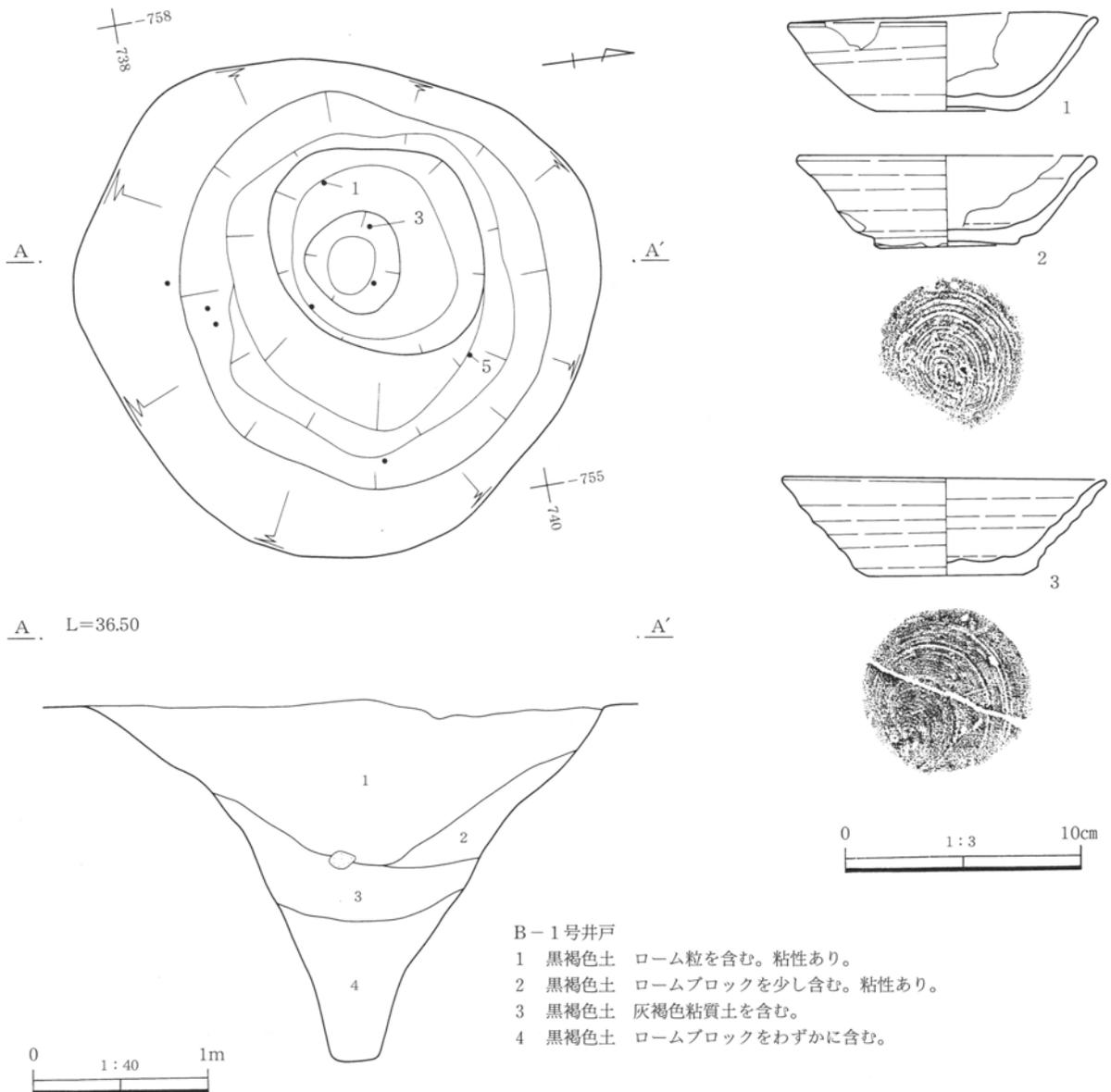
4 井戸

B-1号井戸 (第243・244図、第8表、PL.66・78)

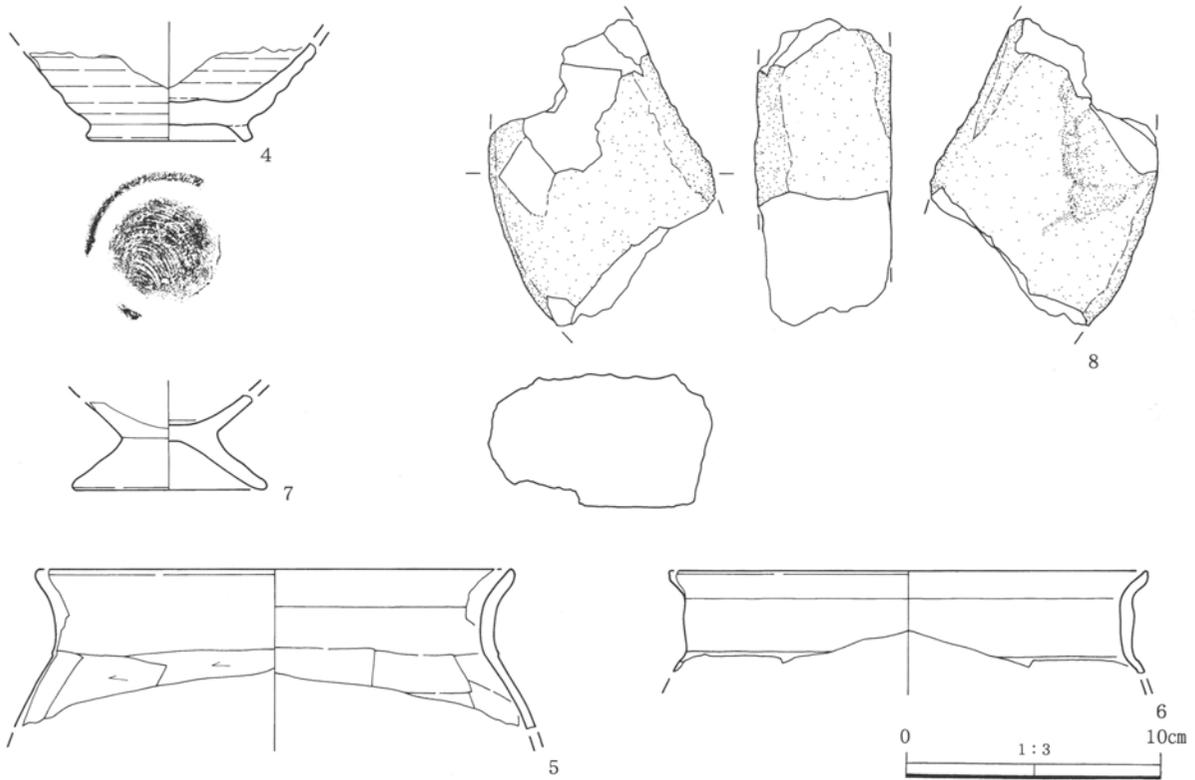
本遺構はB区のほぼ中央に位置する。本遺構の調査は平成14年度と17年度の2年にわたって行われた。平面の形状はほぼ円形である。断面は3段階に狭まっていく。上位60cm辺りまで緩やかに狭まり、そこから90cmほどやや急峻に狭まった後、円筒状に底面に至る。底面は平坦である。覆土は、粘性のある黒褐色土を主体とする。本遺跡の中では最も径・深度のある土坑であり、井戸の可能性が高いものと

考えられる。

埋土からは多くの遺物が出土している。遺物は、1～3が須恵器坏、4が須恵器高台付塊、5・6が土師器甕、7が土師器の台付甕、8は性格不明の石製品である。その他、多量の土師器片・須恵器片、少量の灰釉陶器片、縄文土器片、焼成粘土塊が出土している。出土遺物の状況から、本遺構の時期は9世紀後半以降であると考えられる。



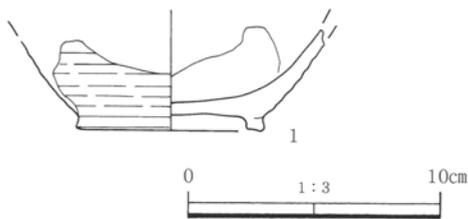
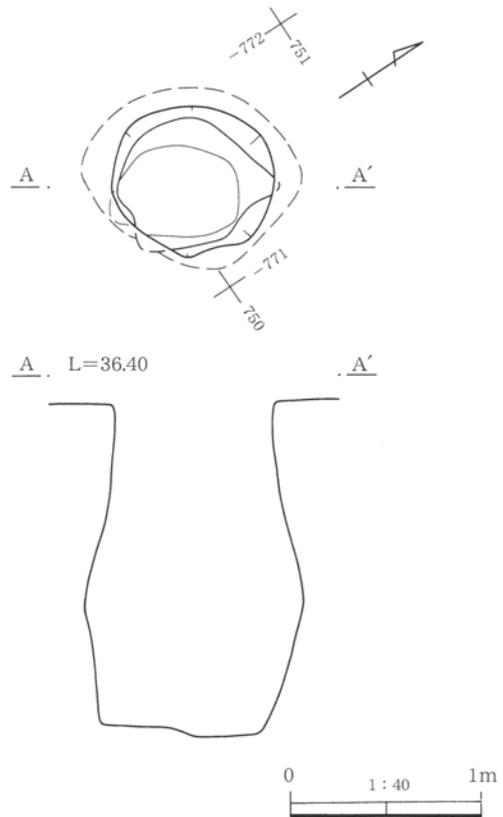
第243図 B-1号井戸平・断面図、出土遺物(1)



第244図 B-1号井戸出土遺物(2)

B-2号井戸 (第245図、第8表、PL.66・78)

本遺構はB区の中央北寄りに位置し、21号溝に近接する。平面の形状はほぼ円形である。断面はわずかに細くなった後、確認面から上位1mまで緩やかに開き、そこから底部までは再び緩やかに細くなる。底面は南側よりも北側がやや深い。図示できる遺物は須恵器高台付碗のみであるが、その他、土師器片や埴輪小片が出土している。深度のある断面形状から、井戸であると思われる。出土遺物から、本遺構の時期は9世紀後半以降であると考えられる。



第245図 B-2号井戸平・断面図、出土遺物

第4節 C区の調査

1 竪穴住居跡

C-1号住居 (第246図、第8表、PL.67・81)

C区北半部にある。

位置 X=29704~708、Y=-42724~727

重複遺構 なし

形態 大半が調査区外に位置しているため、全形は不明である。

方位 N-20°-E

規模 長軸2.38m×短軸(1.29)m

面積 (2.45)m²

壁高 12cm

床面 掘方底面からローム・ブロックを多く含む暗

褐色土を20cmほど埋めて、床面を構築している。

柱穴 確認できなかった。

貯蔵穴 調査区内では未確認。

周溝 確認できなかった。

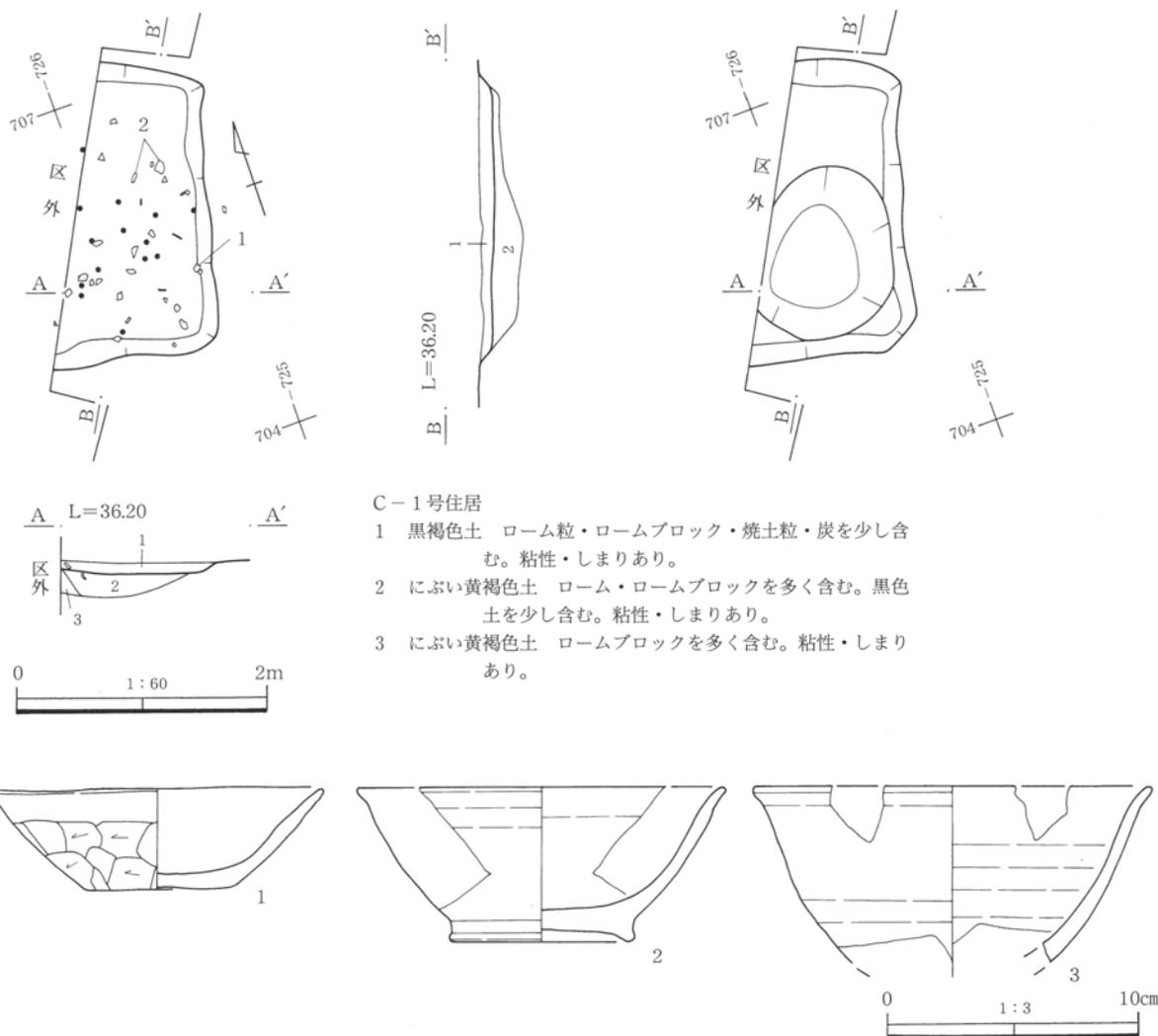
竈 調査区内では未確認。

遺物 遺物は全体に散らばるように出土している。

1は土師器坏、2・3は須恵器高台付碗である。

その他、土師器片多数、須恵器片、焼成粘土塊が出土しているが、図示できなかった。

所見 大部分が調査区外であるため、全形は不明である。時期は9世紀後半以降と思われる。



第246図 C-1号住居・掘方平・断面図、出土遺物

2 溝

C-1号溝 (第247・248図、第8表、PL.67・81)

C区のほぼ中央を東西に横断する溝である。

位置 X=29694~698、Y=-42727~732

重複遺構 C-2号溝と重複する。遺構平面確認と土層断面の観察により、本遺構はC-2号溝よりも新しい。

走向 N-72°-W

形態 ほぼ東西方向に直線的に走行する。断面はやや不整の逆台形である。

規模 検出全長 3.6m 上幅 1.08~1.30m

底幅 0.22~0.48m 深さ 0.50~0.57m

遺物 1の土師器の小型甕が出土している。その他、土師器片や須恵器片、焼成粘土塊などが多く出土している。

所見 調査区が狭小であるため、本遺構がどのような規模のものであるのか判断し難い。検出した面積の割には、出土した遺物は比較的多かった。時期は古代であると考える。

C-2号溝 (第248図、PL.67)

C区の中央から南側にある。ほぼ直角に屈曲する。

位置 X=29687~696、Y=-42728~732

重複遺構 C-1号溝と重複する。遺構平面確認と土層断面の観察により、本遺構はC-1号溝よりも古い。

走向 北側はN-75°-W。南側はN-16°-E。

形態 C区中央付近で東西にわずかに走行し、ほぼ直角に南へ走向を変え、少し弧を描きながら東壁へ延びていく。断面は逆台形状である。

規模 検出全長 8.9m 上幅 0.52~1.0m

底幅 0.20~0.36m 深さ 0.42~0.46m

遺物 土師器片や須恵器片、焼成粘土塊や陶磁器片が多数出土しているが、小片のために図示できなかった。

所見 1号溝と同様に狭小な調査区であるにもかかわらず、出土した遺物は比較的多かった。1号溝と出土遺物や覆土が類似していることから、時期は

古代であると考える。

C-3号溝 (第248図、PL.67)

C区北隅にある東西方向の溝である。

位置 X=29711~713、Y=-42721~723

重複遺構 なし

走向 N-75°-W

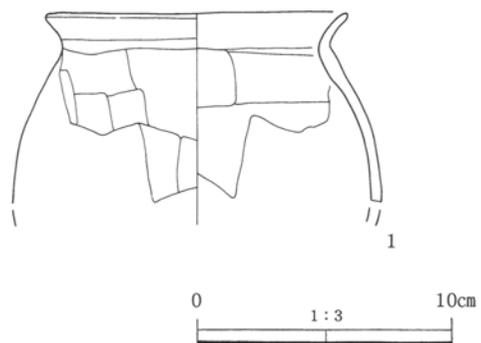
形態 直線的に走向する。断面はやや不整な逆台形である。C区の最も北側に長さ1mほどを確認しただけである。

規模 検出全長 1.2m 上幅 0.79m

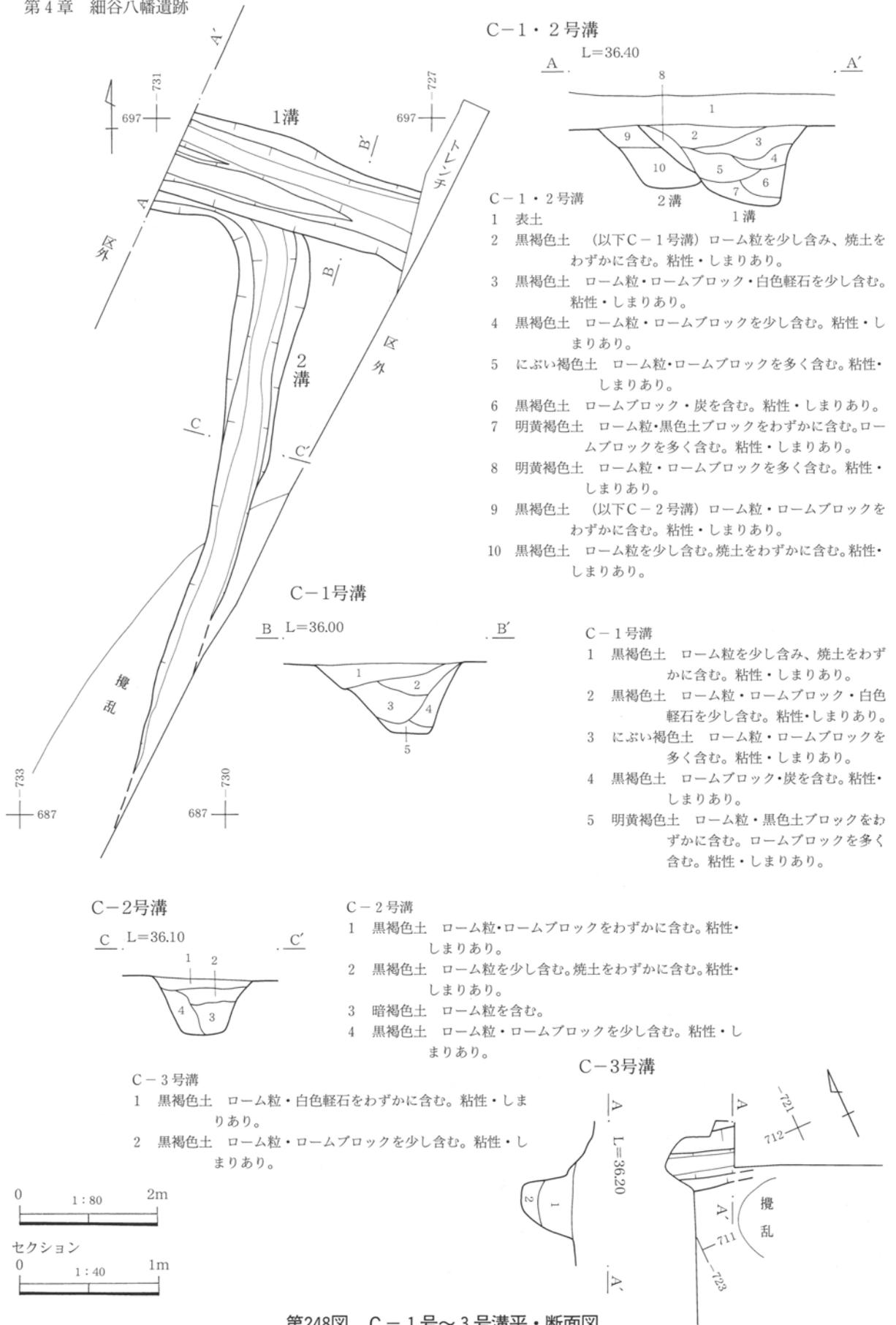
底幅 0.18~0.24m 深さ 0.33~0.38m

遺物 図示できなかったが、土師器片が1点出土している。

所見 C区の最も北側に確認したため、調査区を拡張して調査を行った。しかし、検出した溝の全長は1mほどであり、遺物もほとんどなかったために時期は不明である。



第247図 C-1号溝出土遺物



第248図 C-1号～3号溝平・断面図

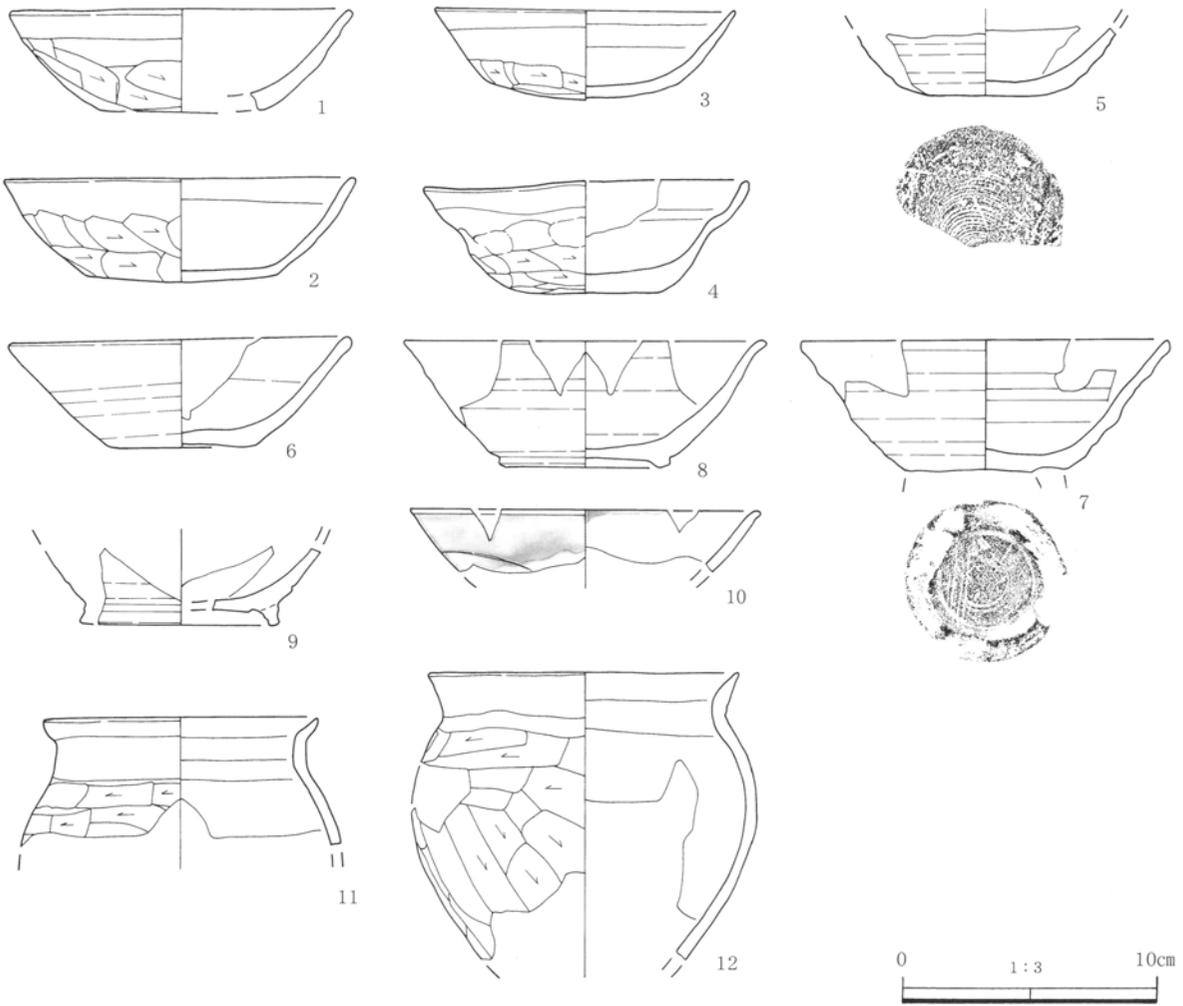
第5節 遺構外出土の遺物

本節では表土や攪乱などから出土した遺物を一括して、「遺構外出土の遺物」として報告する。

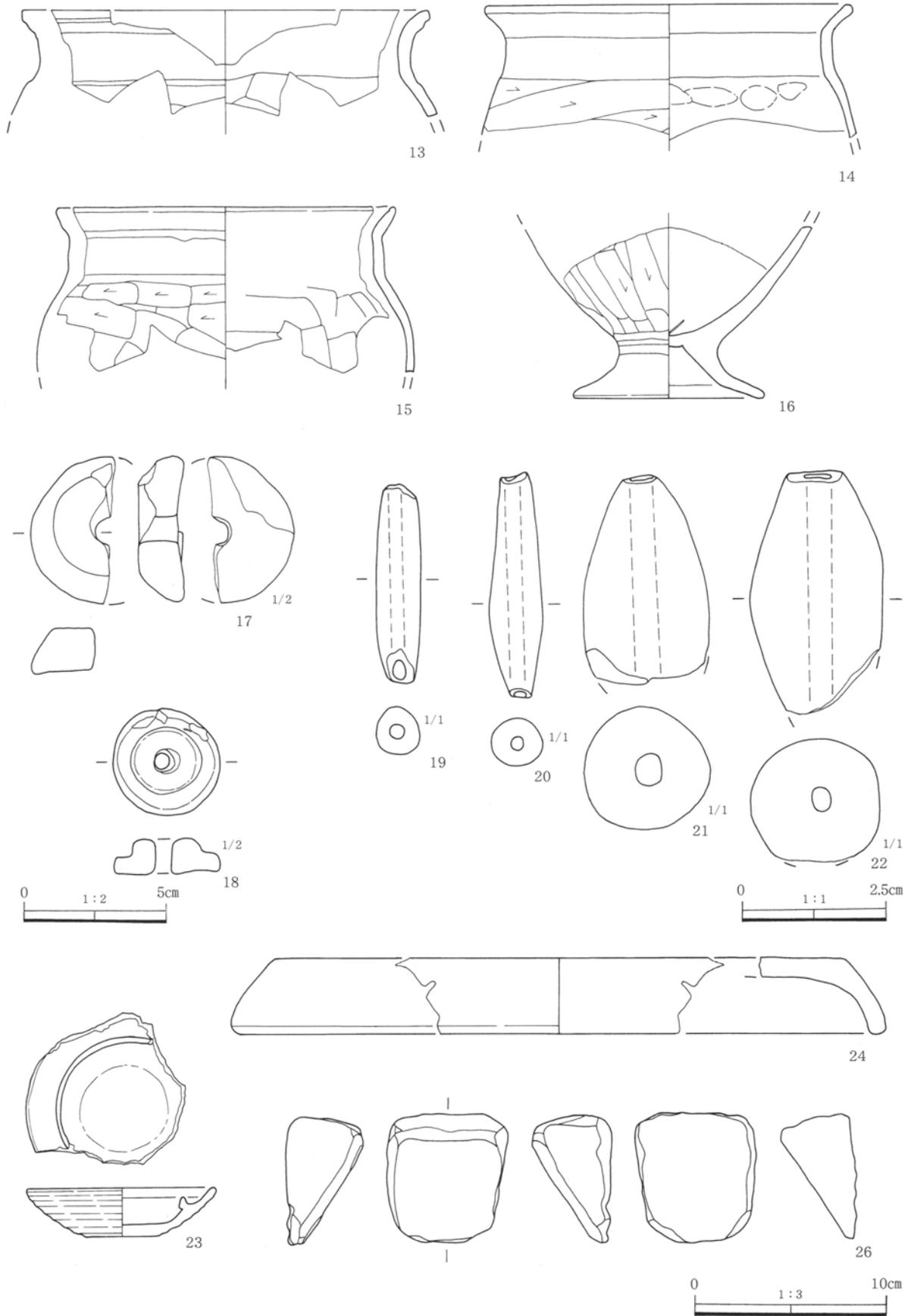
ここで報告する遺物の大部分はB区の出土品である。B区は数多くの攪乱が入り、それらが遺構を破壊していたため、多くの遺物が遺構に伴わずに出土した。これらの攪乱のうち平成17年度の調査区にあったものは、244ページで述べたように、調査時には遺構として扱われており、それらには遺物番号が付されていた。しかし、それらは近現代に属する攪乱と思われるもので、遺構とは認められないため、整理作業時に除外し、本報告書では割愛したもので

ある。ただし、それらから出土した遺物については、ここで取り上げることにした。それらの出土位置は、10mグリッドで記録し直し、遺物観察表に記入してある。

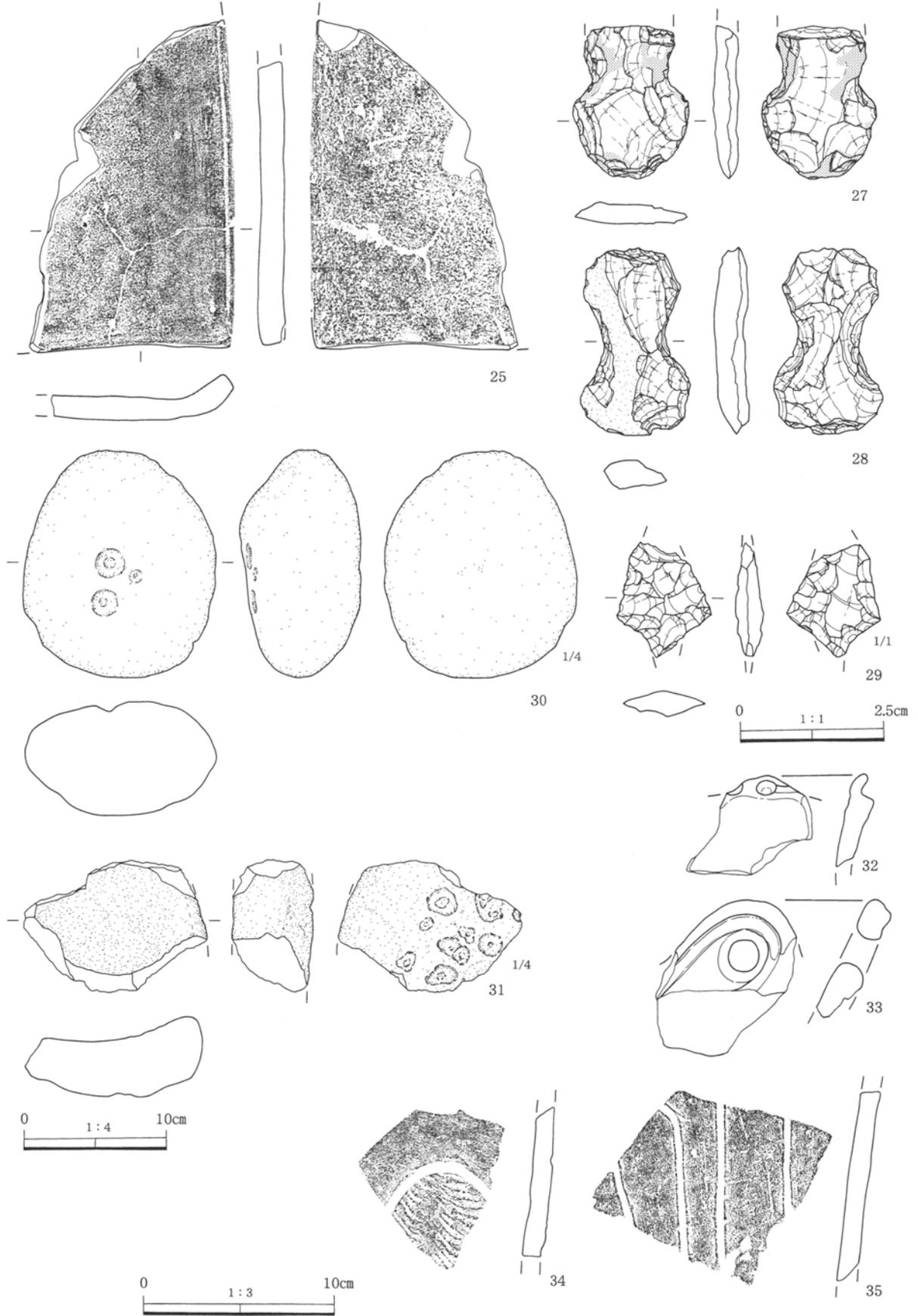
その他、「調査区外」とされているものは、調査区の周囲からの表採品である。



第249図 遺構外出土遺物（1）



第250図 遺構外出土遺物(2)



第251図 遺構外出土遺物 (3)

第4章 細谷八幡遺跡

第8表 細谷八幡遺跡遺物観察表

[A区]

A-1号住居

挿図番号 図版番号	No.	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第138図 PL.68	1	土師器 甕	埋土 口縁部片	口径 (21.0) 底径 - 高さ (4.9)	①粗・細砂粒少量 ②普通 ③橙(5YR6/6)	胴部外面横方向の笥削り。口縁部内外面横撫で。	

A-2号住居

挿図番号 図版番号	No.	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第141図 PL.68	1	土師器 坏	竈埋土、掘方 ほぼ完形	口径 11.8 底径 6.5 高さ 4.0	①砂粒・白色粒少量 ②普通 ③橙(5YR6/8)	底部平底、外面笥削り。体部外面撫での後下半笥削り。口縁部外面～内面横撫で。器壁厚くぼつりとした作り。	
第141図 PL.68	2	須恵器 坏	埋土、掘方 1/2	口径 (13.1) 底径 5.7 高さ 4.0	①粗・細砂粒少量 ②還元焰 ③灰オリーブ(5YR6/2)	轆轤成形。轆轤右回転。底部右回転糸切り。体部は丸味を帯び、口縁部は外反する。	
第141図 PL.68	3	須恵器 坏	床面、埋土、竈 掘方 2/3	口径 12.1 底径 5.7 高さ 3.9	①粗・細砂粒少量 ②酸化焰 ③にぶい褐(7.5YR5/4)	轆轤成形。轆轤右回転。底部右回転糸切り。体部はやや丸味を帯びて立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	
第141図 PL.68	4	須恵器 皿	埋土、掘方 1/3	口径 (12.9) 底径 - 高さ (2.6)	①細・微砂粒少量 ②酸化焰 ③橙(5YR6/6)	轆轤成形。底部糸切り後高台貼り付け(高台欠)。	
第141図 PL.68	5	土師器 小型甕	埋土 口縁1/3	口径 (11.0) 底径 - 高さ (5.4)	①細・微砂粒少量 ②普通 ③明赤褐(2.5YR5/8)	口縁はコの字状。胴部外面横方向笥削り。口縁部内外面とも横撫で。胴部内面笥削り。	
第141図 PL.68	6	土師器 甕	掘方 口縁1/2	口径 (18.2) 底径 - 高さ (8.2)	①細・微砂粒少量 ②普通 ③にぶい赤褐(2.5YR4/4)	口縁ややあまいコの字状。胴部外面斜方向笥削り。口縁部内外面とも横撫で。胴部内面横方向笥削り。	
第141図 PL.68	7	土師器 甕	竈埋土 口縁1/3	口径 (18.8) 底径 - 高さ (7.2)	①細・微砂粒少量 ②普通 ③橙(5YR7/6)	口縁はコの字状。胴部外面横方向笥削り。口縁部内外面とも横撫で。胴部内面横方向笥削り。	
第141図 PL.68	8	土師器 甕	埋土、竈埋土 口縁1/3	口径 (19.0) 底径 - 高さ (11.0)	①粗・細砂粒少量 ②普通 ③橙(5YR6/6)	コの字口縁。胴部は丸みをもつ。胴部外面下半斜方向、上部横方向笥削り。口縁部内外面とも横撫で。胴部内面笥削り。	
第141図 PL.68	9	土師器 甕	床面、埋土 胴部下位～底部 2/3	口径 - 底径 3.8 高さ (8.7)	①粗・細砂粒多量 ②普通 ③にぶい黄褐(10YR5/4)	胴部外面縦方向笥削り。底部外面笥削り。胴部内面斜方向笥削り。	
第141図 PL.68	10	土製品 土錘	埋土 完形	長さ 4.5 径 1.7×1.6 重さ 12.3g	①細・微砂粒少量 ②良好 ③灰褐(7.5YR4/2)	中央部に最大径。器表は磨きで平滑にされる。	

A-3号住居

挿図番号 図版番号	No.	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第142図 PL.68	1	土師器 坏	1号土坑 2/3	口径 11.2 底径 5.8 高さ 4.6	①砂粒・赤色粒少量 ②普通 ③浅黄橙(7.5YR8/6)	底部平底。底部外面摩擦。体部外面下半笥削り。口縁部内外面～体部内面横撫で。口縁に1カ所油煙付着。	
第142図 PL.68	2	須恵器 高台付塊	1号土坑 1/2	口径 (14.2) 底径 5.6 高さ 6.4	①粗・細砂粒中量 ②やや酸化焰 ③にぶい黄(2.5Y6/3)	轆轤成形。轆轤右回転。底部右回転糸切り後、高台貼り付け。体部は丸味を帯びて立ち上がり、口縁部は外反する。	
第142図 PL.68	3	須恵器 高台付塊	1号土坑、埋土 1/3	口径 (14.4) 底径 6.8 高さ 5.7	①粗砂粒中量 ②酸化焰 ③明黄褐(10YR7/6)	轆轤成形。轆轤右回転。底部右回転糸切り後高台貼り付け。内面は細かい笥磨き、黒色処理。	
第142図 PL.68	4	土師器 台付甕	3住付近 台部のみ	口径 - 底径 (9.8) 高さ (4.3)	①粗・細砂粒少量 ②普通 ③褐(7.5YR4/4)	台部貼り付け。外面摩擦、下位は横撫で。内面の上位～中位は笥撫で、下位は横撫で。甕部底部内面摩擦。	

A-4号住居

挿図番号 図版番号	Na	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第143図 PL.68	1	須恵器 坏	埋土 1/4	口径 (13.0) 底径 (6.0) 高さ 3.9	①砂粒・赤色粒少量 ②還元焰 ③灰黄(2.5YR6/2)	轆轤成形。回転方向不明。底部回転糸切り。体部はやや丸味を帯び、口縁部は直線的に外傾する。	
第143図 PL.68 PL.83	2	須恵器 高台付塊	埋土 底部のみ	口径 - 底径 6.2 高さ (2.3)	①細・微砂粒少量 ②酸化焰 ③にぶい橙(7.5YR6/4)	轆轤成形。轆轤右回転。底部右回転糸切り後、高台貼り付け。内面に線刻による渦巻き状の文様あり。	
第144図 PL.68	3	土師器 甕	埋土、竈埋土 口縁～胴部1/2	口径 17.8 底径 - 高さ (20.9)	①粗・細砂粒少量 ②普通 ③橙(7.5YR7/6)	胴部は丸みをもち、口縁の屈曲は弱い。胴部外面縦方向、上部横方向篋削り。口縁部内外面横撫で。胴部内面横方向の篋撫で。	
第144図 PL.68	4	土師器 甕	埋土、竈埋土 口縁1/3	口径 (20.0) 底径 - 高さ (11.7)	①粗・細砂粒少量 ②普通 ③にぶい橙(7.5YR6/4)	胴部は丸みをもち、口縁は強く屈曲する。胴部外面横方向の篋削り。口縁部内外面とも横撫で。胴部内面横方向の篋撫で。	

A-5号住居

挿図番号 図版番号	Na	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第145図 PL.69	1	土師器 坏	埋土 体部小破片	口径 - 底径 - 高さ (4.0)	①砂粒・赤色粒少量 ②普通 ③橙(5YR6/8)	内面に墨書。判読不能。	
第145図 PL.69	2	須恵器 高台付塊	埋土 1/4	口径 (15.3) 底径 - 高さ (7.1)	①細砂粒・赤色粒少量 ②酸化焰 ③橙(7.5YR6/6)	轆轤成形。轆轤右回転。底部右回転糸切り後高台貼り付け(剥離)。内面細かい横方向篋磨き、黒色処理。	
第145図 PL.69	3	土師器 台付甕	埋土 底部のみ	口径 - 底径 - 高さ (5.5)	①砂粒・赤色粒少量 ②普通 ③にぶい橙(7.5YR7/4)	底部小さく、胴部は直線的に立ち上がる。台部欠。胴部外面縦方向篋削り。胴部内面横・斜方向の篋撫で。	
第146図 PL.69	4	土師器 甕	埋土 口縁～胴部1/3	口径 (20.8) 底径 - 高さ (23.4)	①砂粒・赤色粒中量 ②普通 ③橙(5YR6/8)	胴部外面上半横方向、中央～下半斜・縦方向の篋削り。口縁部内外面とも横撫で。胴部内面横方向の篋撫で。	

A-6号住居

挿図番号 図版番号	Na	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第147図 PL.69	1	須恵器 坏	埋土 口縁～底部2/3	口径 (12.8) 底径 6.8 高さ 3.6	①黒・白色粒中量 ②還元焰 ③灰(5Y5/1)	轆轤成形。轆轤右回転。底部右回転糸切り。口縁部の一部が歪む。	
第147図 PL.69	2	土師器 甕	埋土 口縁1/3	口径 (18.8) 底径 - 高さ (7.2)	①砂粒・赤色粒中量 ②普通 ③橙(5YR6/8)	口縁コの字状。胴部外面横方向篋削り。口縁部内外面とも横撫で。胴部内面横方向篋撫で。	

A-7号住居

挿図番号 図版番号	Na	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第150図 PL.69	1	須恵器 坏	掘方 完形	口径 11.2 底径 5.2 高さ 3.4	①砂粒・小礫中量 ②還元焰 ③灰(5Y4/1)	轆轤成形。轆轤右回転。底部右回転糸切り。体部下位でやや丸味を帯び、直線的に立ち上がる。口縁部は外反しない。	
第150図 PL.69	2	須恵器 高台付塊	掘方 口縁～底部3/4	口径 14.2 底径 6.4 高さ 6.1	①粗砂粒・小礫やや多い ②酸化焰 ③灰黄(2.5Y6/2)	轆轤成形。回転方向不明。切り離し後、高台貼り付け。底部外面回転撫で。体部はやや丸味を帯び、口縁部はわずかに外反。器厚が非常に薄い。内面に漆様のもの付着。	
第150図 PL.69	3	須恵器 皿	貯蔵穴 口縁～底部2/3	口径 (15.4) 底径 7.0 高さ 2.6	①砂粒・赤色粒やや多い ②やや酸化焰 ③にぶい黄(2.5Y6/4)	轆轤成形。轆轤右回転。底部右回転糸切り。緩やかに外反しながら開く器形。	
第149図 PL.69	4	須恵器 壺	掘方 胴部1/3	最大径 21.0 底径 - 高さ (13.3)	①砂粒・黒色粒やや多い ②還元焰 ③黄灰(2.5Y6/1)	胴部内面上端に当て具痕。外面に平行叩き目がわずかに残る。その後内外面とも轆轤調整。	

第4章 細谷八幡遺跡

A-8号住居

挿図番号 図版番号	No.	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第152図 PL.69	1	土師器 坏	竈埋土 体部一部欠	口径 11.3 底径 4.8 高さ 3.8	①粗砂・赤色粒多い ②普通 ③橙(7.5YR6/8)	底部平底。体部外面下半横方向の笥削り、上半撫で。口縁部外面横撫で。内面横撫で。	
第152図 PL.69	2	土師器 甕	竈埋土 口縁～胴部上 位1/3	口径 (20.5) 底径 - 高さ (13.9)	①砂粒・白色粒やや多い ②普通 ③にぶい赤褐(2.5YR4/4)	胴部外面上半横方向の笥削り、以下縦方向の笥削り。口縁部内外面とも横撫で。胴部内面横方向の笥撫で。4と同一個体か。	
第152図 PL.70	3	土師器 甕	竈埋土 ほぼ完形	口径 20.0 底径 4.5 高さ 23.4	①砂粒・白色粒やや多い ②普通 ③にぶい赤褐(2.5YR4/4)	胴部外面上半斜方向、以下縦、斜方向の笥削り。口縁部内外面とも横撫で。胴部内面横方向の笥撫で。	2・4と似ている
第152図 PL.69	4	土師器 甕	竈埋土 胴部下位～底 部	口径 - 底径 4.8 高さ (9.6)	①砂粒・白色粒やや多い ②普通 ③にぶい赤褐(2.5YR4/4)	胴部外面縦・斜方向の笥削り。内面横方向笥撫で。2とは特徴が酷似し、同一個体の可能性あり。	

A-9号住居

挿図番号 図版番号	No.	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第154図 PL.70	1	土師器 塊	貯蔵穴 体部1/3	口径 (17.4) 底径 - 高さ (4.6)	①砂粒・赤色粒少量 ②普通 ③黄橙(7.5YR8/8)	底部欠損。体部はやや丸みもち口縁は外反する。体部外面斜方向の笥削り。口縁部内外面ともに横撫で。体部内面笥撫で。	
第154図 PL.70	2	須恵器 高台付塊	貯蔵穴 体部1/4	口径 (12.6) 底径 - 高さ (5.0)	①細砂粒少量 ②やや酸化焙 ③にぶい褐(7.5YR5/3)	轆轤成形。回転方向・底部切り離しは不明。高台剥離。体部は直線的に立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	
第154図 PL.70	3	土師器 甕	埋土 胴部1/3	口径 (21.0) 底径 - 高さ (23.6)	①粗砂・赤色粒多い ②普通 ③橙(5YR6/8)	胴部外面上半横・斜方向、以下斜方向の笥削り。口縁部内外面とも横撫で。胴部内面上半横方向、下半斜方向の笥撫で。	

A-24号土坑

挿図番号 図版番号	No.	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第159図 PL.70	1	灰釉陶器 皿	埋土 1/3	口径 (16.3) 底径 (7.2) 高さ 3.7	①細・微砂粒少量 ②還元焙 ③灰白(2.5Y8/2)	轆轤成形。底部外面回転笥削りの後高台貼り付け。釉はほとんど剥離。	

A-34号土坑

挿図番号 図版番号	No.	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第163図 PL.70	1	縄文土器 深鉢	埋土 口縁部片	残存高 (7.8) 厚さ 1.2	①粗砂粒中量 ②良好 ③にぶい黄褐(10YR5/3)	4単位の小突起と推定。口縁部外反。波頂部に横位に3個円形押圧文が並び、太く深い沈線が巡る。地文にLR縄文施文後、沈線と蛇行沈線が垂下する。	後期堀之内
第163図 PL.70	2	縄文土器 深鉢	埋土 胴部片	残存高 (7.3) 厚さ 1.3	①細砂粒中量 ②普通 ③にぶい黄褐(10YR5/3)	沈線により、剣先状文を区画。区画内に櫛歯状工具により条線を施文。	後期称名寺
第163図 PL.70	3	縄文土器 深鉢	埋土 胴部片	残存高 (6.0) 厚さ 1.3	①細砂粒中量 ②普通 ③にぶい黄橙(10YR6/4)	沈線により区画。区画内に刺突文を施文か。	後期称名寺

A-38号土坑

挿図番号 図版番号	No.	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第164図 PL.70	1	土師器 甕	埋土 口縁部付近の み	口径 19.7 底径 - 高さ (7.5)	①砂粒・赤色粒やや多い ②普通 ③橙(5YR6/6)	胴部外面横方向の笥削り。口縁部内外面とも横撫で。胴部内面横方向の笥撫で。	

A-5号溝

挿図番号 図版番号	No.	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第166図 PL.70	1	土師器 甕	埋土 口縁部片	口径 (21.2) 底径 - 高さ (5.5)	①砂粒少量 ②普通 ③橙(7.5YR7/8)	胴部外面横方向の笥削り。口縁部内外面とも横撫で。胴部外面横方向の笥撫で。	

A-6号溝

挿図番号 図版番号	No	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第166図 PL.70	1	土製品 不明	埋土 ほぼ完形	径 3.2×2.9 孔径 0.3 厚さ 0.6	①砂粒・赤色粒中量 ②酸化焙 ③にぶい橙(7.5YR6/4)	用途不明の土製品。土器(土師器の底部か)を丸く打ち欠き、中央に穿孔する。	

〔B区〕

B-1号住居

挿図番号 図版番号	No	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第169図 PL.71	1	土師器 坏	埋土 体部1/4	口径 (14.0) 底径 (5.4) 高さ 4.3	①砂粒・赤色粒中量 ②普通 ③にぶい橙(5YR6/4)	体部はわずかに丸みをもちながら大きく広がり、口縁部はさらに外傾する。体部～底部外面篋削り。口縁外面～内面横撫で。	
第169図 PL.71	2	土師器 坏	埋土 1/6	口径 (13.6) 底径 (9.0) 高さ 3.6	①砂粒中量 ②普通 ③褐灰(7.5YR5/2)	体部はわずかに丸みをもち、口縁は外反しない。体部外面篋削り。口縁部外面～内面横撫で。	
第169図 PL.71	3	須恵器 坏	埋土 口縁1/3	口径 (13.0) 底径 - 高さ (3.0)	①砂粒・白色粒含む ②還元焙 ③暗灰黄(2.5Y5/2)	轆轤成形。轆轤回転方向・切り離し技法不明。体部はやや丸みをもち、口縁は外反しない。	
第169図 PL.71	4	須恵器 坏	埋土 底部のみ	口径 - 底径 5.8 高さ (2.9)	①砂粒多い ②還元焙 ③にぶい黄橙(10YR7/3)	轆轤成形。轆轤右回転。底部回転糸切り。体部は丸みをもって立ち上がる。	
第169図 PL.71	5	土師器 甕	貯蔵穴 底部付近破片	口径 - 底径 3.8 高さ (8.1)	①砂粒中量、赤色粒少量 ②普通 ③にぶい褐(7.5YR5/3)	底部径が小さく、胴部はわずかに丸みをもちながら立ち上がる。胴部外面篋削り。内面篋撫で。	
第169図 PL.71	6	土師器 甕	埋土 台部破片	口径 - 底径 (9.0) 高さ (3.1)	①砂粒・赤色粒少量 ②普通 ③にぶい橙(2.5Y6/4)	直線的に広がったのち、下端部は大きく外反して広がる。	
第169図 PL.71	7	土製品 土錘	竈埋土 一部欠損	長さ 3.3 径 0.9×0.8 重さ 1.9g	①細砂粒少量 ②普通 ③にぶい褐(7.5YR6/3)	全体に細い。器面は丁寧な整形。	
第169図 PL.71	8	土製品 土錘	埋土 完形	長さ 3.2 径 1.8×1.6 重さ 7.0g	①細砂粒・赤色粒少量 ②普通 ③にぶい橙(7.5YR7/3)	棗玉状。器表は丁寧な整形。	

B-2号住居

挿図番号 図版番号	No	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第170図 PL.71	1	土師器 坏	床下土坑 口縁～底部1/4	口径 (12.8) 底径 (7.7) 高さ 3.5	①砂粒・白・赤色粒中量 ②普通 ③橙(5YR6/8)	底部平底か。体部と底部との境は不明瞭。体部外面下半～底部外面篋削り。口縁部外面～内面横撫で。	
第170図 PL.71	2	土師器 坏	床面 体部1/4	口径 (13.8) 底径 - 高さ (3.8)	①細砂粒・赤色粒中量 ②普通 ③にぶい黄橙(10YR7/3)	平底に近い丸底。口縁外面～内面横撫で。体部外面篋削り、一部に指頭痕。体部内面篋撫で。	
第170図 PL.71	3	土師器 坏	床面、埋土 口縁1/3～底部 ほぼ完形	口径 (11.7) 底径 7.0 高さ 4.0	①砂粒・白色粒少量 ②普通 ③にぶい橙(5YR6/4)	底部平底。底部～体部外面下半横・斜方向の篋削り。体部外面中央撫で。口縁部外面～体部内面横撫で。底部内面撫で。	
第170図 PL.71	4	土師器 坏	掘方 完形	口径 12.3 底径 6.5 高さ 4.0	①砂粒・赤色粒少量 ②普通 ③橙(2.5YR6/6)	底部平底。底部～体部外面下半横・斜方向の篋削り。体部外面中央撫で。口縁部外面～体部内面横撫で。底部内面撫で。	
第170図 PL.71	5	土師器 坏	床面 完形	口径 12.8 底径 6.0 高さ 3.4	①砂粒・白色粒中量 ②普通 ③にぶい黄橙(10YR6/4)	底部平底。底部～体部外面下半斜方向の篋削り。体部外面中央撫で。口縁部外面～体部内面横撫で。底部内面撫で。	
第170図 PL.71	6	土師器 坏	床面 完形	口径 12.3 底径 6.0 高さ 5.0	①小礫・赤色粒少量 ②普通 ③橙(5YR7/6)	底部平底。体部はわずかに丸みをもって立ち上がり、口縁部は外反しない。体部外面下半篋削り。口縁外面～内面横撫で。	
第171図 PL.71	7	土師器 坏	埋土 口縁1/5～底部 1/2	口径 (12.3) 底径 6.8 高さ 5.1	①砂粒・赤色粒少量 ②普通 ③にぶい黄橙(10YR7/4)	底部平底。体部はわずかに丸みをもち、口縁部は外反しない。体部外面下半篋削り。口縁外面～内面横撫で。底部外面に黒斑。	

第4章 細谷八幡遺跡

挿図番号 図版番号	No.	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第171図 PL.71	8	須恵器 坏	床面 口縁～底部3/4	口径 13.0 底径 5.0 高さ 3.8	①白色粒・小礫やや多い ②還元焰 ③黄灰(2.5Y6/1)	轆轤成形。轆轤右回転。底部右回転糸切り。体部は丸味を帯び、口縁部は強く外反する。	
第171図 PL.71	9	須恵器 坏	埋土 口縁～底部1/2	口径 (12.5) 底径 5.6 高さ 4.5	①砂粒少量、白色粒中量 ②還元焰 ③灰(N4/1)	轆轤成形。轆轤右回転。底部回転糸切り。体部は直線的に立ち上がり、口縁は外反する。	
第171図 PL.71	10	須恵器 高台付塊	床面、埋土、掘方埋土 1/4	口径 (13.8) 底径 — 高さ (4.6)	①白色粒・小礫含む ②還元焰 ③黄灰(2.5YR5/1)	轆轤成形。回転方向不明。底部回転糸切り後、高台貼り付け。体部はやや丸味を帯びて立ち上がり、口縁部は強く外反する。器厚が非常に薄い。	
第171図 PL.71	11	須恵器 高台付塊	埋土 底部のみ	口径 — 底径 8.2 高さ (2.2)	①細砂粒・細白色粒中量 ②酸化焰 ③明赤褐(5YR5/6)	轆轤成形。回転方向不明。底部切り離し後高台貼り付け。	
第172図 PL.71	12	須恵器 高台付塊	床面 ほぼ完形	口径 17.8 底径 8.0 高さ 7.7	①砂粒やや多い ②還元焰 ③灰黄(2.5Y6/2)	轆轤成形。回転方向不明。底部切り離し不明。切り離し後、高台貼り付け。体部は丸味を帯び、口縁部は外反する。	
第172図 PL.71	13	須恵器 高台付塊	床面 完形	口径 17.5 底径 8.5 高さ 8.3	①砂粒多い ②酸化焰 ③明赤褐(2.5YR5/6)	轆轤成形。轆轤右回転。底部右回転糸切り後高台貼り付け。体部はやや丸味を帯びて立ち上がり、口縁部は外反する。	
第172図 PL.71	14	須恵器 皿	埋土 口縁～底部3/4	口径 13.0 底径 6.1 高さ 2.4	①白色粒中量 ②還元焰 ③灰(5Y5/1)	轆轤成形。轆轤右回転。底部右回転糸切り。体部はわずかに丸みをもって広がり、口縁部は外反する。	
第172図 PL.71	15	土師器 小型甕	埋土 口縁1/4	口径 (13.2) 底径 — 高さ (7.1)	①砂粒・白色粒中量 ②普通 ③にぶい橙(7.5YR6/4)	口縁はかなりあまいコの字。胴部外面篋削り。口縁内外面横撫で。口縁外面に指頭圧痕。胴部内面篋撫で。	
第172図 PL.71	16	土師器 甕	埋土 口縁部破片	口径 (16.9) 底径 — 高さ (8.8)	①粗砂粒・赤色粒中量 ②普通 ③橙(7.5YR7/6)	口縁はややあまいコの字。胴部外面篋削り。口縁内外面横撫で。胴部内面篋撫で。	
第173図 PL.71	17	土師器 小型台付甕	床面、掘方、埋土 胴部1/4	口径 (11.6) 底径 — 高さ (10.6)	①赤・黒色粒少量 ②普通 ③にぶい黄褐(10YR5/4)	胴部外面上半横方向、以下斜方向の篋削り。口縁部内外面とも横撫で。胴部内面篋撫で。	
第173図 PL.72	18	土師器 甕	床下土坑、掘方埋土 胴部下位～底部1/3	口径 — 底径 (4.4) 高さ (9.1)	①砂粒・赤色粒中量 ②普通 ③黒褐(7.5YR3/2)	胴部外面斜方向の篋削り。胴部内面横・斜方向の篋撫で。	
第172図 PL.72	19	土師器 台付甕	埋土 底部破片	口径 — 底径 — 高さ (5.4)	①砂粒中量 ②普通 ③橙(5YR6/6)	胴部外面篋削り。台部との境付近は横撫で。胴部内面篋撫で。台部内面撫で。	
第173図 PL.72	20	土師器 小型台付甕	床面、掘方、埋土 胴部下半～底部2/3	口径 — 底径 9.8 高さ (13.4)	①砂粒・赤色粒少量 ②普通 ③褐(7.5YR4/4)	胴部外面斜方向の篋削り。胴部内面篋撫で。台部内外面横撫で。	
第173図 PL.72	21	土製品 土錘	埋土 ほぼ完形	長さ 3.1 径 0.8×0.8 重さ 1.9g	①砂粒・小礫中量 ②酸化焰 ③褐(7.5YR4/6)	全体に細い。整形が雑で表面に凹凸がある。	
第173図 PL.72	22	土製品 土錘	埋土 完形	長さ 3.1 径 0.7×0.8 重さ 1.5g	①細砂粒少量 ②酸化焰 ③灰黄(2.5Y6/2)	全体に細いが、中央部に最大径。表面は撫でて平滑。	
第173図 PL.72	23	土製品 土錘	床面 完形	長さ 4.1 径 0.9×0.9 重さ 2.5g	①砂粒・赤色粒中量 ②酸化焰 ③明赤褐(5YR5/6)	全体に細い。整形が雑で表面に凹凸がある。	
第173図 PL.72	24	土製品 土錘	床面 完形	長さ 5.2 径 2.5×2.5 重さ 28.0g	①細砂粒・赤色粒中量 ②酸化焰 ③浅黄橙(10YR8/3)	径が太い。中央部に最大径があり、両端が細くなる。表面は撫でて平滑。	

B-3号住居

挿図番号 図版番号	No	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第175図 PL.72	1	土師器 坏	埋土、竈埋土 1/5	口径 (12.4) 底径 (7.2) 高さ 3.7	①砂粒多い ②普通 ③にぶい黄橙(10YR6/4)	体部は直線的に立ち上がり、口縁部はわずかに内湾する。体部外面下半～底部外面篋削り。口縁部外面～内面横撫で。	
第175図 PL.72	2	土師器 坏	床面、竈埋土 1/2	口径 (12.8) 底径 (8.0) 高さ 4.0	①砂粒中量 ②普通 ③にぶい橙(7.5YR6/4)	体部は直線的に立ち上がり、口縁は外反しない。口縁外面は強い横撫で。体部～底部外面は表面摩滅だが、篋削りか。	
第175図 PL.72	3	須恵器 塊	床面、埋土 口縁1/4～体部 1/4	口径 (14.6) 底径 - 高さ (5.4)	①砂粒・赤色粒少量 ②還元焰 ③灰黄(2.5Y6/2)	轆轤成形。轆轤回転方向不明。体部は丸みを持ち、口縁はわずかに外反する。	
第175図 PL.72	4	須恵器 坏	床面、埋土 口縁1/4	口径 (14.8) 底径 - 高さ (3.9)	①砂粒・白色粒少量 ②還元焰 ③黄灰(2.5Y6/1)	轆轤成形。轆轤回転方向不明。体部は丸みを持ち、口縁はわずかに外反する。	
第175図 PL.72	5	土師器 甕	竈埋土 口縁部破片	口径 (23.7) 底径 - 高さ (6.0)	①砂粒・白・赤色粒中量 ②普通 ③にぶい褐(7.5YR5/3)	ややあまいコの字口縁。胴部外面篋削り。口縁内外面横撫で。	
第175図 PL.72	6	土師器 台付甕	埋土 台部のみ1/4	口径 - 底径 (8.8) 高さ (3.0)	①砂粒中量、赤色粒少量 ②普通 ③橙(5YR6/6)	やや外反しながら開く。内外面とも横撫で。	

B-4号住居

挿図番号 図版番号	No	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第177図 PL.72	1	土師器 坏	床面ピット 口縁1/4欠	口径 12.5 底径 7.5 高さ 4.5	①粗砂・赤色粒やや多い ②普通 ③橙(5YR7/6)	口縁部外面～内面横撫で。体部外面撫で。底部外面篋削り。口縁部に油煙付着。色の異なる胎土を細かい縞状に含む。	
第177図 PL.72	2	土師器 坏	床面、埋土 口縁～体部一部欠	口径 13.1 底径 5.9 高さ 4.6	①砂粒・赤色粒中量 ②普通 ③にぶい橙(7.5YR7/4)	体部はごくわずかに丸みを持ち、口縁は外反しない。体部～底部外面篋削り。口縁部外面～内面横撫で。	
第177図 PL.72	3	須恵器 坏	床面、埋土 口縁3/4～底部 完形	口径 13.1 底径 6.4 高さ 3.9	①粗砂・小礫・赤色粒中量 ②やや酸化焰 ③灰黄(2.5Y6/2)	轆轤成形。轆轤右回転。底部回転糸切り。体部は丸みを持ち、口縁は大きく外反する。	
第177図 PL.72	4	須恵器 坏	床面、竈埋土 口縁2/3～底部 完形	口径 12.9 底径 5.9 高さ 4.2	①白色粒中量 ②還元焰 ③灰(5Y4/1)	轆轤成形。轆轤右回転。底部回転糸切り。体部は丸みを持ち、口縁は大きく外反する。	
第177図 PL.72	5	須恵器 高台付塊	床面 高台欠	口径 15.0 底径 - 高さ (5.2)	①砂粒・白色粒少量 ②還元焰 ③黒褐(2.5Y3)	轆轤成形。轆轤右回転。底部回転糸切り後高台貼り付け(欠損)。体部はほぼ直線的に立ち上がり、口縁はわずかに外反する。	
第177図 PL.72	6	土師器 高台付塊	床面、埋土 高台欠	口径 13.2 底径 - 高さ (6.1)	①砂粒・赤色粒少量 ②普通 ③にぶい黄橙(10YR7/4)	体部は丸みが少なく、口縁は外反しない。体部～底部外面篋削り。高台貼り付け。口縁部外面～内面横撫で。	
第177図 PL.72	7	須恵器 高台付塊	床面 口縁部一部・高台欠	口径 15.2 底径 - 高さ (5.5)	①細砂・白色粒中量 ②酸化焰 ③にぶい橙(7.5YR7/3)	轆轤成形。轆轤右回転。底部切り離し後高台貼り付け。内面横方向篋磨き、黒色処理。	
第177図 PL.72	8	須恵器 高台付塊	床面、埋土 口縁1/2～底部 完形	口径 (14.0) 底径 7.4 高さ 6.3	①白・赤色粒やや多い ②やや酸化焰 ③灰黄褐(10YR6/2)	轆轤成形。轆轤回転方向不明。底部切り離し後高台貼り付け。体部は歪んでいる。	
第177図 PL.72	9	須恵器 高台付塊	床面 口縁部一部欠	口径 14.7 底径 7.6 高さ 6.3	①粗砂・小礫中量 ②酸化焰 ③灰黄橙(10YR5/2)	轆轤成形。轆轤右回転。底部回転糸切り。底部切り離し後高台貼り付け。体部はやや丸みを持ち、口縁は外反する。	
第177図 PL.72	10	須恵器 高台付塊	埋土、竈埋土 完形	口径 13.8 底径 7.0 高さ 5.9	①砂粒・白色粒多い ②やや酸化焰 ③にぶい橙(7.5YR6/4)	轆轤成形。轆轤右回転。底部切り離し後高台貼り付け。器壁が厚めて重い。	
第177図 PL.72	11	須恵器 高台付塊	床面、埋土 床下土坑 体部2/3欠	口径 (17.8) 底径 8.2 高さ 8.8	①細砂・白色粒中量 ②酸化焰 ③にぶい褐(7.5YR5/3)	轆轤成形。轆轤右回転。底部回転糸切り後高台貼り付け。体部は下半に丸みを持ち、口縁はわずかに外反する。	
第177図 PL.73	12	須恵器 皿	床面、埋土 口縁1/2欠	口径 13.7 底径 6.8 高さ 2.3	①砂粒・小礫・赤色粒多い ②還元焰 ③灰(10Y6/1)	轆轤成形。轆轤右回転。底部回転糸切り。体部は直線的に開き、口縁は外反する。	

第4章 細谷八幡遺跡

挿図番号 図版番号	No.	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第177図 PL.73	13	土師器 甕	埋土 口縁部1/4	口径 (18.2) 底径 - 高さ (6.0)	①砂粒・白・赤色粒中量 ②普通 ③にぶい橙(7.5YR6/4)	口縁の屈曲が弱く、あまいコの字形。胴部外面篋削り。口縁部内外面横撫で。胴部内面篋撫で。	
第177図 PL.73	14	縄文土器 深鉢	掘方埋土 口縁部・把手	残存高 (4.6) 厚さ 1.1	①粗砂粒・雲母粒多量 ②普通 ③橙(7.5YR6/6)	波状口縁で波頂部に把手。	後期堀之内

B-5号住居

挿図番号 図版番号	No.	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第179図 PL.73	1	須恵器 坏	竈埋土 口縁周辺1/2	口径 (12.9) 底径 - 高さ (4.0)	①細砂粒・白色粒少量 ②還元焰 ③灰(5Y5/1)	轆轤成形。轆轤右回転か。体部は直線的に立ち上がり、口縁は外反しない。	
第179図 PL.73	2	石器 敲石	埋土	長さ (11.5) 幅 7.3 重さ 547.7g	砂岩	下先端に敲打痕あり。	

B-6号住居

挿図番号 図版番号	No.	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第180図 PL.73	1	須恵器 坏	埋土 口縁～底部1/3	口径 (12.8) 底径 6.2 高さ 3.9	①白色粒・小礫多い ②還元焰 ③灰(7.5Y4/1)	轆轤成形。轆轤右回転。底部右回転糸切り。体部はほぼ直線的に立ち上がり、口縁部は外反する。	
第180図 PL.73	2	灰釉陶器 高台付塊	掘方埋土 口縁～底部1/3	口径 (14.6) 底径 6.5 高さ 4.4	①細砂・白色粒少量 ②還元焰 ③灰白(2.5YR7/1)	轆轤成形。底部外面回転篋削り後、高台貼り付け。釉は刷毛塗りでごく薄い。	
第180図 PL.73	3	土師器 小型台付 甕	埋土 台部のみ3/4	口径 - 底径 8.4 高さ (3.2)	①細砂・赤色粒少量 ②普通 ③明赤褐(2.5YR5/8)	甕部の底部内面撫で。台部内外面横撫で。	
第180図 PL.73	4	緑釉陶器 塊か	埋土 体部小破片	口径 - 底径 - 高さ -	①白色粒含む ②還元焰? ③暗オリーブ(7.5Y4/3)	轆轤成形。内外面緑釉。釉は内面がやや厚く、発色がいい。	
第181図 PL.73	5	石製品 砥石か	床面 完形	長さ 4.5 幅 3.0 最大厚 2.8	流紋岩	長さの短い分銅型。上部に穿孔あり。1面は表面が欠損。残りの5面とも使用している。重さ50.8g。	

B-7号住居

挿図番号 図版番号	No.	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第183図 PL.73	1	須恵器 坏	床面、竈埋土 口縁～底部2/3	口径 12.5 底径 6.8 高さ 3.5	①白色粒中量 ②還元焰 ③灰(7.5Y5/1)	轆轤成形。轆轤右回転。底部右回転糸切り。体部はやや丸味を帯びて立ち上がり、口縁部は外反しない。	
第183図 PL.73	2	土師器 甕	床面、埋土 掘方 口縁部1/2	口径 (20.8) 底径 - 高さ (6.9)	①白・赤色粒少量 ②普通 ③明赤褐(2.5YR5/8)	胴部外面横方向の篋削り。口縁部内外面横撫で。胴部内面横方向の篋撫で。	
第183図 PL.73	3	石製品 砥石	床面 上下欠	長さ (9.4) 幅 5.7 最大厚 5.8	流紋岩	4面使用。角も1カ所使用。各面ともよく使用しており、浅く凹んでいる。重さ403.1g。	

B-8号住居

挿図番号 図版番号	No.	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第186図 PL.73	1	土師器 坏	床面、埋土 口縁1/2～底部2/3	口径 (12.8) 底径 (6.6) 高さ 4.2	①砂粒・白色粒少量 ②普通 ③橙(5YR6/8)	体部は直線的に立ち上がり、口縁は外反しない。体部下半～底部外面篋削り。底部外面中央に離れ砂。口縁外面～内面横撫で。	
第186図 PL.73	2	土師器 坏	床面、埋土 口縁・体部1/2	口径 11.8 底径 (7.2) 高さ 3.8	①砂粒・赤色粒少量 ②普通 ③にぶい黄橙(10YR7/4)	体部は直線的に立ち上がり、口縁は外反しない。体部外面下半～底部外面篋削り。口縁部外面～内面横撫で。体部外面に黒斑。	
第186図 PL.73	3	土師器 坏	埋土 口縁1/6～底部 ほぼ完形	口径 (13.8) 底径 7.0 高さ 4.2	①砂粒・赤色粒少量 ②普通 ③橙(7.5YR6/6)	体部外面下半～底部外面篋削り。体部外面上半指押さえ。口縁部外面～内面横撫で。体部外面下半～底部外面に黒斑。	

第5節 遺構外出土の遺物

挿図番号 図版番号	No.	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第186図 PL.73	4	須恵器 高台付埴	埋土 底部のみ	口径 — 底径 (6.2) 高さ (3.4)	①砂粒・黒色粒中量 ②還元焰 ③灰オリーブ(5Y6/2)	轆轤成形。表面摩滅のため、調整等不明。 高台は貼り付け。体部はわずかに丸みをも って立ち上がる。	
第186図 PL.73	5	土師器 坏	埋土、掘方 小破片	口径 (11.8) 底径 (5.6) 高さ 5.9	①砂粒・白・赤色粒中量 ②普通 ③橙(5YR6/6)	体部はやや丸みをもち、口縁は外反しない。 体部～底部外面寛削り。口縁外面～内面横 撫で。	
第186図 PL.73	6	土師器 高台付埴	埋土 口縁1/6～底部 完形	口径 (14.4) 底径 6.2 高さ 5.9	①粗砂粒・赤色粒少量 ②普通 ③にぶい橙(7.5YR7/4)	体部は丸みをもち、口縁は外反する。高台 貼り付け。体部外面下半粗い寛削り。体部 外面上半～内面横撫で。	
第186図 PL.73	7	須恵器 皿	竈埋土 口縁1/4～底部 1/3	口径 (12.5) 底径 (6.6) 高さ 2.2	①砂粒・小礫・赤色粒多 い ②還元焰 ③灰オリーブ(5Y5/2)	轆轤成形。轆轤右回転。底部は直線的に広 がり、口縁は外反する。	
第186図 PL.73	8	土師器 甕	床面、埋土 口縁付近1/3	口径 (17.8) 底径 — 高さ (7.0)	①砂粒・赤色粒多い ②普通 ③橙(7.5YR6/6)	やや粗雑な作り。口縁はくずれたコの字状。 胴部は寛削りだが表面摩滅。口縁部外面 ～内面横撫で。	
第186図 PL.73	9	土師器 台付甕	埋土 台部のみ	口径 — 底径 7.7 高さ (2.8)	①細砂・赤色粒中量 ②普通 ③橙(7.5YR6/6)	台部のみ。外反しながら広がる。内外面と も横撫で。甕部底部内面は寛撫で。	
第186図 PL.73	10	灰釉陶器 長頸瓶	住居北側 頸部のみ	口径 (11.3) 底径 — 高さ (9.1)	①夾雑物少ない ②還元焰 ③灰(5Y6/1)	頸部貼り付け。口縁部に向かって緩やかに 外反しながら開く。	
第186図 PL.73	11	土製品 土錘	埋土 全体の1/2	長さ (2.1) 径 0.8×0.8 重さ 1.1g	①細砂粒含む ②普通 ③灰褐(7.5YR4/2)	全体に細い。器表は丁寧な整形。	
第186図 PL.73	12	土製品 土錘か	埋土 完形	長さ 3.1 径 0.8×0.7 重さ 1.8g	①細砂粒含む ②普通 ③にぶい橙(7.5YR6/4)	穴が開いていない。失敗品か。全体に細い。 器表の整形はやや雑。	
第186図 PL.73	13	石製品 敲石か	床面 完形	長さ 6.4 幅 6.0 最大厚 3.1	安山岩	周囲に敲打痕あるが、使用頻度は低いか。	

B-10号住居

挿図番号 図版番号	No.	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第186図 PL.74	1	土師器 坏	埋土 口縁～底部2/3	口径 13.4 底径 6.7 高さ 4.8	①砂粒・赤色粒少量 ②普通 ③浅黄橙(10YR8/3)	体部はわずかに丸みをもち、口縁は外反す る。体部～底部外面寛削り。口縁外面～内 面横撫で。底部外面に黒班。	
第186図 PL.74	2	土師器 坏	床面、竈埋土 口縁1/4～底部 1/2	口径 (12.7) 底径 (7.4) 高さ 4.0	①細砂粒少量 ②普通 ③にぶい橙(7.5YR7/4)	体部は直線的に立ち上がり、途中で内側に わずかに屈曲する。体部外面下半寛削り。 口縁外面～内面横撫で。表面摩滅。	
第186図 PL.74	3	土師器 坏	床面、埋土 体部1/6	口径 (14.4) 底径 (6.8) 高さ 4.1	①細砂・赤色粒中量 ②普通 ③橙(7.5YR7/6)	体部はわずかに丸みをもち、口縁は外反し ない。体部外面～底部寛削り。口縁部外面 ～内面横撫で。	
第186図 PL.74	4	土師器 高台付埴	埋土 口縁1/2～底部 1/2	口径 15.4 底径 6.8 高さ 6.8	①細砂粒・赤色粒少量 ②普通 ③橙(7.5YR7/6)	体部はわずかに丸みをもち、口縁は外反し ない。高台貼り付け。体部下半外面寛削り。 体部上半外面に指押さえの跡。	
第186図 PL.74	5	土師器 高台付埴	貯蔵穴 口縁～体部一 部欠	口径 15.0 底径 6.7 高さ 6.5	①粗砂粒・赤色粒中量 ②普通 ③橙(7.5YR6/6)	体部は丸みをもって立ち上がり、口縁は外 反する。口縁外面に指押さえの跡が残る。 高台は貼り付け。	
第186図 PL.74	6	須恵器 坏	貯蔵穴 完形	口径 12.3 底径 6.0 高さ 4.1	①砂粒・白色粒少量 ②還元焰 ③灰(10Y5/1)	轆轤成形。轆轤右回転。底部右回転糸切り。 体部はほぼ直線的に立ち上がり、口縁はわ ずかに外反する。	
第186図 PL.74	7	須恵器 坏	貯蔵穴 ほぼ完形	口径 14.2 底径 5.3 高さ 5.4	①砂粒・小礫少量 ②還元焰 ③灰黄(2.5Y7/2)	轆轤成形。轆轤右回転。底部右回転糸切り。 体部はわずかに丸みをもって立ち上がり、 口縁部は外反する。	
第186図 PL.74	8	須恵器 坏	貯蔵穴 口縁一部欠	口径 13.8 底径 5.4 高さ 6.3	①砂粒・小礫少量 ②還元焰 ③灰白(5Y7/1)	轆轤成形。轆轤右回転。底部右回転糸切り。 体部はやや丸みをもって立ち上がり、口縁 部は外反する。	

第4章 細谷八幡遺跡

挿図番号 図版番号	No.	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第186図 PL.74	9	須恵器 高台付埴	埋土 体部小破片	口径 (14.4) 底径 - 高さ (6.1)	①白色粒・小礫やや多い ②還元焰 ③黄灰(2.5Y4/1)	轆轤成形。轆轤回転方向不明。体部はやや丸みをもって立ち上がり、口縁部は外反する。	
第187図 PL.74	10	灰釉陶器 高台付皿	貯蔵穴上 口縁1/2～底部1/2	口径 (14.5) 底径 (7.3) 高さ 4.3	①細砂粒少量 ②還元焰 ③黄灰(2.5Y6/1)	轆轤成形。轆轤回転方向不明。底部切り離し後回転斲削り、高台貼り付け。口縁～体部内面のみに施釉。	口縁部に油煙付着。
第187図 PL.74	11	土師器 甕	埋土 口縁部1/4	口径 (17.1) 底径 - 高さ (6.7)	①砂粒・赤色粒子少量 ②普通 ③にぶい黄橙(10YR7/4)	コの字口縁。胴部外面斲削り。口縁部外面～内面横撫で。	
第187図 PL.74	12	土師器 甕	貯蔵穴上 小破片	口径 (19.0) 底径 - 高さ (7.0)	①砂粒・赤色粒中量 ②普通 ③にぶい黄橙(10YR7/4)	胴部外面斲削り。口縁部内外面横撫で。胴部内面横撫で。	
第187図 PL.74	13	土師器 甕	埋土、竈埋土 口縁1/4～胴部破片	口径 (19.8) 底径 - 高さ (12.3)	①砂粒・白・赤色粒中量 ②普通 ③にぶい黄橙(10YR7/4)	口縁はやや甘いコの字状。胴部は丸みをもつ。胴部外面斲削り。口縁部内外面横撫で。胴部内面摩滅のため調整不明。	
第187図 PL.74	14	須恵器 甕	竈脇埋土 頸部周辺小破片	口径 - 底径 - 高さ -	①白色粒子多い ②やや酸化焰 ③黄灰(2.5Y4/1)	外面横撫で、頸部に波状文。内面横撫で、一部に当て具痕が残る。	
第187図 PL.74	15	須恵器 甕	床面、埋土 底部～体部1/3	口径 - 底径 14.4 高さ (20.6)	①小礫・白色粒少量 ②還元焰 ③灰(7.5Y4/1)	胴部は底部から直線的に立ち上がり、上部で内側に屈曲する。底部外面を除き、丁寧な横撫で。	
第187図 PL.74	16	石製品 敲石	埋土 上部欠	長さ (8.0) 幅 3.3 最大厚 1.7	玄武岩	下端を中心に敲打痕あり。重さ75.5g。	

B-8・10号住居

挿図番号 図版番号	No.	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第187図 PL.74	1	土師器 高台付坏	床面、埋土 口縁1/3～底部完形	口径 (13.7) 底径 6.7 高さ 6.3	①砂粒少量 ②普通 ③橙(5YR6/6)	体部は丸みをもって立ち上がり、口縁は外反する。高台は貼り付け。体部外面斲削り。口縁外面～内面横撫で。	

B-9号住居

挿図番号 図版番号	No.	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第189図 PL.74	1	土師器 埴	埋土、竈埋土 口縁付近1/5	口径 (14.7) 底径 - 高さ (5.9)	①細砂粒・赤色粒少量 ②普通 ③にぶい橙(7.5YR7/4)	体部はやや丸みをもち、口縁は口唇部がわずかに外反する。内面は粗い斲削り。内面の半分位は黒色。	
第189図 PL.74	2	須恵器 高台付埴	床面 口縁～底部1/2 高台欠	口径 (15.0) 底径 - 高さ (5.4)	①粗砂・小礫・白色粒少量 ②還元焰 ③灰白(7.5Y7/1)	轆轤成形。轆轤右回転。底部回転糸切り後高台貼り付け(欠損)。体部はわずかに丸みをもち、口縁はわずかに外反する。	
第189図 PL.74	3	須恵器 高台付埴	竈埋土 底部～体部破片	口径 - 底径 (11.3) 高さ (7.1)	①小礫・白色粒少量 ②還元焰 ③灰(N4/0)	高台貼り付け。体部は直線的に立ち上がる。	
第189図 PL.74	4	須恵器 甕	埋土 胴部小破片	口径 - 底径 - 高さ (6.2)	①小礫・白色粒少量 ②還元焰 ③灰(5Y5/1)	外面細かい格子叩き。内面当て具痕。	

B-11号住居

挿図番号 図版番号	No.	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第191図 PL.75	1	土師器 坏	床面、埋土 口縁1/2～底部1/2	口径 (11.8) 底径 (7.8) 高さ 3.9	①細砂粒・白色粒少量 ②普通 ③橙(7.5YR6/6)	体部はわずかに丸みをもち、口縁はわずかに外反する。体部外面下端～底部外面斲削り。口縁部外面～内面横撫で。	
第191図 PL.75	2	土師器 坏	埋土 口縁～体部1/4	口径 (15.0) 底径 - 高さ (4.1)	①砂粒少量 ②普通 ③明赤褐(5YR5/6)	体部外面下半斲削り。口縁部外面～内面横撫で。	
第191図 PL.75	3	須恵器 坏	竈埋土 口縁～底部1/5	口径 (12.4) 底径 (7.2) 高さ 3.7	①砂粒少量 ②酸化焰 ③橙(5YR6/6)	轆轤成形。轆轤右回転。底部右回転糸切り。体部は直線的に立ち上がり、口縁は外反しない。内面斲磨き、黒色処理。	

第5節 遺構外出土の遺物

挿図番号 図版番号	No.	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第191図 PL.75	4	須恵器 皿	埋土 口縁～体部1/4	口径 (16.4) 底径 - 高さ (2.1)	①粗砂・黒色粒中量 ②還元焰 ③灰黄(2.5Y6/2)	轆轤成形。轆轤右回転。体部は直線的に広がり、口縁は外反する。器壁が薄い。	
第191図 PL.75	5	土師器 小型甕	竈埋土 口縁部1/3	口径 (11.0) 底径 - 高さ (4.2)	①細砂粒・白色粒中量 ②普通 ③橙(5YR6/6)	コの字口縁。胴部外面篋削り。口縁部外面～内面横撫で。	
第191図 PL.75	6	土師器 甕	床下土坑 口縁部1/4～胴部破片	口径 (16.3) 底径 - 高さ (11.6)	①砂粒・白・赤色粒少量 ②普通 ③橙(7.5YR7/6)	コの字口縁。胴部外面篋削り。口縁部内外面横撫で。胴部内面篋撫で。	

B-12号住居

挿図番号 図版番号	No.	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第192図 PL.75	1	須恵器 甕	埋土 胴部小破片	口径 - 底径 - 高さ -	①砂粒・白色粒中量 ②還元焰 ③灰(N4/0)	外面格子叩き。内面当て具痕。	

B-14号住居

挿図番号 図版番号	No.	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第195図 PL.75	1	土師器 坏	埋土、竈埋土 口縁部～底部2/3	口径 (12.6) 底径 6.2 高さ 5.1	①砂粒・赤色粒中量 ②普通 ③橙(7.5YR6/6)	底部平底。底部～体部外面下半横方向の篋削り。体部外面中央篋撫で。口縁部外面横撫で。内面横撫で。	
第195図 PL.75	2	土師器 坏	埋土 口縁～底部1/2	口径 (14.1) 底径 (7.0) 高さ 4.6	①砂粒中量 ②普通 ③にぶい橙(7.5YR6/4)	底部平底。体部は直線的で口縁は外反しない。底部～体部外面上半斜方向の篋削り。口縁部外面横撫で。内面横撫で。	
第195図 PL.75	3	須恵器 坏	床面 口縁部～底部1/3	口径 (12.8) 底径 5.4 高さ 3.9	①砂粒・赤色粒少量 ②酸化焰 ③にぶい黄橙(10YR7/3)	轆轤成形。轆轤右回転。底部右回転糸切り。体部はほぼ直線的に立ち上がり、口縁部は外反する。	
第195図 PL.75	4	須恵器 高台付塊	貯蔵穴 口縁部～底部2/3	口径 12.8 底径 5.6 高さ 4.8	①砂粒やや多い ②還元焰 ③浅黄(2.5Y7/3)	轆轤成形。轆轤右回転。底部右回転糸切り後、高台貼り付け。体部はわずかに丸味を帯び、口縁部は外反する。	
第195図 PL.75	5	須恵器 高台付塊	埋土、貯蔵穴 口縁部～底部1/3	口径 (15.0) 底径 6.4 高さ 4.3	①白色粒・小礫中量 ②還元焰 ③灰(N5/0)	轆轤成形。轆轤右回転。底部右回転糸切り後、高台貼り付け。体部はわずかに丸味を帯び、口縁部は外反する。	
第195図 PL.75	6	灰釉陶器 皿	埋土 口縁部～体部片	口径 (14.7) 底径 - 高さ (1.5)	①細砂粒少量 ②還元焰 ③灰(5Y5/1)	轆轤成形。体部は丸みをもち、口縁部は外反する。釉はごく薄い。	
第195図 PL.75	7	土師器 甕	貯蔵穴上、埋土 底部破片	口径 - 底径 3.7 高さ (4.3)	①砂粒・赤色粒中量 ②普通 ③にぶい黄橙(10YR7/4)	胴部外面縦方向の篋削り。胴部内面篋撫で。内面がかなり摩滅している。外面に黒斑。	
第195図 PL.75	8	土師器 台付甕	埋土 台部1/4	口径 - 底径 (9.6) 高さ (2.9)	①砂粒・白色粒少量 ②普通 ③灰褐色(5YR4/2)	台部のみ破片。大きく外反しながら開く。内外面横撫で。	

B-15号住居

挿図番号 図版番号	No.	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第197図 PL.75	1	土師器 坏	掘方埋土 口縁～底部1/2	口径 (11.9) 底径 (5.3) 高さ 4.3	①砂粒・白色粒少量 ②普通 ③橙(2.5YR6/6)	底部平底。体部は下端で屈曲し、直線的に立ち上がる。底部～体部外面下端篋削り。口縁部外面横撫で。内面横撫で。	
第197図 PL.75	2	土師器 坏	埋土 口縁～底部1/3	口径 (12.8) 底径 (7.0) 高さ 4.2	①砂粒・白色粒少量 ②普通 ③明赤褐(2.5YR5/6)	底部平底。体部は直線的に立ち上がり、口縁部は内湾する。底部～体部外面下半篋削り。口縁部外面横撫で。内面横撫で。	
第197図 PL.75	3	土師器 坏	埋土 口縁～体部1/3	口径 (11.7) 底径 - 高さ (3.6)	①砂粒・白色粒少量 ②普通 ③明赤褐(2.5YR5/8)	底部平底。体部は口縁にかけて内湾。底部～体部外面下端篋削り。体部無で。口縁部外面横撫で。内面横撫で。	墨書体部内面「内」
第197図 PL.83	4	土師器 坏	埋土 口縁～底部1/3	口径 (12.8) 底径 - 高さ (4.0)	①砂粒・白色粒少量 ②普通 ③橙(2.5YR6/8)	底部平底。体部は口縁にかけて内湾。底部～体部外面篋削り。体部外面中央篋撫で。口縁部外面横撫で。内面横撫で。	墨書体部内面「内」

第4章 細谷八幡遺跡

挿図番号 図版番号	No.	種器 別種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第197図 PL.75	5	土師器 坏	埋土 底部片	口径 — 底径 (6.0) 高さ (2.8)	①砂粒・赤色粒少量 ②普通 ③橙(5YR6/8)	外面篋削り。内面撫で。	墨書 体部外面 判読不能
第197図 PL.75	6	土師器 坏	掘方埋土 口縁～底部破 片	口径 (12.7) 底径 (8.4) 高さ 4.2	①赤色粒やや多い ②普通 ③橙(7.5YR7/6)	底部平底。体部は中位で屈曲し、口縁はわ ずかに外反する。底部外面篋削り。体部外 面撫で。口縁部外面横撫で。内面横撫で。	底部内面に線刻
第198図 PL.75 PL.83	7	土師器 坏	掘方埋土 口縁～底部片	口径 (14.2) 底径 (8.6) 高さ 5.5	①粗・細砂粒少量 ②普通 ③明赤褐(5YR5/6)	底部平底。体部はわずかに丸みをもつ。底 部～体部外面篋削り。口縁部外面横撫で。 内面横撫で、粗い放射状暗文。	
第198図 PL.75	8	土師器 坏	埋土 口縁～底部1/4	口径 (12.8) 底径 (6.8) 高さ 4.2	①砂粒中量 ②普通 ③橙(5YR6/6)	底部平底。体部はほぼ直線的に立ち上がる。 底部～体部外面篋削り。口縁部横撫で。内 面横撫で。	
第198図 PL.75	9	須恵器 高台付埴 片	床面、埋土、掘 方埋土 口縁～底部片	口径 (13.8) 底径 7.2 高さ 6.2	①小礫・白色粒中量 ②還元焰 ③灰(N4/0)	轆轤成形。轆轤右回転。底部右回転糸切り 後、高台貼り付け。体部は丸味を帯びて立 ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	
第198図 PL.75	10	須恵器 高台付埴 片	埋土 口縁～底部1/3 高台欠	口径 (15.6) 底径 — 高さ (6.6)	①砂粒やや多い ②やや酸化焰 ③灰黄(2.5Y7/2)	轆轤成形。回転方向・底部切り離しは不明。 高台貼り付け。体部はわずかに丸味を帯び、 口縁部はわずかに外反する。	
第198図 PL.75	11	土師器 甕	埋土、掘方埋土 口縁付近1/3	口径 (19.0) 底径 — 高さ (11.7)	①細・微砂粒少量 ②普通 ③橙(7.5YR7/6)	コの字口縁。胴部外面斜・横方向の篋削り。 口縁部内外面とも横撫で。内面横方向の篋 撫で。	
第198図 PL.76	12	土師器 甕	竈埋土 口縁～胴部1/3	口径 (19.0) 底径 — 高さ (18.6)	①砂粒やや多い ②普通 ③橙(5YR6/6)	コの字口縁。胴部外面上端斜・横方向、以 下縦方向篋削り。口縁部内外面とも横撫で。 胴部内面横方向の篋撫で。	
第198図 PL.76	13	土師器 小型台付 甕	埋土、竈埋土 口縁～胴部下 位3/4 台部欠	口径 (10.6) 底径 — 高さ (13.8)	①砂粒・白色粒中量 ②普通 ③にぶい赤褐(5YR5/4)	胴部外面上半横方向篋削り、下半縦方向の 篋削り。口縁部内外面とも横撫で。胴部内 面中央横方向、下半斜方向の篋撫で。	
第198図 PL.76	14	緑釉陶器 坏	埋土 口縁部破片	口径 — 底径 — 高さ —	①細砂含む ②還元焰 ③暗オリーブ(7.5YR4/3)	小破片。轆轤成形。	
第198図 PL.76	15	土師器 坏	埋土 体部片	口径 — 底径 — 高さ —	①砂粒・赤色粒少量 ②普通 ③明赤褐(5YR5/8)	外面篋削り。内面撫で。	墨書 内面 判読 不能
第198図 PL.76	16	土製品 土 錘	埋土 一部欠	長さ 3.8 径 0.9×1.0 重さ 2.8g	①細砂粒少量 ②普通 ③にぶい橙(7.5YR7/4)	全体に細い。表面は撫でて平滑。	
第199図 PL.76	17	石製品 砥 石	埋土 端部のみ	長さ (5.0) 幅 2.5 最大厚 2.5	砂岩	4面使用。横断面が正方形に近い。重さ59. 7g。	
第199図 PL.76	18	石製品 砥 石	埋土 上下欠	長さ (4.0) 幅 5.2 最大厚 2.0	流紋岩	5面とも使用。重さ61.7g。	

B-17号住居

挿図番号 図版番号	No.	種器 別種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第201図 PL.76	1	須恵器 高台付埴 片	床面、埋土 口縁～底部1/4	口径 (13.4) 底径 (5.4) 高さ 4.6	①細砂粒やや多い ②還元焰 ③にぶい黄(2.5Y6/3)	轆轤成形。回転方向不明。底部回転糸切り 後、高台貼り付け。体部はやや丸味を帯び て立ち上がり、口縁部は外反する。	
第201図 PL.76	2	須恵器 高台付埴 片	床面 口縁～底部1/3	口径 (14.4) 底径 5.8 高さ 4.9	①細砂粒・白色粒少量 ②還元焰 ③灰白(5Y7/2)	轆轤成形。回転方向・底部切り離しは不明。 切り離し後、高台貼り付け。体部は直線的 に外傾し、口縁部は外反する。	
第201図 PL.76	3	土師器 甕	床面 口縁部片	口径 (19.2) 底径 — 高さ (4.9)	①砂粒・赤色粒中量 ②普通 ③橙(5YR6/8)	胴部外面横方向の篋削り。口縁部内外面と も横撫で。胴部内面横方向の篋撫で。	

B-18号住居

挿図番号 図版番号	No.	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第203図 PL.76 PL.83	1	土師器 坏	床面 口縁～底部3/4	口径 (13.5) 底径 5.8 高さ 3.8	①細砂粒少量 ②普通 ③橙(5YR6/6)	底部平底。底部～体部外面下半篋削り。口縁部外面横撫で。内面横撫で。	墨書 体部内外面(2カ所)「仲」を四角で囲む。
第203図 PL.76	2	土師器 坏	床面 底部のみ	口径 - 底径 6.3 高さ (2.7)	①砂粒・白色粒少量 ②普通 ③にぶい橙(5YR6/4)	底部平底。底部～体部外面篋削り。底部外面中央未調整。内面横撫で。	
第203図 PL.76	3	十能瓦	攪乱か 小破片	長さ (11.6) 幅 (8.1) 厚さ 1.3	①砂粒中量 ②還元焰 ③黒(7.5Y2/1)	側端部を折り曲げて成形する。凸面は無調整。その他は縦撫で。	

B-19号住居

挿図番号 図版番号	No.	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第206図 PL.76	1	土師器 坏	竈前床面、竈埋土 口縁～底部3/4	口径 12.6 底径 4.9 高さ 4.4	①砂粒・赤色粒少量 ②普通 ③にぶい赤褐(2.5YR5/4)	底部平底。体部と底部の境が丸い。口縁部は外傾する。底部～体部外面下端篋撫で。口縁部外面横撫で。内面横撫で。	
第206図 PL.76	2	土師器 甕	床面、竈埋土 口縁部片	口径 (18.8) 底径 - 高さ (6.9)	①白・赤色粒少量 ②普通 ③にぶい橙(7.5YR7/4)	コの字口縁。胴部外面横方向の篋削り。口縁部内外面とも横撫で。胴部内面横方向の篋撫で。	
第206図 PL.76	3	土師器 甕	床面、竈埋土 ほぼ完形	口径 (20.0) 底径 5.2 高さ 26.8	①細・微砂粒少量 ②普通 ③橙(5YR6/6)	コの字口縁。胴部外面上半横・斜方向、以下縦方向の篋削り。口縁部内外面とも横撫で。胴部内面横・斜方向の篋撫で。	

B-20号住居

挿図番号 図版番号	No.	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第208図 PL.76 PL.83	1	土師器 坏	埋土 口縁～底部1/2	口径 12.5 底径 8.0 高さ 3.7	①砂粒・白色粒少量 ②普通 ③にぶい赤褐(5YR4/4)	底部平底。体部は口縁にかけて内湾する。底部～体部外面篋削り。口縁部外面横撫で。内面横撫で。外面全体に煤付着。	
第208図 PL.76	2	土師器 坏	埋土 底部2/3	口径 - 底径 (9.0) 高さ (2.0)	①白・赤色粒中量 ②普通 ③にぶい赤褐(5YR5/4)	底部～体部外面篋削り。内面撫で、暗文(底部螺旋状、体部放射状)。	
第208図 PL.76	3	土師器 甕	床面 口縁部片	口径 (19.8) 底径 - 高さ (6.5)	①砂粒・白色粒やや多い ②良好 ③明赤褐(5YR5/8)	コの字口縁。胴部外面横方向の篋削り。口縁部内外面とも横撫で。胴部内面横方向の篋撫で。	
第208図 PL.76	4	土師器 台付甕	床面 台部2/3	口径 - 底径 9.9 高さ (4.1)	①砂粒・白色粒少量 ②普通 ③にぶい赤褐(5YR5/4)	台部内外面横撫で。底部内面篋撫で。	

B-21号住居

挿図番号 図版番号	No.	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第210図 PL.77	1	須恵器 高台付塊	埋土、貯蔵穴 口縁～底部1/3	口径 (14.6) 底径 (5.8) 高さ 5.2	①砂粒・白色粒少量 ②還元焰 ③灰黄(2.5Y7/2)	轆轤成形。轆轤右回転。底部右回転糸切り後、高台貼り付け。体部は丸味を帯びて立ち上がり、口縁部は外反しない。	
第210図 PL.77	2	土製品 土錘	貯蔵穴脇埋土 一部欠	長さ 5.0 径 1.7×1.7 重さ 10.7g	①細砂・赤色粒中量 ②酸化焰 ③にぶい褐(7.5YR5/3)	中央部に最大径。整形はやや雑。	

B-22号住居

挿図番号 図版番号	No.	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第211図 PL.77	1	土師器 坏	埋土 口縁～底部1/3	口径 (12.4) 底径 (7.4) 高さ 4.2	①砂粒やや多い ②普通 ③にぶい橙(2.5YR6/3)	底部平底。体部はわずかに屈曲。底部～体部外面下半横方向篋削り。口縁部外面横撫で。内面は器面が荒れて整形不明瞭。	
第211図 PL.77	2	須恵器 坏	床面、掘方埋土 口縁～底部2/3	口径 12.3 底径 5.0 高さ 3.9	①小礫・白色粒中量 ②還元焰 ③灰オリーブ(5Y6/2)	轆轤成形。轆轤右回転。底部右回転糸切り後、高台貼り付け。体部は下半にやや丸味を帯び、上半～口縁部はほぼ直線的に広がる。	墨書 体部内外面「山」か
第211図 PL.77	3	須恵器 高台付塊	掘方埋土 口縁～底部1/3	口径 (13.6) 底径 6.2 高さ 6.0	①小礫・白色粒少量 ②還元焰 ③黄灰(2.5YR5/1)	轆轤成形。轆轤右回転。底部右回転糸切り後、高台貼り付け。体部はわずかに丸味を帯び、口縁部はわずかに外反する。	

第4章 細谷八幡遺跡

挿図番号 図版番号	No.	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第211図 PL.77	4	須恵器 皿	甕右床面、甕埋土 口縁～底部2/3	口径 14.1 底径 6.2 高さ 2.5	①小礫、白色粒中量 ②還元焰 ③灰(5Y5/1)	轆轤成形。轆轤右回転。底部右回転糸切り。体部はやや丸みをもち、口縁は外反する。	
第212図 PL.77	5	土師器 甕	床面 口縁部1/3	口径 (20.2) 底径 - 高さ (5.6)	①砂粒やや多い ②普通 ③橙(5YR6/8)	胴部外面横方向の篋削り。口縁部内外面横撫で。胴部内面横方向の篋撫で。	
第212図 PL.77	6	土師器 甕	床面、堀方埋土、甕埋土 口縁～胴部上半1/3	口径 (21.2) 底径 - 高さ (10.0)	①砂粒やや多い ②普通 ③橙(5YR6/8)	コの字口縁。胴部外面横方向の篋削り。口縁部内外面横撫で。胴部内面横撫で。	
第212図 PL.77	7	土師器 小型甕	掘方埋土 口縁～胴部上半1/2	口径 (11.0) 底径 - 高さ (7.3)	①砂粒・赤色粒中量 ②普通 ③明赤褐(2.5YR5/8)	コの字口縁。胴部外面上半横方向、以下斜方向の篋削り。口縁部内外面とも横撫で。胴部内面は器面が荒れて調整不明瞭。	
第212図 PL.77	8	土師器 小型甕	床面、埋土 口縁～胴部上半1/3	口径 (8.5) 底径 - 高さ (5.2)	①砂粒やや多い ②普通 ③明赤褐(2.5YR5/6)	胴部外面横方向の篋削り。口縁部内外面とも横撫で。胴部内面篋撫で。内外面の器面荒れている。	
第212図 PL.77	9	土師器 台付甕	床面 台部片2/3	口径 - 底径 (10.0) 高さ (4.3)	①砂粒少量 ②普通 ③灰褐(5YR5/2)	台部内外面横撫で。底部内面篋撫で。	

B-1号土坑

挿図番号 図版番号	No.	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第215図 PL.77	1	縄文土器 深鉢	埋土 口縁部～胴下部	残存高(31.4) 厚さ 1.1	①粗砂粒中量 ②普通 ③灰黄(2.5Y7/2)	胴下部～中央部で丸味を帯び、胴上部で括れ、口縁部やや外反。沈線により区画。区画内に刺突文を施文。区画はJ字状文。	後期称名寺

B-6号土坑

挿図番号 図版番号	No.	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第216図 PL.77	1	火鉢 か	埋土 小破片	口径 - 底径 - 高さ (7.0)	①砂粒・白色粒中量 ②還元焰 ③灰(10Y4/1)	口縁部の小破片。外面～口縁部横撫で。内面は無調整のまま。	

B-11号土坑

挿図番号 図版番号	No.	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第217図 PL.77	1	須恵器 高台付壺	埋土 口縁1/3欠	口径 13.8 底径 6.0 高さ 5.6	①砂粒中量。白色粒少量 ②やや酸化焰 ③にぶい橙(7.5YR6/4)	轆轤成形。回転方向不明。底部切り離した後高台貼り付け。体部はやや丸みをもち、口縁はわずかに外反する。	

B-22号土坑

挿図番号 図版番号	No.	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第219図 PL.78	1	土師器 高台付壺	埋土 口縁1/2～底部3/4	口径 (14.4) 底径 6.7 高さ 5.8	①砂粒・白・赤色粒中量 ②普通 ③にぶい橙(5YR6/4)	体部は丸みをもち、口縁は外反しない。体部外面篋削り。口縁外面～内面横撫で。高台は貼り付けで低い。	
第219図 PL.78	2	土師器 壺	埋土 口縁付近小破片	口径 (22.6) 底径 - 高さ (6.5)	①砂粒・白・赤色粒中量 ②普通 ③にぶい橙(5YR6/4)	口縁は屈曲が明瞭なコの字状。胴部外面横方向篋削り。口縁内外面横撫で。胴部内面横方向篋撫で。	
第219図 PL.78	3	土師器 甕	埋土 口縁付近小破片	口径 (19.2) 底径 - 高さ (8.9)	①砂粒・白色粒多い ②普通 ③橙(5YR7/6)	口縁は屈曲が弱く、ごくあまいコの字状。胴部外面篋削り。口縁内外面横撫で。胴部内面篋撫で。	

B-29号土坑

挿図番号 図版番号	No.	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第221図 PL.77	1	土製品 土錘	埋土 完形	長さ 3.4 径 0.8×0.8 重さ 2.0g	①細砂粒少量 ②酸化焰 ③にぶい赤褐(5YR5/3)	全体に細い。表面の調整は粗く、滑らかではない。	

B-32号土坑

挿図番号 図版番号	No.	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第221図 PL.77	1	灰釉陶器 坏	埋土 体部1/4	口径 (14.2) 底径 - 高さ (3.2)	①細砂粒少量 ②還元焰 ③灰白(2.5Y8/2)	轆轤成形。体部はやや丸みをもち、口縁はわずかに外反する。釉はやや緑を帯びた灰白(5GY8/1)。	

B-37号土坑

挿図番号 図版番号	No.	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第222図 PL.77	1	土製品 土錘	埋土 端部欠	長さ (2.6) 径 0.8×0.8 重さ 1.2g	①細砂粒少量 ②酸化焰(炭素吸着) ③黒褐(10YR3/1)	全体に細い。表面は撫でで平滑。	

B-42号土坑

挿図番号 図版番号	No.	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第224図 PL.78	1	須恵器 坏	埋土 口縁～底部1/4	口径 (12.9) 底径 (6.0) 高さ 2.9	①砂粒・白色粒少量 ②還元焰 ③暗灰黄(2.5Y5/2)	轆轤成形。回転方向不明。回転糸切り。皿に近い器形。体部はほぼ直線的に広がり、口縁部は外反する。	
第224図 PL.78	2	須恵器 高台付塊	埋土 口縁～底部1/3	口径 (13.6) 底径 5.9 高さ 4.9	①小礫・白色粒やや多い ②還元焰 ③灰(N4/0)	轆轤成形。轆轤右回転。底部右回転糸切り後高台貼り付け。体部は丸味を帯びて立ち上がり、口縁部は強く外反する。	
第224図 PL.78	3	鉄製品 刀子	埋土 先端と茎欠	長さ (6.2) 幅 1.2 厚さ 0.5			

B-1号粘土採掘坑

挿図番号 図版番号	No.	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第225図 PL.78	1	土製品 高台付塊	埋土 口縁部1/4欠	口径 13.7 底径 7.7 高さ 6.3	①砂粒・赤色粒中量 ②普通 ③浅黄橙(10YR3/1)	体部外面篋削りの後、口縁部外面～体部内面横撫で。高台貼り付け。底部内面と体部外面下端に指押さえの跡。	

B-1号溝

挿図番号 図版番号	No.	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第226図 PL.78	1	土師器 坏	埋土 口縁・体部1/4欠	口径 13.0 底径 9.5 高さ 3.5	①粗砂・赤色粒中量 ②普通 ③橙(5YR7/6)	やや丸底に近い平底。体部外面下半から底部外面篋削り。口縁部外面～体部内面横撫で。底部内面横撫で。	内面～口縁部外面漆附着。

B-5号溝

挿図番号 図版番号	No.	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第227図 PL.79	1	須恵器 高台付塊	埋土 底部付近小破片	口径 - 底径 (6.0) 高さ (3.0)	①白色粒少量 ②還元焰 ③灰(5Y5/1)	轆轤成形。回転方向不明。底部切り離し後高台貼り付け。体部はやや丸みをもつ。	
第227図 PL.79	2	土師器 器台	埋土 脚部小破片	口径 - 底径 - 高さ (4.9)	①砂粒・赤色粒やや多い ②普通 ③橙(7.5YR7/6)	外面横撫で。中心部に穿孔。	
第227図 PL.79	3	須恵器 甕	埋土 胴部小破片	口径 - 底径 - 高さ -	①白・黒色粒少量 ②還元焰 ③灰(5Y6/1)	外面撫で。内面同心円状の当て具痕。	
第227図 PL.79	4	土製品 土錘	南端付近埋土 1/3	長さ (2.0) 径 1.0×0.9 重さ 1.6g	①細砂粒・白色粒少量 ②普通 ③黄灰(2.5Y4/1)	中央部が緩やかに膨らむ形。表面は撫で。	
第227図 PL.79	5	土製品 土錘	埋土 1/4	長さ (2.1) 径 1.1 重さ 1.4g	①細砂粒・赤色粒少量 ②普通 ③灰黄(2.5Y7/2)	中央部が緩やかに膨らむ形。表面は撫で。	
第227図 PL.79	6	土製品 土錘	南端付近埋土 1/3	長さ (2.2) 径 0.7×0.6 重さ 0.8g	①細砂粒少量 ②普通 ③暗灰黄(2.5Y5/2)	全体に細い。表面は撫で。	
第227図 PL.79	7	土製品 土錘	南端付近埋土 1/2	長さ (2.4) 径 1.0×0.9 重さ 1.6g	①細砂粒・赤色粒少量 ②普通 ③褐灰(10YR6/1)	中央部が緩やかに膨らむ形。表面は撫で。	

第4章 細谷八幡遺跡

挿図番号 図版番号	No.	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第227図 PL.79	8	土製品 土 錘	南端付近底面 1/2	長さ (2.3) 径 0.8×0.8 重さ 1.6g	①細砂粒少量 ②普通 ③黒褐(10YR3/1)	中央部が緩やかに膨らむ形。表面は撫で。	
第227図 PL.79	9	土製品 土 錘	南端付近埋土 2/3	長さ (2.8) 径 0.9×0.9 重さ 2.0g	①細砂粒・赤色粒少量 ②普通 ③にぶい黄橙(10YR7/3)	中央部が緩やかに膨らむ形。表面は撫で。	
第227図 PL.79	10	土製品 土 錘	南端付近埋土 3/4	長さ (3.0) 径 0.9×0.9 重さ 1.9g	①細砂粒少量 ②普通 ③にぶい黄橙(10YR7/3)	中央部が緩やかに膨らむ形。表面は撫で。	
第227図 PL.79	11	土製品 土 錘	南端付近埋土 端部一部欠	長さ (3.1) 径 1.0×1.0 重さ 2.6g	①細砂粒少量 ②普通 ③灰黄褐(10YR6/2)	中央部が緩やかに膨らむ形。表面は撫で。	
第227図 PL.79	12	土製品 土 錘	南端付近埋土 3/4	長さ (3.0) 径 1.0×1.0 重さ 2.7g	①細砂粒・赤色粒少量 ②普通 ③にぶい黄橙(10YR7/3)	中央部が緩やかに膨らむ形。表面は撫で。	
第227図 PL.79	13	土製品 土 錘	南端付近埋土 両端部一部欠	長さ (3.3) 径 1.0×0.9 重さ 2.7g	①細砂粒・赤色粒少量 ②普通 ③にぶい黄橙(10YR7/3)	中央部が緩やかに膨らむ形。表面は撫で。	
第227図 PL.79	14	土製品 土 錘	南端付近埋土 2/3	長さ (3.2) 径 1.2×1.2 重さ 4.5g	①細砂粒・赤色粒中量 ②普通 ③にぶい黄橙(10Y6/3)	中央部が緩やかに膨らむ形。径やや太い。 表面は撫で。	
第227図 PL.79	15	土製品 土 錘	南端付近埋土 端部一部欠	長さ (3.7) 径 1.1×1.0 重さ 3.3g	①細砂粒・黒色粒中量 ②普通 ③灰黄(2.5Y6/2)	中央部が緩やかに膨らむ形。表面は撫で。	
第229図 PL.79	16	土製品 土 錘	南端付近埋土 両端部一部欠	長さ (3.7) 径 0.9×0.9 重さ 2.8g	①細砂粒・赤色粒少量 ②普通 ③灰黄褐(10YR6/2)	中央部が緩やかに膨らむ形。表面は撫で。	
第229図 PL.79	17	土製品 土 錘	南端付近埋土 完形	長さ 3.5 径 1.0×0.9 重さ 3.1g	①細砂粒・赤色粒少量 ②普通 ③にぶい黄橙(10YR7/3)	中央部が緩やかに膨らむ形。表面は撫で。	
第229図 PL.79	18	土製品 土 錘	南端付近埋土 両端部一部欠	長さ (3.9) 径 1.0×1.0 重さ 3.3g	①細砂粒・赤色粒少量 ②普通 ③灰黄褐(10Y6/2)	中央部が緩やかに膨らむ形。表面は撫で。	
第229図 PL.79	19	土製品 土 錘	南端付近埋土 完形	長さ 4.0 径 0.9×0.8 重さ 3.4g	①砂粒・赤色粒中量 ②普通 ③にぶい黄橙(10YR7/3)	中央部が緩やかに膨らむ形。表面は撫で。	
第229図 PL.79	20	土製品 土 錘	南端付近埋土 完形	長さ 3.6 径 0.9×0.8 重さ 2.5g	①細砂粒・白色粒少量 ②普通 ③灰黄(2.5Y6/2)	中央部が緩やかに膨らむ形。表面は撫で。 黒斑。	
第229図 PL.79	21	土製品 土 錘	南端付近埋土 完形	長さ 3.8 径 0.9×0.9 重さ 2.9g	①細砂粒・赤色粒少量 ②普通 ③にぶい黄橙(10YR6/3)	中央部が緩やかに膨らむ形。表面は撫で。	
第229図 PL.79	22	土製品 土 錘	南端付近埋土 完形	長さ 3.8 径 1.0×0.9 重さ 3.6g	①細砂粒・赤色粒少量 ②普通 ③にぶい黄橙(10YR7/3)	中央部が緩やかに膨らむ形。表面は撫で。	
第229図 PL.79	23	石器 打製石斧	埋土 刃部欠	長さ (15.0) 幅 12.0 最大厚 2.5	ホルンフェルス	刃部の大部分が欠損。重さ522.5g。	
第229図 PL.79	24	縄文土器 深鉢	埋土 胴部片	残存高 (8.8) 厚さ 1.3	①粗砂粒中量 ②普通 ③淡黄(2.5Y8/3)	細い沈線で曲線的な区画。区画は不明。	後期
第229図 PL.79	25	縄文土器 深鉢	埋土 胴部片	残存高 (4.4) 厚さ 0.9	①細砂粒中量 ②普通 ③淡黄(2.5Y8/3)	破片上端部割口に接合のための刻目。横位に低い隆帯上の粘土貼り付け。隆帯間は浅い沈線状。縦位に沈線。	後期

B-6号溝

挿図番号 図版番号	No	種 別 器 種	出土位置 残存状態	計 測 値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
第230図 PL.79	1	縄文土器 深 鉢	埋土 口縁部片	残存高 (7.8) 厚さ 0.9	①粗砂粒中量 ②普通 ③にぶい黄褐(10YR5/3)	表裏面摩滅。口縁部外傾。口唇部に横位に3個1単位の円形押圧文。沈線により区画。区画内に刺突文。	後期堀之内

B-10号溝

挿図番号 図版番号	No	種 別 器 種	出土位置 残存状態	計 測 値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
第232図 PL.79	1	須 恵 器 高台付埴	埋土 底部周辺のみ	口径 - 底径 6.8 高さ (4.1)	①粗砂・黒色粒やや多い ②やや酸化焙 ③にぶい橙(5Y6/4)	轆轤成形。轆轤回転方向不明。底部切り離し不明。切り離した後高台貼り付け。	
第232図 PL.79	2	須 恵 器 高台付埴	埋土 口縁部1/3～底部1/2	口径 (13.6) 底径 (7.0) 高さ 6.8	①砂粒・赤色粒少量 ②酸化焙 ③にぶい黄橙(10YR7/4)	轆轤成形。轆轤回転方向不明。底部切り離し後、体部外面下半を篋削りし、高台貼り付け。高台は大きく外反して広がる。	
第232図 PL.79	3	石 器 砥 石	埋土 破片	長さ (6.0) 幅 3.6 厚さ 1.8	流紋岩	上半部欠。4面使用。2面の表面には農具のガジリ痕が顕著。重さ72.5g。	

B-15号溝

挿図番号 図版番号	No	種 別 器 種	出土位置 残存状態	計 測 値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
第233図 PL.80	1	須 恵 器 坏	埋土 口縁～底部片	口径 (12.8) 底径 (6.0) 高さ 4.4	①砂粒・赤色粒やや多い ②還元焙 ③灰黄(2.5Y6/2)	轆轤成形。回転方向不明。体部はやや丸味を帯び、口縁部は外反する。	
第233図 PL.80	2	須 恵 器 坏	埋土 口縁～底部片	口径 (13.7) 底径 (7.9) 高さ 3.2	①小礫・白色粒中量 ②還元焙 ③灰(5Y5/1)	轆轤成形。轆轤右回転。底部右回転糸切り。体部はわずかに丸味を帯びて立ち上がり、口縁部は外反する。	
第233図 PL.80	3	土 師 器 台 付 甕	埋土 上部のみ。裾部一部欠	口径 - 底径 9.2 高さ (3.6)	①砂粒少量 ②普通 ③にぶい橙(7.5YR6/4)	台部内外面横撫で。底部外面篋削り、内面篋撫で。	

B-16号溝

挿図番号 図版番号	No	種 別 器 種	出土位置 残存状態	計 測 値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
第234図 PL.80	1	須 恵 器 坏	埋土 口縁～底部片	口径 (14.4) 底径 (6.0) 高さ 2.5	①小礫・砂粒少量 ②還元焙 ③灰色(N5/0)	轆轤成形。回転方向不明。底部回転糸切り。皿に近い器形。体部は丸味を帯び、口縁部は強く外反する。	
第234図 PL.80	2	須 恵 器 坏	埋土 口縁～底部片	口径 (12.6) 底径 (6.0) 高さ 4.3	①砂粒やや多い ②還元焙 ③灰(7.5Y6/1)	轆轤成形。回転方向不明。底部回転糸切り。体部は丸味を帯び、口縁部は外反する。	

B-17号溝

挿図番号 図版番号	No	種 別 器 種	出土位置 残存状態	計 測 値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
第235図 PL.80	1	土 師 器 坏	埋土 体部破片	口径 (12.8) 底径 - 高さ 3.8	①粗砂・赤色粒中量 ②普通 ③橙(5YR6/6)	底部丸底か。体部外面下半篋削り。口縁部外面横撫で。内面横撫で。	
第235図 PL.80	2	須 恵 器 坏	埋土 口縁部1/3欠	口径 12.9 底径 5.3 高さ 4.6	①粗砂・白色粒やや多い ②還元焙 ③オリーブ黄(5Y6/3)	轆轤成形。轆轤右回転。底部回転糸切り。体部はやや丸みをもって立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	
第235図 PL.80	3	須 恵 器 甕	埋土 頸部～胴部上半破片	口径 - 底径 - 高さ (10.8)	①小礫・白色粒中量 ②還元焙 ③灰(N4/0)	内外面とも横撫で。胴部内面上端に当て具痕がわずかに残る。	
第235図 PL.80	4	須 恵 器 甕	埋土 胴部片	口径 - 底径 - 高さ -	①白色粒中量 ②還元焙 ③灰(N4/0)	外面格子叩き。内面同心円状の当て具痕。	

B-18号溝

挿図番号 図版番号	No	種 別 器 種	出土位置 残存状態	計 測 値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
第236図 PL.80	1	土 師 器 坏	埋土 底部一部欠	口径 13.0 底径 (6.0) 高さ 4.0	①砂粒やや多い ②酸化焙 ③明赤褐(2.5YR5/8)	底部平底。体部はわずかに屈曲しながら立ち上がる。体部外面下半斜方向の篋削り。口縁部内外面ともに横撫で。内面横撫で。	

第4章 細谷八幡遺跡

挿図番号 図版番号	No	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第236図 PL.80	2	須恵器 高台付埴	埋土 底部1/2	口径 — 底径 (8.0) 高さ (2.8)	①砂粒中量 ②酸化焙 ③にぶい橙(5YR6/4)	轆轤成形。回転方向不明。底部回転糸切り後高台貼り付け。	
第236図 PL.80	3	灰釉陶器 高台付埴	埋土 底部周辺1/2	口径 — 底径 (6.3) 高さ (2.2)	①細砂粒少量 ②還元焙 ③灰白(2.5Y7/1)	轆轤成形。回転方向不明。釉は内面に痕跡的に残るのみ。	
第237図 PL.80	4	灰釉陶器 皿	埋土 底部～体部1/4	口径 — 底径 (6.1) 高さ (2.2)	①細砂粒・白色粒少量 ②還元焙 ③黄灰(2.5Y6/1)	轆轤成形。右回転。釉は内・外面施釉。底部は内外面とも施釉しない。	
第237図 PL.80	5	灰釉陶器 鉢	埋土 底部小破片	口径 — 底径 (11.8) 高さ (4.1)	①細砂粒少量 ②還元焙 ③にぶい黄(2.5Y6/3)	轆轤成形。回転方向不明。体部は丸みをもって立ち上がる。内面全面に施釉しているが、器表が荒れている。	
第237図 PL.80	6	土師器 甕	埋土 口縁1/6	口径 (20.0) 底径 — 高さ (5.8)	①砂粒・白・赤色粒中量 ②普通 ③にぶい黄橙(10YR7/3)	ややあまいコの字口縁。胴部外面篋削り。口縁外面～内面横撫で。	
第237図 PL.80	7	須恵器 甕	埋土 頸部～胴部上 端破片	口径 — 底径 — 高さ (10.8)	①砂粒・白色粒少量 ②還元焙 ③灰(N4/0)	口縁部は胴部から直角に屈曲する。口縁外面と内面横撫で。	
第237図 PL.80	8	瓦 平瓦	埋土 小破片	長さ (12.0) 幅 (9.5) 厚さ 1.7	①砂粒・小礫・白色粒中量 ②還元焙 ③灰色(N6/0)	一枚作り。凹面糸切り痕、布目痕、側端面取り状の削り。凸面縦撫で、後一部横撫で。	
第237図 PL.80	9	土製品 土錘	埋土 完形	長さ 3.7 径 0.9×0.9 重さ 2.9g	①細砂粒少量 ②酸化焙 ③にぶい褐(7.5YR6/3)	中央部に最大径があるが、全体に細い。表面は丁寧な撫でで平滑。	
第237図 PL.80	10	土製品 土錘	埋土 完形	長さ 3.6 径 0.7×0.8 重さ 2.0g	①細砂粒少量 ②酸化焙 ③にぶい褐(7.5YR6/3)	全体に細い。整形が雑で表面に凹凸がある。	
第237図 PL.80	11	土製品 土錘	埋土 完形	長さ 2.8 径 0.7×0.7 重さ 1.2g	①細砂粒少量 ②酸化焙 ③明赤褐(5YR5/6)	全体に細く小さい。整形はやや雑で表面に凹凸がある。	
第237図 PL.80	12	土製品 土錘	埋土 完形	長さ 2.8 径 0.8×0.9 重さ 1.8g	①細砂粒少量 ②酸化焙 ③にぶい黄橙(10YR7/2)	全体に細く小さい。成形が雑で歪みがあり、上方の孔はほとんど塞がっている。	
第237図 PL.80	13	土製品 土錘	埋土 両端部欠	長さ (3.0) 径 0.9×0.8 重さ 1.7g	①細砂粒少量 ②酸化焙 ③灰白(2.5Y8/2)	中央部に最大径。両端部が細くなる。表面は丁寧な撫でで平滑。	
第237図 PL.80	14	土製品 土錘	埋土 両端部欠	長さ (3.1) 径 1.0×0.9 重さ 2.6g	①細砂粒少量 ②酸化焙 ③にぶい褐(7.5YR6/3)	中央部に最大径。両端部が細くなる。表面は丁寧な撫でで平滑。	
第237図 PL.80	15	土製品 土錘	埋土 1/3	長さ (3.1) 径 2.5 重さ 10.0g	①細砂粒少量 ②酸化焙 ③にぶい黄橙(10YR7/2)	大型の土錘。表面は丁寧な撫でで平滑。	
第237図 PL.80	16	土製品 土錘	埋土 完形	長さ 5.2 径 2.5×2.5 重さ 27.5g	①細砂粒少量 ②酸化焙 ③にぶい黄橙(10YR7/3)	大型の土錘。中央部に最大径。両端部が細くなる。表面は丁寧な撫でで平滑。	
第238図 PL.80	17	石製品 凹み石	埋土 完形	長さ 10.9 幅 9.7 最大厚 6.7	角閃石安山岩	一面のみ深く凹む。重さ378.8g。	
第238図 PL.80	18	石製品 不明	埋土 一部欠	長さ 11.0 幅 10.5 厚さ 10.1	角閃石安山岩	用途不明。底面が磨られて平滑になっている。全体に熱を受けている。重さ781.2g。	
第238図 PL.80	19	石製品 不明	埋土 一部欠	長さ 22.0 幅 11.6 厚さ 9.5	角閃石安山岩	用途不明。断面方形に成形する。各面に工具痕が残る。重さ1594.3g。	

B-20号溝

挿図番号 図版番号	No	種 別 器 種	出土位置 残存状態	計 測 値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
第239図 PL.81	1	土 師 器 坏	埋土 口縁部1/5～底 部1/5	口径 (13.0) 底径 (7.1) 高さ 4.1	①砂粒・赤色粒少量 ②普通 ③浅黄橙(10YR8/4)	体部外面下半～底部外面篋削り。口縁部内 外面横撫で。体部・底部内面撫で。	
第239図 PL.81	2	須 惠 器 坏	埋土 口縁部1/5～底 部1/2	口径 (13.4) 底径 5.4 高さ 4.2	①細砂・白色粒少量 ②還元焰 ③褐灰(10YR4/1)	轆轤成形。轆轤右回転。底部右回転糸切り。 体部はわずかに丸みをもち、口縁部は外反 する。	
第239図 PL.81	3	須 惠 器 坏	埋土 口縁～体部1/3	口径 (12.2) 底径 (7.5) 高さ 4.2	①砂粒・赤色粒少量 ②酸化焰 ③にぶい橙(7.5YR6/4)	轆轤成形。回転方向不明。体部外面下端～底 部外面篋削り。口縁部外面～体部内面横撫 で。	
第239図 PL.81	4	須 惠 器 高台付塊	埋土 体部破片	口径 (16.0) 底径 (9.4) 高さ 6.2	①砂粒・白色粒中量 ②酸化焰 ③にぶい黄橙(7.5YR6/4)	轆轤成形。底部切り離し後高台貼り付け。 口縁部内外面横撫で。体部外面摩滅。体部 内面の篋磨きは摩滅のため不明瞭。	内面黒色処理。
第239図 PL.81	5	須 惠 器 高台付塊	埋土 底部付近破片	口径 - 底径 (7.2) 高さ (3.3)	①白色粒中量 ②還元焰 ③赤褐(5YR4/6)	轆轤成形。轆轤右回転。底部回転糸切り後 高台貼り付け。体部内外面のみ表面黒色処 理。	墨書 底部内面 判読不能
第240図 PL.81	6	須 惠 器 壺	埋土 口縁3/4～体部 1/5	口径 (19.2) 底径 - 高さ (18.0)	①砂粒・小礫少量 ②還元焰 ③灰(5Y5/1)	体部は丸みをもつ。内外面とも横撫でで、 特に外面は丁寧。	
第239図 PL.81	7	縄文土器 深鉢	埋土 胴部片	残存高 (5.9) 厚さ 1.1	①細砂粒中量 ②普通 ③にぶい黄橙(10YR7/3)	沈線により区画。区画内に短い沈線を施文。	後期称名寺

B-21号溝

挿図番号 図版番号	No	種 別 器 種	出土位置 残存状態	計 測 値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
第241図 PL.81	1	土 製 品 土 錘	埋土 端部小破片	長さ (1.7) 径 1.8×1.6 重さ 2.6g	①細砂粒少量 ②普通 ③にぶい黄橙(10YR7/4)	大型の土錘。表面は撫でて平滑。	
第241図 PL.81	2	土 製 品 土 錘	埋土 端部一部欠	長さ (3.3) 径 0.9×0.9 重さ 2.1g	①細砂粒少量 ②普通 ③灰黄褐(10YR6/2)	全体に細い。表面は撫で。	

B-1号井戸

挿図番号 図版番号	No	種 別 器 種	出土位置 残存状態	計 測 値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
第243図 PL.78	1	須 惠 器 坏	埋土 口縁～底部3/4	口径 13.1 底径 6.0 高さ 4.2	①白色粒子多い ②還元焰 ③灰(5Y6/1)	轆轤成形。轆轤右回転。底部右回転糸切り。 体部はやや丸味を帯び、口縁部は外反する。 口縁部がわずかに歪む。	
第243図 PL.78	2	須 惠 器 坏	埋土 口縁～底部2/3	口径 12.6 底径 5.8 高さ 4.1	①粗砂・白色粒中量 ②還元焰 ③灰(7.5Y6/1)	轆轤成形。轆轤右回転。底部右回転糸切り。 底部の端に段を有し、体部はほぼ直線的に 立ち上がる。口縁部は外反する。	
第243図 PL.78	3	須 惠 器 坏	埋土 完形	口径 13.6 底径 6.6 高さ 4.3	①砂粒・赤色粒やや多い ②やや酸化焰 ③にぶい黄橙(10YR7/4)	轆轤成形。轆轤右回転。底部右回転糸切り。 体部は直線的に広がり、口縁部はほとんど 外反しない。	
第244図 PL.78	4	須 惠 器 高台付塊	埋土 体部～底部片	口径 - 底径 (6.0) 高さ (3.9)	①粗砂・小礫少量 ②酸化焰 ③にぶい橙(7.5YR6/4)	轆轤成形。轆轤右回転。底部右回転糸切り 後、高台貼り付け。高台部の一部を欠損。 体部はやや丸味を帯びて立ち上がる。	
第244図 PL.78	5	土 師 器 甕	埋土 口縁部片	口径 (18.8) 底径 - 高さ (6.3)	①砂粒中量 ②普通 ③橙(5YR6/8)	胴部外面横方向の篋削り。口縁部内外面と も横撫で。胴部内面横方向の篋撫で。	
第244図 PL.78	6	土 師 器 甕	埋土 口縁部1/4	口径 (18.8) 底径 - 高さ (4.0)	①砂粒・赤色粒やや多い ②酸化焰 ③橙(5YR7/8)	コの字口縁。胴部外面篋削り。口縁部内外 面とも横撫で。胴部内面篋撫で。	
第244図 PL.78	7	土 師 器 台付甕	埋土 台部	口径 - 底径 7.5 高さ (3.7)	①細砂・赤色粒中量 ②普通 ③にぶい黄橙(10YR7/4)	台部内外面とも器面が荒れているため、調 整不明瞭。	
第244図 PL.78	8	石 製 品 不 明	埋土	長さ (11.1) 幅 11.5 厚さ 7.1		角閃石安山岩 用途不明。断面を方形に成形する。各面に 工具痕が残る。重さ623.5g。	

第4章 細谷八幡遺跡

B-2号井戸

挿図番号 図版番号	No.	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第245図 PL.78	1	須恵器 高台付埴	埋土 底部付近破片	口径 — 底径 (7.6) 高さ (4.0)	①粗砂・小礫やや多い ②やや酸化焙 ③灰(7.5Y5/1)	轆轤成形。轆轤回転方向不明。底部回転糸切り後高台貼り付け。体部はやや丸みをもって立ち上がる。	

〔C区〕

C-1号住居

挿図番号 図版番号	No.	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第246図 PL.81	1	土師器 坏	床面、掘方埋土 口縁～底部1/4	口径 (13.2) 底径 (5.9) 高さ (4.0)	①砂粒少量 ②普通 ③橙(7.5YR7/6)	体部はほぼ直線的に立ち上がり、口縁部は外反しない。体部外面篋削り。口縁部外面～内面横撫で。	
第246図 PL.81	2	須恵器 高台付埴	埋土 口縁～底部1/3	口径 (14.5) 底径 7.3 高さ 6.2	①砂粒・白色粒中量 ②やや酸化焙 ③にぶい黄(2.5Y6/3)	轆轤成形。轆轤回転方向不明。底部回転糸切り後高台貼り付け。体部はわずかに丸みを持ち口縁部は外反する。	
第246図 PL.81	3	須恵器 埴	埋土 口縁～体部1/2	口径 (15.8) 底径 — 高さ (7.0)	①小礫・白色粒少量 ②やや酸化焙 ③灰黄(2.5Y6/2)	轆轤成形。轆轤回転方向不明。体部は丸みを持ち、口縁部は外反する。	

C-1号溝

挿図番号 図版番号	No.	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第247図 PL.81	1	土師器 小型甕	埋土 口縁～胴部1/4	口径 (11.8) 底径 — 高さ (7.5)	①細砂・白色粒中量 ②普通 ③明赤褐(2.5YR5/6)	胴部は丸みをもつ。口縁はくの字状に折れ曲がり外反する。胴部外面篋削り。胴部内面横撫で。口縁部内外面横撫で。	

〔遺構外出土遺物〕

挿図番号 図版番号	No.	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第249図 PL.81	1	土師器 坏	B区730-770G 口縁～体部1/4	口径 (13.4) 底径 — 高さ 4.0	①砂粒・赤色粒少量 ②普通 ③橙(5YR6/6)	体部はわずかに丸みを持ち、口縁は外反しない。体部外面篋削り。口縁部外面～内面横撫で。	口縁部内面に煤付着。
第249図 PL.81	2	土師器 坏	B区730-820G 口縁1/4～底部1/2	口径 (14.0) 底径 (7.4) 高さ 4.1	①砂粒・赤色粒中量 ②普通 ③橙(7.5YR6/6)	体部はわずかに丸みを持ち、口縁部はほとんど外反しない。口縁部外面～内面横撫で。体部外面下半～底部外面篋削り。	
第249図 PL.81	3	土師器 坏	B区730-780G	口径 (11.8) 底径 (7.4) 高さ 3.6	①砂粒・白色粒中量 ②普通 ③橙(7.5YR7/6)	底部はやや丸底に近い。体部は直線的で口縁は外反しない。体部外面下半～底部外面篋削り。口縁外面～内面横撫で。	
第249図 PL.81	4	土師器 坏	B区730-780G 口縁部1/4欠	口径 12.8 底径 6.0 高さ 4.4	①砂粒・白・赤色粒少量 ②普通 ③橙(7.5YR6/6)	体部中央が指押さえのためくびれる器形。口縁は外反しない。体部外面下半～底部外面篋削り。口縁部外面～内面横撫で。	内面に黒斑。
第249図 PL.81	5	須恵器 坏	B区740-780G 底部付近1/2	口径 — 底径 (4.4) 高さ (2.7)	①砂粒・白色粒中量 ②還元焙 ③灰(5Y5/1)	轆轤成形。轆轤回転方向不明。底部回転糸切り後、外周回転篋削り。底部と体部の境が丸く曖昧。	
第249図 PL.81	6	須恵器 坏	B区730-820G 口縁1/4欠	口径 13.4 底径 5.8 高さ 4.3	①細砂・粗砂粒少量 ②還元焙 ③にぶい黄橙(10YR7/3)	轆轤成形。轆轤右回転。底部回転糸切り。体部はほぼ直線的に立ち上がり、口縁部は外反しない。	
第249図 PL.81	7	須恵器 高台付埴	B区750-760G 口縁～底部1/3	口径 (14.4) 底径 — 高さ (5.2)	①砂粒・白色粒少量 ②還元焙 ③灰白(2.5Y8/8)	轆轤成形。轆轤右回転。底部切り離し後高台貼り付け。高台部欠損。体部は直線的に広がり、口縁部はほとんど外反しない。	
第249図 PL.81	8	須恵器 高台付埴	B区740-780G 体部1/6～底部	口径 (14.2) 底径 6.7 高さ 5.0	①砂粒・白色粒少量 ②還元焙 ③灰(5Y6/1)	轆轤成形。轆轤回転方向不明。底部切り離し後、低い高台を貼り付ける。体部はわずかに丸みを持ち、口縁部はやや外反する。	
第249図 PL.82	9	須恵器 高台付埴	B区730-790G 底部付近小破片	口径 — 底径 (8.0) 高さ (4.1)	①砂粒・白色粒中量 ②還元焙 ③黄灰(2.5Y5/1)	轆轤成形。轆轤回転方向不明。底部回転糸切り後高台貼り付け。体部はやや丸みをもつ。	
第249図 PL.82	10	灰釉陶器	B区730-790G 口縁1/4	口径 (14.0) 底径 — 高さ (2.5)	①細砂粒少量 ②還元焙 ③灰白(5Y7/2)	轆轤成形。轆轤回転方向不明。体部はわずかに丸みを持ち、口縁の端部は外反する。釉は内外全面に掛かる。	

第5節 遺構外出土の遺物

挿図番号 図版番号	No.	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第249図 PL.82	11	土師器 小型甕	B区740-760G 口縁付近1/4	口径 (10.8) 底径 - 高さ (5.0)	①砂粒中量 ②普通 ③灰褐(7.5YR4/2)	コの字口縁。体部外面篋削り。口縁部内外面横撫で。	
第249図 PL.82	12	土師器 小型甕	B区730-790G 口縁～胴部1/3	口径 12.1 底径 - 高さ (11.3)	①砂粒・白色粒少量 ②普通 ③灰黄褐(10YR6/2)	胴部は丸みをもつ。口縁部は短く、外傾する。胴部外面篋削り、内面篋撫で。口縁部内外面横撫で。	
第250図 PL.82	13	土師器 甕	B区730-820G 口縁部小破片	口径 (21.2) 底径 - 高さ (5.5)	①砂粒少量 ②普通 ③にぶい橙(7.5YR6/4)	口縁部はやや甘いコの字形。胴部外面篋削り。胴部内面篋撫で。	
第250図 PL.82	14	土師器 甕	B区730-820G 口縁部1/4	口径 (19.2) 底径 - 高さ (7.0)	①砂粒・赤色粒中量 ②普通 ③明黄褐(10YR6/6)	口縁部はやや甘いコの字形。胴部外面篋削り。胴部内面上部に指押さえの跡が残る。	
第250図 PL.82	15	土師器 甕	B区730-820G 口縁1/5～体部 破片	口径 (17.6) 底径 - 高さ (8.6)	①砂粒・赤色粒少量 ②普通 ③橙(5YR6/6)	口縁部はコの字形。胴部外面篋削り。胴部内面篋撫で。口縁部内外面横撫で。	
第250図 PL.82	16	土師器 台付甕	B区730-820G 台部4/5～胴部 破片	口径 - 底径 (10.0) 高さ (8.9)	①砂粒・赤色粒中量 ②普通 ③にぶい橙(7.5YR6/4)	胴部は丸みをもって立ち上がる。台部は大きく外反して開く。胴部外面篋削り。台部内外面横撫で。	
第250図 PL.82	17	土製品 紡錘車	B区 1/2	狭径 (3.5) 広径 (5.1) 厚さ 1.6	①細砂粒少量 ②酸化焙 ③にぶい黄橙(10YR5/4)	表面は細かい磨きで平滑にする。孔径0.9cm。重さ22.9g。	
第250図 PL.82	18	土製品 不明	B区730-760G 完形	上面径 2.1 底面径 3.2 厚さ 1.2	①細砂粒少量 ②酸化焙 ③にぶい褐(7.5YR6/4)	紡錘車状だが、用途不明。表面は撫でて調整。孔径0.5cm。重さ13.1g。	
第250図 PL.82	19	土製品 土錘	B区750-780G ほぼ完形	長さ (3.4) 径 0.8×0.8 重さ 1.9g	①細砂粒少量 ②酸化焙 ③にぶい橙(5YR6/4)	全体に細い。表面の調整は撫でだが、やや粗く凹凸が多い。	
第250図 PL.82	20	土製品 土錘	B区740-750G 完形	長さ (3.9) 径 0.9×0.8 重さ 2.3g	①細砂粒少量 ②酸化焙 ③にぶい橙(7.5YR6/4)	全体に細い。表面の調整は撫でだが、やや粗く凹凸が多い。	
第250図 PL.82	21	土製品 土錘	H14年度表土 2/3	長さ (3.6) 径 2.2×2.1 重さ 16.3g	①砂粒・赤色粒中量 ②酸化焙 ③にぶい橙(7.5YR6/4)	中央部に最大径。両端部が細くなる。表面は撫でて平滑。	
第250図 PL.82	22	土製品 土錘	B区740-760G 端部一部欠	長さ (4.2) 径 2.3×2.1 重さ 17.5g	①砂粒少量 ②酸化焙 ③にぶい橙(7.5YR7/3)	大型の土錘。中央部に最大径。表面は撫で。	
第250図 PL.82	23	陶器 灯明皿	B区740-760G 1/2	口径 (10.0) 底径 3.8 高さ 2.5	①細砂粒少量 ②焼き締め ③にぶい橙(10YR7/4)	轆轤成形。内面に褐釉。	
第250図 PL.82	24	土器 火消し壺 の蓋	B区730-760G 小破片	口径 (33.2) 底径 (29.6) 高さ 3.9	①砂粒・白色粒少量 ②還元焙 ③オリーブ黒(7.5Y3/2)	轆轤成形。上面と体部外面とに細かい格子文を同心円状に施す。	
第251図 PL.82	25	瓦 十能瓦	B区表土 小破片	長さ (14.8) 幅 (9.7) 厚さ 1.3	①砂粒・白色粒やや多い ②還元焙 ③オリーブ黒(5Y3/1)	凸面無調整。凹面縦方向撫で。粘土板を折って成形。	
第250図 PL.82	26	石器 砥石	B区740-770G	長さ 6.6 幅 6.2 最大厚 4.0	砂岩	表面が欠けている面が多く、3面の使用面が残る。重さ190.6g。	
第251図 PL.82	27	石器 打製石斧	調査区外 一部欠	長さ (7.9) 幅 6.0 最大厚 1.3	頁岩	片方の刃部は欠損。刃は使用により摩滅している。重さ78.7g。	
第251図 PL.82	28	石器 打製石斧	H14年度表土 一部欠	長さ (9.7) 幅 5.7 最大厚 1.7	ホルンフェルス	片方の刃部は欠損。刃は使用により摩滅している。重さ104.4g。	
第251図 PL.82	29	石器 石鏃	B区750-800G 先端欠	長さ (1.9) 幅 1.6 最大厚 0.5	チャート	有茎の石鏃。重さ1.2g。	
第251図 PL.83	30	石器 凹石	B区730-780G 完形	長さ 11.9 幅 10.1 厚さ 5.9	多孔質安山岩	上面に3カ所の凹みがある。重さ924.1g。	

第4章 細谷八幡遺跡

挿図番号 図版番号	No.	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第251図 PL.83	31	石器 石皿	調査区外 小破片	長さ (12.9) 幅 (9.1) 厚さ 3.8	安山岩	裏面は凹み石として使用されている。重さ 470.3g。	
第251図 PL.83	32	縄文土器 深鉢	B区740-810G 口縁部片	残存高 (5.0) 厚さ 1.3	①細砂粒中量 ②普通 ③にぶい黄橙(10YR7/3)	口縁部外反。小突起。波頂部に円形の刺突 文を起点に横位に沈線が巡る。	後期堀之内
第251図 PL.83	33	縄文土器 深鉢	B区表採 口縁部・突起	残存高 (8.0) 厚さ 1.1	①細砂粒中量 ②普通 ③にぶい黄橙(10YR7/4)	表裏面摩滅。波頂部下に径2cm程の孔。孔 を囲むように沈線を施文。	後期堀之内
第251図 PL.83	34	縄文土器 深鉢	B区730-800G 胴部片	残存高 (7.9) 厚さ 1.0	①粗砂粒中量 ②普通 ③黄灰(2.5Y4/1)	沈線により区画、区画は渦巻か。区画内に LR縄文を施文。	後期称名寺
第251図 PL.83	35	縄文土器 深鉢	B区750-790G 胴部片	残存高 (9.9) 厚さ 1.0	①細砂粒中量 ②良好 ③灰白(2.5Y8/2)	深い沈線により区画。	後期

第5章 自然科学分析

第1節 群馬県細谷南遺跡における自然科学分析

株式会社 古環境研究所

1. 細谷南遺跡の土層とテフラ

1. はじめに

群馬県域とその周辺に分布する後期更新世以降に形成された地層の中には、赤城、榛名、浅間など北関東地方とその周辺の火山、中部地方や中国地方さらには九州地方などの火山に由来するテフラ（火山砕屑物、いわゆる火山灰）が多く認められる。テフラの中には、噴出年代が明らかにされている示標テフラがあり、これらとの層位関係を遺跡で求めることで、遺構の構築年代や遺物包含層の堆積年代を知ることができるようになっている。

そこで、年代が不明な土層が検出された細谷南遺跡においても、地質調査を行い土層層序を記載するとともに、テフラ検出分析を行って示標テフラの層位を把握し、土層の年代に関する資料を収集することになった。調査分析の対象となった地点は、E区西地点、E区中央地点、C区の3地点である。

2. 土層層序

(1) E区西地点

下位より灰色土（層厚5cm以上）、暗灰色土（層厚14cm）、暗灰色粘質土（層厚8cm）、桃灰色粗粒火山灰層（層厚2cm）、若干色調が暗い灰色土（層厚5cm）、灰褐色土（層厚3cm）、灰色作土（層厚11cm）が認められる（図1）。

(2) E区中央地点

下位より黒色粘土層（層厚7cm）、灰色砂層（層厚3cm）、黒灰色粘土層（層厚8cm）、暗灰色粘質土（層厚31cm）、黒灰色粘質土（層厚7cm）、成層したテフラ層（層厚3.8cm）、色調がとくに暗い暗灰色砂質土（層厚2cm）、暗灰色砂質土（層厚12cm）、灰色砂質

土（層厚11cm）、灰褐色土（層厚13cm）、灰色作土（層厚7cm）が認められる（図2）。これらのうち成層したテフラ層は、下部の灰色粗粒火山灰層（層厚3cm）と、上部の桃灰色粗粒火山灰層（層厚0.8cm）からなる。ここでは、このテフラ層の直下から凹凸が検出されている。

(3) C区

下位より暗灰色土（層厚8cm以上）、灰色砂質土（層厚11cm）、灰色作土が認められた（図3）。

3. テフラ検出分析

(1) 分析試料と分析方法

テフラの降灰層準を把握するために、上述2地点の土層断面から採取された試料8点について、テフラ検出分析を行った。分析の手順は、次の通りである。

- 1) 試料10gを秤量。
- 2) 超音波洗浄により泥分を除去。
- 3) 80°Cで恒温乾燥。
- 4) 実体顕微鏡下で観察し、テフラ粒子の量や特徴を把握。

(2) 分析結果

テフラ検出分析の結果を表1に示す。E区西地点では、試料3に発泡がさほど良くない白色軽石（最大径1.8mm）や、スポンジ状に比較的良く発泡した灰白色軽石（最大径1.3mm）が少量含まれている。前者の班晶には角閃石や斜方輝石が、後者の班晶には斜方輝石や単斜輝石が認められる。試料1には、比較的良く発泡した淡褐色軽石（最大径2.0mm）が多く含

第5章 自然科学分析

まれている。この軽石の班晶には、斜方輝石や単斜輝石が認められる。

E区中央地点では、試料2にスポンジ状に比較的良く発泡した灰白色軽石(最大径2.0mm)が比較的多く含まれている。軽石の班晶には、斜方輝石や単斜輝石が認められる。試料1には、発泡がさほど良くない白色軽石(最大径2.4mm)が少量含まれている。軽石の班晶には、角閃石や斜方輝石が認められる。

4. 考察

テフラ検出分析により検出された軽石のうち、灰白色軽石については、その岩相から4世紀中葉*1に浅間火山から噴出した浅間C軽石(As-C, 荒牧, 1968, 新井, 1979)に由来すると考えられる。また白色軽石については、その岩相や本遺跡とテフラの分布関係などから、6世紀初頭に榛名火山から噴出した榛名ニツ岳渋川テフラ(Hr-FA, 新井, 1979, 坂口, 1986, 早田, 1989, 町田・新井, 1992)に由来すると考えられる。さらに淡褐色軽石については、その岩相から1108(天仁元)年に浅間火山から噴出した浅間Bテフラ(As-B, 荒牧, 1968, 新井, 1979)に由来すると考えられる。

したがって、E区西地点では、試料3付近にAs-CやHr-FAの降灰層準があると考えられる。そして試料1のテフラ層は、As-Bに同定される。E区中央地点では、試料2付近にAs-C、試料1付近にHr-FAの降灰層準があると考えられる。そして、その上位の成層したテフラ層は、As-Bに同定される。

5. 小 結

細谷南遺跡において、地質調査とテフラ検出分析を行った。その結果、下位より浅間C軽石(As-C, 4世紀中葉*1)、榛名ニツ岳渋川テフラ(Hr-FA, 6世紀初頭)、浅間Bテフラ(As-B, 1108年)などが検出された。

*1 現在では4世紀を遡るとする説が有力になっているようである(たとえば, 若狭, 2000)。しかし、具体的な年代観が示された研究報告例はまだない。現段階においては「3世紀後半」あるいは「3世紀終末」と考えておくのが妥当なのかも知れないが、土器をもとにした考古学的な年代観の変更については、考古学研究者による明確な記載を待ちたい。

文献

- 新井房夫(1962) 関東盆地北西部地域の第四紀編年. 群馬大学紀要, 自然科学編, 10, p. 1-79.
- 新井房夫(1972) 斜方輝石・角閃石の屈折率によるテフラの同定—テフロクロノロジーの基礎的研究. 第四紀研究, 11, p. 254-269.
- 新井房夫(1979) 関東地方北西部の縄文時代以降の示標テフラ層. 考古学ジャーナル, no.53, p.41-52.
- 新井房夫(1993) 温度一定型屈折率測定法. 日本第四紀学会編「第四紀試料分析法—研究対象別分析法」, p.138-148.
- 荒牧重雄(1968) 浅間火山の地質. 地団研専報, no.45, 65p.
- 町田 洋・新井房夫(1992) 火山灰アトラス. 東京大学出版会, 276p.
- 坂口 一(1986) 榛名ニツ岳起源FA・FP層下の土師器と須恵器. 群馬県教育委員会編「荒砥北原遺跡・今井神社古墳群・荒砥青柳遺跡」, p.103-119.
- 早田 勉(1989) 6世紀における榛名火山の2回の噴火とその災害. 第四紀研究, 27, p.297-312.
- 若狭 徹(2000) 群馬の弥生土器が終わるとき. かみつけの里博物館編「人が動く・土器も動く—古墳が成立する頃の土器の交流」, p.41-43.

表1 テフラ検出分析結果

地点	試料	軽石の量	軽石の色調	軽石の最大径
E区西	1	+++	淡褐	2.0
	3	+	白, 灰白	1.8, 1.3
	5	—	—	—
	7	—	—	—
E区中央	1	+	白	2.4
	2	++	灰白	2.0
	3	—	—	—
	4	—	—	—

++++: とくに多い, +++: 多い, ++: 中程度, +: 少ない,
—: 認められない. 最大径の単位は, mm.

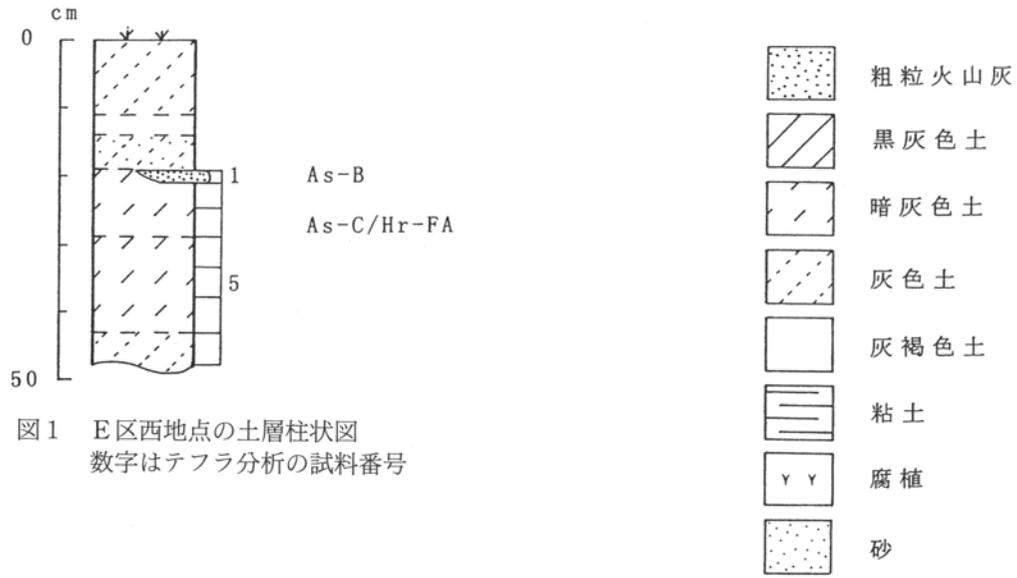


図1 E区西地点の土層柱状図
数字はテフラ分析の試料番号

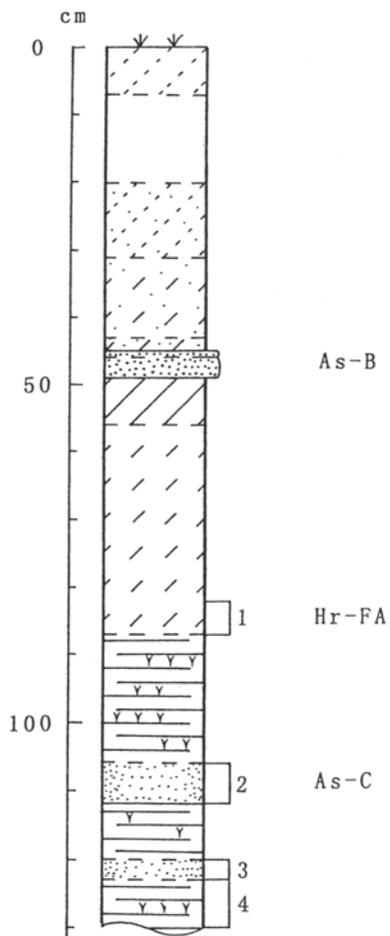


図2 E区中央地点の土層柱状図
数字はテフラ分析の試料番号

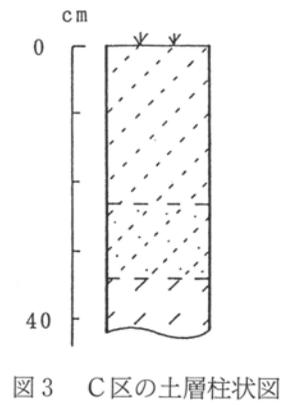


図3 C区の土層柱状図

2. 細谷南遺跡におけるプラント・オパール分析

1. はじめに

植物珪酸体は、植物の細胞内にガラスの主成分である珪酸 (SiO_2) が蓄積したものであり、植物が枯れたあとも微化石 (プラント・オパール) となって土壤中に半永久的に残っている。プラント・オパール分析は、この微化石を遺跡土壌などから検出して同定・定量する方法であり、イネの消長を検討することで埋蔵水田跡の検証や探査が可能である (杉山, 2000)。

2. 試料

試料は、E区西地点、E区中央地点、C区の3地点から採取された計5点である。試料採取箇所を分析結果の柱状図に示す。

3. 分析法

プラント・オパールの抽出と定量は、プラント・オパール定量分析法 (藤原, 1976) をもとに、次の手順で行った。

- 1) 試料を105°Cで24時間乾燥 (絶乾)
- 2) 試料約1gに対し直径約40 μm のガラスビーズを約0.02g添加 (電子分析天秤により0.1mgの精度で秤量)
- 3) 電気炉灰化法 (550°C・6時間) による脱有機物処理
- 4) 超音波水中照射 (300W・42KHz・10分間) による分散
- 5) 沈底法による20 μm 以下の微粒子除去
- 6) 封入剤 (オイキット) 中に分散してプレパラート作成
- 7) 検鏡・計数

同定は、イネ科植物の機動細胞に由来するプラント・オパールをおもな対象とし、400倍の偏光顕微鏡下で行った。計数は、ガラスビーズ個数が400以上になるまで行った。これはほぼプレパラート1枚分の精査に相当する。試料1gあたりのガラスビーズ個数に、計数されたプラント・オパールとガラスビー

ズ個数の比率をかけて、試料1g中のプラント・オパール個数を求めた。

また、おもな分類群についてはこの値に試料の仮比重と各植物の換算係数 (機動細胞珪酸体1個あたりの植物体乾重、単位: 10^{-5}g) をかけて、単位面積で層厚1cmあたりの植物体生産量を算出した。イネ (赤米) の換算係数は2.94 (種実重は1.03)、ヨシ属 (ヨシ) は6.31、ススキ属 (ススキ) は1.24、タケ亜科 (ネザサ節) は0.48である。

4. 分析結果

水田跡 (稲作跡) の検討が主目的であることから、同定および定量はイネ、ヒエ属型、ヨシ属、ススキ属型、タケ亜科の主要な5分類群に限定した。これらの分類群について定量を行い、その結果を表1および図1に示した。

5. 考察

(1) 水田跡の検討

水田跡 (稲作跡) の検証や探査を行う場合、一般にイネのプラント・オパールが試料1gあたり5,000個以上と高い密度で検出された場合に、そこで稲作が行われていた可能性が高いと判断している (杉山, 2000)。ただし、密度が3,000個/g程度でも水田遺構が検出される事例があることから、ここでは判断の基準を3,000個/gとして検討を行った。

1) E区西

As-Bの直上層 (試料1) と直下層 (試料2) について分析を行った。その結果、両試料からイネが検出された。密度はいずれも3,700個/gと比較的高い値である。したがって、これらの層準では稲作が行われていた可能性が高いと考えられる。

2) E区中央

As-B直下層 (試料1) について分析を行った。その結果、イネが4,500個/gと比較的高い密度で検出

された。したがって、同層では稲作が行われていた可能性が高いと考えられる。

3) C 区

As-B混層(試料1)とその下層(試料2)について分析を行った。その結果、両試料からイネが検出された。このうち、As-B混層(試料1)では密度が3,000個/gと比較的高い値である。したがって、同層では稲作が行われていた可能性が高いと考えられる。試料2では、密度が1,500個/gと比較的低い値である。イネの密度が低い原因としては、稲作が行われていた期間が短かったこと、土層の堆積速度が速かったこと、洪水などによって耕作土が流出したこと、採取地点が畦畔など耕作面以外であったこと、および上層や他所からの混入などが考えられる。

(2) 堆積環境の推定

ヨシ属は湿地的なところに生育し、ススキ属やタケ亜科は比較的乾いたところに生育している。このことから、これらの植物の出現状況を検討することによって、堆積当時の環境(乾燥・湿潤)を推定することができる。おもな分類群の推定生産量によると、イネ以外の分類群ではすべての試料でヨシ属が卓越していることが分かる。

以上のことから、As-B直下層の堆積当時は、ヨシ属などが生育する湿地的な環境であったと考えられ、そこを利用して水田稲作が行われていたと推定される。なお、稲作の開始以降もヨシ属が多く見られることから、水田雑草などとしてヨシ属が生育していたことや、休閑期間中にヨシ属が繁茂していたこと、施肥などの目的でヨシ属が水田内に持ち込まれたことなども想定される。

6. まとめ

プラント・オパール分析の結果、浅間Bテフラ(As-B, 1108年)直下層からはイネが多量に検出され、稲作が行われていた可能性が高いと判断された。当時の遺跡周辺は、ヨシ属などが生育する湿地的な

環境であったと考えられ、そこを利用して水田稲作が行われていたと推定される。

文献

杉山真二(2000)植物珪酸体(プラント・オパール). 考古学と植物学. 同成社, p.189-213.

藤原宏志(1976)プラント・オパール分析法の基礎的研究(1)-数種イネ科栽培植物の珪酸体標本と定量分析法-. 考古学と自然科学, 9, p.15-29.

藤原宏志・杉山真二(1984)プラント・オパール分析法の基礎的研究(5)-プラント・オパール分析による水田址の探査-. 考古学と自然科学, 17, p.73-85.

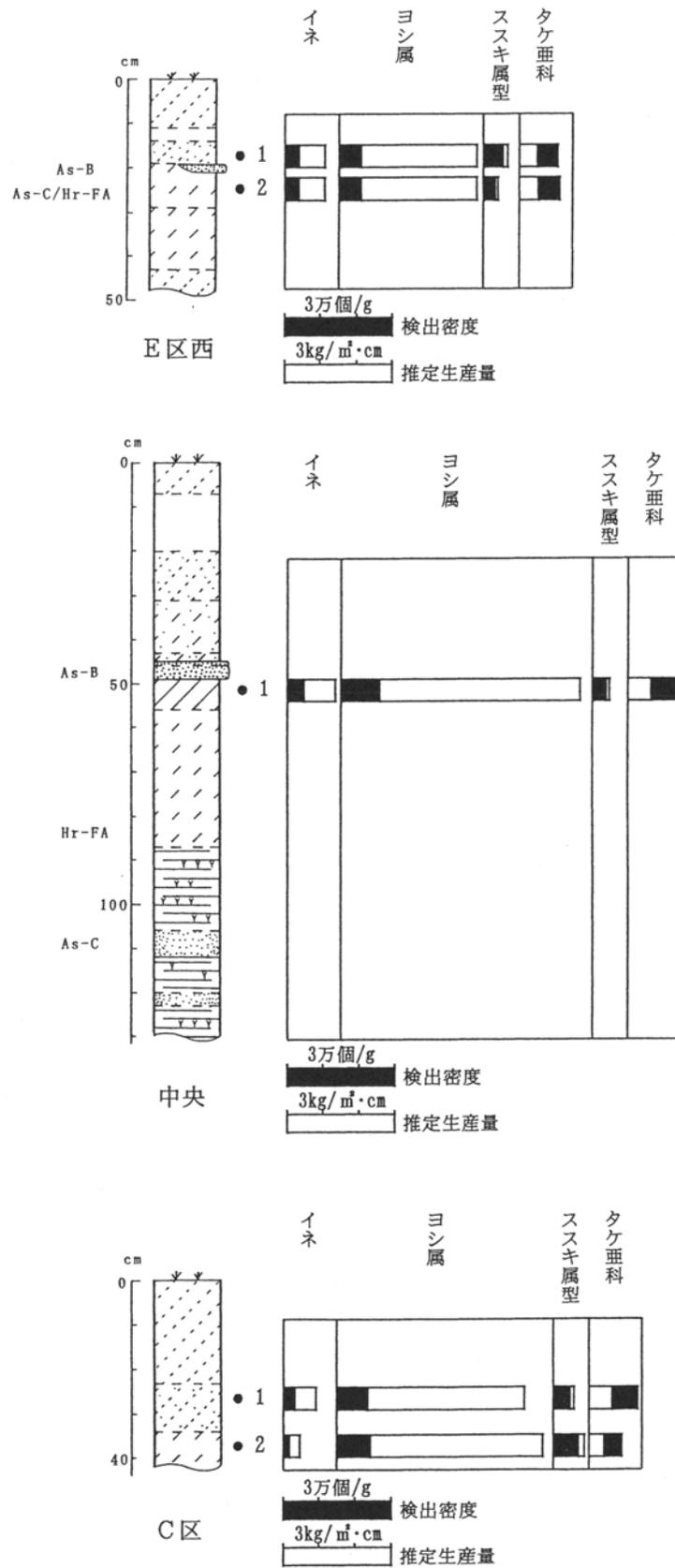


図1 細谷南遺跡におけるプラント・オパール分析結果

第2節 群馬県細谷八幡遺跡の火山灰分析

株式会社 古環境研究所

1. はじめに

関東地方北西部に分布する後期更新世以降に形成された地層の中には、浅間、榛名、赤城など北関東地方とその周辺の火山、中部地方や九州地方などの火山に由来するテフラ（火山砕屑物、いわゆる火山灰）が多く認められる。テフラの中には、噴出年代が明らかにされている指標テフラがあり、これらとの層位関係を遺跡で求めることで、遺構の構築年代や遺物包含層の堆積年代などを知ることができるようになっている。

そこで、層位や年代が不明な土層が検出された太田市細谷八幡遺跡においても、地質調査を行って土層層序を記載するとともに、採取された試料を対象にテフラ検出分析や屈折率測定を行って指標テフラの検出同定を行い、土層の層位や年代に関する資料を収集することになった。調査分析の対象地点は、750-810グリッド、760-820グリッド、750-820グリッド、蛇川左岸橋脚部、蛇川左岸橋脚部（南）の5地点である。

2. 土層の層序

(1) 750-810グリッド

750-810グリッドでは、下位より若干青みがかった灰色シルト層（層厚4cm以上）、灰色粘土層（層厚15cm）、褐色泥層（層厚14cm）、砂混じり褐色泥層（層厚4cm）、灰色粘土層（層厚18cm）、灰色シルト層（層厚15cm）、灰色粘土層（層厚22cm）、桃灰色粗粒火山灰層（層厚2cm）、灰色粘土層（層厚4cm）、桃色シルト層（層厚2cm）、灰色粘土層（層厚7cm）、斑晶の少ない円磨された桃白色軽石を含み層理が発達した灰色砂層（層厚57cm、軽石の最大径38mm、礫の最大径6mm）、緑色がかかった灰色粘土層（層厚21cm）、黒泥層（層厚21cm）が認められる（図1）。

(2) 760-820グリッド

760-820グリッドでは、下位より若干色調が暗い灰色粘土層（層厚30cm以上）、緑灰色粘土層（層厚9cm）、桃白色粗粒火山灰層（層厚2cm）、緑灰色粘土層（層厚5cm）、桃色シルト層（層厚0.6cm）、緑灰色粘土層（層厚0.8cm）、暗褐色泥層（層厚3cm）、緑灰色粘土層（層厚6cm）、層理が発達した桃灰色砂層（層厚33cm）、青みがかった灰色粘土層（層厚14cm）、緑色がかかった灰色粘土層（層厚29cm）、黒泥層（層厚19cm）、鉄分を多く含む黄色粘質土（層厚2cm）、黄白色粘質土（層厚2cm）、桃色粗粒火山灰層（層厚8cm）。砂混じりで若干色調が暗い灰褐色土（層厚6cm）、灰褐色砂質土（層厚21cm）、灰色粘質土（層厚13cm）、粗粒火山灰を多く含む褐色砂質土（層厚14cm）が認められる（図2）。

(3) 750-820グリッド

750-820グリッドでは、下位より緑色がかかった灰色粘土層（層厚17cm）、白色細粒火山灰層（層厚0.8cm）、灰色粘土層（層厚0.4cm）、桃灰色シルト層（層厚4cm）、黒泥層（層厚2cm）、白色粗粒火山灰層（層厚0.9cm）、黒泥層（層厚2cm）、黒灰色泥層（層厚4cm）、白色粗粒火山灰混じり黒泥層（層厚10cm）、鉄分を多く含む黄色粘質土（層厚2cm）、桃白色粘質土（層厚2cm）、桃色粗粒火山灰層（層厚6cm）、若干色調が暗い灰色砂質土（層厚6cm）、桃灰色粗粒火山灰層（層厚17cm）、灰色土（層厚12cm）、桃白色粗粒火山灰混じり灰色土（層厚5cm）、灰色土（層厚4cm）、黄桃色粗粒火山灰層（層厚7cm）、暗灰褐色土（層厚16cm）が認められる（図3）。

(4) 蛇川左岸橋脚部

調査区よりさらに下位にあると考えられる地層を観察できた蛇川左岸橋脚部では、下位より淘汰の良

第5章 自然科学分析

い灰色砂層(層厚40cm以上)、灰色シルト質砂層(層厚20cm以上)、暗褐色泥層(層厚22cm)、白色粗粒火山灰に富む暗褐色泥層(層厚0.8cm、ところによってはその1cm上位に層厚0.3cmの灰色粗粒火山灰:試料14′)、黒泥層(層厚6cm)、灰色粘土層(層厚1cm)、暗褐色泥層(層厚10cm)、砂混じり暗褐色泥層(層厚9cm)、褐灰色泥層(層厚6cm)、砂混じり暗褐色泥層(層厚11cm)、暗灰褐色シルト層(層厚5cm)、黄色砂質細粒火山灰層(層厚2cm)、暗灰褐色シルト層(層厚5cm)、暗褐色泥層(層厚5cm)、白色の砂とシルトの互層(層厚56cm)、斑晶を比較的多く含み円磨された白色軽石混じり黄色砂層(層厚47cm、軽石の最大径66mm)、灰白色シルト層(層厚13cm)が認められる(図4)。

(5) 蛇川左岸橋脚部(南)

前述の蛇川左岸橋脚部記載地点の数m南の蛇川左岸橋脚部(南)では、一部の地層をより詳しく観察することができた(図5)。ここでは、下位より暗褐色泥層(層厚4cm以上)、黄褐色砂層(層厚3cm)、暗褐色泥層(層厚3cm)、暗灰褐色泥層(層厚5cm)、暗灰色泥層(層厚3cm)、白色粗粒火山灰層(層厚2cm)、暗灰褐色泥層(層厚3cm)、黄色細粒火山灰層(層厚0.3cm)、暗灰褐色泥層(層厚17cm)が認められる。これらのうち、白色粗粒火山灰層には何らかの作用による乱れが認められる。

3. テフラ検出分析

(1) 分析試料と分析方法

上述の5地点においてテフラ層ごと、あるいは基本的に5cmごとに設定採取された試料などのうち、42点を対象にテフラ検出分析を行った。分析の手順は次の通りである。

- 1) 試料10gを秤量。
- 2) 超音波洗浄により泥分を除去。
- 3) 80°Cで恒温乾燥。
- 4) 実体顕微鏡により、テフラ粒子の量や特徴を観察。

(2) 分析結果

テフラ検出分析の結果を表1に示す。750-810グリッドでは、試料17と試料16に軽石が含まれている。これらのうち試料17には白色軽石(最大径3.1mm)が比較的多く含まれており、火山ガラスにもその細粒物が認められる。軽石の斑晶には斜方輝石が認められる。試料16にも、試料17と同様の軽石や火山ガラスが含まれている。試料5には灰色岩片(最大径1.9mm)が比較的多く含まれており、火山ガラスとして白色の軽石型ガラスが少量認められる。重鉱物としては斜方輝石が認められる。それらのある試料10が採取されたシルト層には、無色透明の軽石型やバブル型の火山ガラスが比較的多く含まれている。試料1の軽石の斑晶には、角閃石や斜方輝石が認められる。

760-820グリッドでは、試料15に灰色岩片(最大径1.8mm)が比較的多く含まれており、火山ガラスには白色の軽石型ガラスが少量認められる。重鉱物としては斜方輝石が認められる。それより上位の試料4にかけては、とくに特徴的なテフラ粒子は検出されなかった。

750-820グリッドでは、試料13に比較的多くの灰白色軽石型ガラスが含まれている。重鉱物としては、普通角閃石やカミングトン閃石などの角閃石や斜方輝石が認められる。また試料11にも、これらの鉱物が含まれている。試料5には、とくに多くの無色透明のバブル型ガラスが含まれている。試料4には、無色透明の軽石型やバブル型の火山ガラスの量は少ないものの、 β 石英が認められる。試料3は、とくに斜方輝石や単斜輝石などのmafic鉱物に富んでいる。試料2では、白色の軽石型の火山ガラスが少量含まれているほか、分厚い中間型ガラスが多く認められる。試料1には斜長石が多く含まれており、重鉱物として斜方輝石や単斜輝石が認められる。

蛇川左岸橋脚部では、試料14′に透明の軽石型ガラスが少量、また試料14″に黄灰色や白色の軽石型ガラスが比較的多く含まれている。重鉱物としては、斜方輝石や単斜輝石が認められる。試料11には、発泡

がさほど良くない黄灰色軽石（最大径3.9mm）や、その細粒度である軽石型ガラスが比較的多く含まれている。重鉱物としては、単斜輝石や斜方輝石のほか、少量の角閃石が認められる。試料5には、白色や灰白色の軽石型ガラスが多く含まれている。斑晶には、斜方輝石や角閃石が認められる。試料1の軽石の斑晶には、斜方輝石や単斜輝石が認められる。

蛇川左岸橋脚部（南）では、試料2および試料1に各々白色や無色透明の軽石型ガラスが多く含まれている。斑晶には、角閃石や斜方輝石が認められる。

4. 屈折率測定

(1) 測定試料と測定方法

地質調査やテフラ検出分析によりテフラ粒子が認められた試料のうち、6点を対象として、テフラ粒子の屈折率測定を行った。測定には、温度変化型屈折率測定装置（RIMS86）を利用した。

(2) 測定結果

屈折率の測定結果を表2に示す。750-810グリッドの試料17に含まれる火山ガラスの屈折率（ n ）は bimodalで、1.498-1.499と1.501-1.505のものが認められる。試料1の軽石の火山ガラスの屈折率（ n ）は、1.505-1.506である。また、750-820グリッドの試料5に含まれる火山ガラスの屈折率（ n ）は、1.499-1.500である。

蛇川左岸橋脚部の試料11'に含まれる火山ガラスの屈折率（ n ）は、1.514より高い。また試料1の軽石に含まれる斜方輝石の屈折率（ γ ）は、1.708-1.714である。さらに蛇川左岸橋脚部（南）の試料1に含まれる火山ガラスの屈折率（ n ）は、1.508-1.511である。

5. 考察

分析の対象となった試料のうち、調査区内750-810グリッドの砂層中に含まれる軽石（試料1）については、斑晶が比較的少ないこと、重鉱物の組み合わせ、火山ガラスの屈折率などから、約3.1~3.2万年

前に赤城火山から噴出したと考えられてきた赤城鹿沼軽石（Ag-KP, 新井, 1962, 町田・新井, 1992）に由来すると考えられる。最近では、その年代について約4.5万年前以前とも推定されている（町田・新井, 2003）。本遺跡周辺では、太田市富沢においてナウマンゾウの臼歯の発見に伴って、Ag-KPに由来する軽石を含む砂層の存在が報告されている（中島, 1978）。今回の分析結果は、その同定を裏付ける資料を提供するものであろう。

その上位にある750-820グリッドの試料5にとくに多く含まれている火山ガラスは、その形態や色調さらに屈折率などから、約2.4~2.5万年前^{*1}に南九州の始良カルデラから噴出した始良Tn火山灰（AT, 町田・新井, 1976, 松本ほか, 1987, 村山ほか, 1993, 池田ほか, 1995）と考えられる。試料4と試料3が採取された粗粒火山灰層は、各々のテフラ粒子の特徴から、約2.0~2.4万年前^{*1}に浅間火山から噴出した浅間板鼻褐色軽石群（As-BP Group, 新井, 1962, 町田・新井, 1992, 早田, 未公表資料）の、室田軽石（MP, 森山, 1972, 早田, 1990）とも呼ばれる下部と、中・上部と考えられる。また試料2に含まれる火山ガラスは、その特徴から約1.6~1.7万年前^{*1}に浅間火山から噴出した浅間板鼻大窪沢軽石群（As-Ok Group, 中沢ほか, 1985, 早田, 1996など）に由来すると考えられる。さらに試料1が採取されたテフラ層は、その層相やテフラ粒子の特徴などから、約1.3~1.4万年前^{*1}に浅間火山から噴出した浅間板鼻黄色軽石（As-YP, 新井, 1962, 町田・新井, 1992）と考えられる。

以上のことから、760-820グリッドの試料2に多く含まれる火山ガラスもATに由来すると考えられ、試料1が採取されたテフラ層はMPに同定される。そして、それより上位の2層準にあるテフラも、岩相などから下位よりAs-BP Group中・上部とAs-YPに由来すると思われる。

Ag-KPに由来する軽石を含む砂層とATの間に層位がある、750-820グリッドの試料11の白色粗粒火山灰層については、層相や重鉱物の組み合わせなどか

第5章 自然科学分析

ら、約2.5～3万年前(おそらく3万年前)*¹に榛名火山から噴出したと推定されている榛名箱田テフラ(Hr-HA, 早田, 1996など)*²に同定されよう。

一方、Ag-KPを含む砂層より下位のテフラについては、多くの堆積が認められたものの、約4.1万年前*¹に榛名火山から噴出した榛名八崎軽石(Hr-HP, 新井, 1962, 大島, 1986, 約5万年前: 町田・新井, 2003)、さらに約8.5～9.0万年前に阿蘇カルデラから噴出した阿蘇4テフラ(Aso-4, 町田ほか, 1985, 町田・新井, 2003など)や、約5.5万年前以前に大山火山から噴出した大山倉吉軽石(DKP, 町田・新井, 1979, 2003)など特徴的な指標テフラが検出されなかったこと、さらに後期更新世前半の赤城火山起源のテフラに関する岩石記載学的特徴記載例の不足などから、高精度の同定は難しい状況であった。比較的粗粒のテフラ粒子については赤城火山など近辺に位置する火山、細粒のテフラは比較的遠方の火山に由来する可能性が考えられる。それらのより具体的な同定に関しては、今後遺跡周辺でのテフラに関する調査分析に期待したい。

6. まとめ

太田市細谷八幡遺跡において、地質調査、テフラ検出分析、屈折率測定を行った。その結果、下位より榛名箱田テフラ(Hr-HA, 約3万年前*¹)、始良Tn火山灰(AT, 約2.4～2.5万年前*¹)、浅間板鼻褐色軽石群(As-BP Group, 約2.0～2.4万年前*¹)の下部および中・上部、浅間大窪沢軽石群(As-Ok Group, 約1.6～1.7万年前*¹)、浅間板鼻黄色軽石(As-YP, 約1.3～1.4万年前*¹)を認めることができた。Hr-HAの下位には、Ag-KP起源の軽石を含む砂層の堆積が認められ、さらにその下位からも複数のテフラ層を検出した。

* 1 放射性炭素(14C)年代。

* 2 1980年代後半には、故新井房夫群馬大学名誉教授により八崎火山灰(HA)と呼ばれていたようであるが(たとえば群馬県北橋村教育委員会ほか,

1986, 新井, 1989)、名称上、八崎軽石(Hr-HP, 新井, 1962)との識別が難しいことから、早田(1996)は標式地の名称を使って榛名箱田テフラ(Hr-HA)と呼んでいる。

文献

- 新井房夫(1962) 関東盆地北西部の第四紀編年。群馬大学紀要自然科学編, 10, p.1-79.
- 新井房夫(1989) テフラの同定。群馬県教育委員会・群馬県埋蔵文化財調査事業団編「勝保沢中ノ山遺跡II-関越自動車道(新潟線)地域埋蔵文化財発掘調査報告書一」, p.265-266.
- 群馬県北橋村教育委員会・群馬県教育委員会・日本道路公団(1986) 分郷八崎遺跡-関越自動車道(新潟線)地域埋蔵文化財発掘調査報告書(本文編), 693p.
- 池田晃子・奥野 充・中村俊夫・筒井正明・小林哲夫(1995) 南九州, 始良カルデラ起源の大隅降下軽石と入戸火砕流中の炭化樹木の加速器質量分析法による14C年代。第四紀研究, 34, p.377-379.
- 町田 洋・新井房夫(1976) 広域に分布する火山灰-始良Tn火山灰の発見とその意義一。科学, 46, p.339-347.
- 町田 洋・新井房夫(1979) 大山倉吉軽石層-分布の広域性と第四紀編年上の意義。地学雑誌, 88, p.313-330.
- 町田 洋・新井房夫(1992) 火山灰アトラス。東京大学出版会, 276p.
- 町田 洋・新井房夫(2003) 新編火山灰アトラス。東京大学出版会, 336p.
- 町田 洋・新井房夫・百瀬 貢(1985) 阿蘇4火山灰-分布の広域性と後期更新世示標層としての意義一。火山, 30, p.49-70.
- 松本英二・前田保夫・竹村恵二・西田史朗(1987) 始良Tn火山灰(AT)の14C年代。第四紀研究, 26, p.79-83.
- 村山雅史・松本英二・中村俊夫・岡村 真・安田尚登・平 朝彦(1993) 四国沖ビストンコア試料を用いたAT火山灰噴出年代の再検討-タンデム加速器質量分析計による浮遊性有孔虫の14C年代。地質雑誌, 99, p.787-798.
- 森山昭雄(1971) 榛名火山東-南山麓の地形-とくに軽石流の地形について一。地理学報告, no.36・37, p.107-116.
- 中島啓治・大沢澄可・宮崎茂夫(1978) 群馬県太田市富沢よりノウマンゾウの臼歯発見。地球科学, 32, p.254-257.
- 中沢英俊・新井房夫・遠藤邦彦(1984) 浅間火山, 黒斑-前掛期のテフラ層序。第四紀学会講演要旨集, no.14, p.69-70.
- 大島 治(1986) 榛名火山。日本の地質「関東地方」編集委員会編「関東地方」。共立出版, p.222-224.
- 早田 勉(1996) 関東地方-東北地方南部の示標テフラの諸特徴-とくに御岳第1テフラより上位のテフラについて一。名古屋大学加速器質量分析計業績報告書, 7, p.256-267.

表1 テフラ検出分析結果

地 点	試料	軽石・スコリア			火山ガラス			その他
		量	色調	最大径	量	形態	色調	
750-810グリッド	1	-	-	-	-	-	-	ho> opx
	2	-	-	-	+	pm	白,透明	
	3	-	-	-	-	-	-	
	4	-	-	-	+	pm	透明	
	5	-	-	-	+	pm	白	opx,灰色岩片
	8	-	-	-	+	pm	透明	
	10	-	-	-	+++	pm> bw	透明	
	14	-	-	-	+	pm	白,透明	
	16	+	白	4.1	+++	pm	白	
	17	+++	白	3.1	+++	pm	白	opx
	18	-	-	-	+++	pm	白	
	20	-	-	-	+	bw	透明	
	22	-	-	-	-	-	-	
	24	-	-	-	-	-	-	
760-820グリッド	4	-	-	-	-	-	-	ho
	6	-	-	-	-	-	-	(ho)
	8	-	-	-	-	-	-	(ho)
	10	-	-	-	-	-	-	(ho)
	12	-	-	-	-	-	-	(ho)
	14	-	-	-	-	-	-	
	15	-	-	-	+	pm	白	opx,灰色岩片
750-820グリッド	1	-	-	-	-	-	-	opx,cpx,plに富む
	2	-	-	-	+	pm	白	分厚いglに富む
	3	-	-	-	-	-	-	opx,cpx
	4	-	-	-	+	pm> bw	透明	β石英混じり
	5	-	-	-	++++	bw	透明	
	6	-	-	-	++	bw	透明	
	11	-	-	-	-	-	-	ho(cm)> opx
	13	-	-	-	++	pm	灰白	ho(cm), opx
15	-	-	-	+	pm	透明	ho	
蛇川左岸橋脚部	1	-	-	-	-	-	-	opx> cpx
	3	-	-	-	+	pm	白	ho
	5	-	-	-	+++	pm	白> 灰白	opx,ho
	8	-	-	-	++	pm	灰白,白	opx
	9	-	-	-	+	pm	灰白,白	(ho,opx)
	11	+++	黄灰	3.9	++	pm	黄灰	cpx,opx,(ho)
	14''	-	-	-	++	pm	黄灰> 白	opx> cpx
	14'	-	-	-	+	pm	透明	opx,cpx
	16	-	-	-	-	-	-	
19	-	-	-	+	pm	白	opx,ho	
蛇川左岸橋脚部(南)	1	-	-	-	+++	pm	白,透明	ho
	2	-	-	-	+++	pm	白,透明	ho> opx

++++:とくに多い,+++ :多い,++ :中程度,+ :少ない,- :認められない。最大径の単位は, mm。

Bw:バブル型, pm:軽石型, opx:斜方輝石, cpx:単斜輝石, ho:角閃石, pl:斜長石。重鉱物の()は量が少ないことを示す。

表2 屈折率測定結果

地 点	試料	火 山 ガ ラ ス (n)	斜 方 輝 石 (γ)
750-810グリッド	1	1.505-1.506	—
	17	1.498-1.499, 1.501-1.505	—
750-820グリッド	5	1.499-1.500	—
蛇川左岸橋脚部	1	—	1.708-1.714
	11'	> 1.514	—
蛇川左岸橋脚部 (南)	1	1.508-1.511	—

測定は、温度変化型屈折率測定装置 (RIMS86) による。

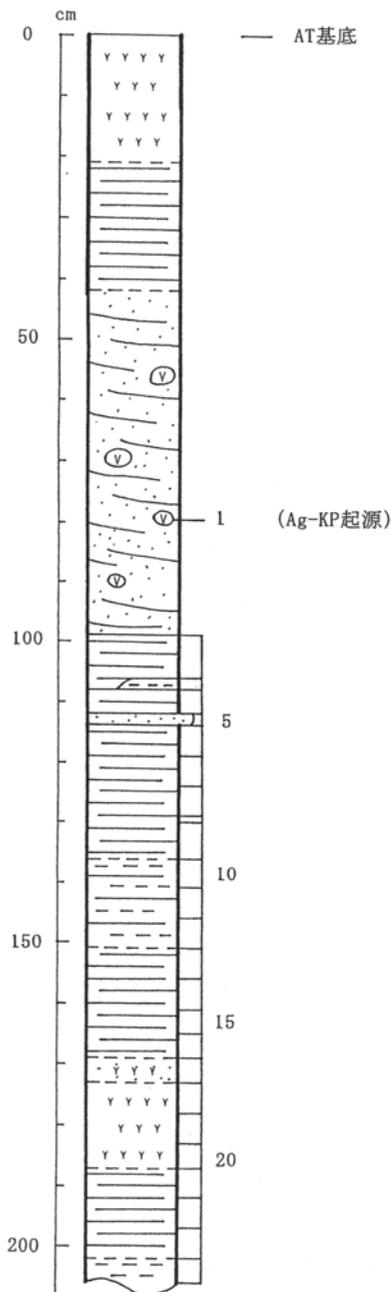


図1 750-810グリッドの土層柱状図
数字はテフラ分析の試料番号

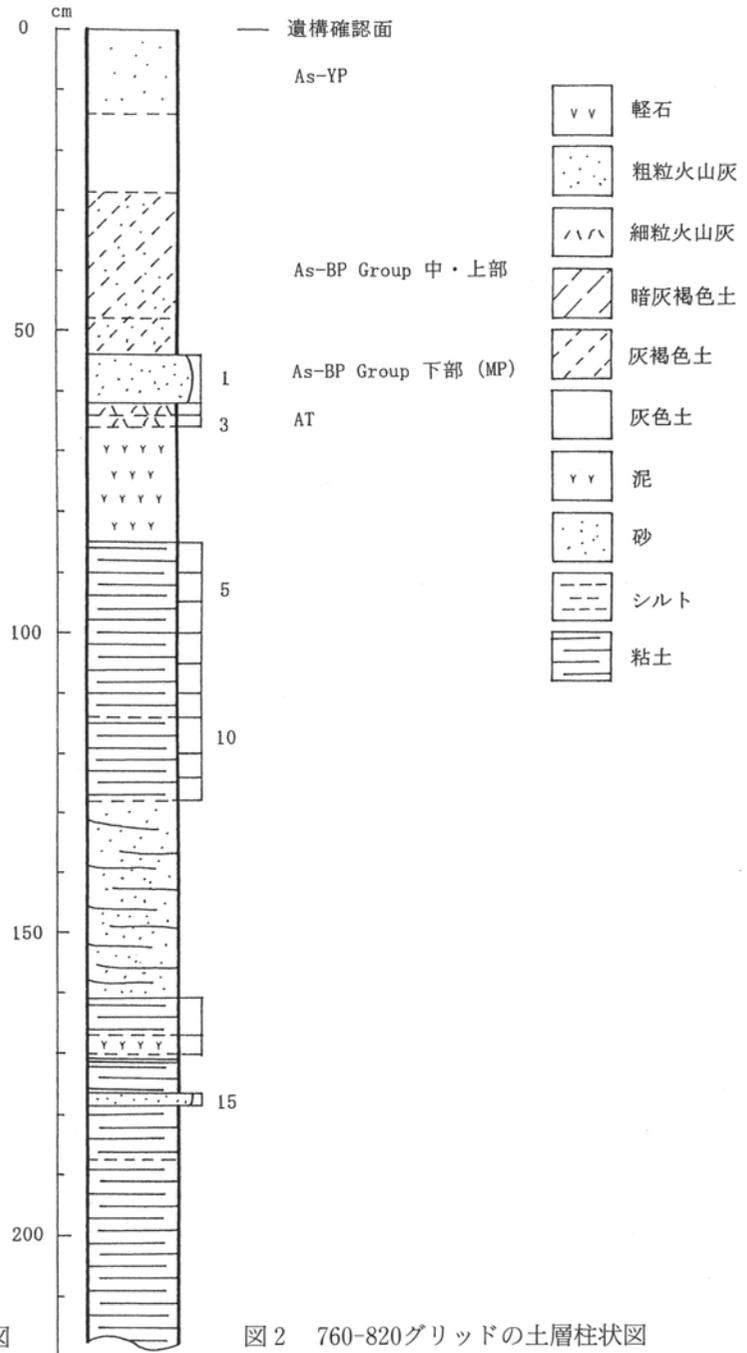


図2 760-820グリッドの土層柱状図
数字はテフラ分析の試料番号

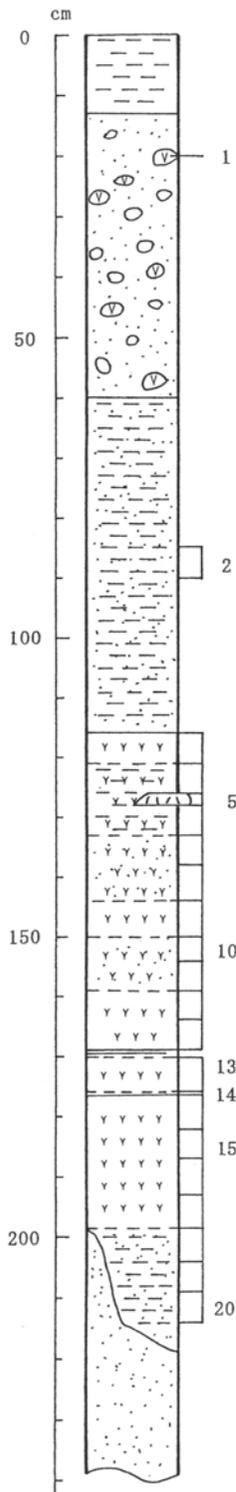


図4 蛇川左岸橋脚部の地質柱状図
数字はテフラ分析の試料番号

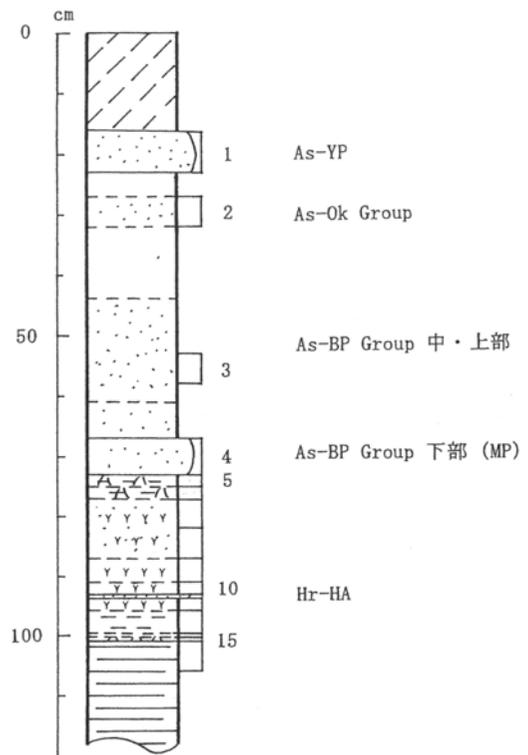


図3 750-820グリッドの土層柱状図
数字はテフラ分析の試料番号

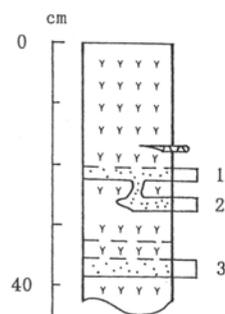


図5 蛇川左岸橋脚部(南)の地質柱状図
数字はテフラ分析の試料番号

第3節 細谷八幡遺跡出土馬骨

檜崎 修一郎

はじめに

細谷八幡遺跡は、群馬県太田市細谷町に所在する。国道354号線太田バイパス改良事業に伴う発掘調査が、(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団により平成15(2003)年1月～同年3月にかけて行われた。本遺跡のA-37号土坑・A-43号土坑・B-41号土坑の3基の土坑より、近世の馬(ウマ) [*Equus caballus*] の骨が出土したので以下に報告する。

群馬県出土獣骨の内、(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団の報告書を調べたデータベースが本報告者により作成されているが、馬(ウマ)が一番多く出土していることが判明している。そのデータによると、馬(ウマ)は51遺跡・牛(ウシ)は20遺跡・鹿(シカ)は12遺跡・猪(イノシシ)が9遺跡であり、圧倒的に馬(ウマ)の出土例が多い(檜崎, 2005)。

出土馬骨は水洗及び清掃後、できる限りの接着復元を行い、観察・計測・写真撮影を行った。なお、獣骨の計測は、基本的にフォン・デン・ドリーシュの方法(von den DRIESCH, 1976)に従った。また、獣骨の出土部位図は、樽野(1986)を用いた。

馬の年齢区分は、市井(1943)に従い、1歳～5歳を幼齡馬・6歳～16歳を壯齡馬・17歳以上を老齡馬として分類した。また、馬の体高は、林田(1978)に従い、小型馬は105cm～122cm・中型馬は129cm～138cmとして分類した。

1. A-37号土坑出土馬骨(旧37号土坑)

(1) 出土状況・埋葬状態

馬骨は、長径約1.54m・短径約73cm・深さ約35cmの楕円形土坑から出土している。本土坑は、10号溝と重複しているが、本土坑が溝を切っており、新旧関係は本土坑の方が新しい。

なお、馬骨の出土状況から、馬骨の頭位は南東であり、屈葬で埋葬されたと推定される。



写真1. A-37号土坑馬骨出土状況(南から撮影)

(2) 出土部位

馬骨の残存状態は比較的良く、ほぼ全身の馬骨が出土している。

(3) 個体数

馬骨の出土部位特に歯には、重複部位が認められないため、個体数は1個体であると推定される。

(4) 性別

馬(ウマ)の場合、性別推定は、犬歯の有無及び寛骨により可能である。本馬骨上下顎骨は犬歯部が破損しており、犬歯の有無を直接確認することはできなかったが、遊離歯として犬歯が検出された。したがって、本馬骨の性別は雄(♂)であると推定される。

(5) 死亡年齢

上下顎の小白歯及び大白歯は良く咬耗しており、老齡であることが推定される。上下顎骨を破損する恐れがあるため、すべての歯を計測することはできなかったが、一部の白歯の歯冠高より、馬の死亡年齢は、約19歳～20歳の老齡馬であると推定される。

恐らく、長年家畜として使役した馬を丁寧に埋葬したのであろう。

(6) 古病理

下顎骨の左右M3(第3大白歯)は、咬耗がすすみ、歯冠が中央で2つに分離した状態である。なぜ、他の白歯がそうならず一番奥にあるM3がそうだったのかは不明であるが、大変興味深い事例である。

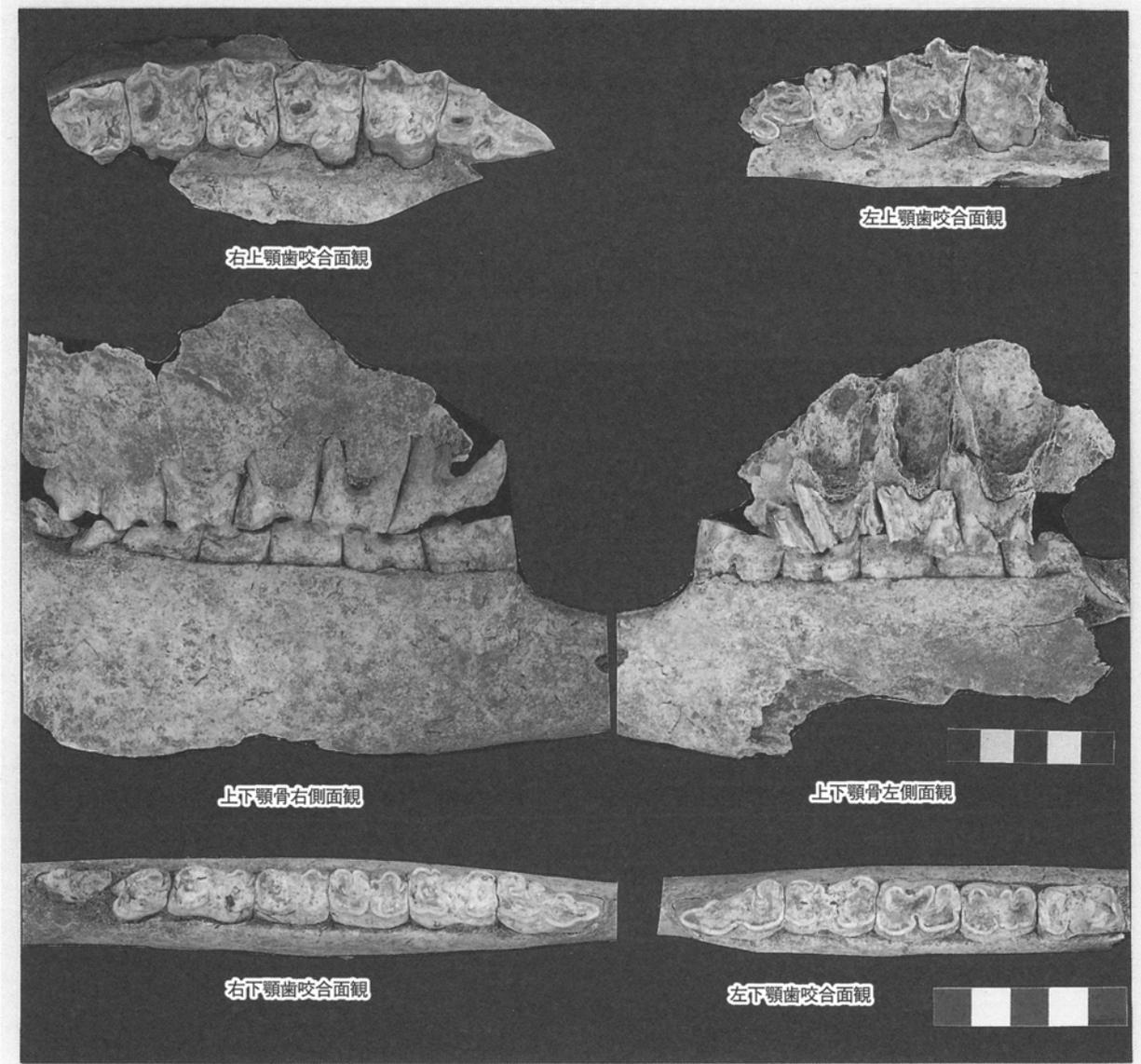


写真2. A-37号土坑土馬骨 (小さいスケールは上下顎, 大きいスケールは上下歯)

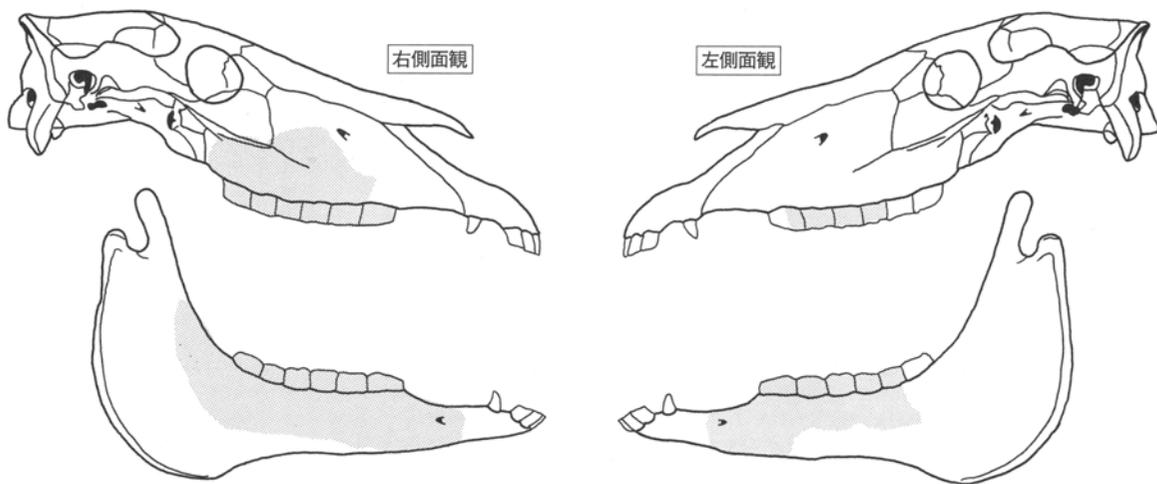


図1. A-37号土坑出土馬骨出土部位図



写真3. A-37号土坑出土馬下顎歯の咬耗(左右M3)

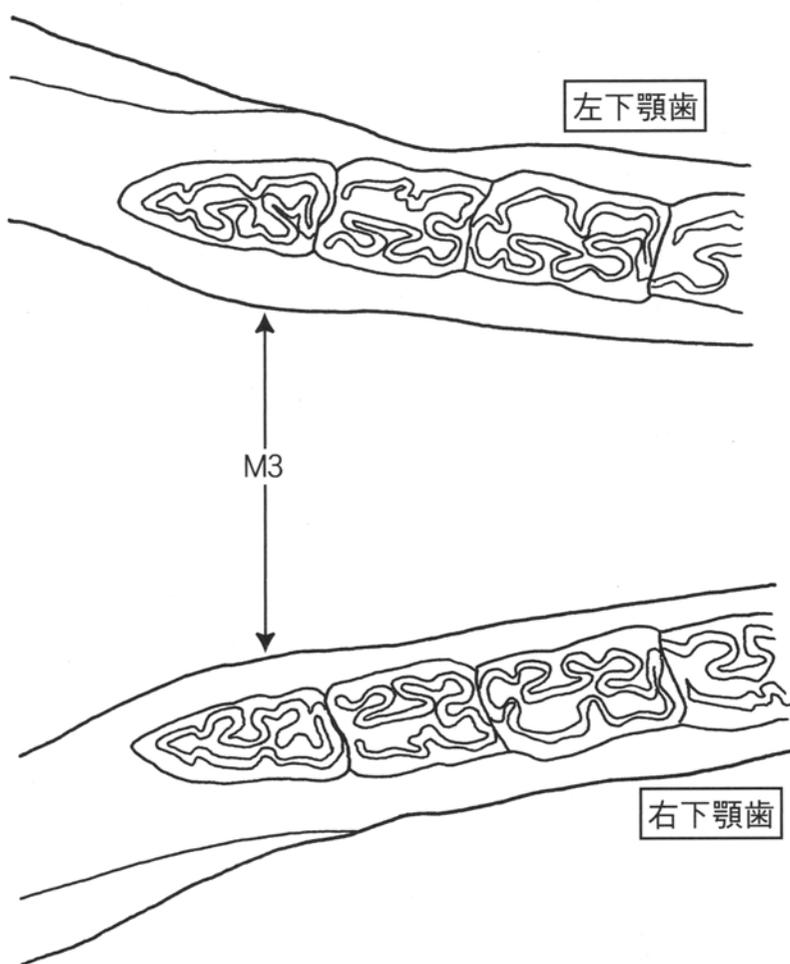


図2. A-37号土坑出土馬下顎歯部位図(咬合面観)

2. A-43号土坑出土馬骨 (旧43号土坑)

(1) 出土状況・埋葬状態

馬骨は、長径約1.55m・短径約68cm・深さ約52cmの不整楕円形土坑から出土している。本土坑は、12号溝と重複しているが、本土坑が溝を切っており、新旧関係は本土坑の方が新しい。なお、馬骨の頭位は東であり、屈葬で埋葬されたと推定される。



写真4. A-43号土坑馬骨出土状況 (北から撮影)

(2) 出土部位

馬骨は、比較的良好に残存しており、上下顎骨・四肢骨片が出土している。

(3) 個体数

馬骨の出土部位特に歯には、重複部位が認められないため、個体数は1個体であると推定される。

(4) 性別

馬(ウマ)の場合、性別推定は、犬歯の有無及び寛骨により可能である。本馬骨上下顎骨は犬歯部が破損しており、犬歯の有無を直接確認することはできず、遊離歯として犬歯も検出されなかった。また、寛骨も細片化しているため、本馬骨の性別は不明である。

(5) 死亡年齢

上下顎の小白歯及び大白歯は良く咬耗しており、老齢であることが推定される。上下顎骨を破損する恐れがあるため、すべての歯を計測することはできなかったが、一部の白歯の歯冠高より、馬の死亡年齢は、約19歳～20歳の老齢馬であると推定される。

恐らく、家畜として長年使役した馬を丁寧に埋葬したのであろう。

(6) 古病理

本土坑出土馬骨の上下顎白歯に、かなり激しく進んだ咬耗が認められた。また、上顎骨には膿瘍も認められた。

①咬耗

・上顎

本土坑出土馬歯の上顎歯の咬耗の度合いを観察すると、全体的に小白歯部よりも大白歯部の方が進んでいる状態である。大白歯部の中では、M1(第1大白歯)よりもM2(第2大白歯)が、またM2よりもM3(第3大白歯)の方が咬耗が進んでいる状態である。特に、上顎左右M3は、咬耗がかなり進み、歯冠部がほとんど無くなり歯根部のみになった状態である。

なぜ、このように小白歯部よりも大白歯部が特に、M1～M3にかけて咬耗が進んでいるのかは不明であるが、大変、興味深い事例である。

・下顎

本土坑出土馬歯の下顎歯の咬耗の度合いを観察すると、上顎歯とは反対に全体的に大白歯部よりも小白歯部の方が進んでいる状態である。特に、左右P2(第2小白歯)・P3(第3小白歯)・M1(第1大白歯)は、咬耗が進んだために、歯冠中央部は磨り減ってしまい歯根のみになった状態である。

なぜ、このように大白歯部よりも小白歯部が特にP2・P3・M1の咬耗が進んでいるのかは不明であるが、大変、興味深い事例である。

②膿瘍

膿瘍は、感染症が原因で顎骨が溶解した状態であり、人骨にもしばしば見受けられる古病理である。

本土坑出土馬骨の、上顎左M1(第1大白歯)及びM2(第2大白歯)部の顎骨は、膿瘍により溶解しており、その周りには骨の異常増殖が認められる。このような状態は、ベイカー&プロスウェルの「遺跡出土獣骨の病気」と同じである(Baker & Brothwell, 1980)。恐らく、本馬は生前、上顎左側に激しい痛みをともない、左側で咬むことが非常に困難ではなかったかと推測される。

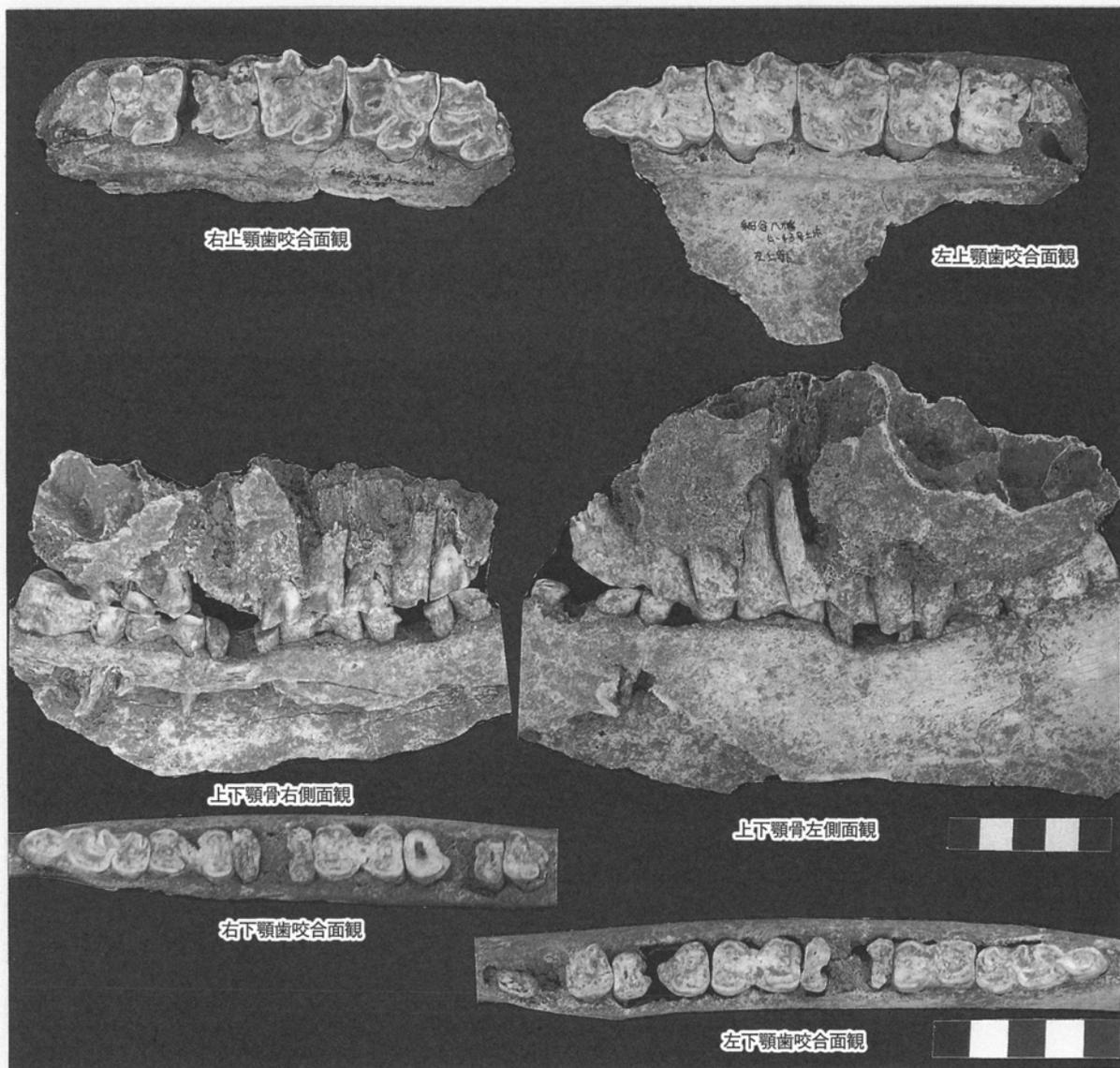


写真5. A-43号土坑出土馬骨 (小さいスケールは上下顎, 大きいスケールは上下歯)

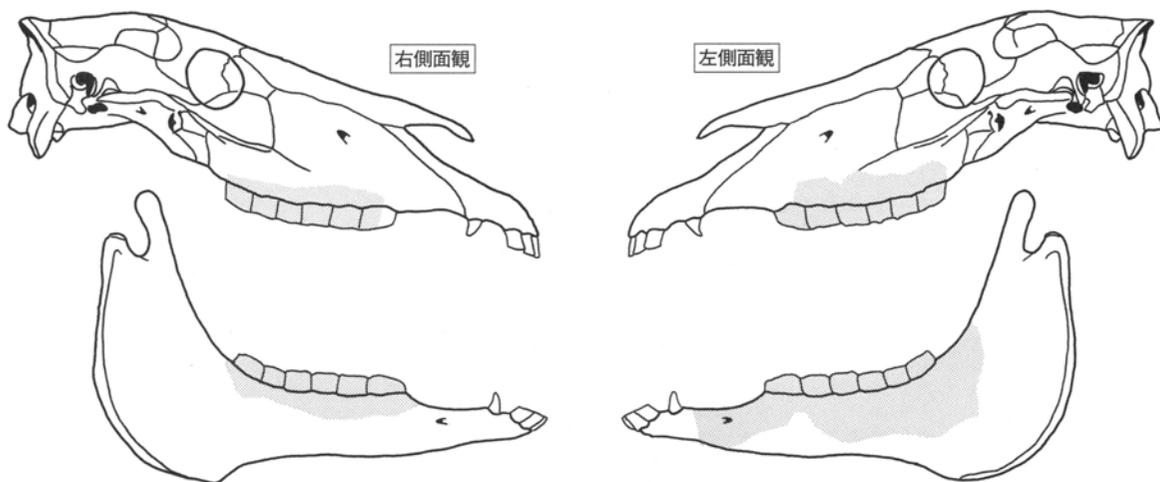


図3. A-43号土坑出土馬骨出土部位図

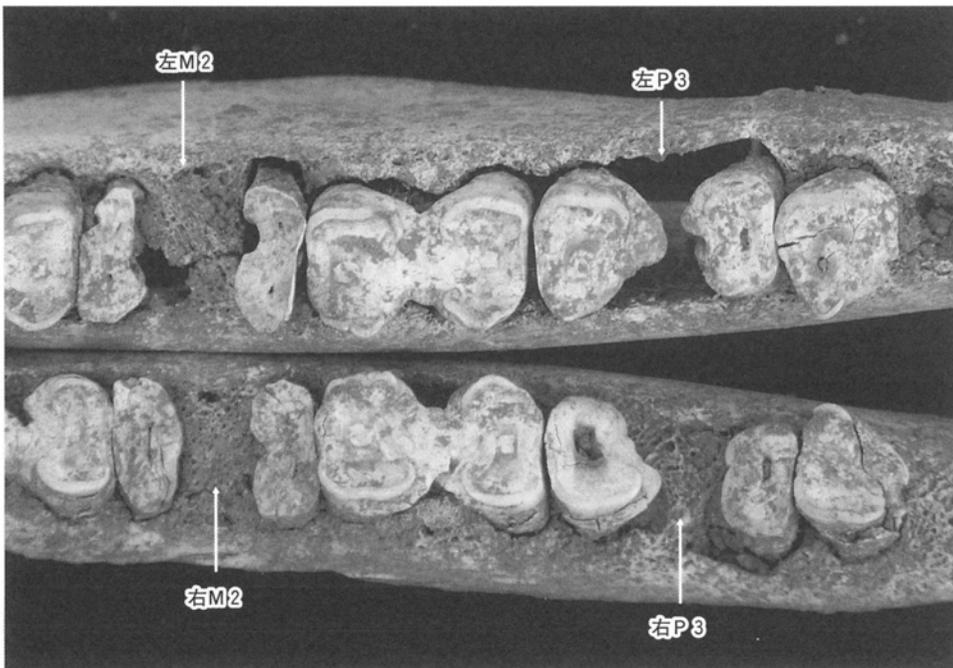


写真6. A-43号土坑出土馬下顎歯の咬耗(左右P3・M2)

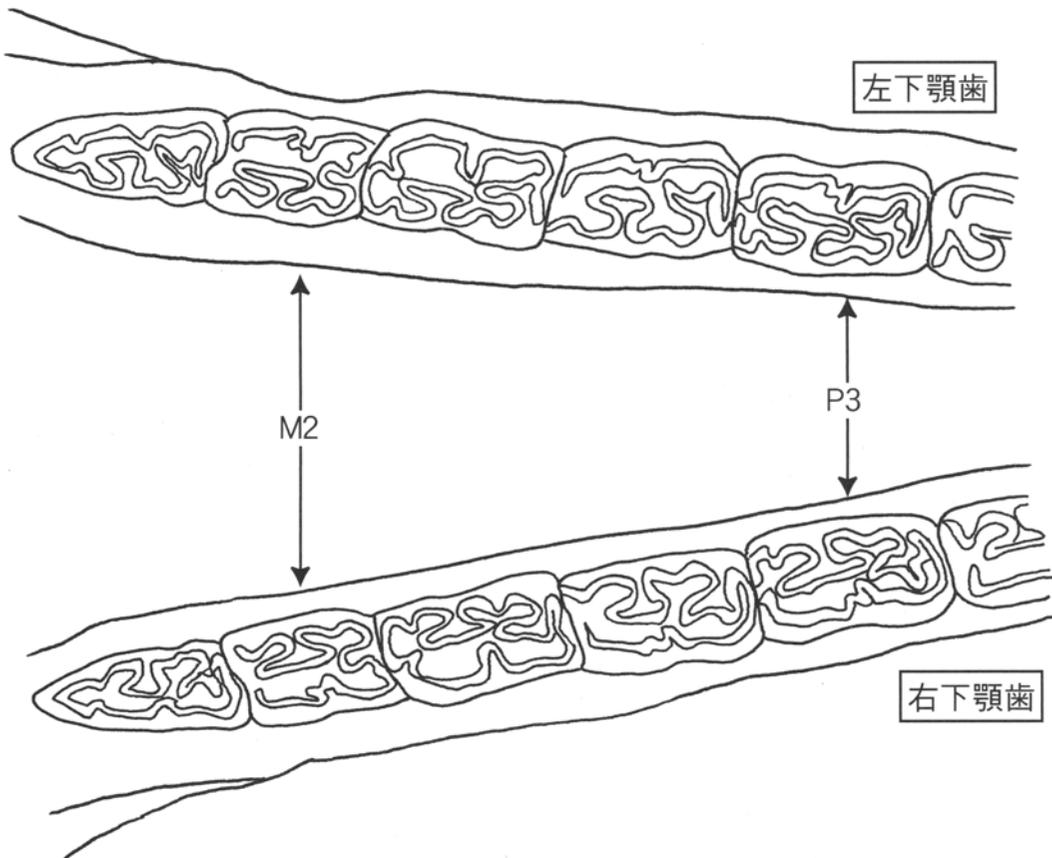


図4. A-43号土坑出土馬下顎歯部位図(咬合面観)

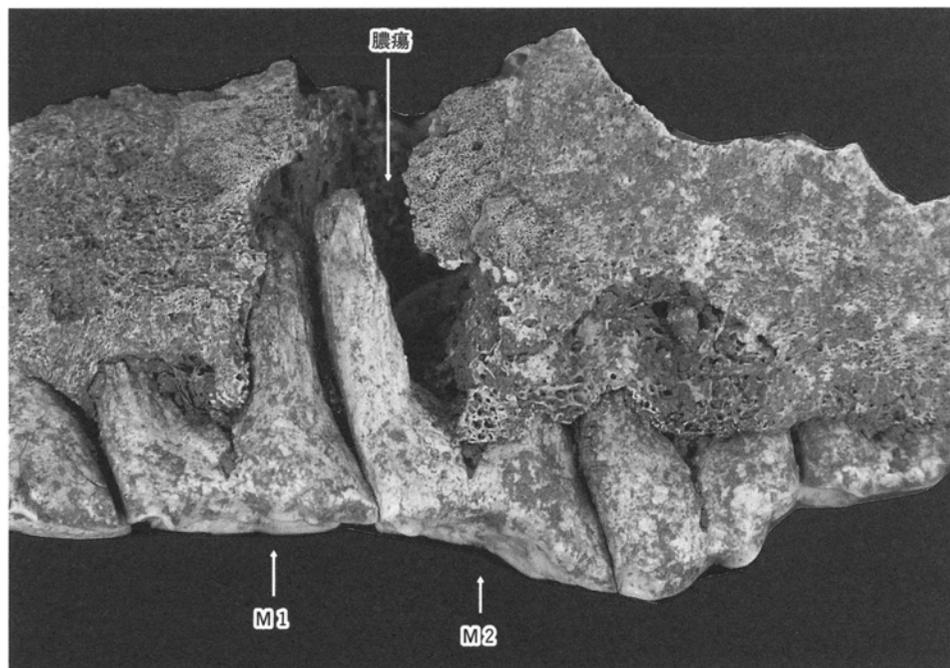


写真7. A-43号土坑出土左上顎骨の膿瘍

3. B-41号土坑出土馬骨(旧50号土坑)

(1) 出土状況・埋葬状態

馬骨は、長径約1.28m・短径約1.11m・深さ約32cmの方形土坑から出土している。本土坑は、18号溝と重複しているが、本土坑が溝を切っており新旧関係は本土坑の方が新しい。なお、馬骨の頭位は南東であり、屈葬で埋葬されたと推定される。



写真8. B-41号土坑出土馬骨出土状況(東から撮影)

(2) 出土部位

馬骨は、比較的良好に残存しており、上下顎骨・四肢骨片が出土している。

(3) 個体数

馬骨の出土部位特に歯には、重複部位が認められないため、個体数は1個体であると推定される。

(4) 性別

馬(ウマ)の場合、性別推定は、犬歯の有無及び寛骨により可能である。本馬骨上下顎骨は犬歯部が破損しており、犬歯の有無を直接確認することはできず、遊離歯として犬歯も検出されなかった。また、寛骨も細片化しているため、本馬骨の性別は不明である。

(5) 死亡年齢

上下顎の小白歯及び大白歯は良く咬耗しており、老齢であることが推定される。上下顎骨を破損する恐れがあるため、すべての歯を計測することはできなかったが、一部の白歯の歯冠高より、馬の死亡年齢は、約15歳~16歳の壮齢馬であると推定される。

恐らく、長年家畜として使役した馬を丁寧に埋葬したのであろう。

(6) 古病理

本土坑出土馬歯の内、下顎右P4(第4小白歯)は他の隣接するP3(第3小白歯)及びM1(第1大白歯)に比して、歯冠が突出しており、咬耗の度合いが一致しない。実際、この歯に対応する上顎右P4は、他の歯に比してかなり咬耗しており、舌側面は咬頭が磨り減りエナメル質が消耗している状態である。

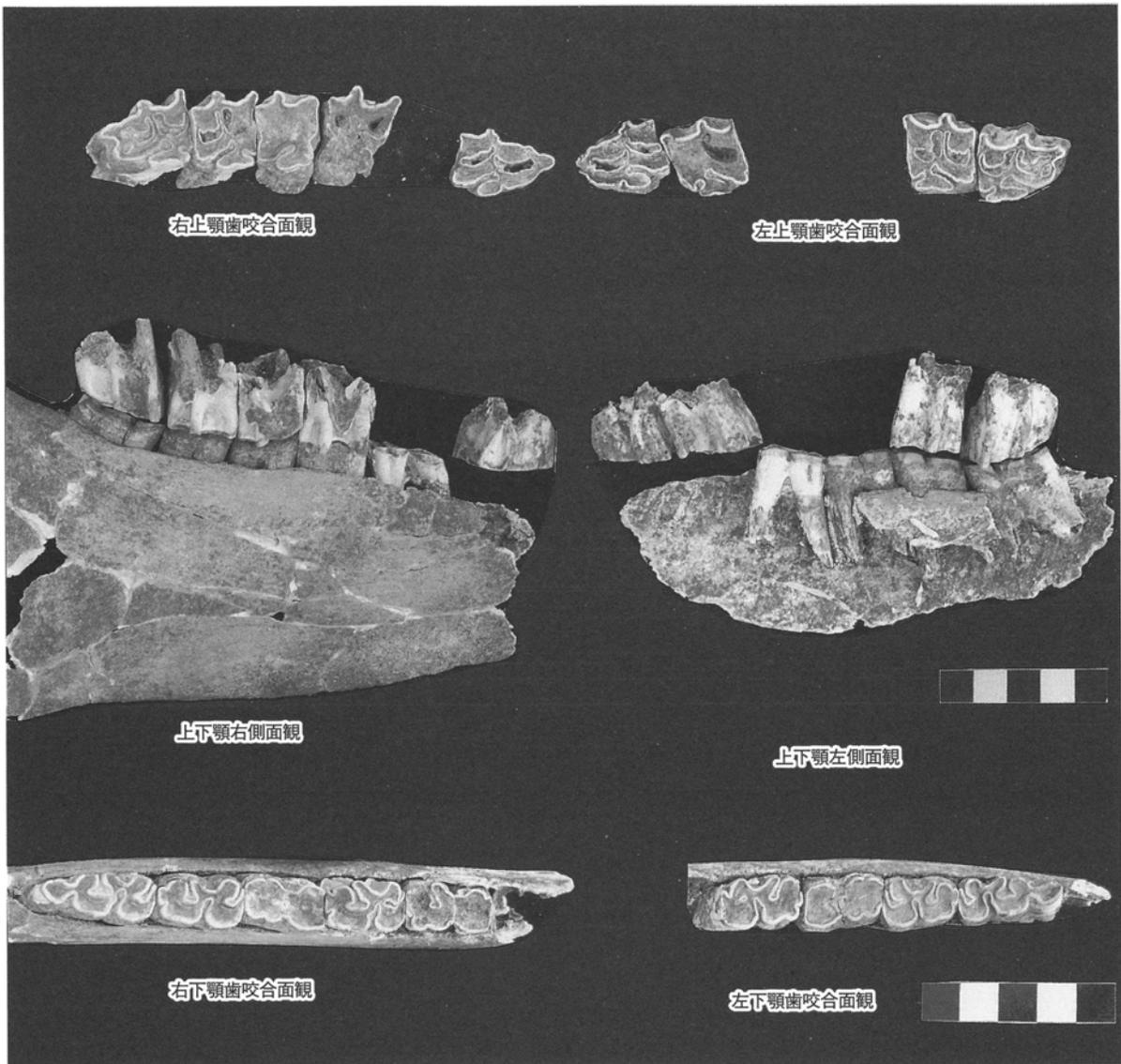


写真9. B-41号土坑出土馬骨 (小さいスケールは上下顎, 大きいスケールは上下歯)

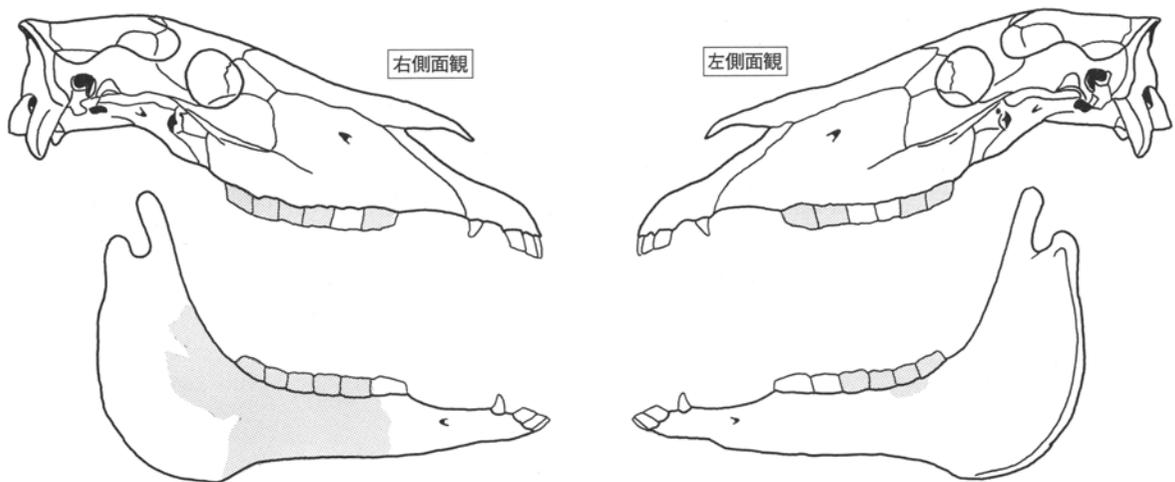


図5. B-41号土坑出土馬骨出土部位図

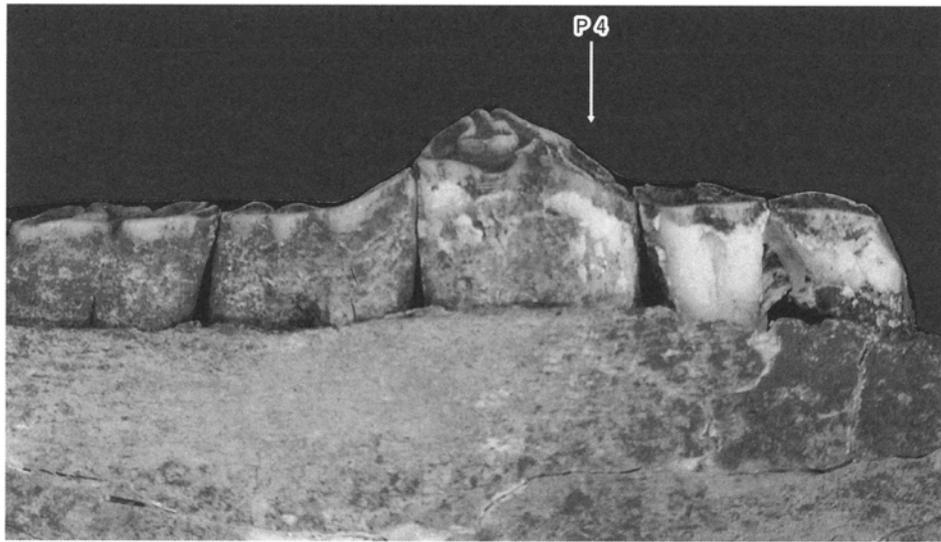


写真10. B-41号土坑出土馬下顎右P4の咬耗

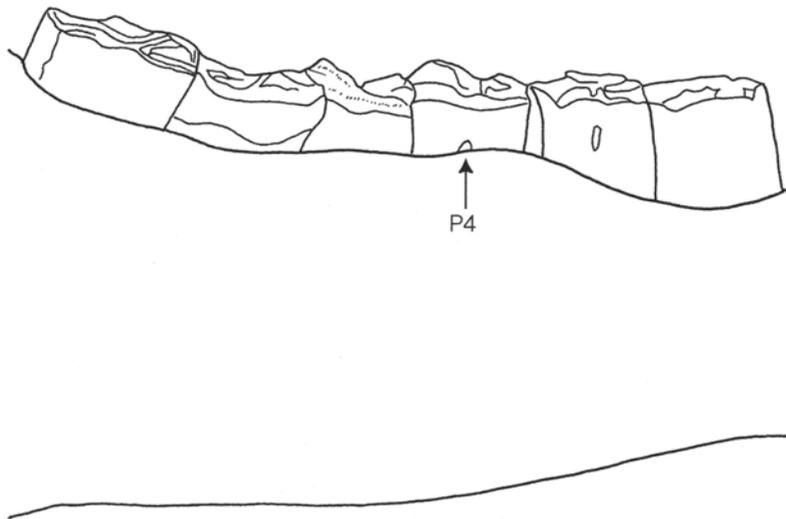


図6. B-41号土坑出土馬右下顎歯部位図（頬側面観）

表1. 細谷八幡遺跡出土馬歯計測表

遺構名	上顎																							
	右												左											
	M3		M2		M1		P4		P3		P2		P2		P3		P4		M1		M2		M3	
	MD	BL	MD	BL	MD	BL	MD	BL	MD	BL	MD	BL	MD	BL	MD	BL	MD	BL	MD	BL	MD	BL	MD	BL
A 37号土坑	22	19	20	22.5	19.5	24	22.5	22.5	22	20	32.5	16.5	破損	破損	破損	破損	破損	破損	—	—	—	—	—	—
A 43号土坑	破損	破損	24.5	23.5	24.5	24.5	破損	破損	20	22	破損	破損	37	20	24	24	24.5	24.5	21.5	23	20.5	22	咬耗	咬耗
B 41号土坑	25.5	22	20.5	23	19.5	24.5	20.5	咬耗	—	—	31	20.5	破損	20	22	24.5	—	—	—	—	20.5	24	26	22

遺構名	下顎																							
	右												左											
	M3		M2		M1		P4		P3		P2		P2		P3		P4		M1		M2		M3	
	MD	BL	MD	BL	MD	BL	MD	BL	MD	BL	MD	BL	MD	BL	MD	BL	MD	BL	MD	BL	MD	BL	MD	BL
A 37号土坑	咬耗	20	14	18.5	14	20	15	22.5	14	26	14	26	13.5	24	14	20	15	18	14.5	19	13	咬耗	咬耗	咬耗
A 43号土坑	32.5	11.5	22	13.5	咬耗	咬耗	24	14	咬耗	咬耗	咬耗	咬耗	咬耗	咬耗	咬耗	23.5	14	咬耗	咬耗	22	12.5	32	12.5	咬耗
B 41号土坑	27.5	12	21	13	20	13.5	21.5	15	24	14	—	—	—	—	—	—	21	13	19	13.5	21	13	27	12

註1. 計測値の単位は、すべて「mm」である。
 註2. 計測項目は、「MD」（歯冠近遠心径）・「BL」（歯冠唇頬舌径）を表す。
 註3. 歯種の、P2（第2小白歯）・P3（第3小白歯）・P4（第4小白歯）・M1（第1大白歯）・M2（第2大白歯）・M3（第3大白歯）を表す。
 註4. 「咬耗」は、歯の咬耗が進んでおり計測できなかったことを示す。
 註5. 「破損」は、歯が破損しており計測できなかったことを示す。

まとめ

細谷八幡遺跡のA-37号土坑・A-43号土坑・B-41号土坑の3基の土坑から、近世の馬骨が出土した。

A-37号土坑には、死亡年齢約19～20歳の雄の老馬が土葬で屈葬の状態で埋葬されていた。本馬歯の下顎左右M3（第3大白歯）は、咬耗により歯冠部が二分された状態であった。

A-43号土坑には、死亡年齢約19～20歳の性別不明の老馬が土葬で屈葬の状態で埋葬されていた。本馬歯の下顎左右P3（第3小白歯）及びM3（第3大白歯）は、咬耗により歯冠部が二分された状態であった。また、左上顎骨のM1（第1大白歯）部とM2（第2大白歯）部には膿瘍による顎骨の溶解と骨の異常増殖の古病理が認められた。

B-41号土坑には、死亡年齢約15～16歳の性別不明の壮齢馬が土葬で屈葬の状態で埋葬されていた。本馬歯の下顎右P4（第4小白歯）は、歯冠が他の歯に比べて高い状態であり、これに対応する上顎右P4は激しい咬耗を示している状態であった。

これら3基とも、老馬及び壮齢馬であることから、家畜として長い間使役した馬を丁寧に埋葬したものと推定される。

表2. 細谷八幡遺跡出土馬骨まとめ

土坑名	A-37号土坑	A-43号土坑	B-41号土坑
頭位	南東	東	南東
埋葬状態	屈葬	屈葬	屈葬
個体数	1個体	1個体	1個体
性別	♂(雄)	不明	不明
死亡年齢	約19～20歳	約19～20歳	約15～16歳
年齢区分	老齢馬	老齢馬	壮齢馬
古病理	下顎左右M3の異常磨耗	上顎左右M3の異常磨耗 下顎小白歯の異常磨耗 上顎左M1・M2部の膿瘍	下顎右P4の異常磨耗

謝辞

本出土馬骨に関する考古学的情報を与えていただいた、群馬文の高井佳弘氏に感謝いたします。また、本出土馬骨を報告する機会を与えていただいた元群馬埋文で現群馬県立歴史博物館の森田真一氏に感謝いたします。

引用文献及び参考文献（著者名のABC順）

[和文]

五十嵐謙吉 1998 『十二支の動物たち』, 八坂書房
 井本英一 1999 『十二支動物の話』, 法政大学出版局
 江口保暢 2003 『動物と人間の歴史』, 築地書館
 大江正直 2002 『動物遺存体調査の手びき』, 私家版
 大泰司紀之編 1993 『十二歯考』, 医歯薬出版
 大泰司紀之 1998 『哺乳類の生物学2.形態』(高槻成紀・粕谷俊雄編), 東京大学出版会
 加藤嘉太郎 1993 『家畜比較解剖図説』, 養賢堂
 金子浩昌・小西正泰・佐々木清光・千葉徳爾 1992 『日本史のなかの動物事典』, 東京堂出版
 クラットン=ブロック,J. 1997 『馬と人の文化史』(桜井清彦監訳, 清水雄次郎訳), 東洋書林
 小島環禮 1991 『人・他界・馬』, 東京美術
 後藤仁敏・大泰司紀之編 『歯の比較解剖学』, 医歯薬出版
 小西正泰監修・阿部 禎著 1994 『干支の動物誌』, 技報堂出版
 近藤誠司 2001 『アニマルサイエンス1.ウマの動物学』(林良博・佐藤英明編), 東京大学出版会
 佐藤健一郎・田村善治郎 2000 『十二支の民俗誌』, 八坂書房
 正田陽一 1983 『家畜という名の動物たち』, 中央公論社
 シンプソン,G.G. 1989 『馬と進化』(長谷川善和監修・原田俊治訳), どうぶつ社
 樽野博幸 1986 『けもの歯』, 大阪市立自然史博物館
 塚本 学 1995 『江戸時代人と動物』, 日本エディタースクール出版部
 直良信夫 1973 『古代遺跡発掘の家畜遺体』, 財団法人日本中央競馬会弘済会
 直良信夫 1984 『日本馬の考古学的研究』, 校倉書房
 中村禎里 1987 『日本動物民俗誌』, 海鳴社
 檜崎修一郎 2005 群馬県出土獣骨データベース:(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団編, 『研究紀要 23』, (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団, p.110-118
 西本豊弘・松井 章編 『考古学と動物学』, 同成社
 松井 章 2003 『環境考古学マニュアル』, 同成社
 ラッカム, ジェイムズ 1997 『動物の考古学』(小山修三監修・本郷一美訳), 学芸書林

[英文]

Baker, J. & Brothwell, D. 1980 *Animal Diseases in Archaeology*, Academic Press.
 von den DRIESCH, Angela 1976 *A Guide to the Measurement of Animal Bones from Archaeological Sites*, Peabody Museum Bulletins, Harvard University.

第6章 ま と め

本書では細谷南遺跡、細谷八幡遺跡の発掘調査の成果を報告した。最後にそれらをまとめておきたい。

細谷南遺跡

細谷南遺跡は西側からのびる台地が低地に移る場所にあるので、今回の調査区は遺跡の東端部分を調査したことになるものと思われる。台地上に位置するA区・D区では古墳時代前期から平安時代の竪穴住居が濃密に分布していたが、この集落がさらに南側に延びていることはF区の調査から確認できた。この低台地は遺跡西側にかなりの面積をもって広がっているため、遺跡の範囲もかなり広いものと推定される。実際、群馬県文化財情報システムWEV版（群馬県教育委員会）に掲載されている遺跡地図でも、今回の調査区の西側一体、南北約900m、東西約250mの範囲を細谷南遺跡の範囲としている。その面積からすれば、今回の調査区は遺跡縁辺部のごく一部であるにすぎないといえよう。この遺跡が太田市南部の古代集落遺跡の中で、かなり大規模なものであることは間違いないと思われる。

調査した竪穴住居の時期は3世紀末～4世紀初頭の30号住居から、11世紀前半の32号住居までであり、集落の存続期間はかなり長い。集落の最盛期は9世紀代であり、その時期の住居は不確実のものを含めて20軒ある。そのうち9世紀後半と思われる住居は10軒なので、ここがピークであることが判明する。その後は遺構の数は急激に減少する。

掘立柱建物の時期は限定できないが、2号・3号掘立柱建物は、その他の遺構との切り合い関係により、7世紀中頃から9世紀前半の間に収まるものである。C区にある6号掘立柱建物以外は形態、方位共に近似しており、同時期かかなり近い時期のものである可能性が高いと推定されるので、とすれば、本遺跡の掘立柱建物は奈良時代から平安時代初頭のものであると思われる。つまり集落の最盛期の少し

前に建てられたものである。

今回の調査区の東半分は低地となり、そこは水田などの生産域として利用されていたと思われるが、水田面が確認できたのはAs-B下面だけであり、それがいつ開田されたのかは明らかではない。この低地は面積が狭いので、水田域はここに限らなかったものと思われる。

細谷八幡遺跡

細谷八幡遺跡は調査区の全域が台地上にあり、細谷南遺跡とは異なって地形の変化に乏しい。この台地は西側の細谷合ノ谷遺跡から東側の福沢新田遺跡まで続いており、そのため本遺跡で調査した集落遺跡の広がりや、それらの遺跡も含めてかなり広いものと思われる。

この遺跡で特徴的なのは、集落の存続時期の短さである。竪穴住居は全域で33軒調査したが、時期の特定できるものは全て9世紀代であり、そのうち17軒は9世紀後半のものである。その他のものもおそらく9世紀後半のものである可能性が高い。とすれば、この集落は9世紀後半というごく限られた時間の中のものであることになる。その前後の時期の遺物は遺構外出土遺物の中にも少ないので、周辺にも9世紀後半以外の時期の遺構は少ないものと考えられる。この集落は平安時代前期の50年間に満たない時期にだけ形成されていたのであり、存続期間が短い集落であったといえよう。この点については、隣接する細谷合ノ谷遺跡、福沢新田遺跡の整理が進行中であるので、それらの整理結果を踏まえてさらに考えたいと思う。

写真図版



細谷南遺跡全景（東上空から）



A区全景



1号住居全景 (南から)



1号住居遺物出土状況 (南から)



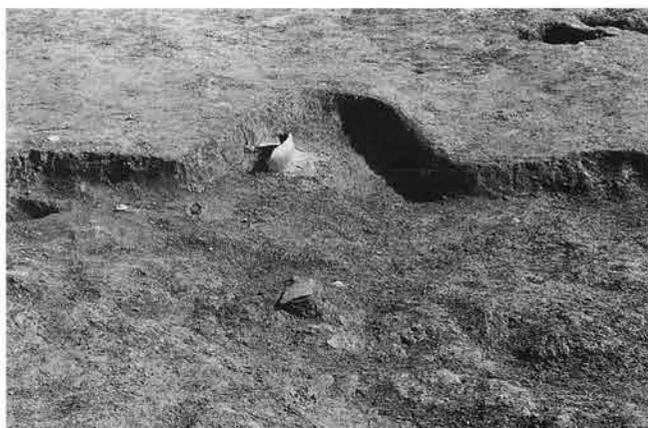
1号住居遺物出土状況 (西から)



1号住居掘方遺物出土状況 (東から)



2号住居全景 (南から)



2号住居竈全景 (西から)



2号住居掘方全景 (南から)



2号住居掘方遺物出土状況 (北から)



3号住居全景 (西から)



3号住居竈全景 (西から)



3号住居掘方全景 (西から)



3号住居竈掘方全景 (西から)



4号住居全景 (南東から)



4号住居竈全景 (南東から)



4号住居掘方全景 (南東から)



5号住居全景 (南東から)



6号住居全景 (東から)



6号住居掘方全景 (東から)



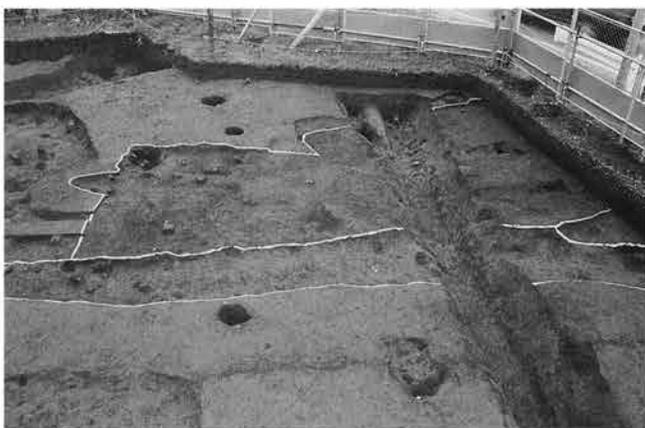
7号住居全景 (南から)



8号住居全景 (西から)



8号住居掘方全景 (西から)



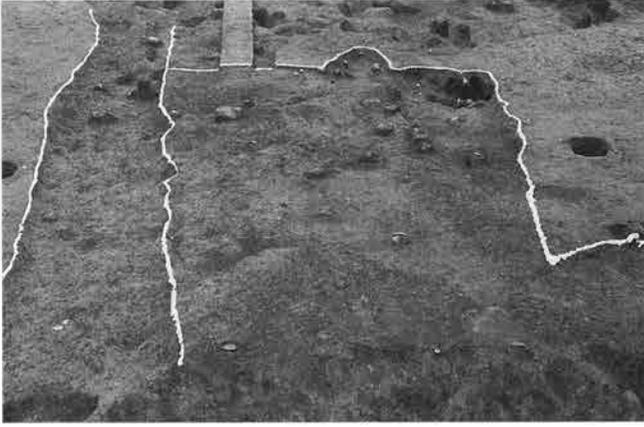
9号・10号住居全景 (北から)



9号住居全景 (北から)



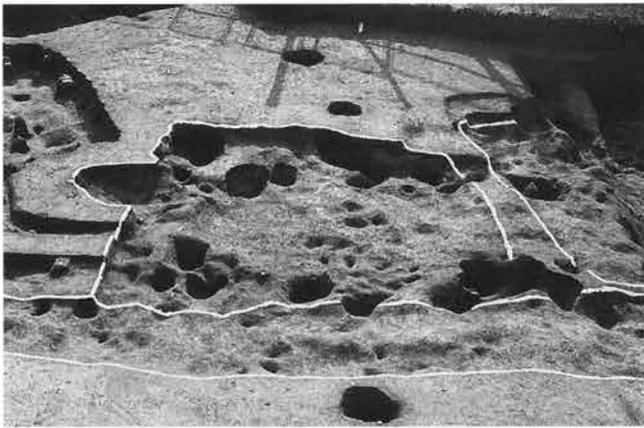
9号住居掘方全景 (北から)



10号住居全景 (西から)



10号住居竈全景 (西から)



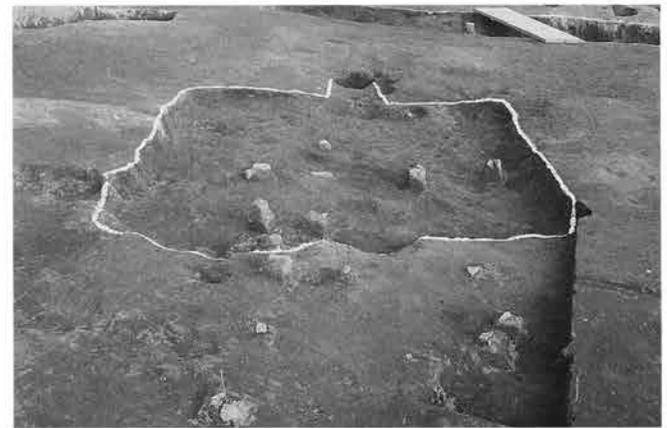
10号住居掘方全景 (北から)



10号住居竈掘方全景 (西から)



11号住居掘方全景 (北西から)



12号住居全景 (西から)



12号住居掘方全景 (西から)



12号住居竈掘方全景 (西から)



13号・14号住居全景（南東から）



13号・14号住居掘方全景（南東から）



15号住居全景（西から）



15号住居掘方全景（西から）



15号住居竈掘方全景（西から）



16号住居全景（南東から）



16号住居竈全景（南東から）



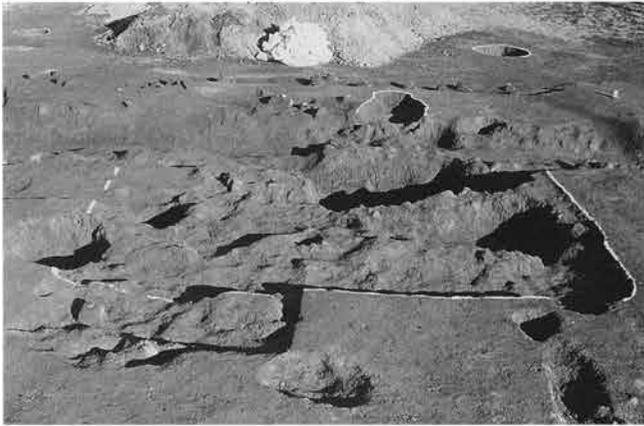
16号住居掘方全景（南東から）



17号住居全景 (南東から)



17号住居掘方全景 (南東から)



18号住居掘方全景 (西から)



18号住居竈掘方全景 (西から)



19号・23号・24号住居掘方全景 (南東から)



19号・23号・24号住居掘方全景 (南東から)



20号住居掘方全景 (西から)



21号住居掘方全景 (西から)



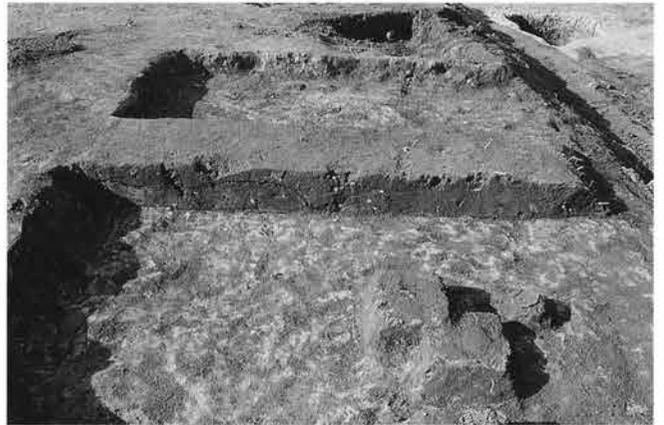
22号住居全景 (西から)



22号住居掘方全景 (西から)



24号住居全景 (北から)



25号住居断面 (東から)



25号住居全景 (東から)



26号住居・1号縦穴状遺構全景 (東から)



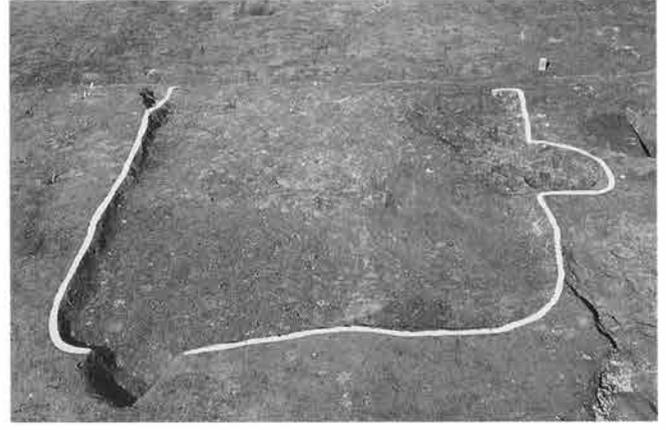
26号住居遺物出土状況 (南から)



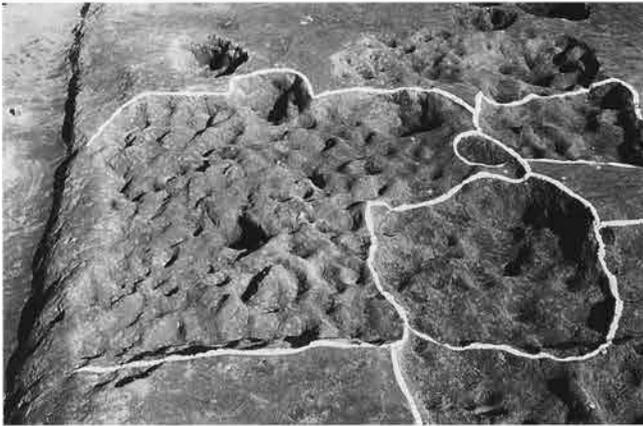
26号住居遺物No.1出土状況 (南から)



26号住居・1号竪穴状遺構掘方全景（東から）



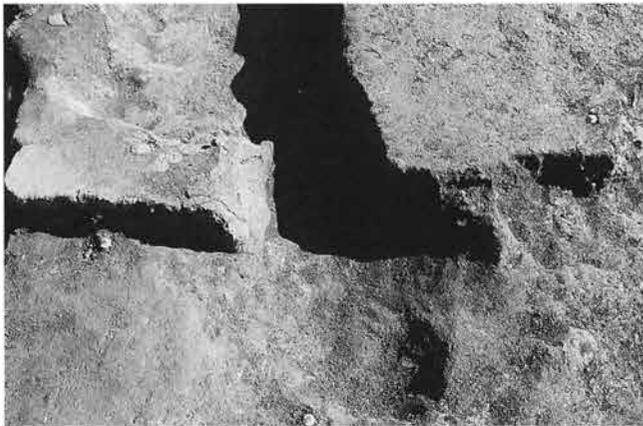
27号住居全景（南から）



27号住居掘方全景（西から）



28号住居全景（西から）



28号住居竈全景（西から）



28号住居掘方全景（西から）



28号住居竈掘方全景（西から）



29号住居全景（南から）



30号住居掘方全景 (東から)



30号住居遺物No.2出土状況 (南から)



30号住居P 4 (南から)



31号住居全景 (南から)



31号住居遺物No.4出土状況 (北から)



31号住居竈全景 (西から)



31号住居竈断面B-B' (西から)



31号住居掘方全景 (南から)



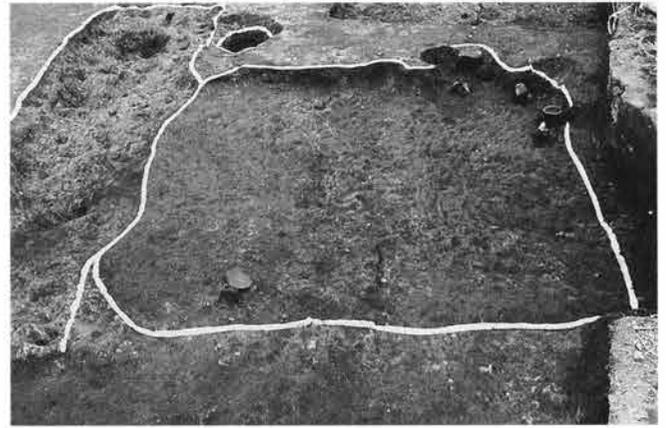
31号住居竈掘方全景（西から）



32号住居全景（西から）



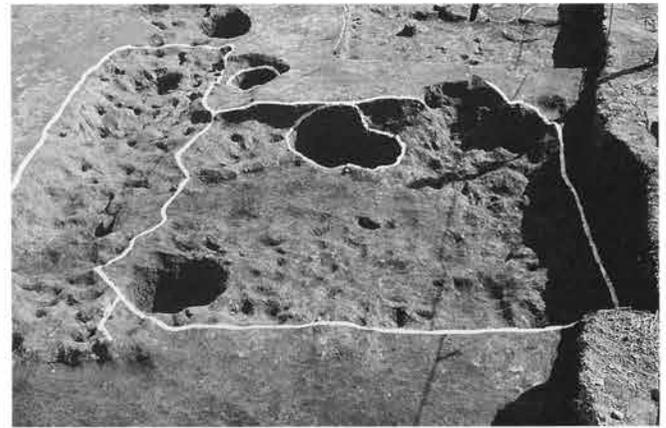
32号住居竈全景（西から）



33号住居全景（西から）



33号住居竈全景（西から）



33号住居掘方全景（西から）



34号住居全景（南から）



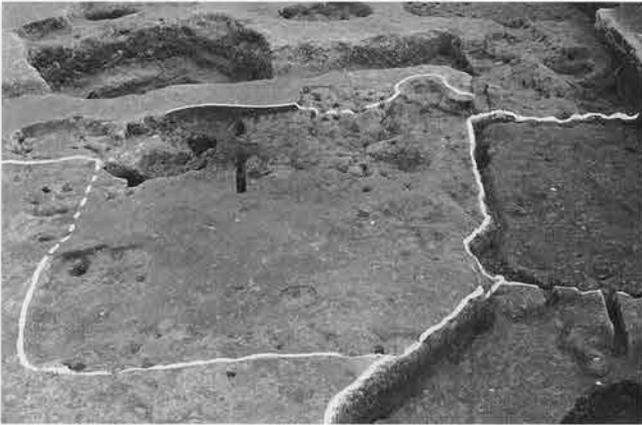
34号住居掘方全景（北から）



35号住居全景 (北西から)



36号住居全景 (西から)



37号住居全景 (西から)



38号住居全景 (北西から)



32号～38号住居・7号掘立柱建物全景 (南から)



F区全景 (東から)



39号・40号住居全景 (東から)



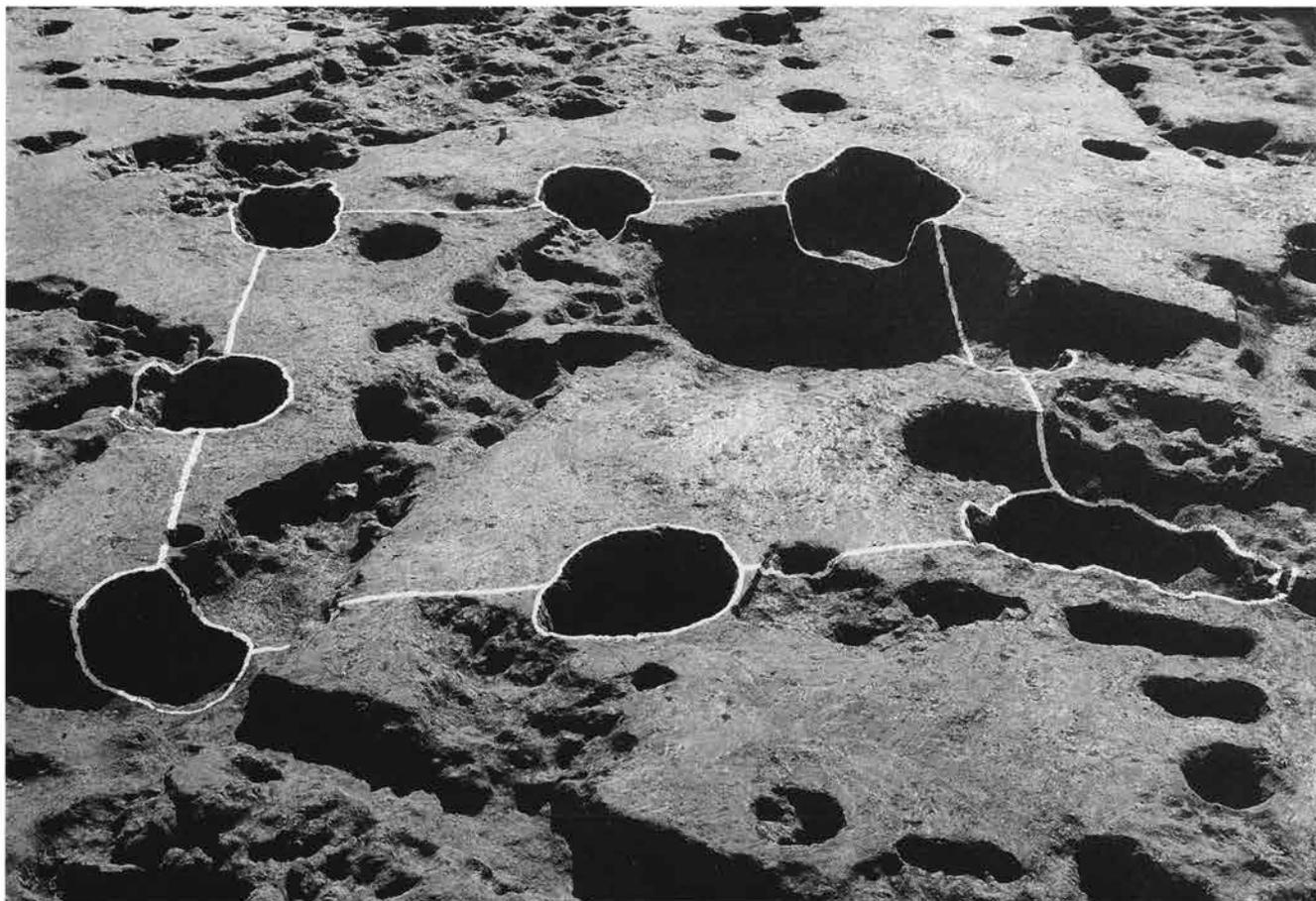
39号住居全景 (東から)



40号住居全景 (東から)



41号住居全景 (西から)



1号掘立柱建物全景（北西から）



1号掘立柱建物P 2（南から）



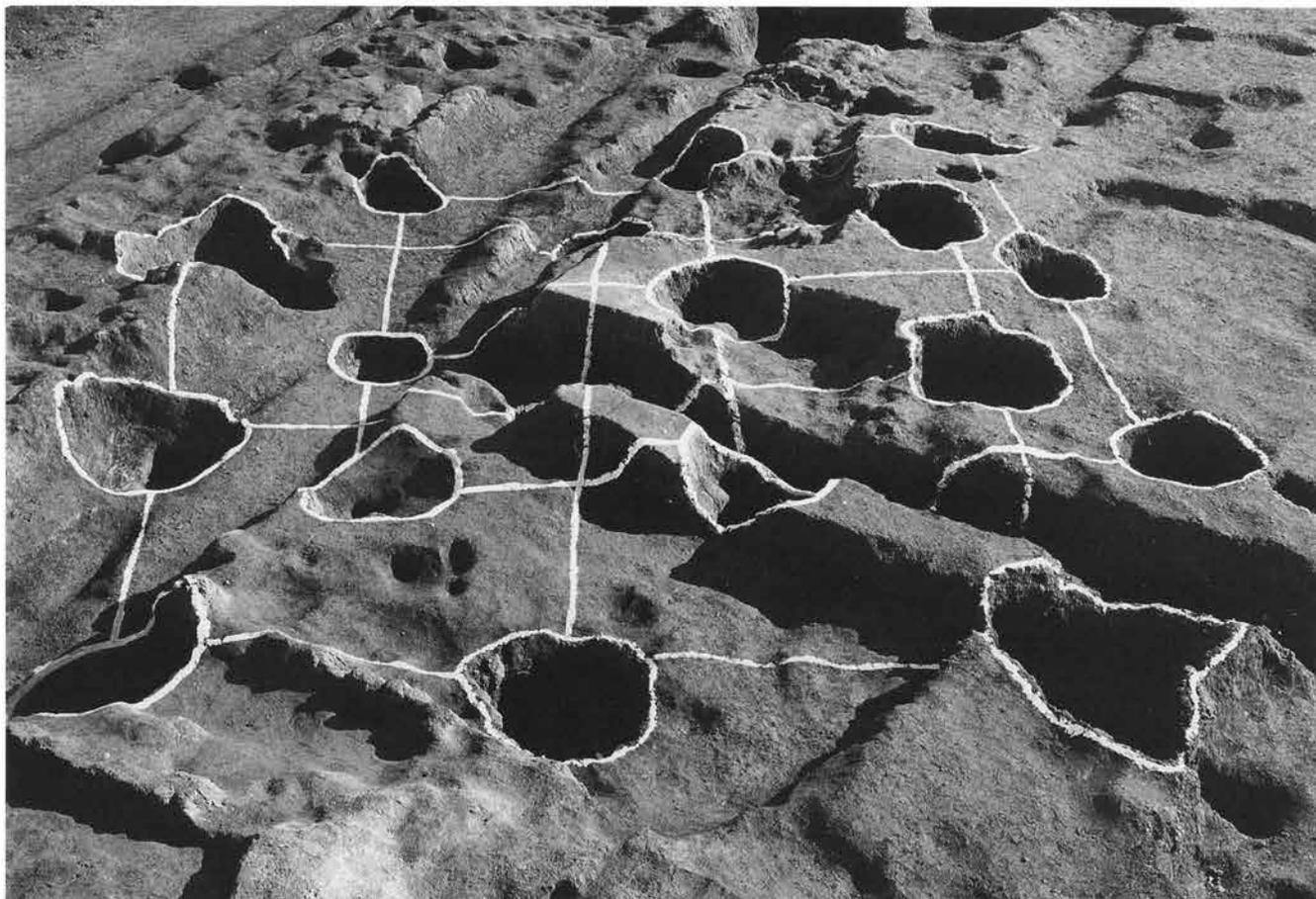
1号掘立柱建物P 3（南から）



1号掘立柱建物P 4（南から）



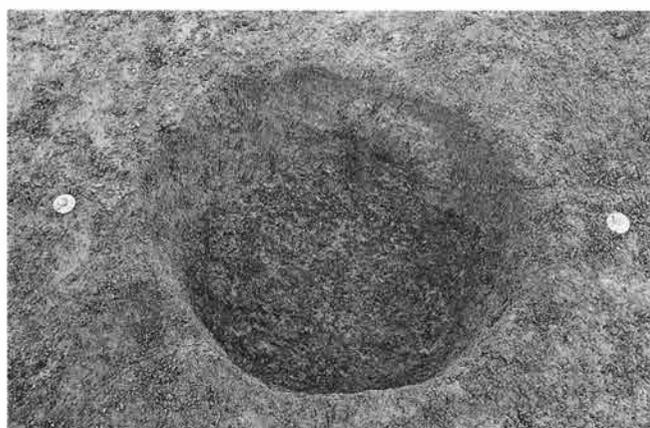
1号掘立柱建物P 8（南から）



2号・3号掘立柱建物全景（北西から）



2号掘立柱建物P6（南から）



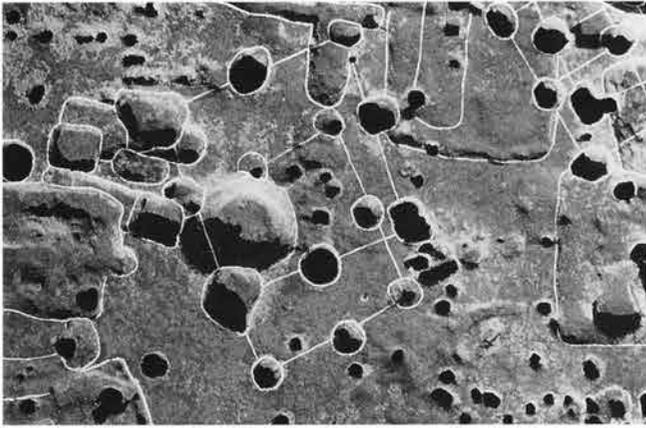
3号掘立柱建物P3（南から）



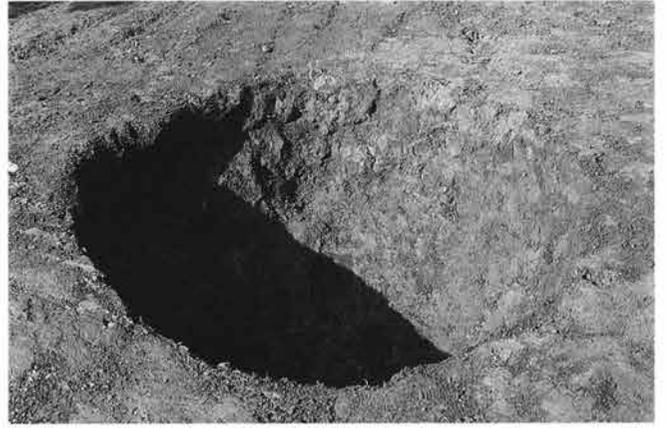
3号掘立柱建物P5（南東から）



3号掘立柱建物P8（南から）



1号・4号掘立柱建物全景 (空撮)



4号掘立柱建物P 4 (南から)



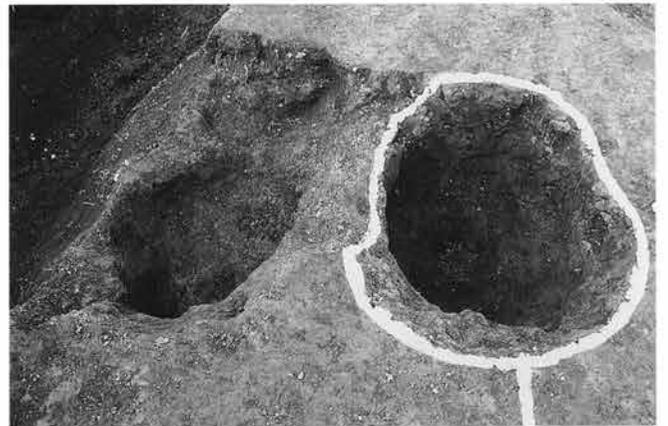
4号掘立柱建物P 6 (南から)



4号掘立柱建物P 7 (南から)



5号掘立柱建物全景 (南から)



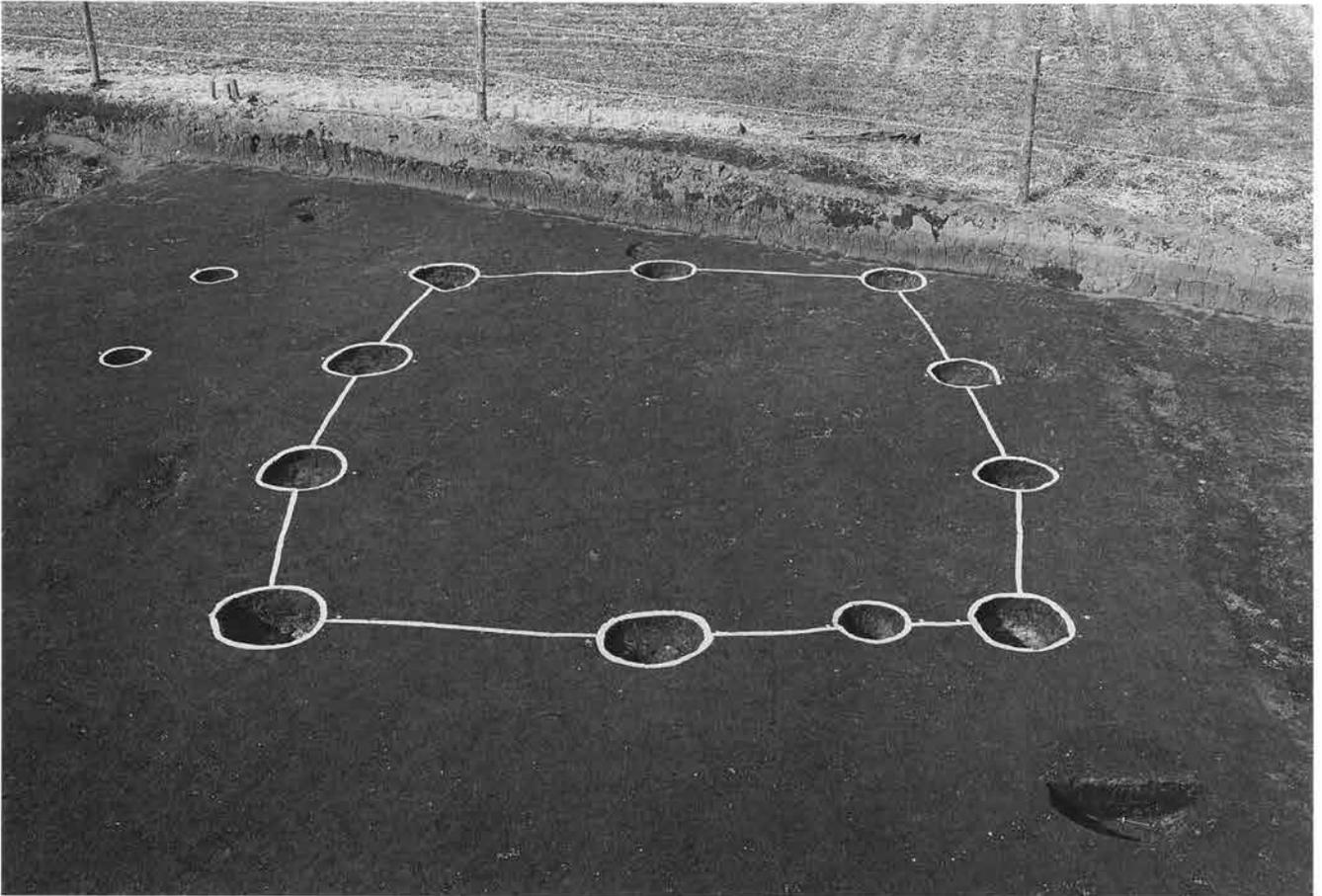
5号掘立柱建物P 1 (南から)



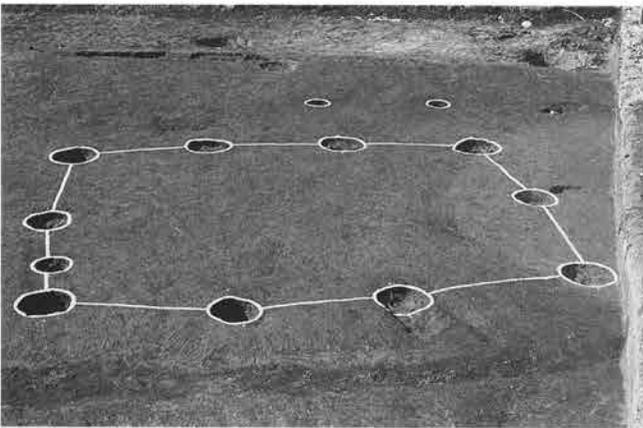
5号掘立柱建物P 2 (西から)



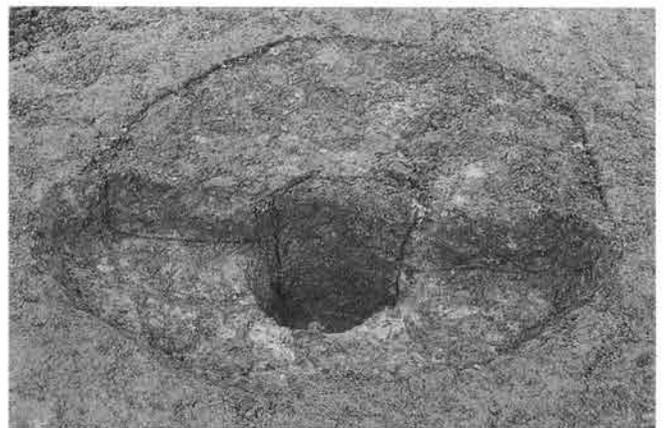
5号掘立柱建物P 3 (北東から)



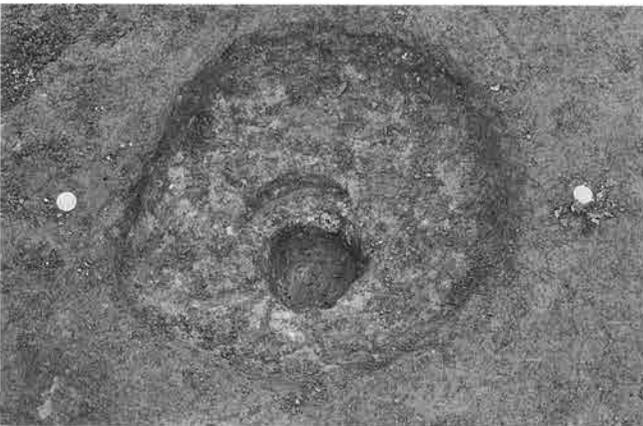
6号掘立柱建物全景（南東から）



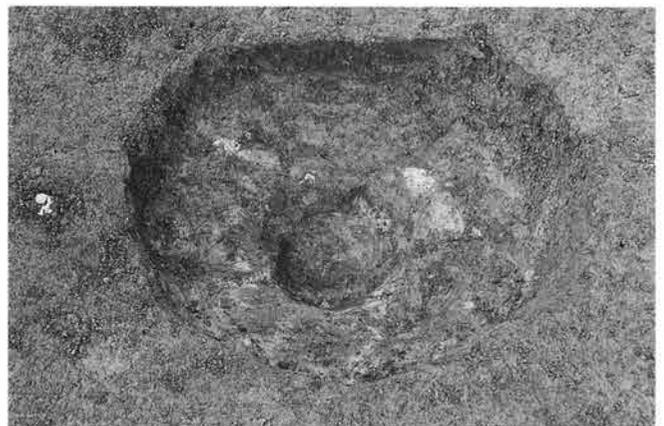
6号掘立柱建物全景（東から）



6号掘立柱建物P2断面（南から）



6号掘立柱建物P2（南から）



6号掘立柱建物P5（南から）



7号掘立柱建物全景 (南東から)



7号掘立柱建物P 2 (南から)



7号掘立柱建物P 3 (東から)



7号掘立柱建物P 4 (東から)



7号掘立柱建物P 5 (東から)



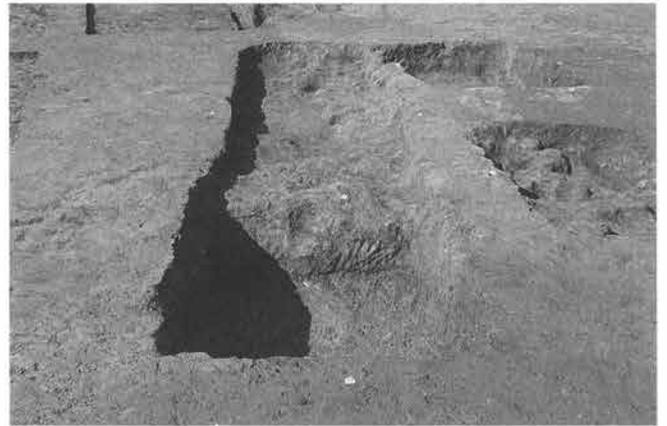
2号土坑全景 (南から)



3号土坑全景 (西から)



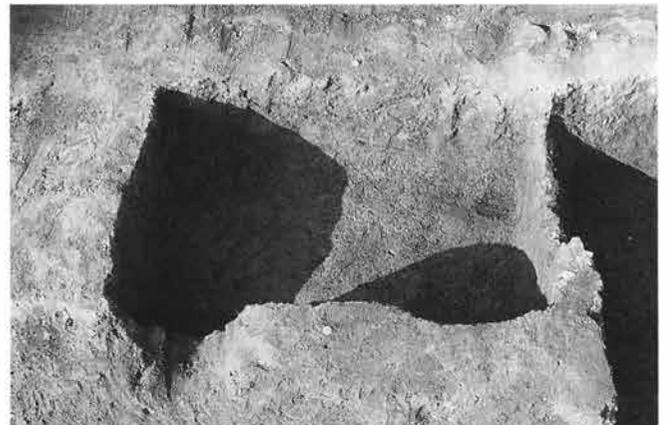
4号土坑全景 (北から)



5号・9号土坑全景 (東から)



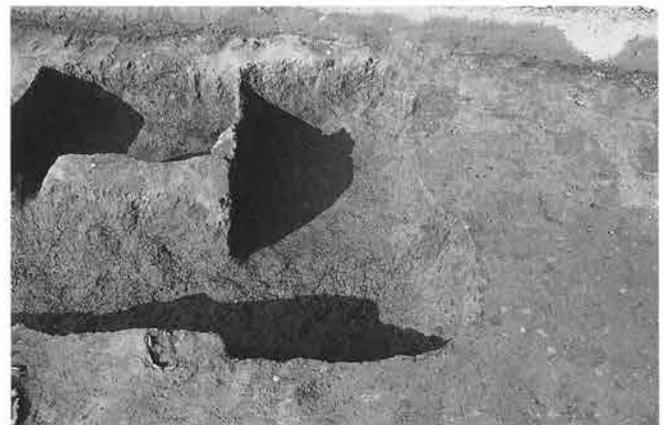
6号土坑全景 (西から)



7号土坑全景 (南から)



9号土坑全景 (南から)



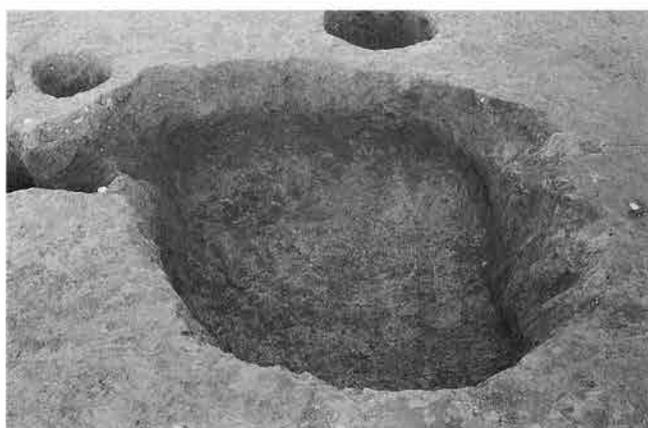
11号土坑全景 (南から)



13号土坑全景 (東から)



23号土坑全景 (東から)



24号土坑全景 (西から)



26号土坑全景 (東から)



29号土坑全景 (南から)



31号土坑全景 (西から)



32号土坑全景 (東から)



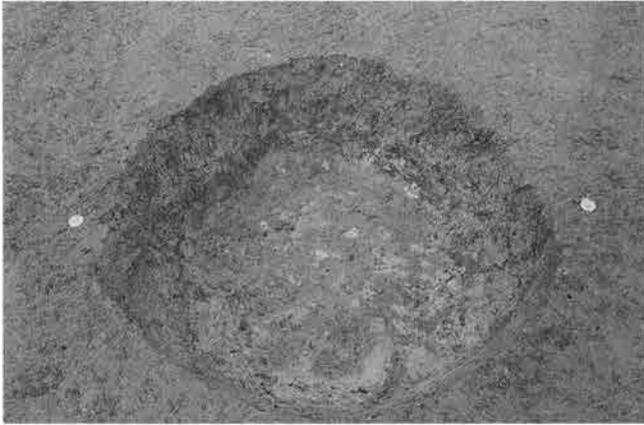
34号土坑全景 (北から)



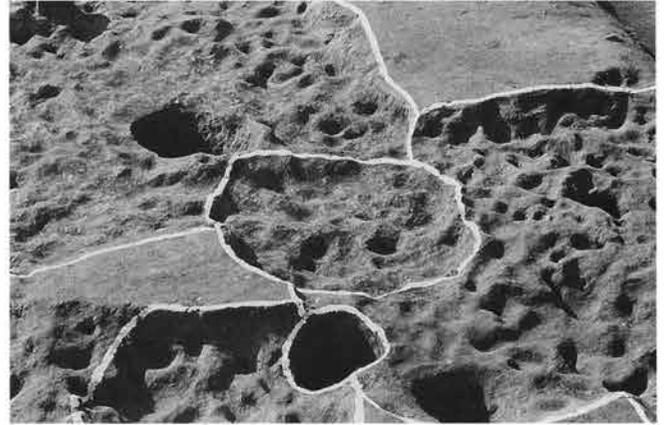
49号土坑全景 (南から)



53号土坑全景 (南西から)



54号土坑全景 (南から)



71号土坑全景 (東から)



72号土坑全景 (東から)



73号土坑全景 (東から)



74号土坑全景 (南西から)



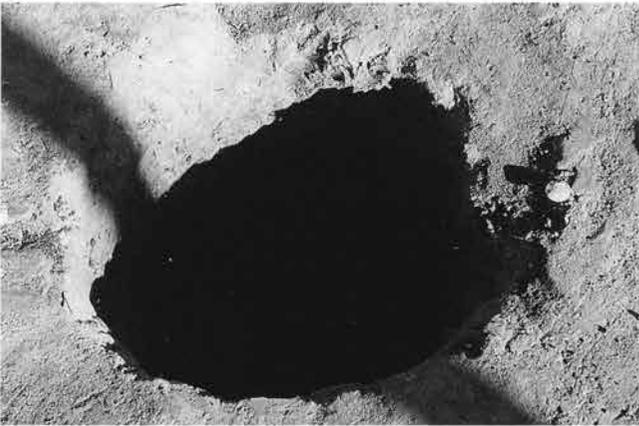
75号土坑全景 (南から)



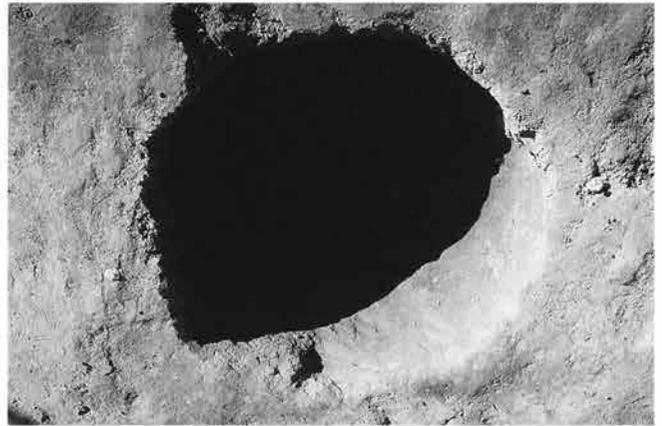
76号土坑全景 (東から)



80号土坑全景 (西から)



81号土坑全景 (西から)



82号土坑全景 (西から)



1号溝全景 (北から)



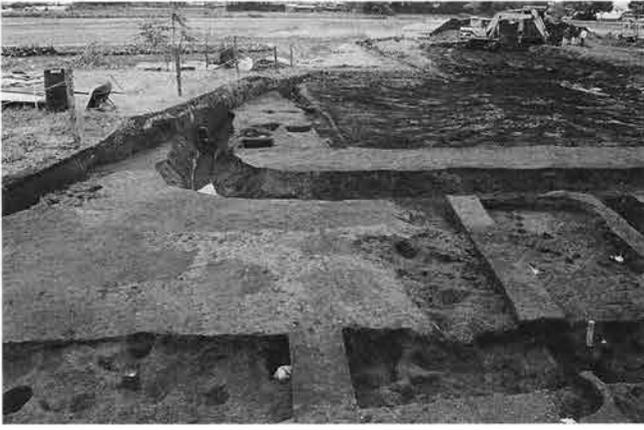
1号溝全景 (南から)



2号溝全景 (北から)



2号溝全景 (南から)



2号溝全景 (西から)



3号溝全景 (南から)



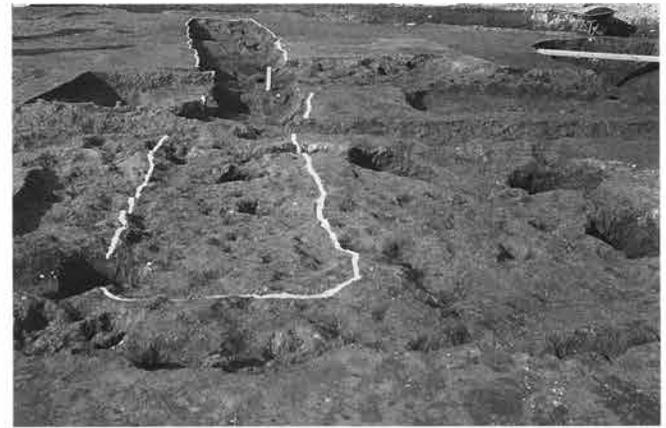
4号溝全景 (東から)



5号溝全景 (東から)



6号・7号溝断面 (西から)



8号溝全景 (南から)



8号溝断面 (南から)



9号溝全景 (西から)



11号溝全景 (南から)



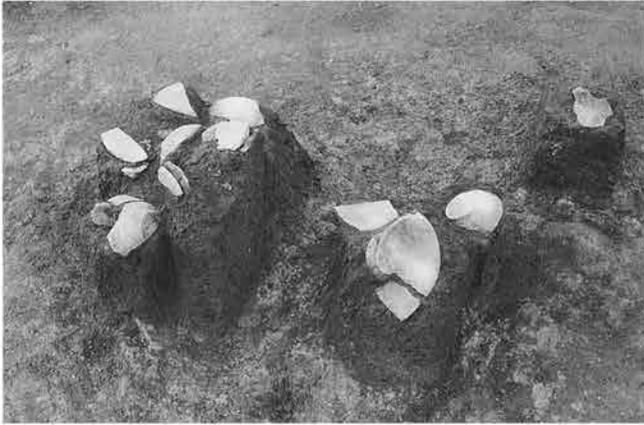
11号溝全景 (北から)



11号溝断面A-A' (南から)



11号溝遺物出土状況 (南から)



11号溝遺物出土状況 (東から)



11号溝遺物出土状況 (東から)



11号溝遺物出土状況 (北東から)



11号溝遺物出土状況 (東から)



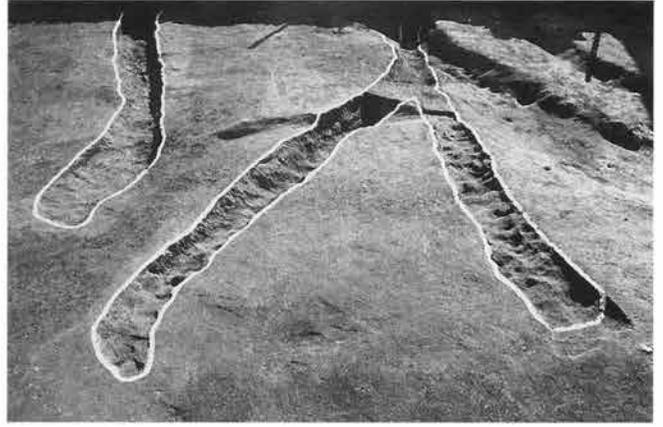
13号溝全景 (北西から)



13号溝全景 (南東から)



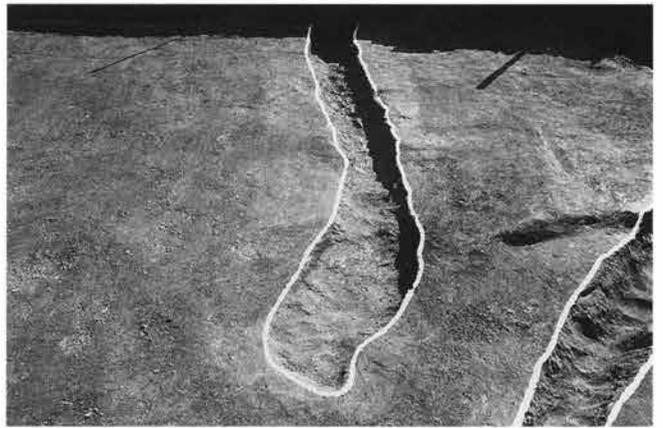
14号溝断面A-A' (東から)



15号・16号溝全景 (北から)



15号・16号溝断面A-A' (南から)



17号溝全景 (北から)



18号溝全景 (北から)



1号井戸全景 (東から)



2号井戸全景 (西から)



3号井戸全景 (北から)



4号井戸全景 (南から)



5号井戸全景 (東から)



6号井戸全景 (東から)



7号井戸全景 (西から)



8号井戸全景 (東から)



9号井戸全景 (南から)



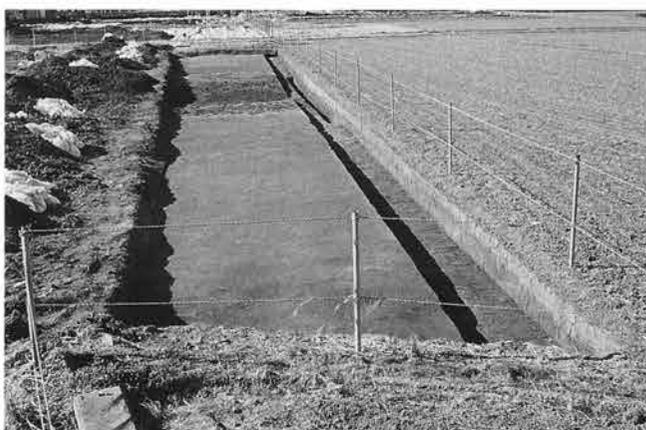
10号井戸全景 (南から)



11号井戸全景 (北から)



E区北部全景 (西から)



E区北部全景 (東から)



As-B堆積部全景 (南から)



As-B堆積部全景 (東から)

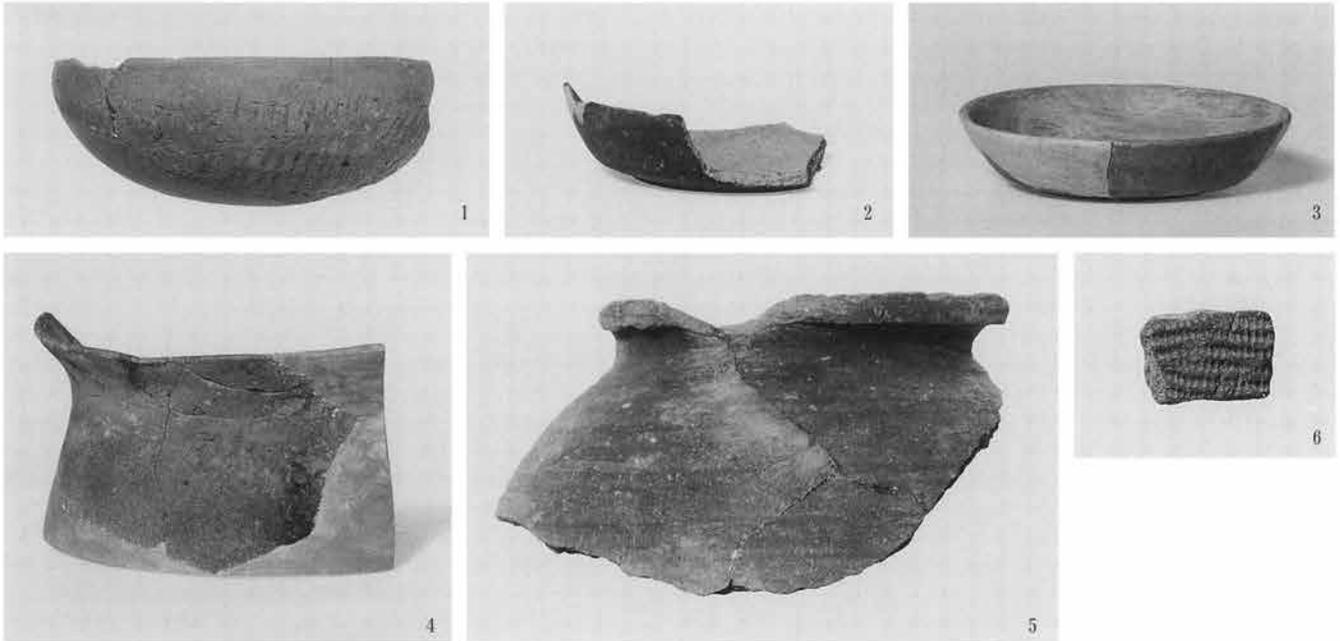


As-B堆積部の溝 (南から)

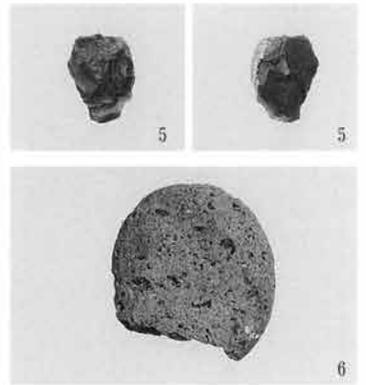
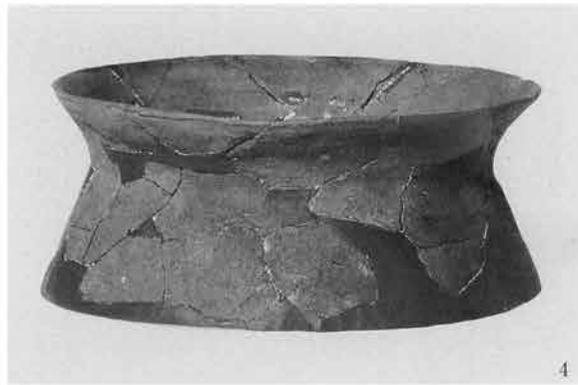
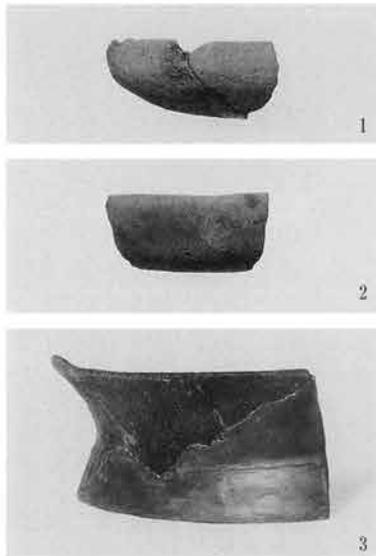
1号住居 出土遺物



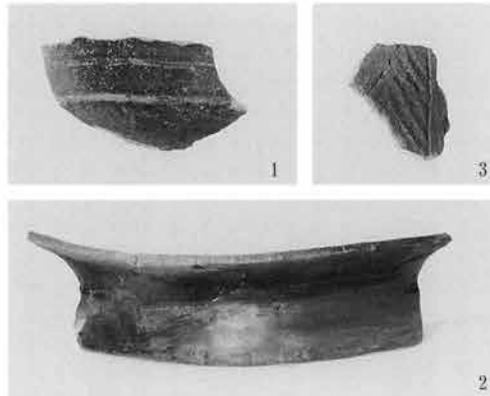
2号住居 出土遺物



3号住居 出土遺物



4号住居 出土遺物



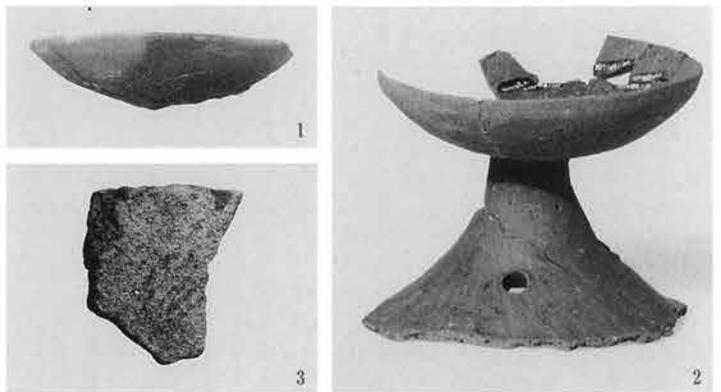
5号住居 出土遺物



6号住居 出土遺物



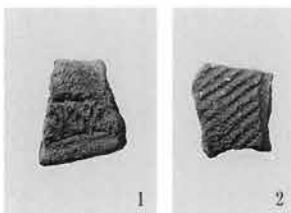
9号住居 出土遺物



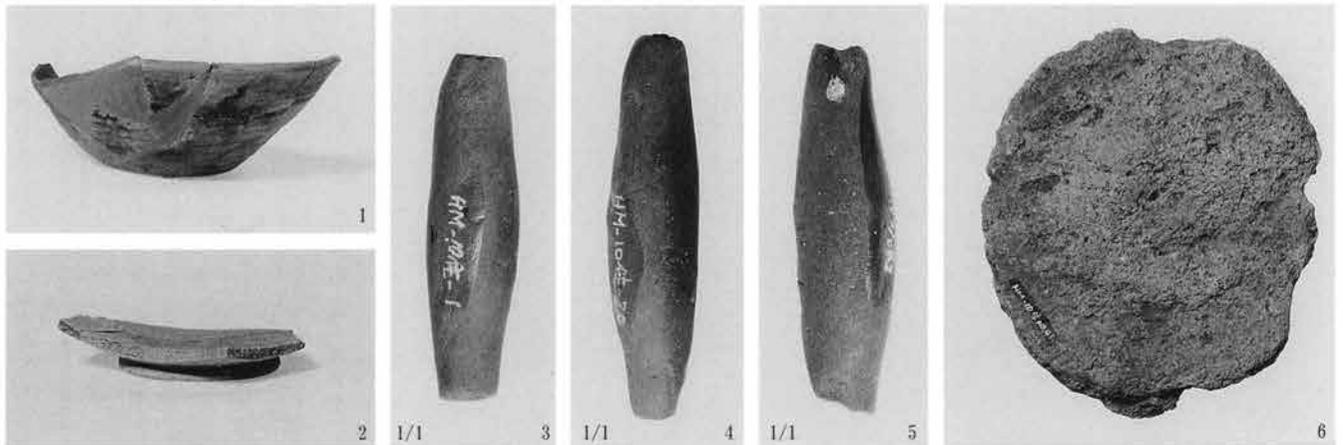
7号住居 出土遺物



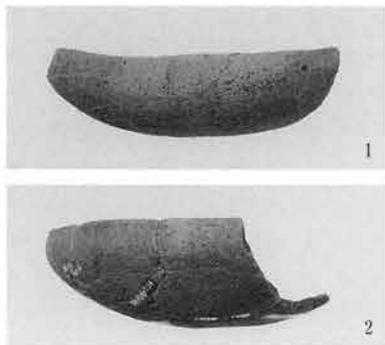
8号住居 出土遺物



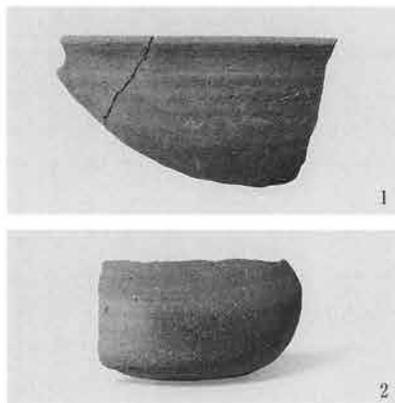
10号住居 出土遺物



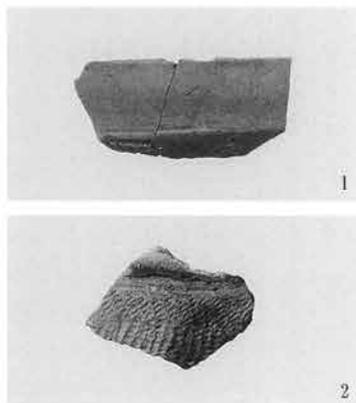
11号住居 出土遺物



12号住居 出土遺物



13号住居 出土遺物



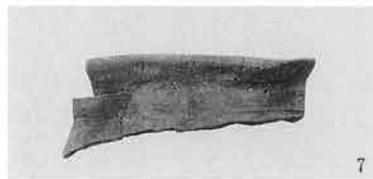
14号住居 出土遺物



15号住居 出土遺物



16号住居 出土遺物(1)



18号住居 出土遺物



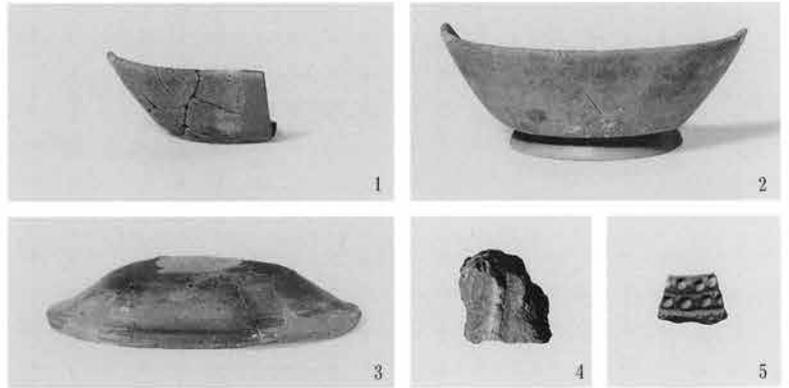
16号住居 出土遺物(2)



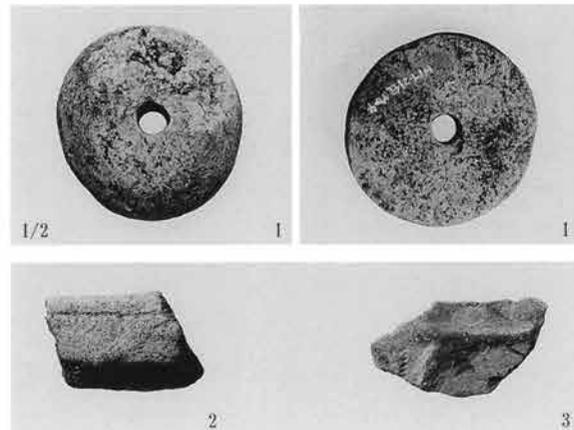
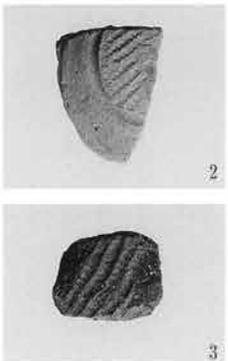
17号住居 出土遺物



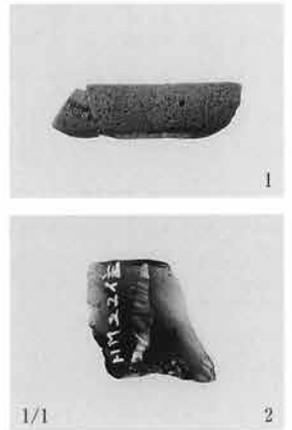
19号住居 出土遺物



21号住居 出土遺物



22号住居 出土遺物



23号住居 出土遺物



24号住居 出土遺物



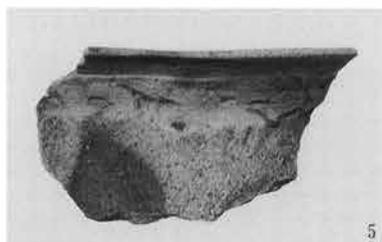
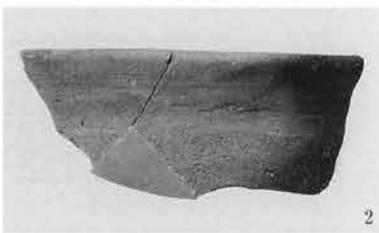
25号住居 出土遺物



26号住居 出土遺物



1号竪穴状遺構 出土遺物



27号住居 出土遺物



28号住居 出土遺物



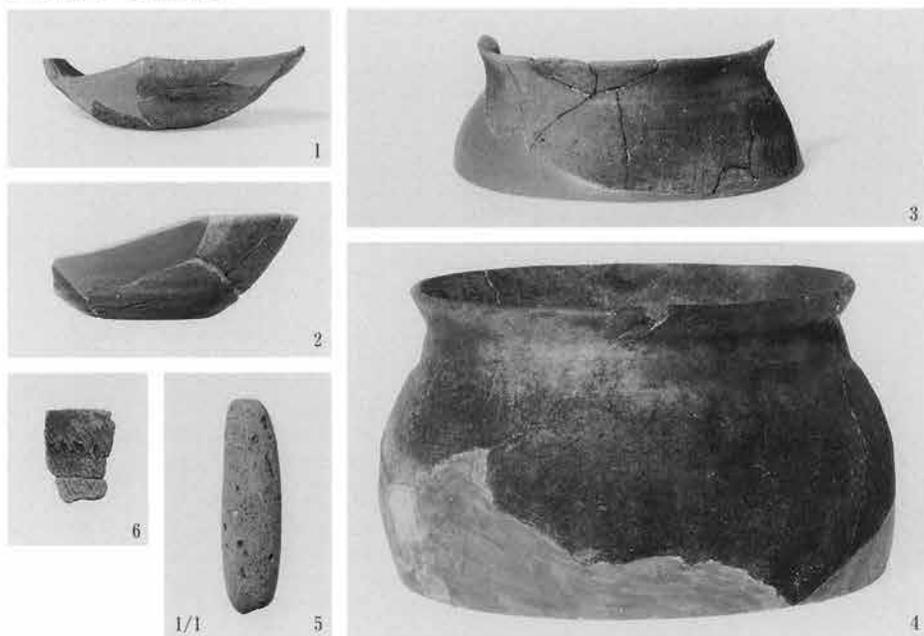
29号住居 出土遺物



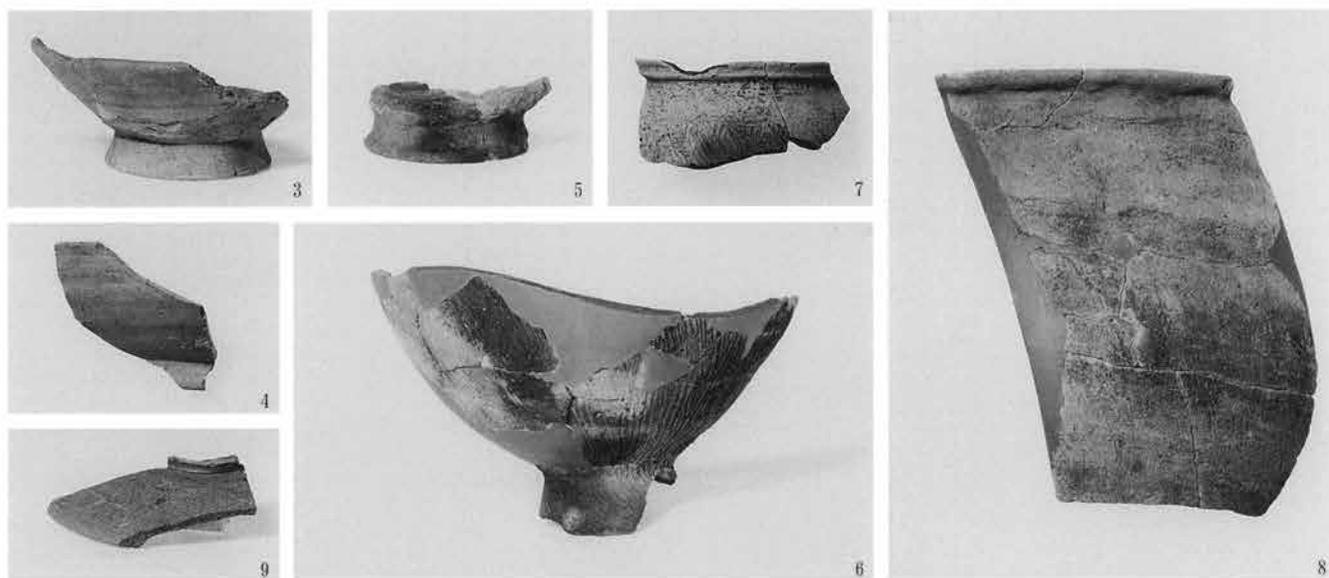
30号住居 出土遺物



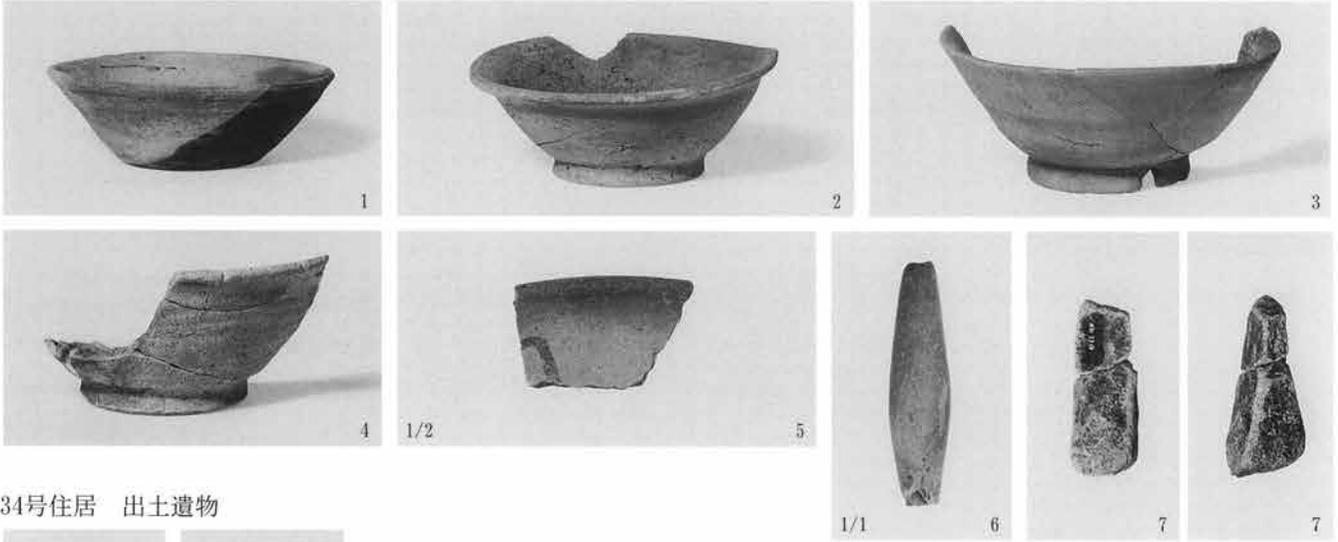
31号住居 出土遺物



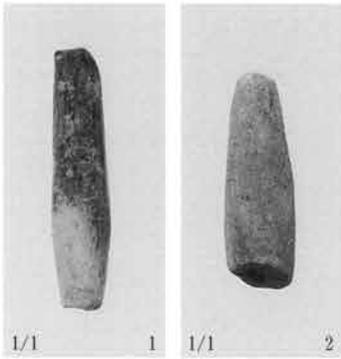
32号住居 出土遺物



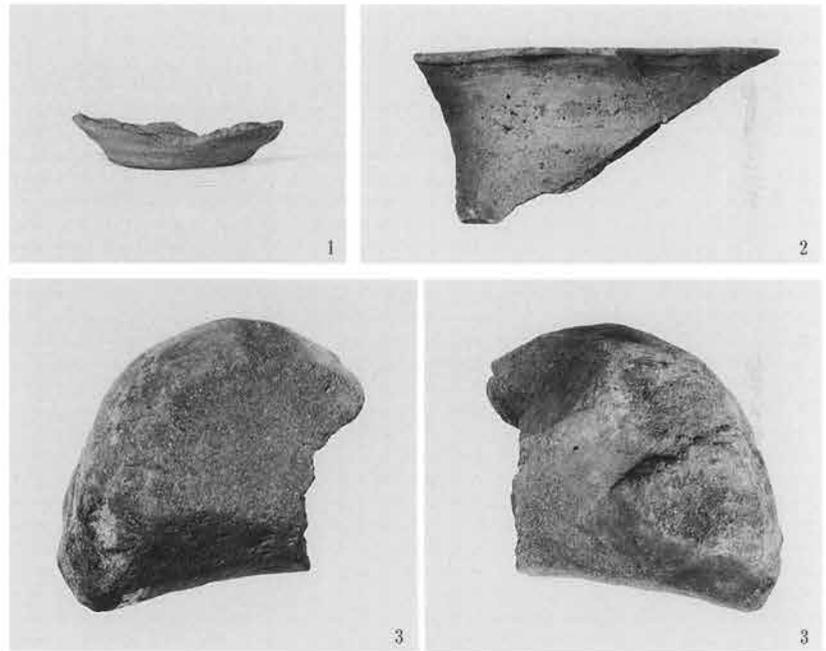
33号住居 出土遺物



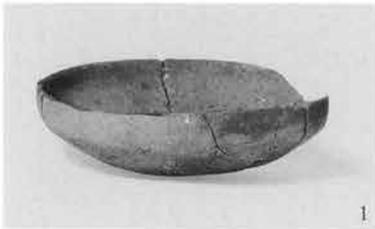
34号住居 出土遺物



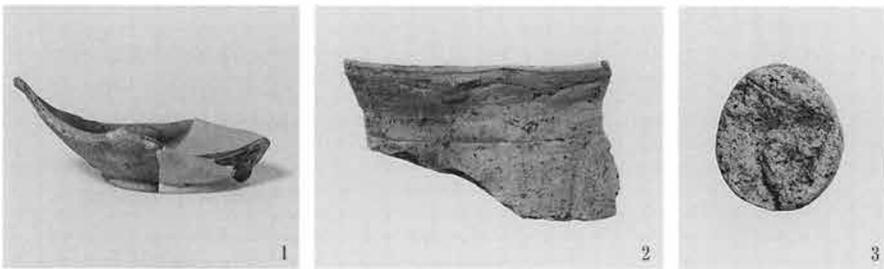
36号住居 出土遺物



35号住居 出土遺物



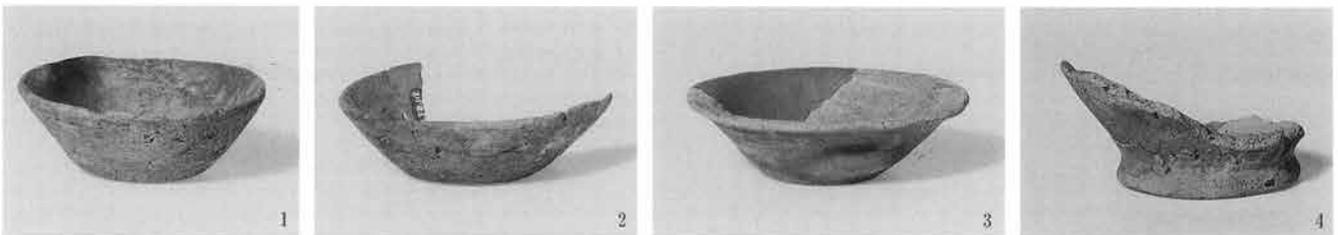
37号住居 出土遺物



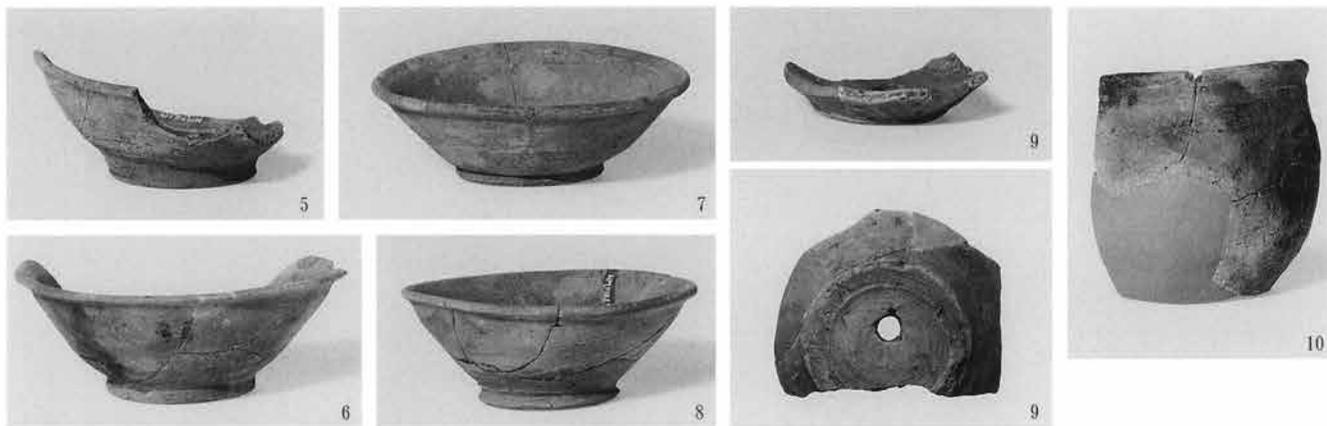
38号住居 出土遺物



39号住居 出土遺物(1)



39号住居 出土遺物(2)



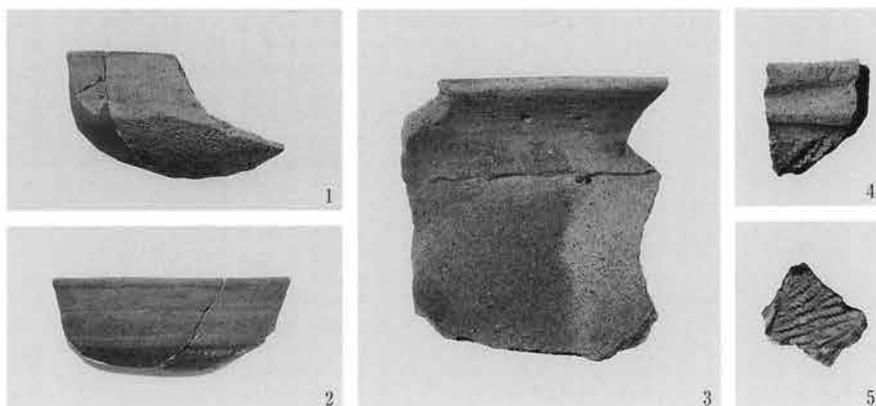
41号住居 出土遺物



2号掘立柱建物 出土遺物



3号掘立柱建物 出土遺物



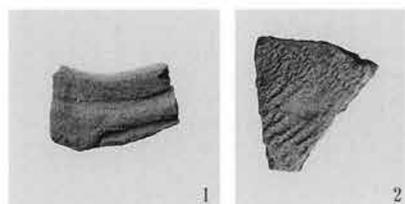
4号掘立柱建物 出土遺物



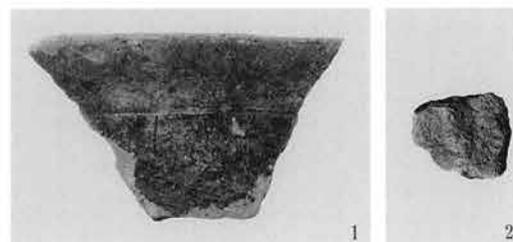
2号土坑 出土遺物



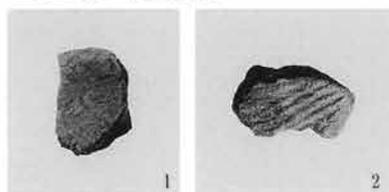
7号土坑 出土遺物



10号土坑 出土遺物



12号土坑 出土遺物



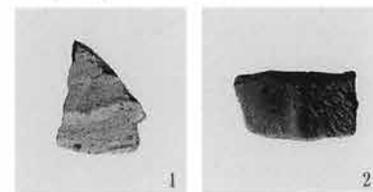
13号土坑 出土遺物



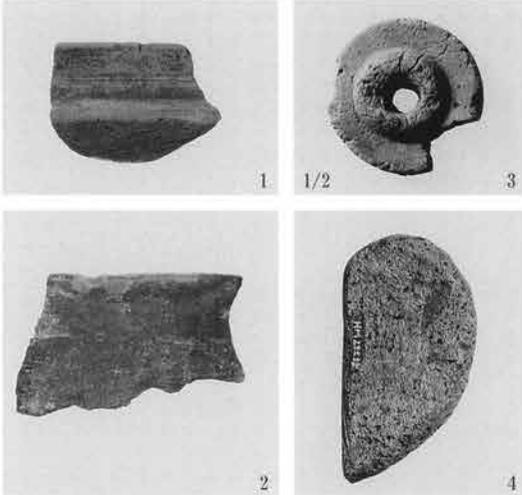
16号土坑 出土遺物



22号土坑 出土遺物



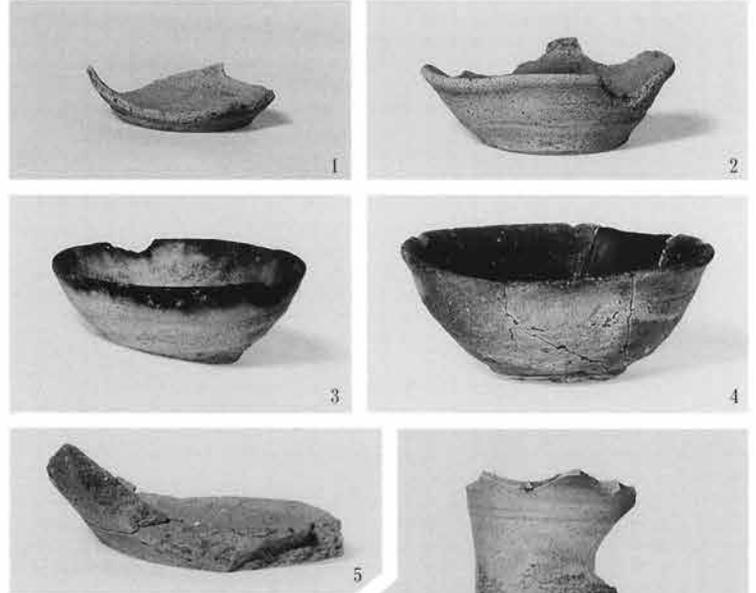
23号土坑 出土遺物



45号土坑 出土遺物



34号土坑 出土遺物



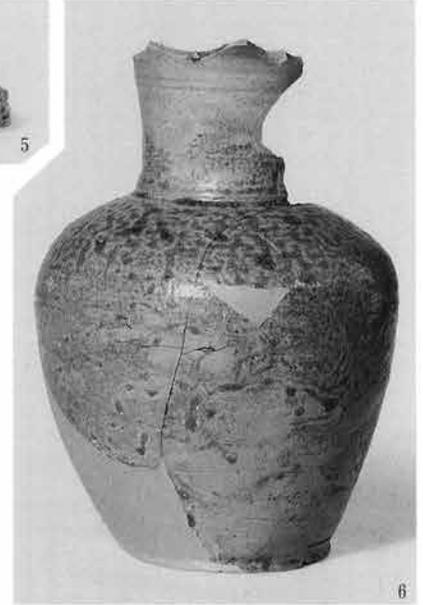
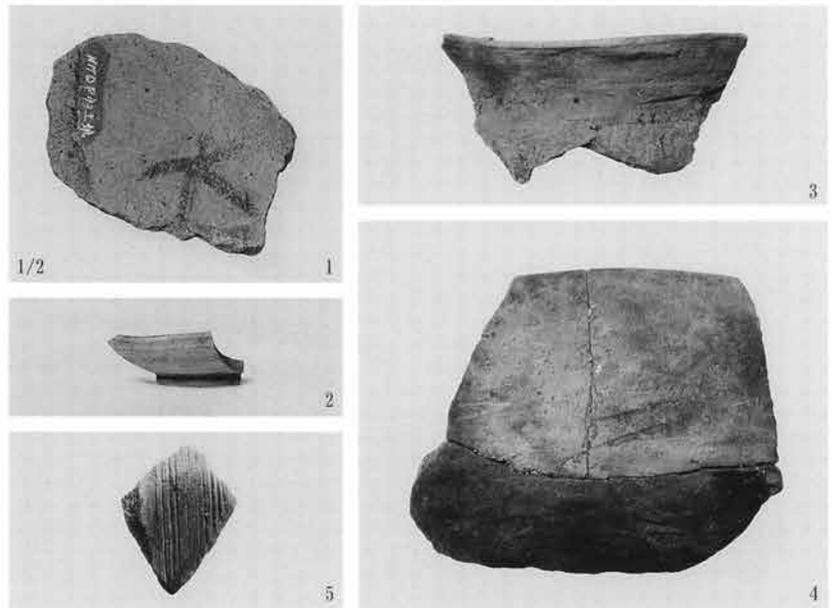
41号土坑 出土遺物



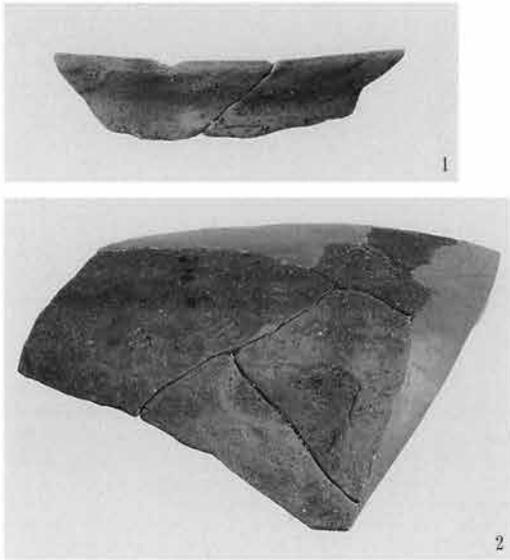
49号土坑 出土遺物



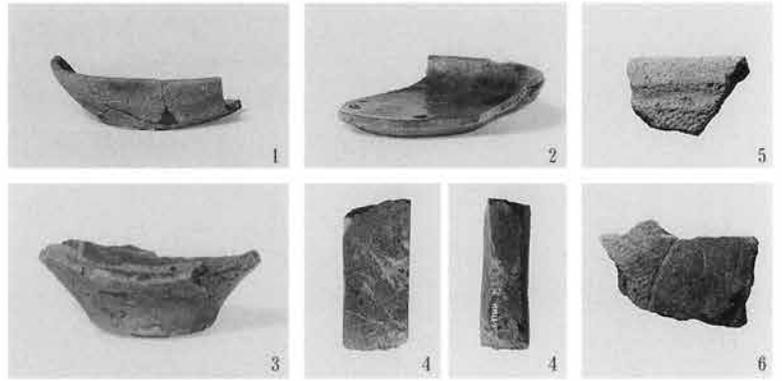
73号土坑 出土遺物



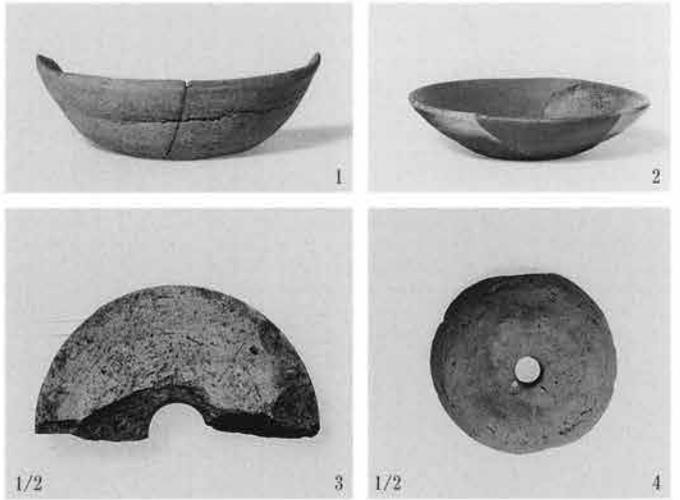
74号土坑 出土遺物



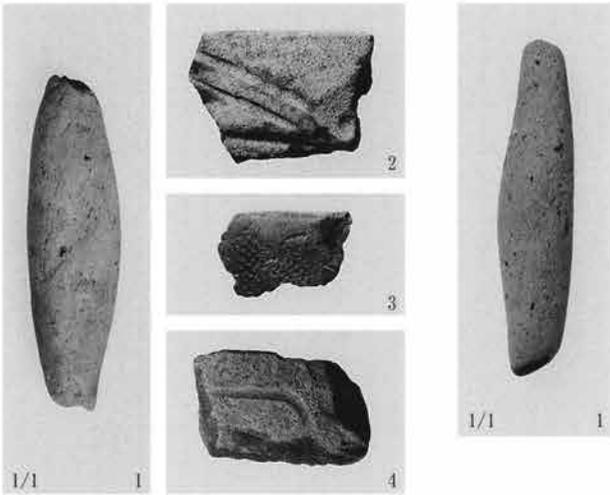
1号溝 出土遺物



4号溝 出土遺物



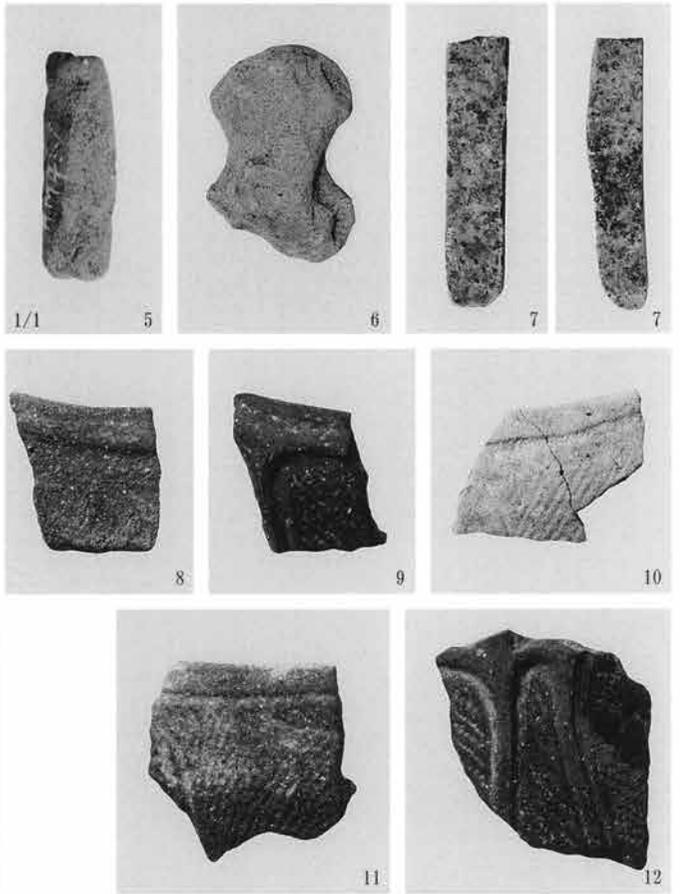
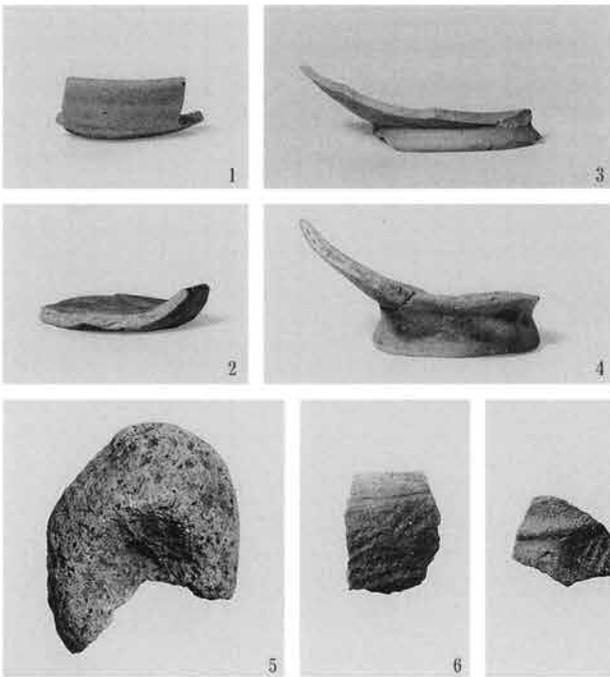
2号溝 出土遺物



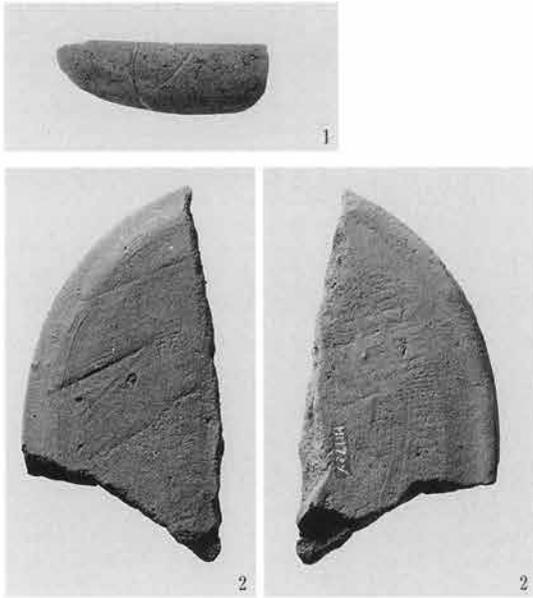
3号溝 出土遺物



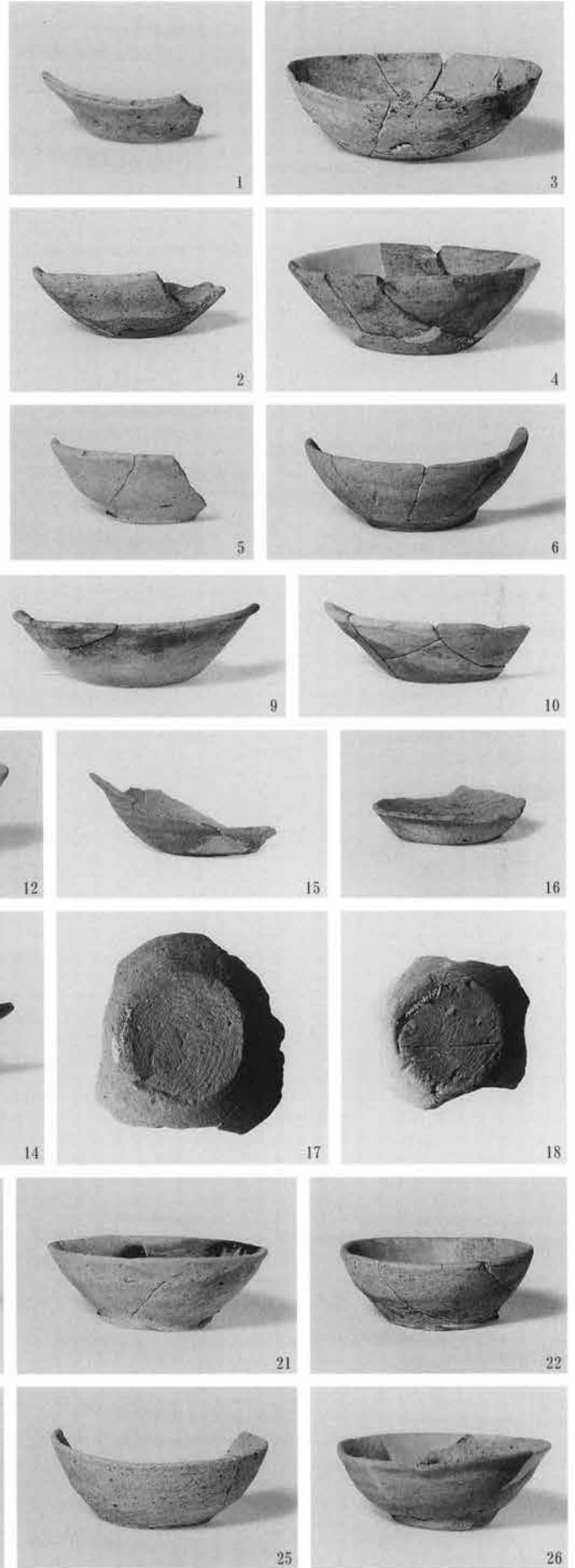
6号溝 出土遺物



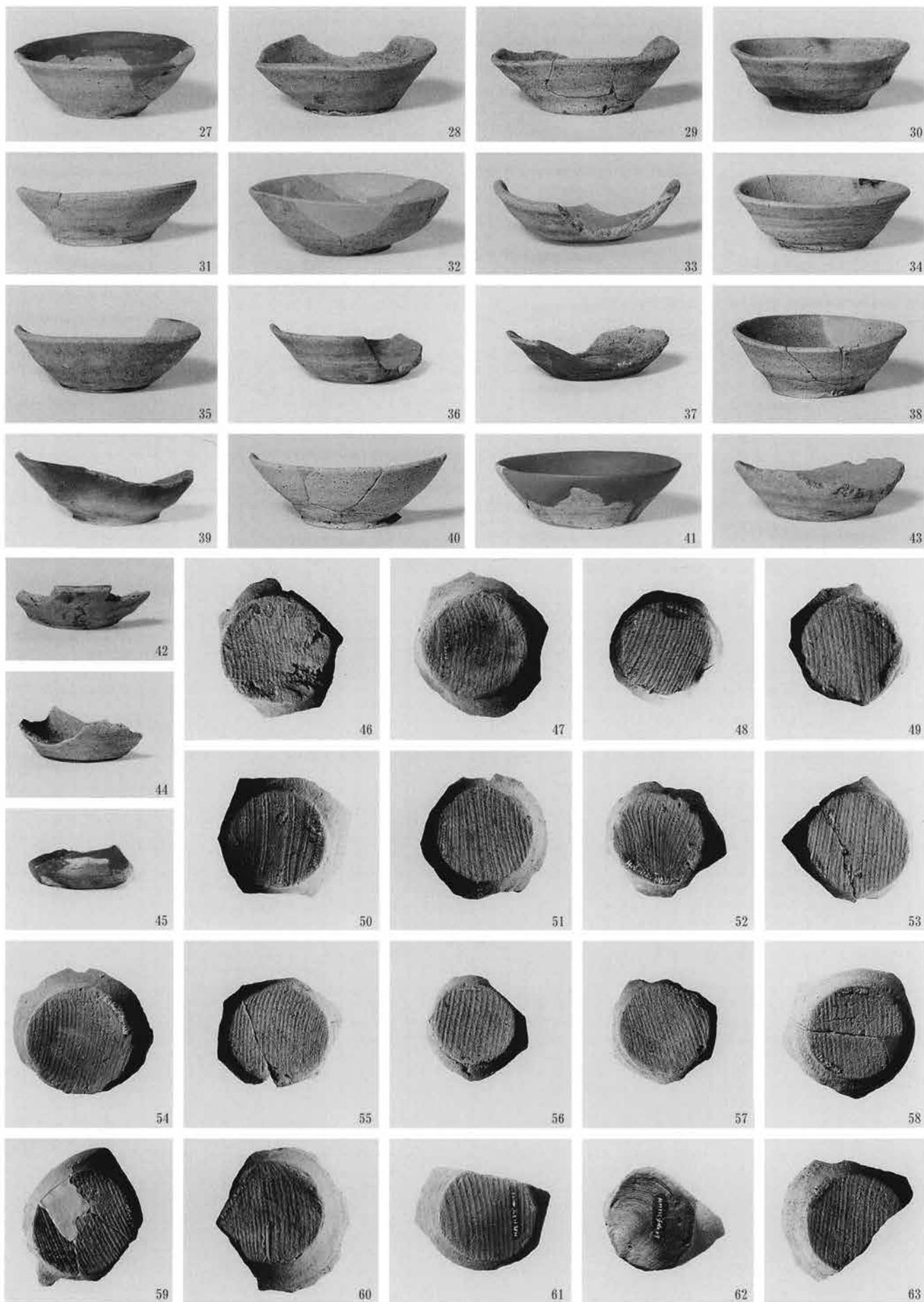
7号溝 出土遺物



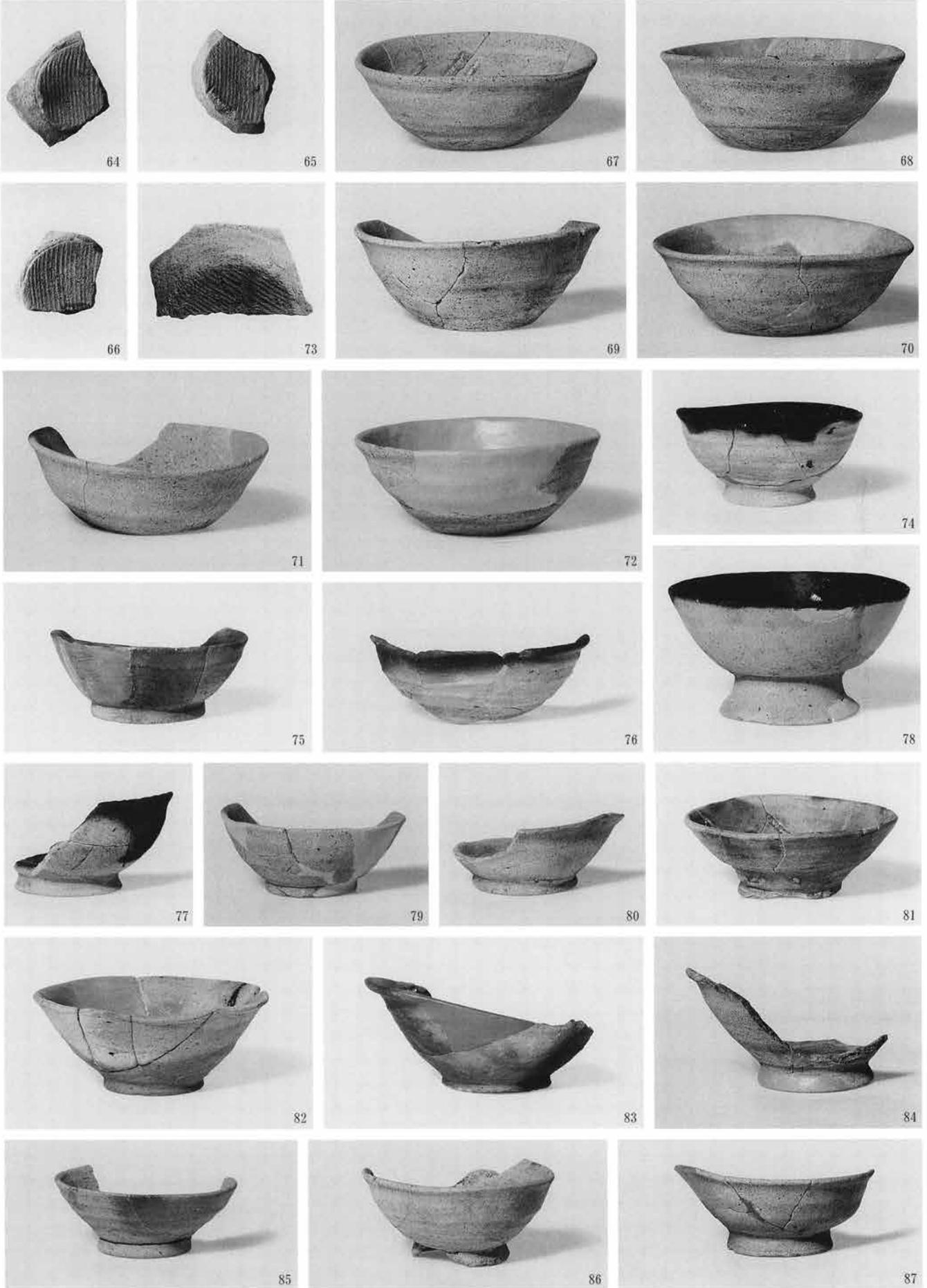
11号溝 出土遺物(1)



11号溝 出土遺物(2)



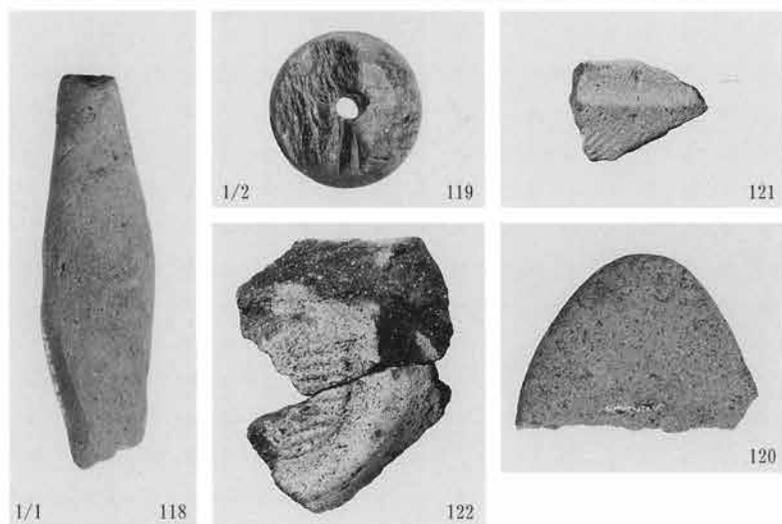
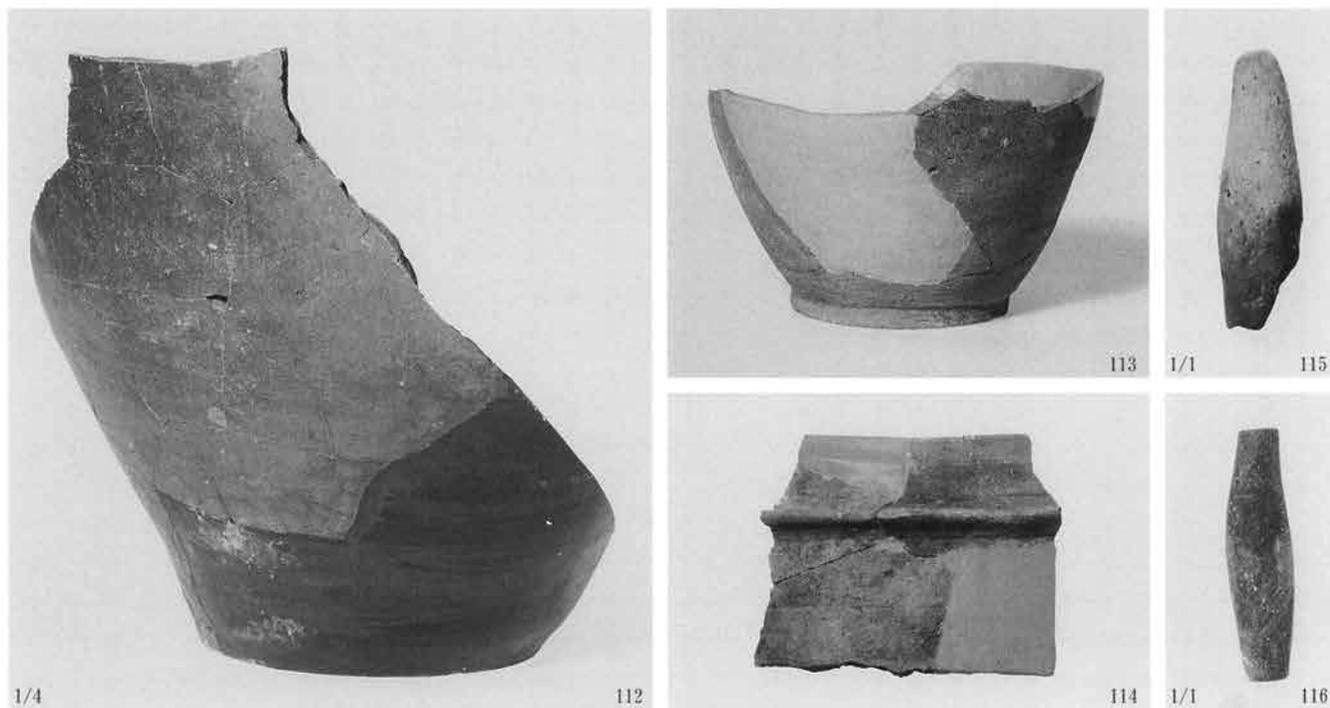
11号溝 出土遺物(3)



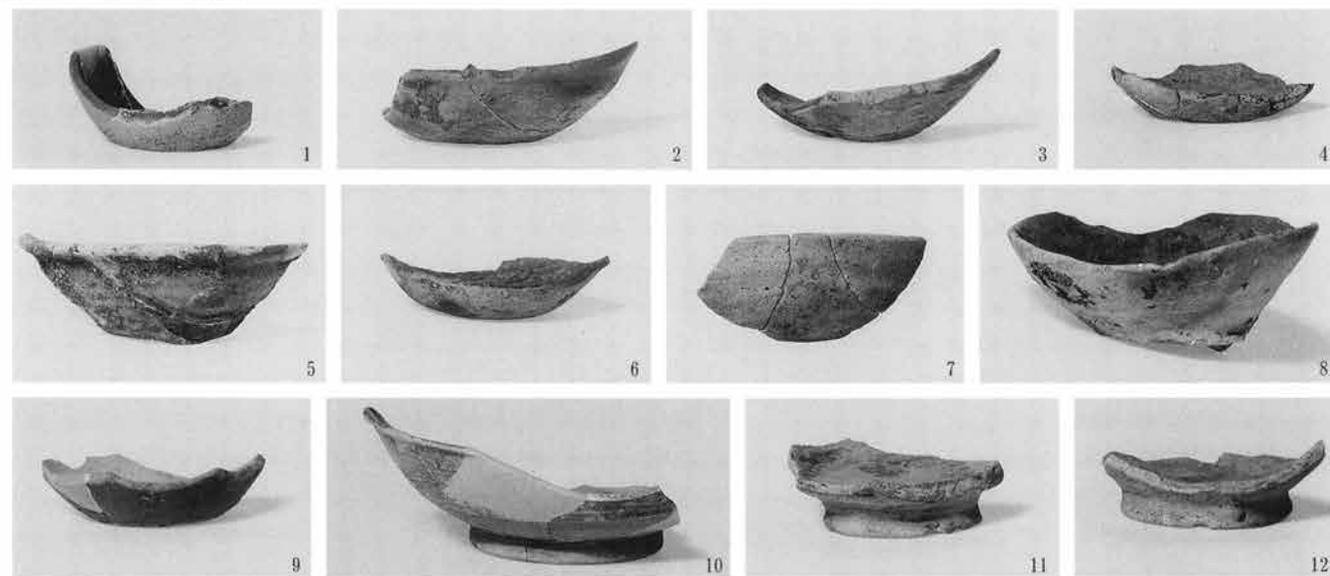
11号溝 出土遺物(4)



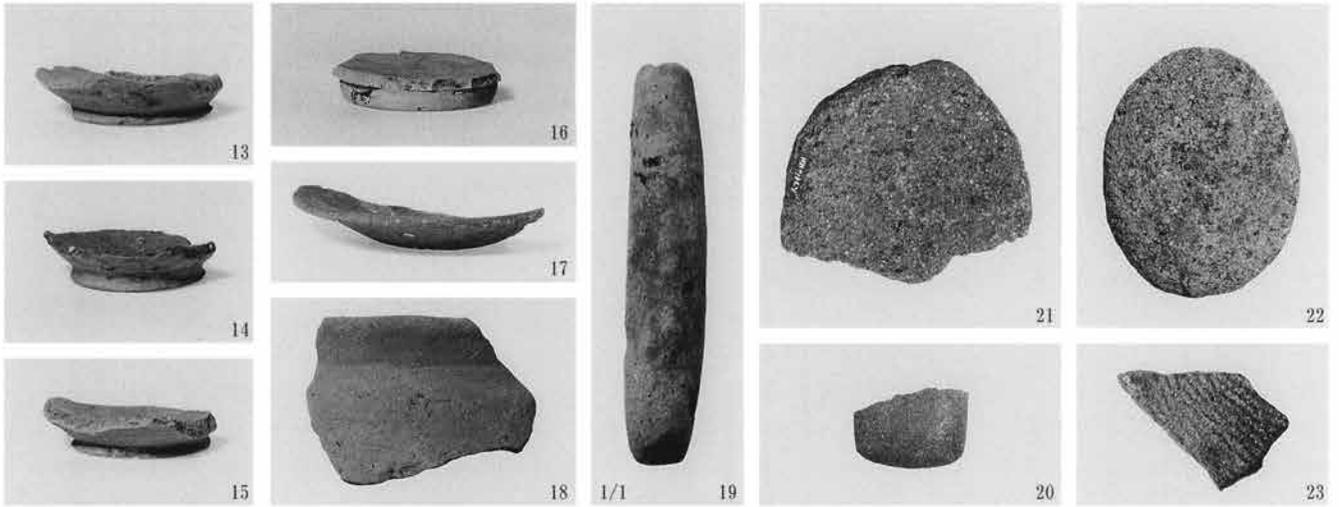
11号溝 出土遺物(5)



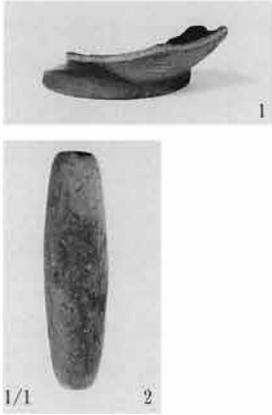
13号溝 出土遺物(1)



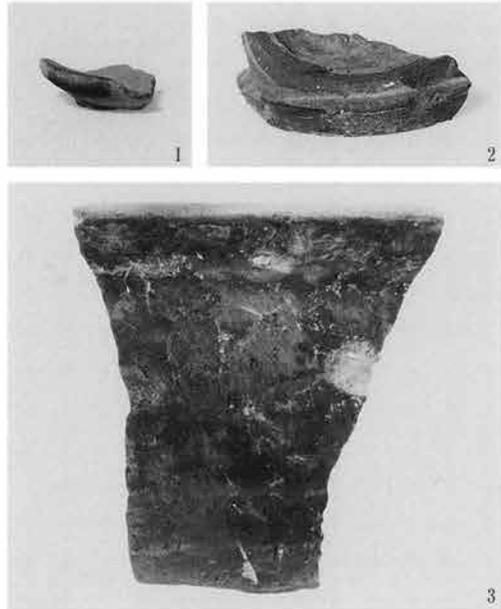
13号溝 出土遺物(2)



14号溝 出土遺物



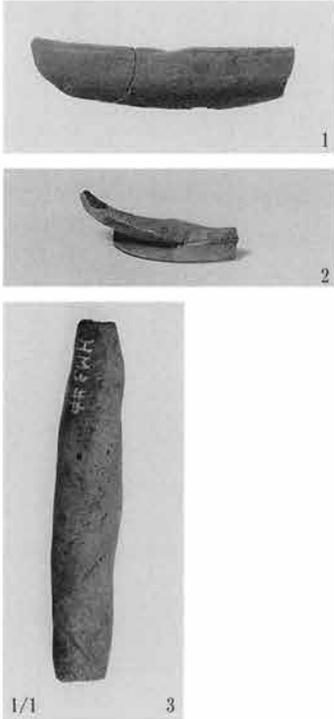
1号井戸 出土遺物



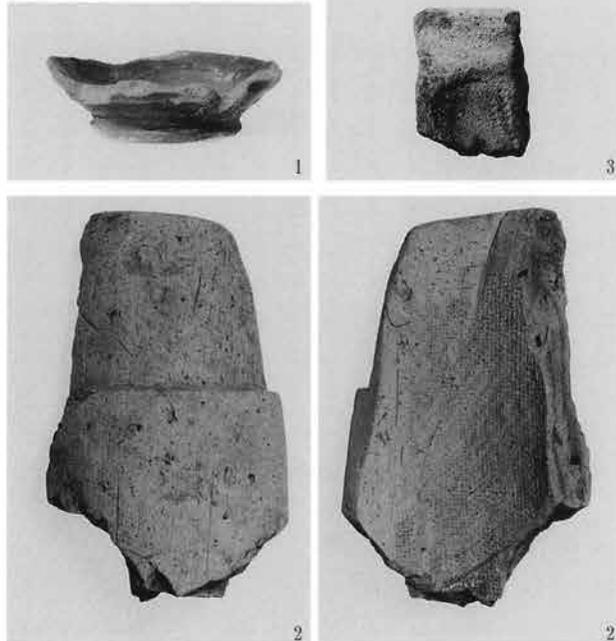
2号井戸 出土遺物



3号井戸 出土遺物



4号井戸 出土遺物



6号井戸 出土遺物



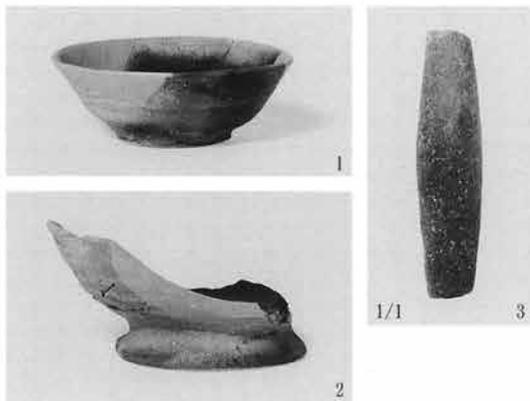
7号井戸 出土遺物



9号井戸 出土遺物



10号井戸 出土遺物



13号ピット 出土遺物



78号ピット 出土遺物



95号ピット 出土遺物



103号ピット 出土遺物



88号ピット 出土遺物



114号ピット 出土遺物



104号ピット 出土遺物



106号ピット 出土遺物



126号ピット 出土遺物



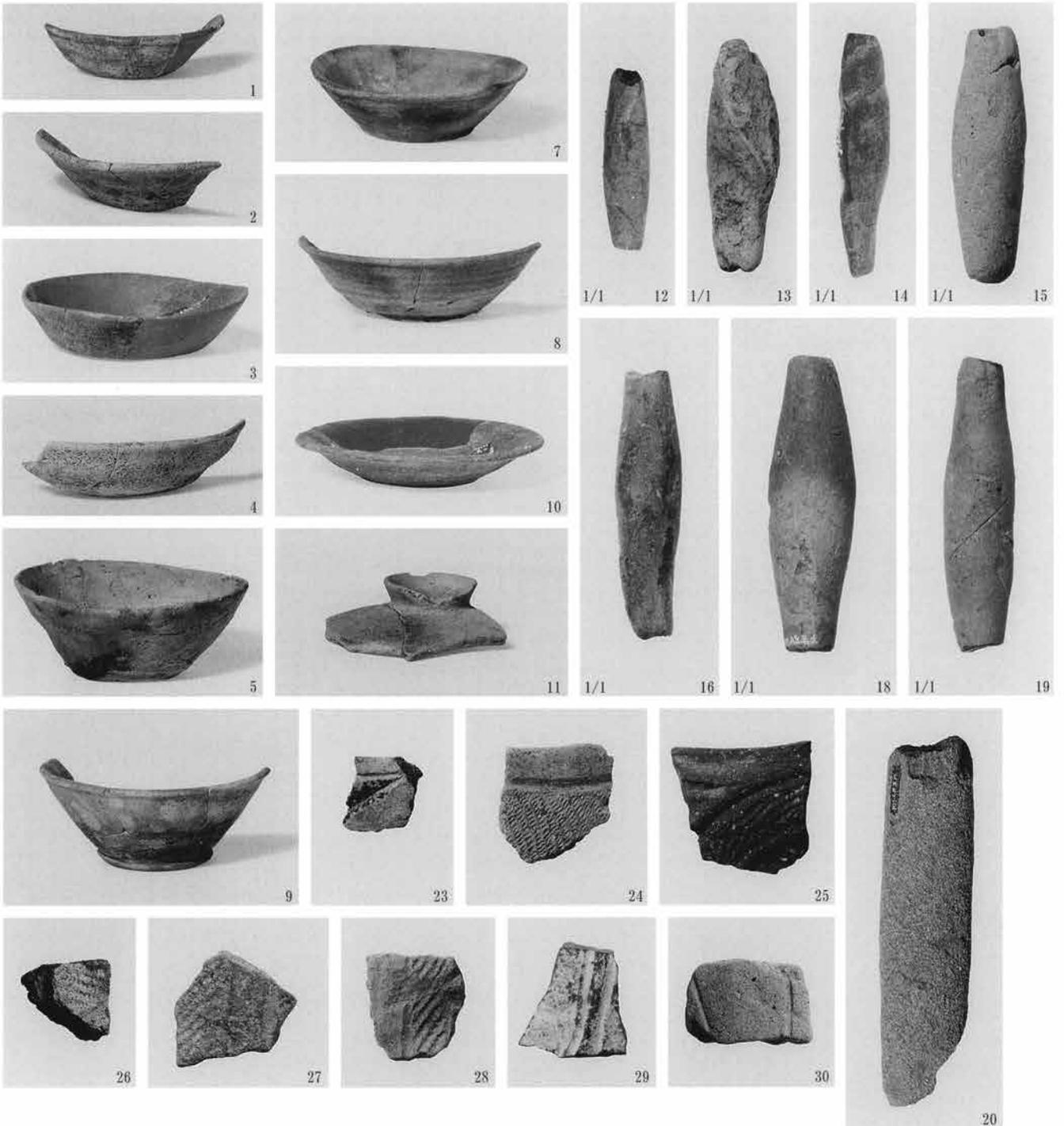
143号ピット 出土遺物



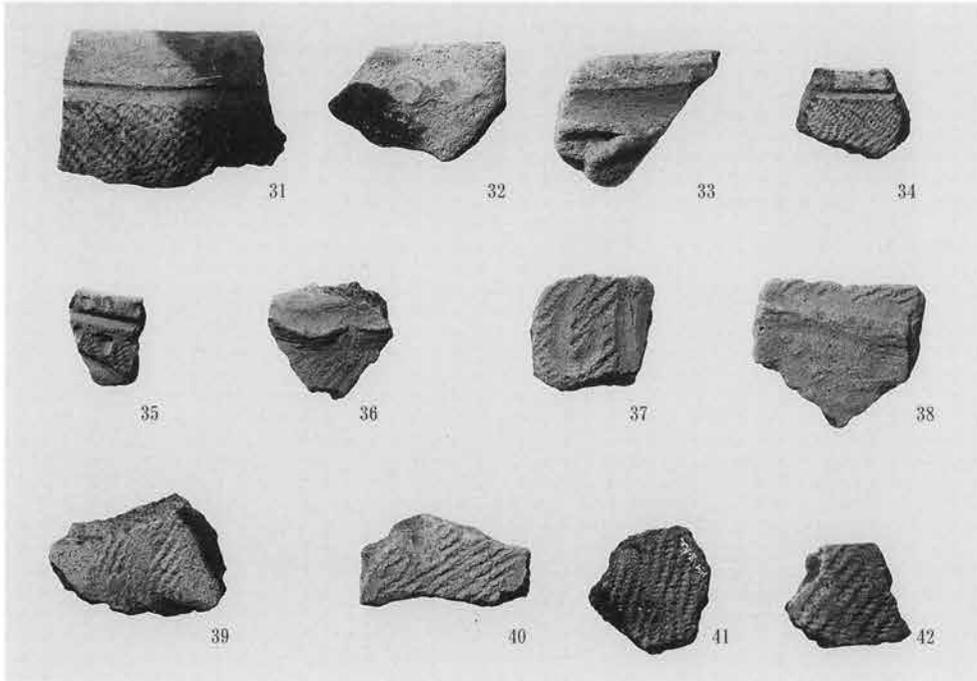
174号ピット 出土遺物



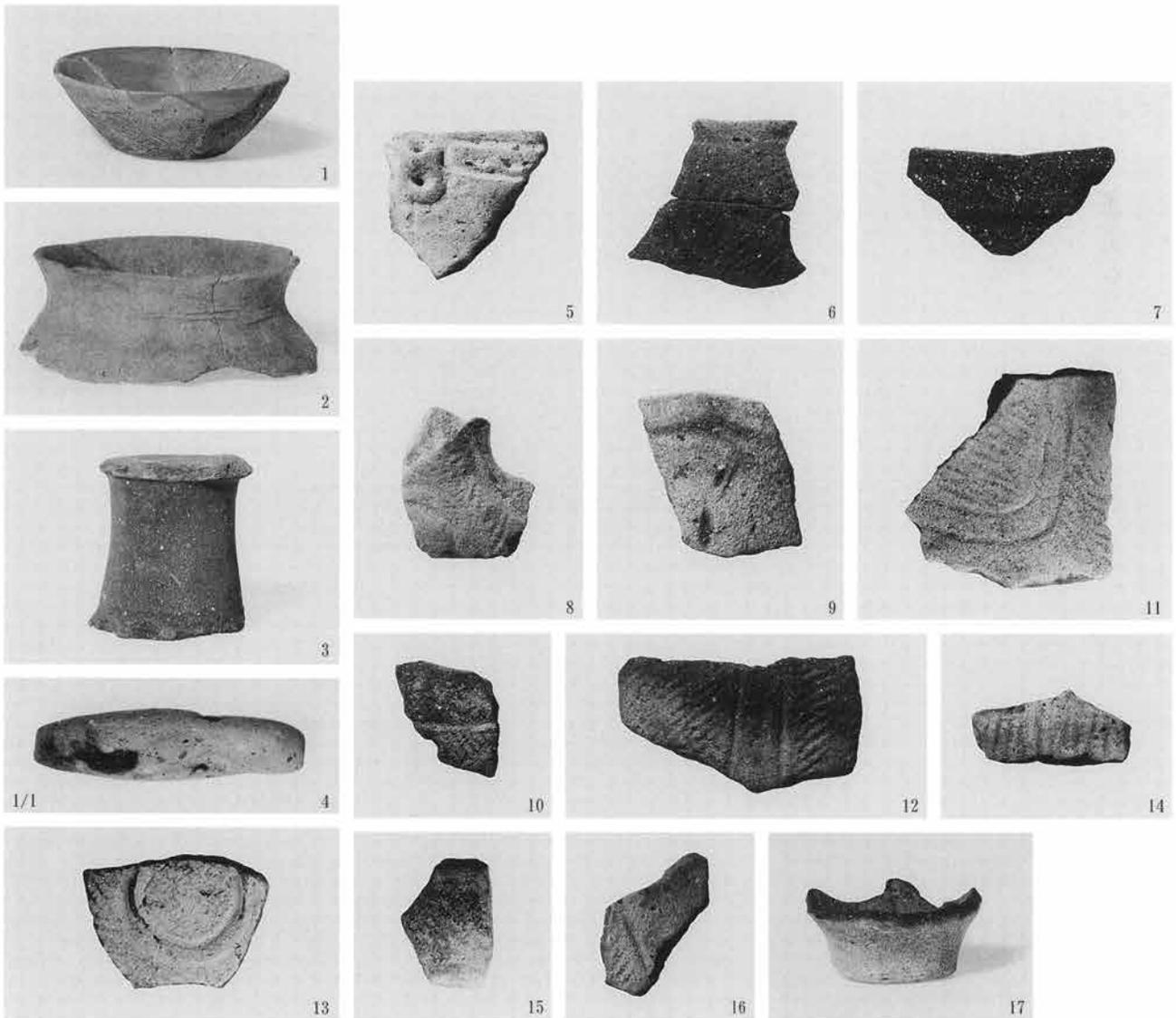
遺構外出土遺物(1)



遺構外出土遺物(2)



As-B下水田耕作土下層出土遺物





A区全景 (南東から)



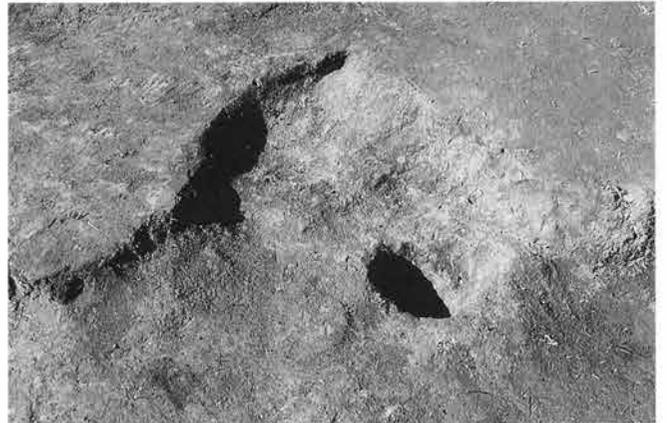
A区全景 (南から)



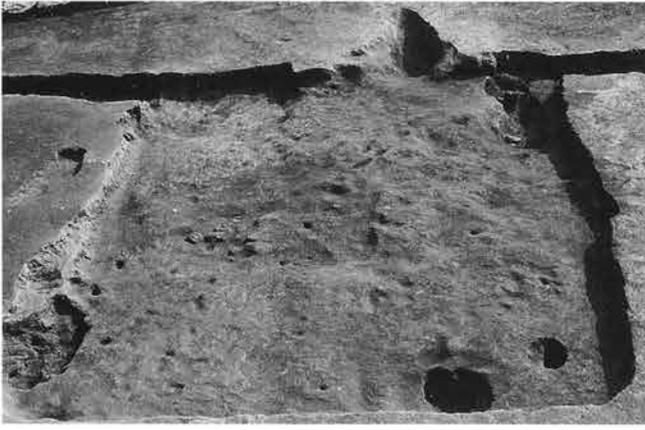
B区を望む (東から)



A-1号住居全景 (東から)



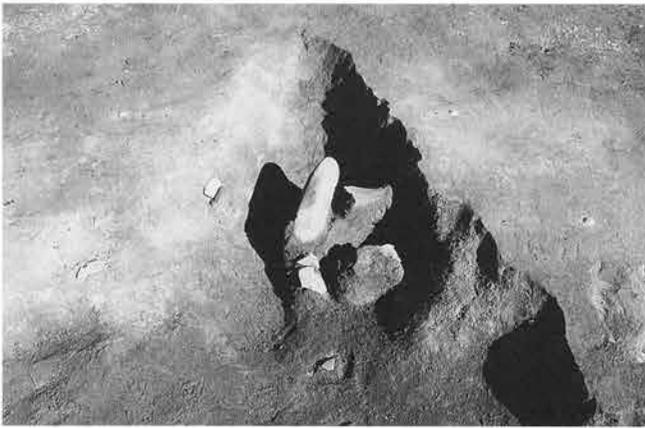
A-1号住居竈全景 (東から)



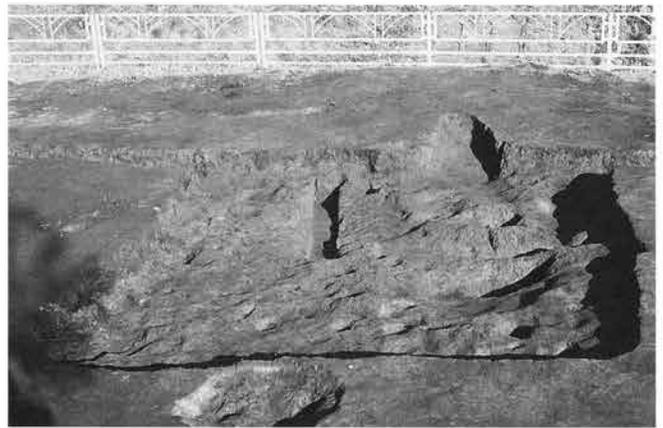
A-2号住居全景 (西から)



A-2号住居遺物出土状況 (西から)



A-2号住居竈全景 (西から)



A-2号住居掘方全景 (西から)



A-3号住居全景 (東から)



A-3号住居遺物出土状況 (東から)



A-4号住居全景 (西から)



A-4号住居竈全景 (西から)



A-4号住居掘方全景 (西から)



A-4号住居竈掘方全景 (西から)



A-5号住居全景 (南西から)



A-6号住居全景 (西から)



A-6号住居遺物出土状況 (西から)



A-7号住居掘方全景 (南西から)



A-7号住居竈掘方全景 (南西から)



A-7号住居貯蔵穴 (南西から)



A-8 号住居全景 (西から)



A-8 号住居竈遺物出土状況 (西から)



A-9 号住居掘方全景 (南西から)



A-9 号住居竈全景 (南から)



A-9 号住居竈遺物出土状況 (東から)



A-9 号住居貯蔵穴遺物出土状況 (南から)



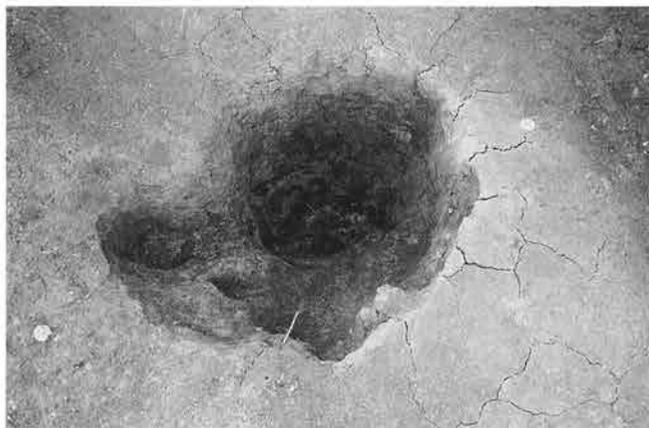
A-1 号土坑全景 (東から)



A-2 号土坑全景 (東から)



A-3号土坑全景 (南から)



A-4号土坑全景 (東から)



A-5号土坑全景 (南から)



A-6号土坑全景 (東から)



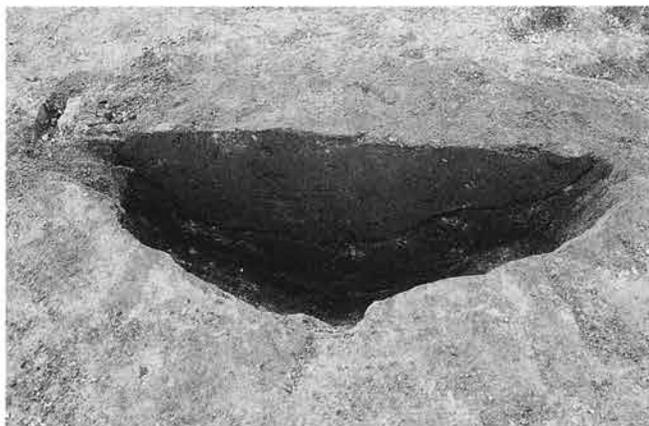
A-7号土坑全景 (南から)



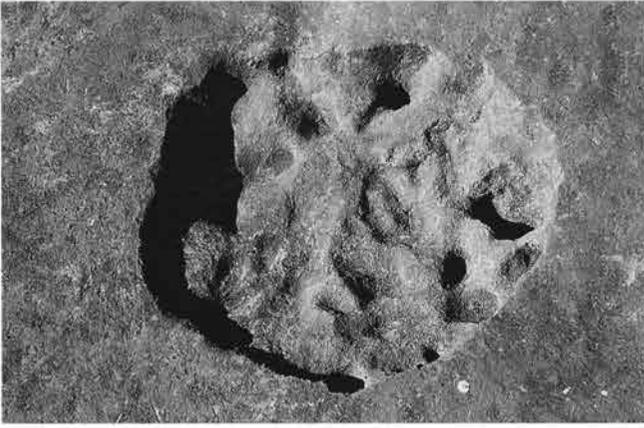
A-8号土坑全景 (南から)



A-9号土坑全景 (南から)



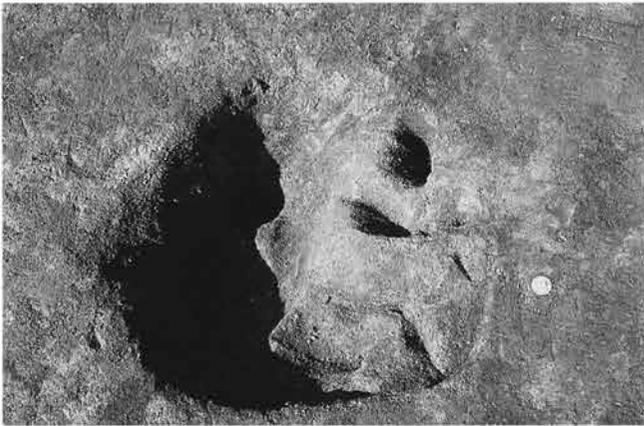
A-10号土坑断面 (南東から)



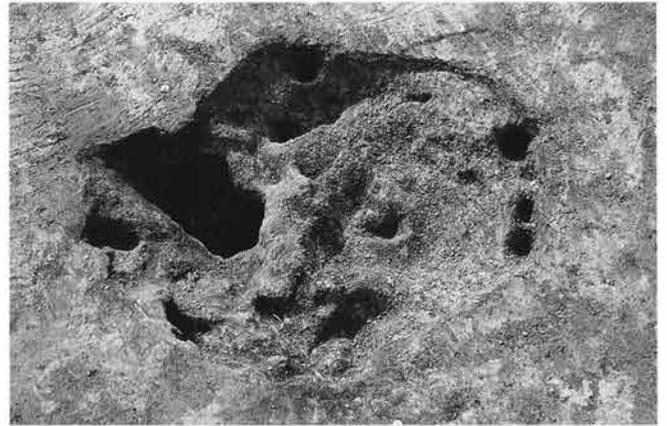
A-11号土坑全景 (東から)



A-12号土坑全景 (南から)



A-13号土坑全景 (東から)



A-14号土坑全景 (北から)



A-15号土坑全景 (東から)



A-16号土坑全景 (東から)



A-17号土坑全景 (東から)



A-18号土坑全景 (東から)



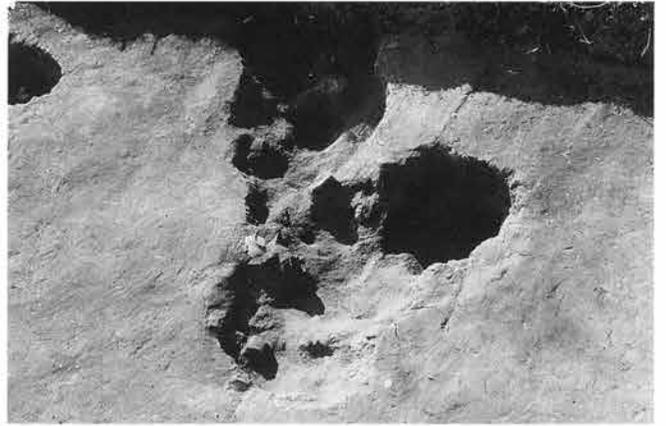
A-19号土坑全景 (南東から)



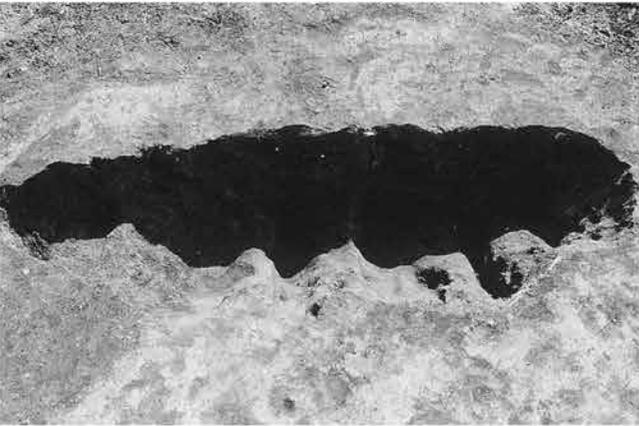
A-20号土坑全景 (南から)



A-23号土坑全景 (南東から)



A-24号土坑全景 (北東から)



A-25号土坑全景 (北西から)



A-26号土坑全景 (南東から)



A-27号土坑全景 (西から)



A-28号土坑全景 (南から)



A-29号土坑全景 (南西から)



A-30号土坑全景 (南から)



A-31号土坑全景 (南西から)



A-32号土坑全景 (南東から)



A-33号土坑全景 (南東から)



A-34号土坑全景 (東から)



A-35号土坑全景 (南西から)



A-36号土坑全景 (南から)



A-37号土坑馬骨出土状況 (南西から)



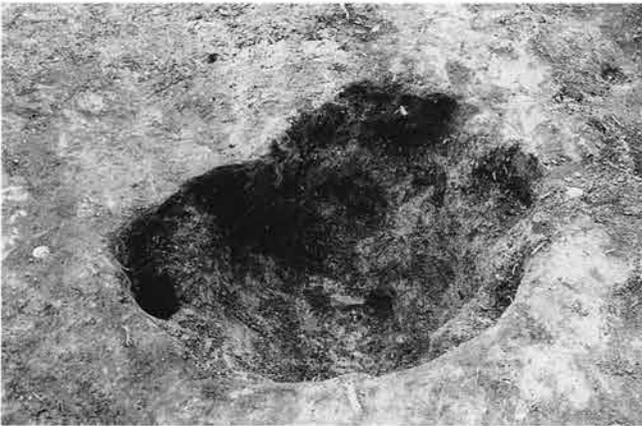
A-37号土坑全景 (南西から)



A-39号土坑全景 (南から)



A-41号土坑全景 (西から)



A-42号土坑全景 (北から)



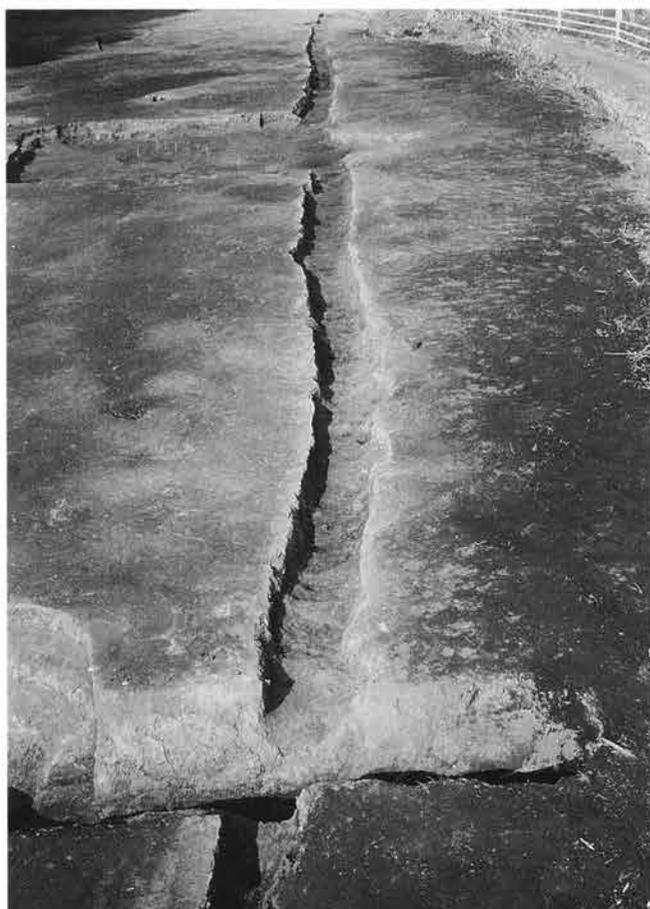
A-43号土坑馬骨出土状況 (北から)



A-43号土坑全景 (南から)



A-43号土坑全景 (北から)



A-1号溝全景 (南から)



A-2号溝全景 (西から)



A-2号溝断面A-A' (東から)



A-2号溝断面B-B' (東から)



A-3号・5号・6号・7号溝全景 (北東から)



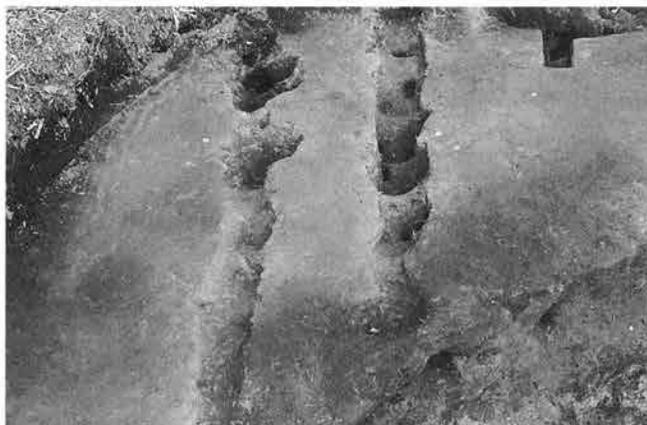
A-3号・5号・6号・7号溝全景 (南から)



A-4号溝全景 (南から)



A-5号溝断面C-C' (南東から)



A-8号・9号溝全景 (南から)



A-10号溝・37号土坑全景 (東から)



A-11号溝全景 (南から)



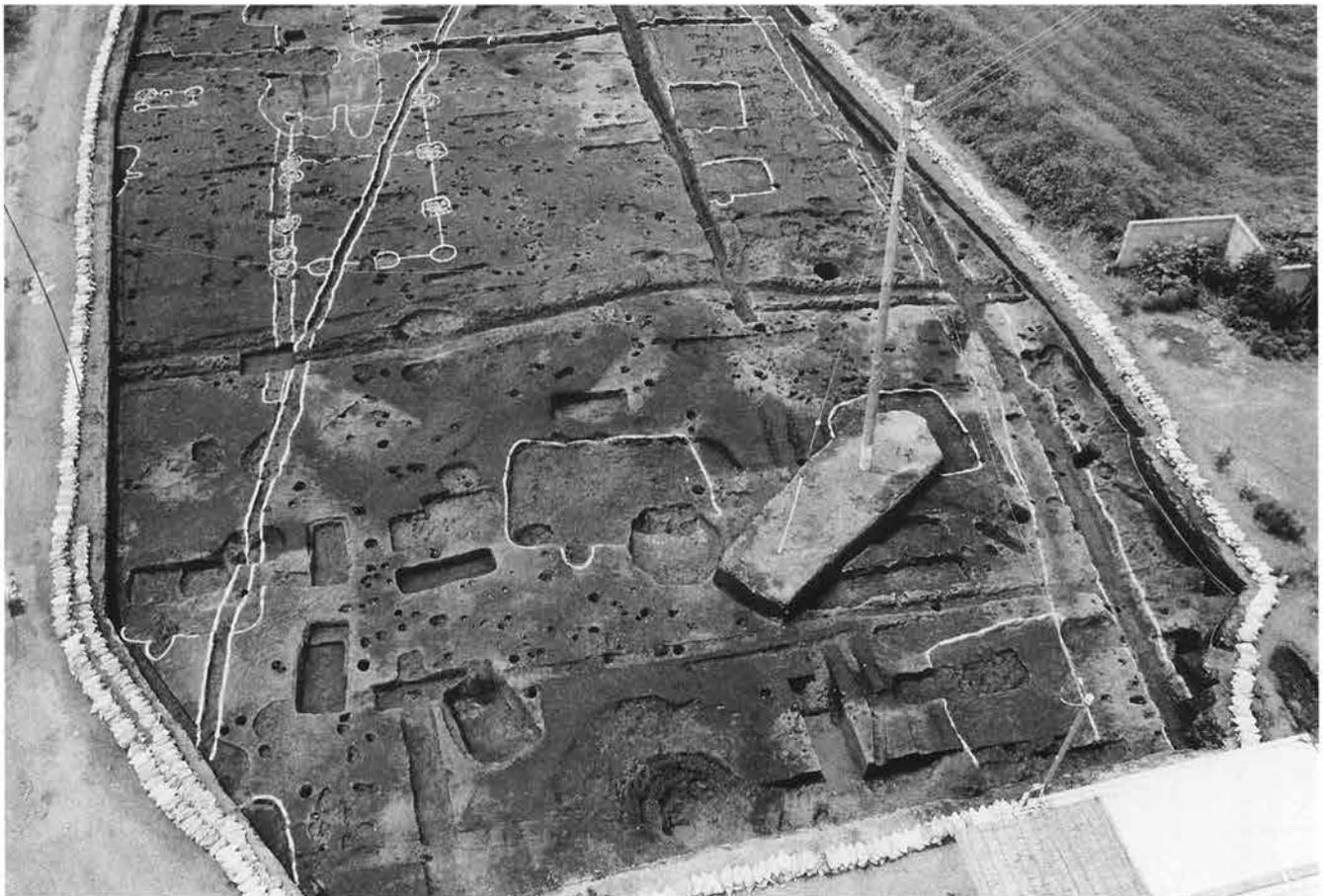
A-12号溝・43号土坑全景 (東から)



A-12号溝断面D-D' (東から)



B区西部全景（東から）



B区中央部全景（東から）



B区中央部全景 (南西から)



B区東部遺構確認状況 (南東から)



B-1号住居全景 (南西から)



B-2号住居東半部 (西から)



B-2号住居西半部 (西から)



B-2号住居竈全景 (西から)



B-2号住居東半部掘方全景 (西から)



B-3号住居全景 (西から)



B-4号住居全景 (西から)



B-5号住居全景 (西から)



B-7号住居全景 (南から)



B-7号住居竈全景 (南から)



B-7号住居掘方全景 (南から)



B-8号・10号住居全景 (西から)



B-10号住居竈全景 (西から)



B-9号住居全景 (西から)



B-11号住居全景 (西から)



B-12号住居全景 (南西から)



B-13号住居全景 (北東から)



B-14号・17号住居 B-42号土坑全景 (西から)



B-14号・17号住居 B-42号土坑遺物出土状況 (西から)



B-14号・17号住居 B-52号土坑掘方全景 (西から)



B-6号・15号住居全景 (西から)



B-6号・15号住居遺物出土状況 (西から)



B-15号住居竈全景 (西から)



B-6号・15号住居掘方全景 (西から)



B-18号住居全景 (西から)



B-19号住居全景 (西から)



B-19号住居遺物出土状況 (西から)



B-19号住居遺物出土状況 (西から)



B-19号住居竈全景 (西から)



B-19号住居掘方全景 (西から)



B-20号住居全景 (西から)



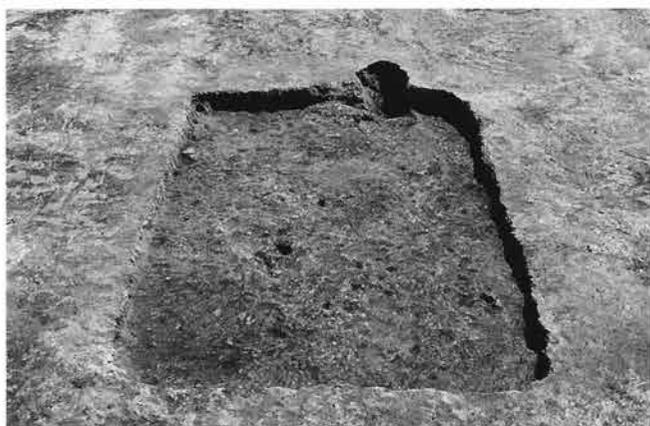
B-20号住居竈全景 (西から)



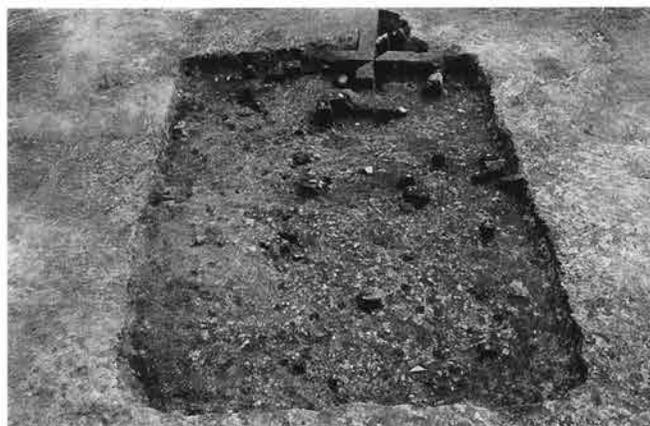
B-20号住居掘方全景 (西から)



B-21号住居全景 (南から)



B-22号住居全景 (西から)



B-22号住居遺物出土状況 (西から)



B-22号住居竈全景 (西から)



B-22号住居掘方全景 (西から)



B-36号土坑全景 (南から)



B-37号土坑全景 (東から)



B-38号土坑全景 (西から)



B-39号土坑全景 (東から)



B-40号土坑全景 (北から)



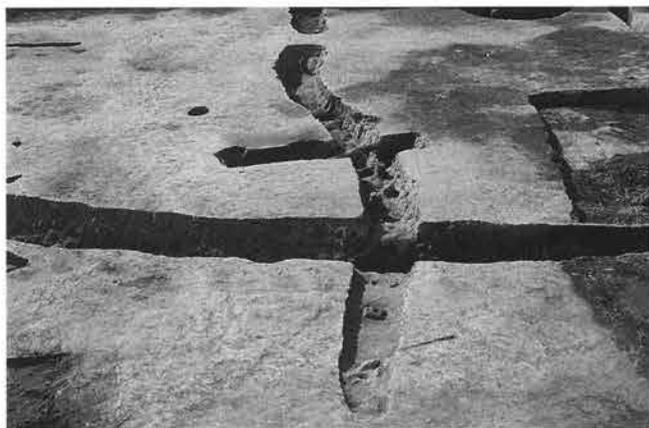
B-41号土坑馬骨出土状況 (東から)



B-5号溝全景 (南から)



B-12号溝全景 (北西から)



B-15号溝全景 (東から)



B-16号溝全景 (北から)



B-17号溝全景 (東から)



B-19号溝全景 (南から)



18号溝東半分遺物出土状況 (西から)



B-1号井戸全景 (西から)



B-2号井戸全景 (西から)



C区全景 (南から)



C区全景 (北から)



C-1号住居全景 (東から)



C-1号住居掘方全景 (東から)



C-1号溝全景 (東から)



C-2号溝全景 (南から)



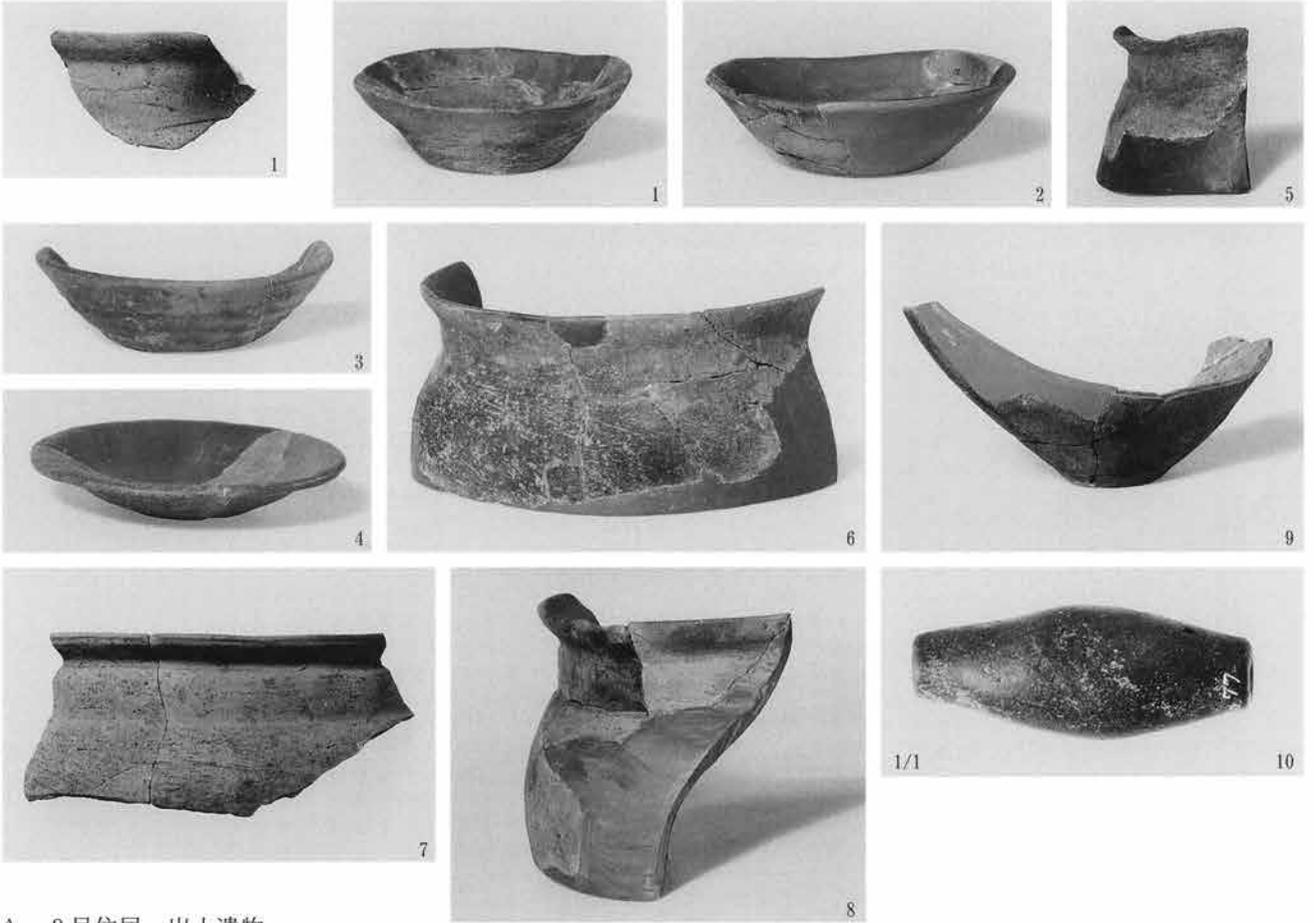
C-1号・2号溝断面A-A' (東から)



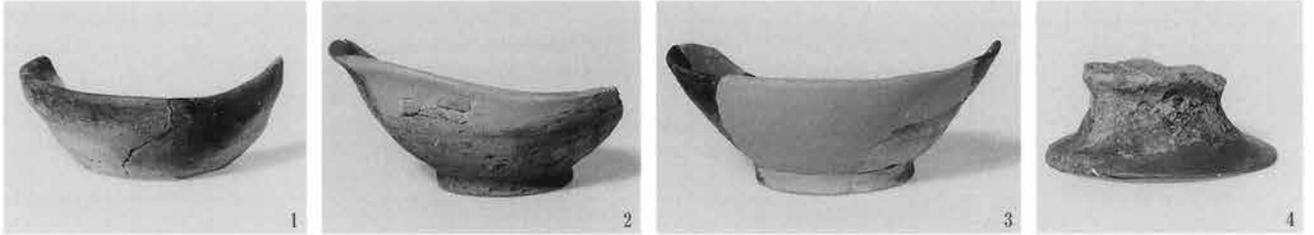
C-3号溝全景 (東から)

A-1号住居 出土遺物

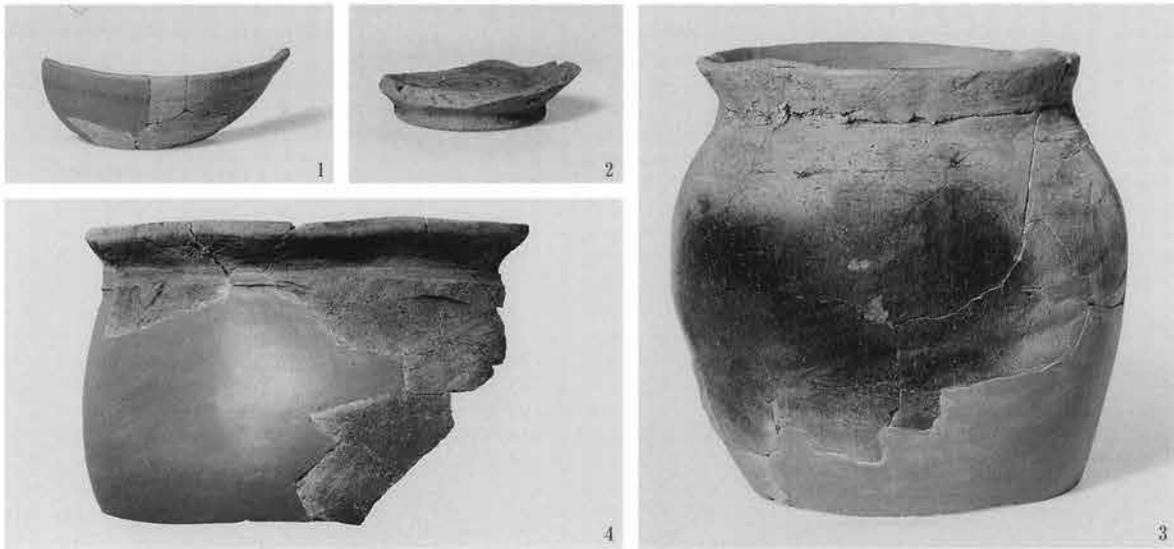
A-2号住居 出土遺物



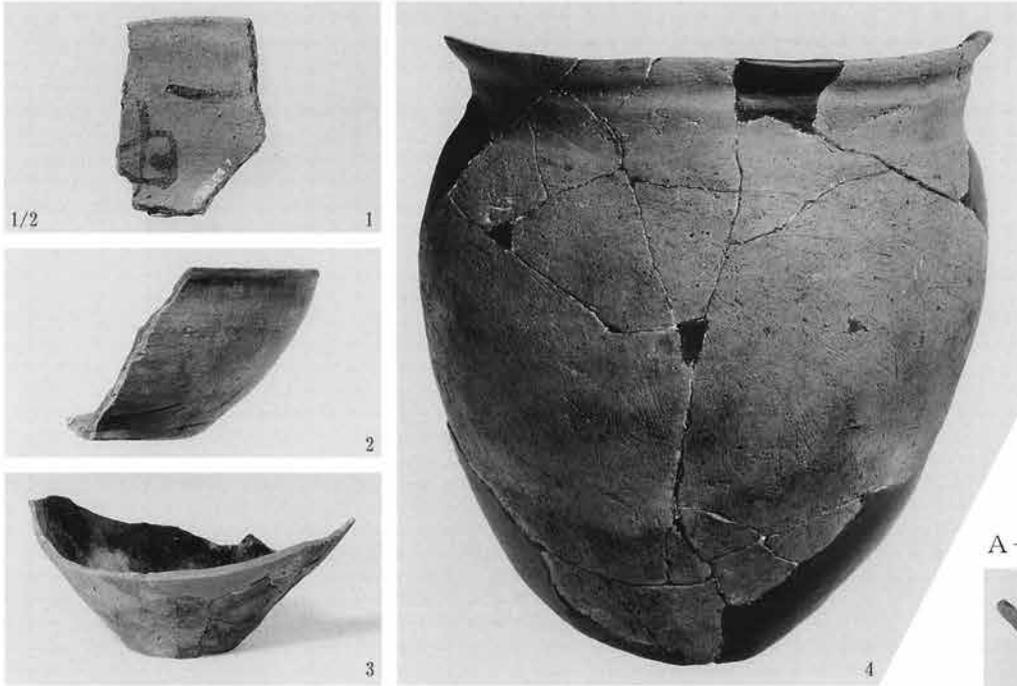
A-3号住居 出土遺物



A-4号住居 出土遺物



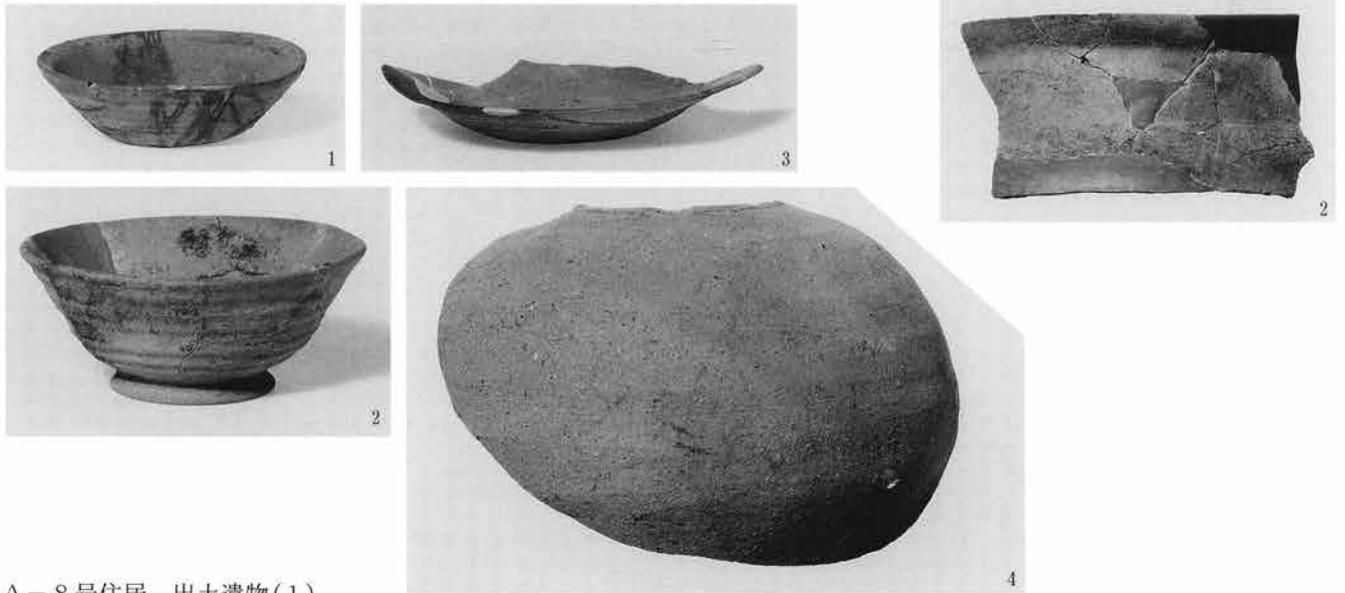
A-5号住居 出土遺物



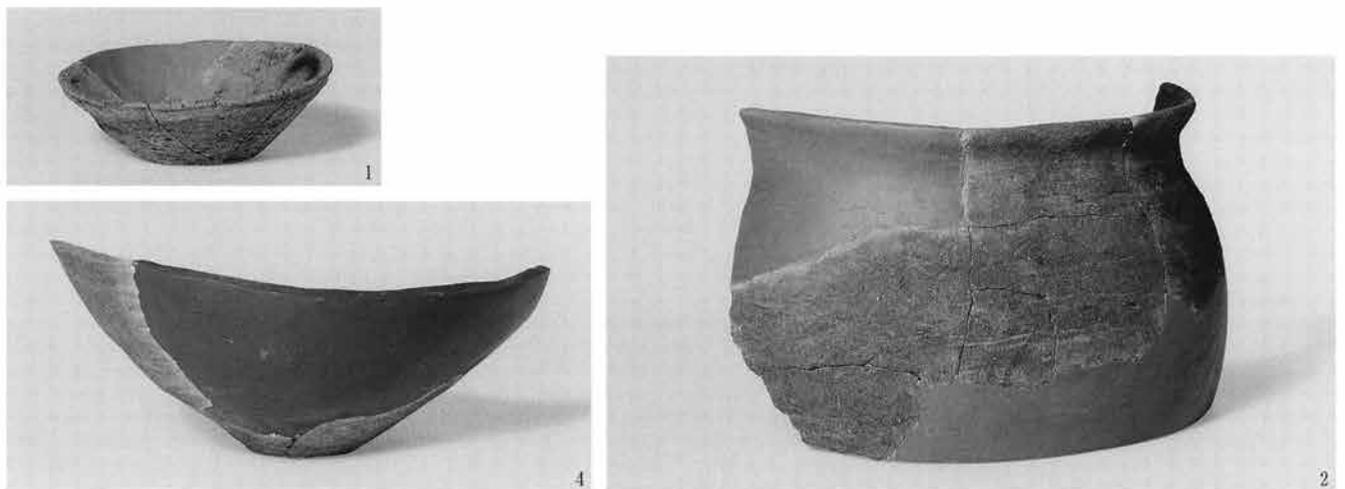
A-6号住居 出土遺物



A-7号住居 出土遺物



A-8号住居 出土遺物(1)



A-8号住居 出土遺物(2)



A-9号住居 出土遺物



A-24号土坑 出土遺物



A-34号土坑 出土遺物



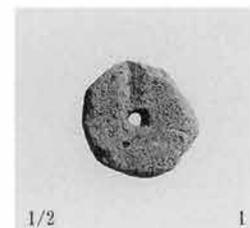
A-38号土坑 出土遺物



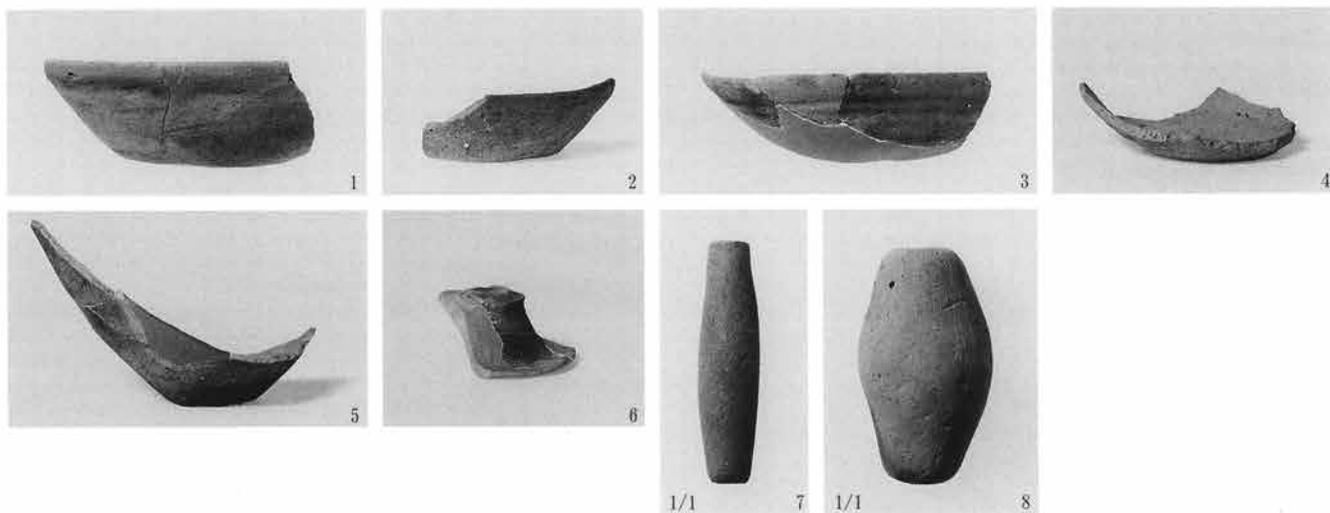
A-5号溝 出土遺物



A-6号溝 出土遺物



B-1号住居 出土遺物



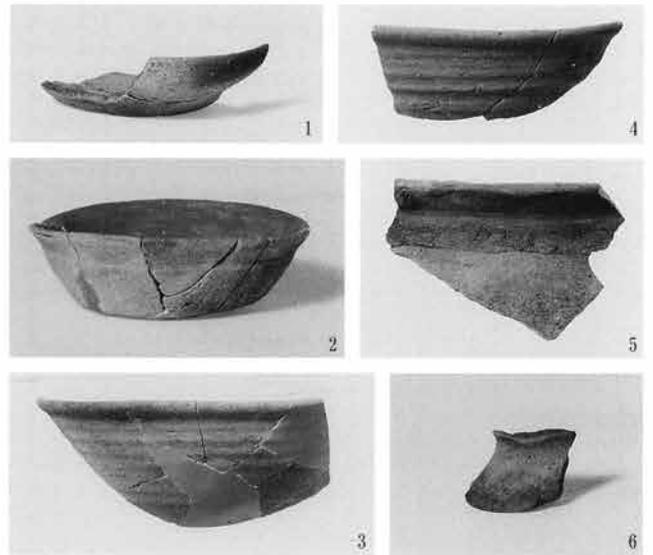
B-2号住居 出土遺物(1)



B-2号住居 出土遺物(2)



B-3号住居 出土遺物



B-4号住居 出土遺物(1)



B-4号住居 出土遺物(2)



12

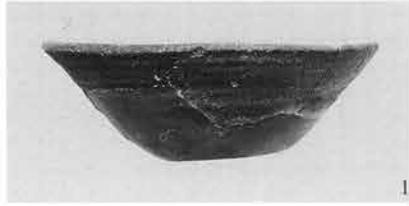


14



13

B-5号住居 出土遺物



1



2

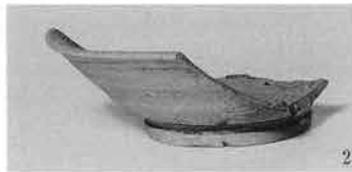
B-6号住居 出土遺物



1



3



2



4



5



5

B-7号住居 出土遺物



1



2



3



3

B-8号住居 出土遺物



1



3



5



10



2



4



7



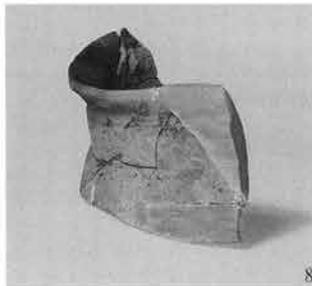
11



12



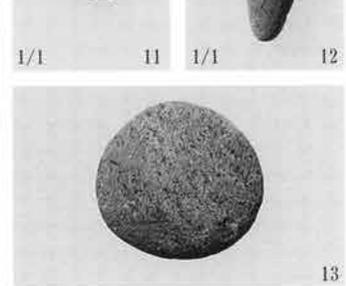
6



8



9



13

B-8号・10号住居 出土遺物



1

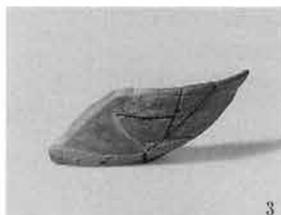
B-10号住居 出土遺物



1



2



3



6



9



7



8



4



5



10



11



12

B-9号住居 出土遺物



13



14



1



2



4



16

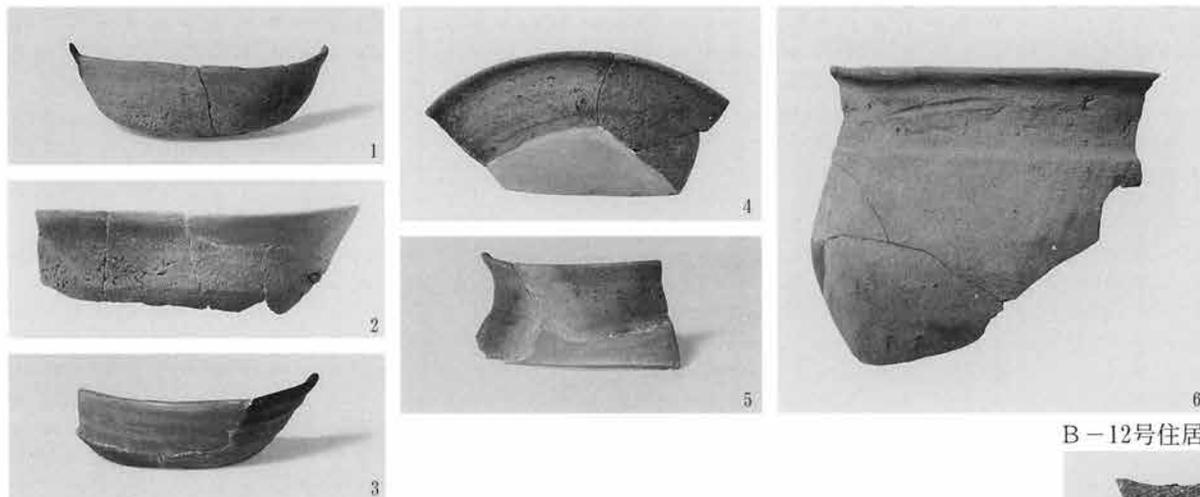


3



15

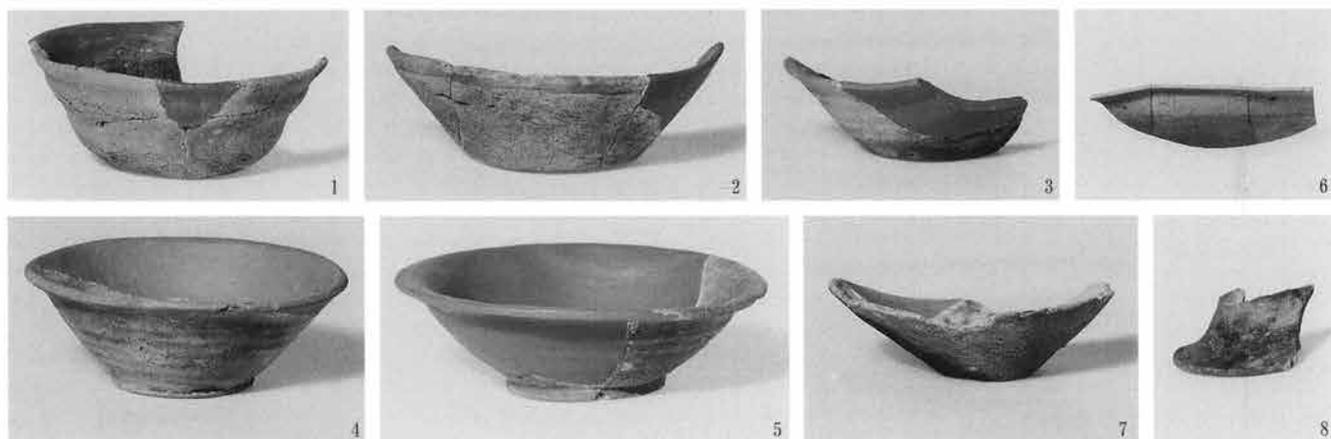
B-11号住居 出土遺物



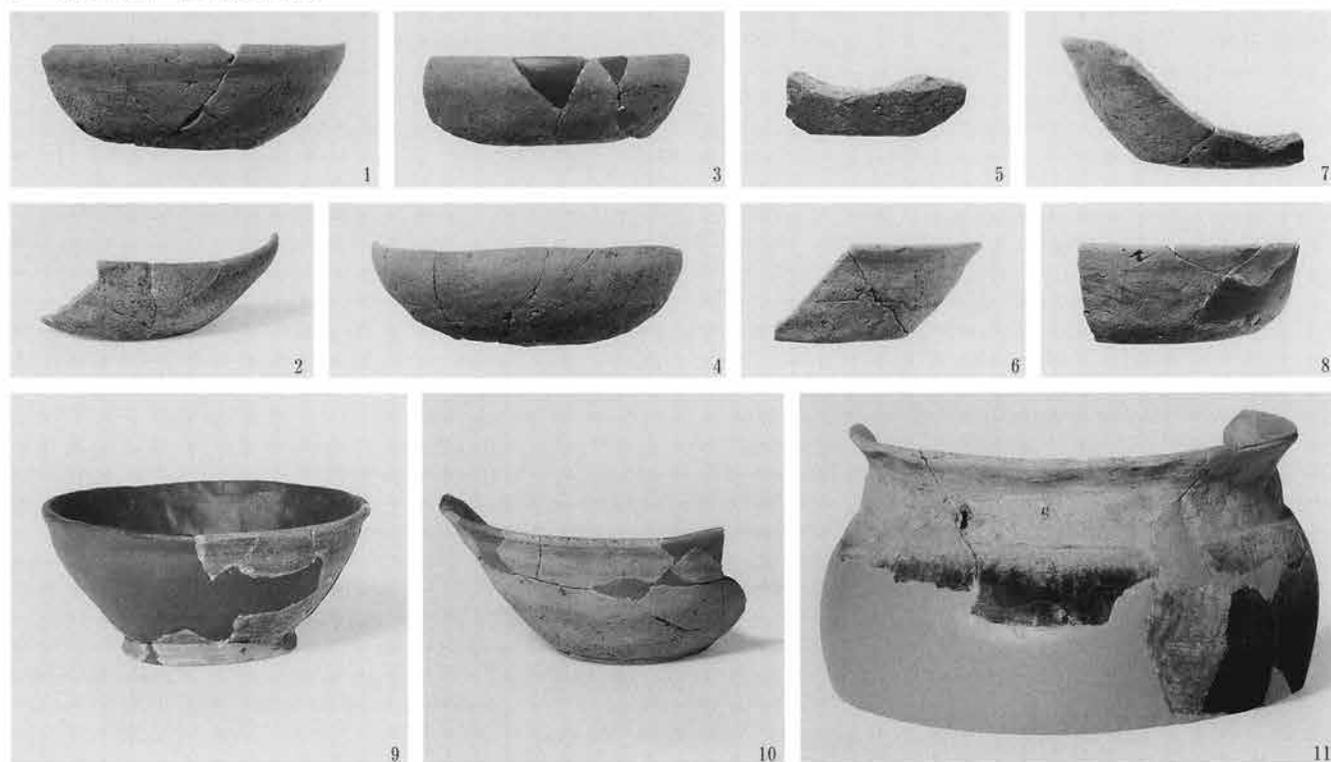
B-12号住居 出土遺物



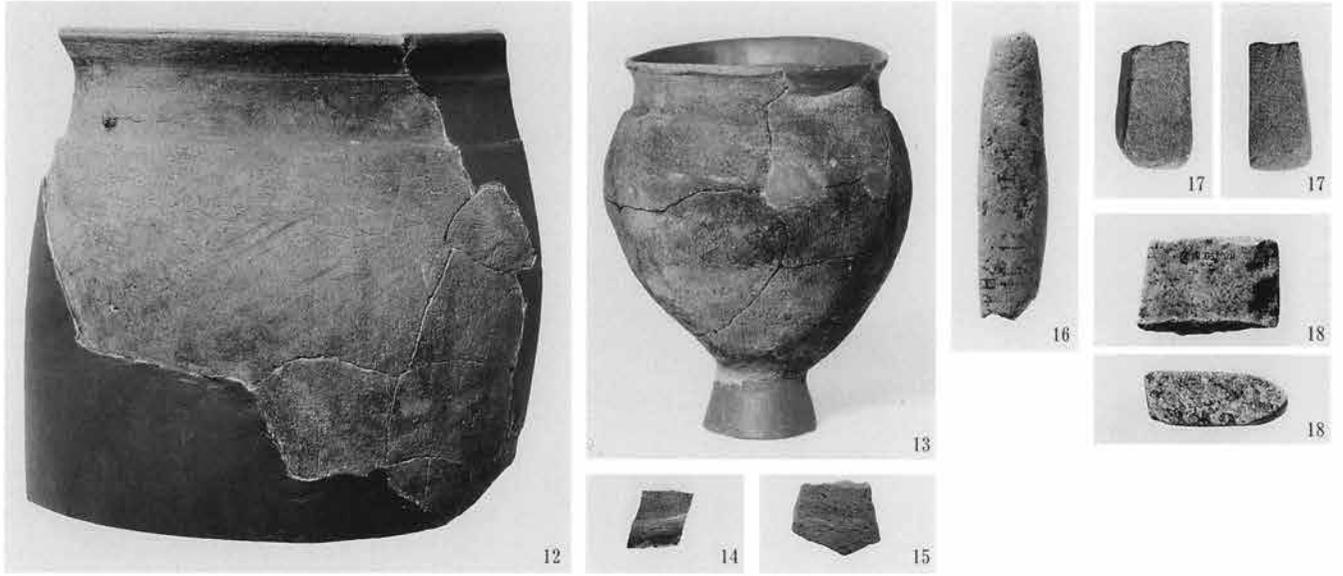
B-14号住居 出土遺物



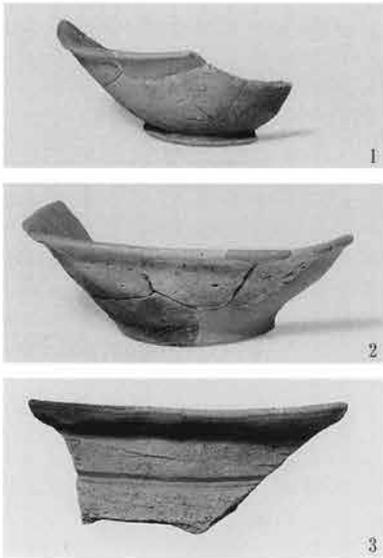
B-15号住居 出土遺物(1)



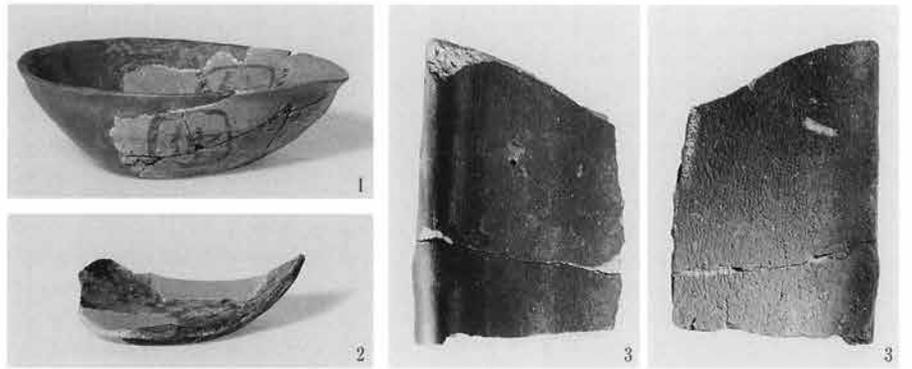
B-15号住居 出土遺物(2)



B-17号住居 出土遺物



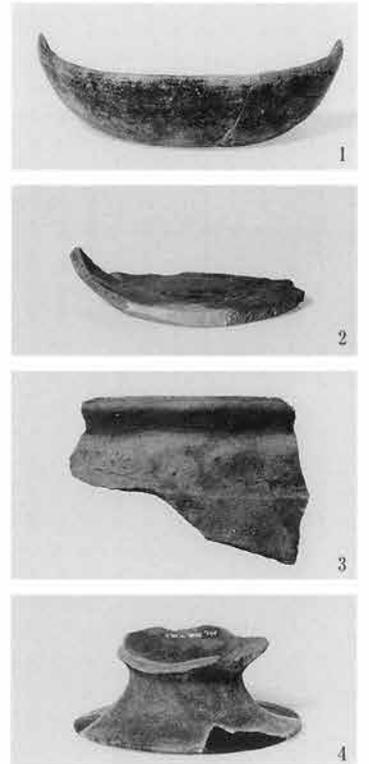
B-18号住居 出土遺物



B-19号住居 出土遺物



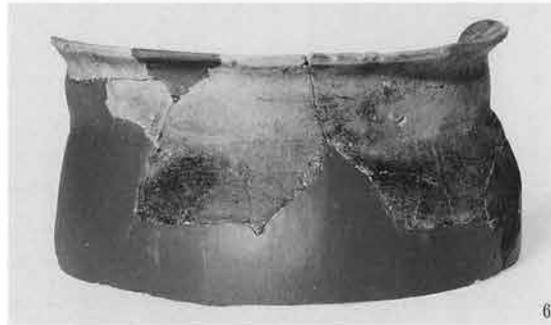
B-20号住居 出土遺物



B-21号住居 出土遺物



B-22号住居 出土遺物



B-1号土坑 出土遺物



B-6号土坑 出土遺物



B-11号土坑 出土遺物



B-32号土坑 出土遺物



B-29号土坑 出土遺物



B-37号土坑 出土遺物



B-22号土坑 出土遺物



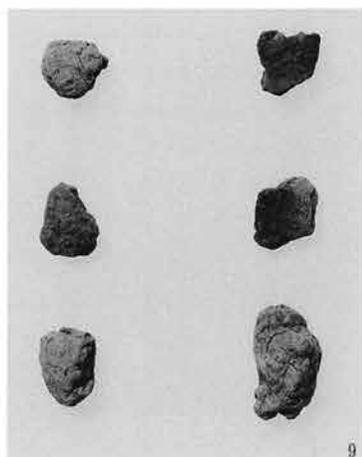
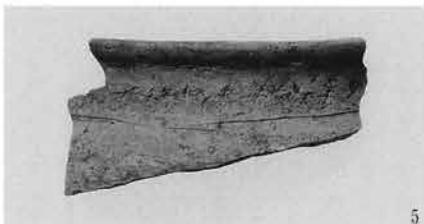
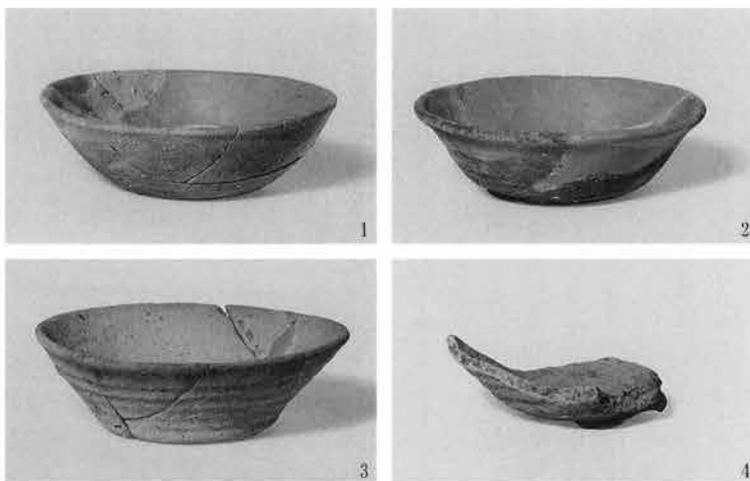
B-42号土坑 出土遺物



B-1号粘土採掘坑 出土遺物



B-1号井戸 出土遺物



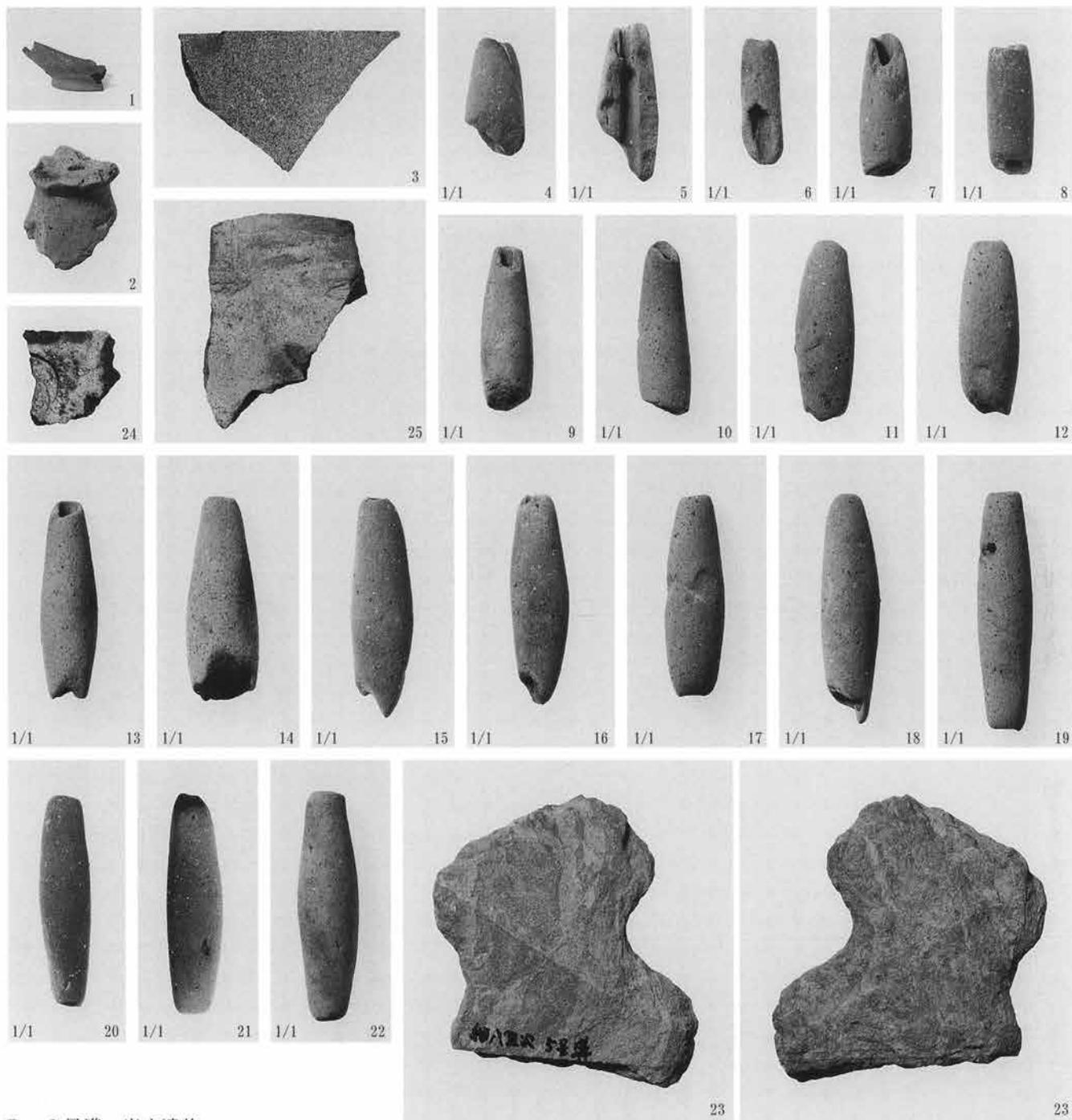
B-2号井戸 出土遺物



B-1号溝 出土遺物



B-5号溝 出土遺物



B-6号溝 出土遺物



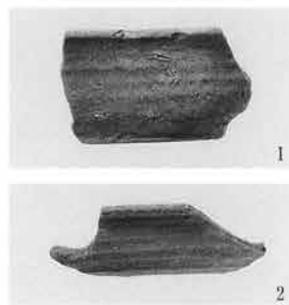
B-10号溝 出土遺物



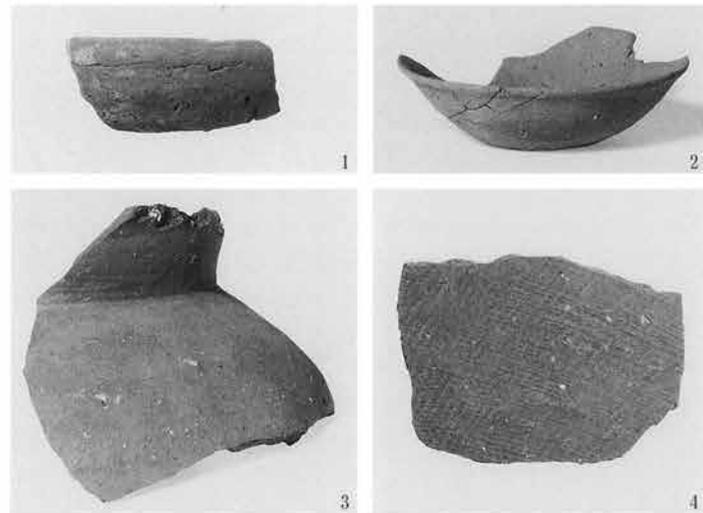
B-15号溝 出土遺物



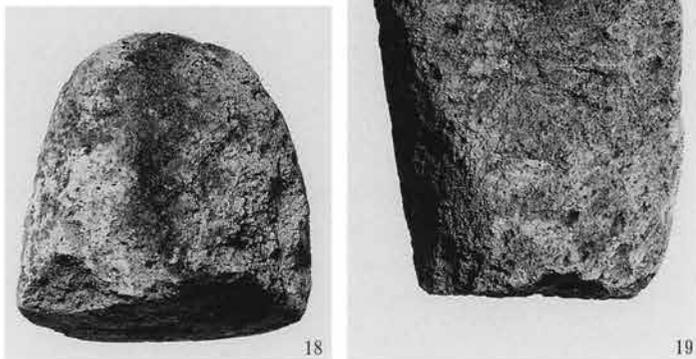
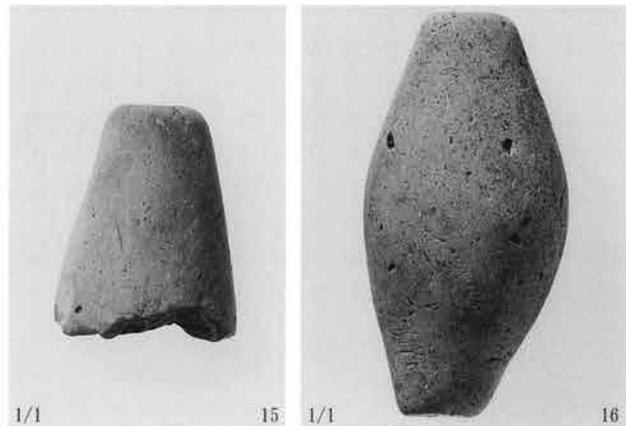
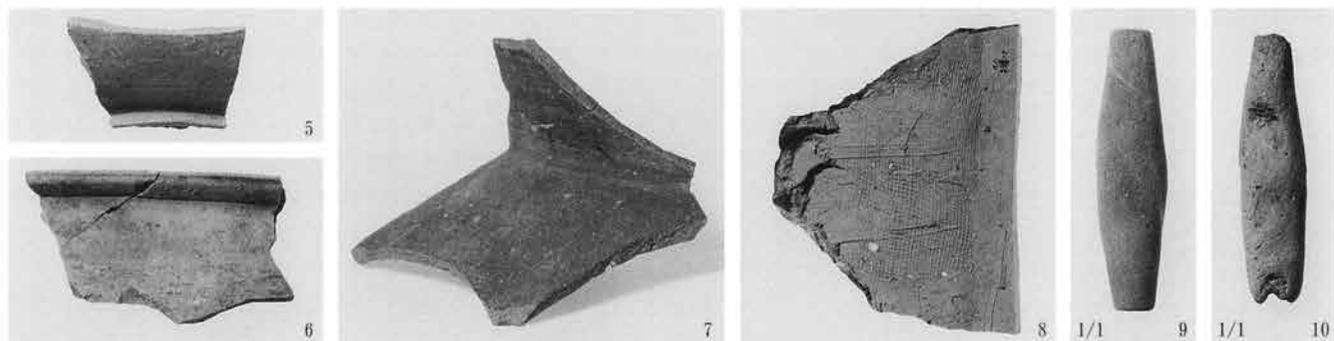
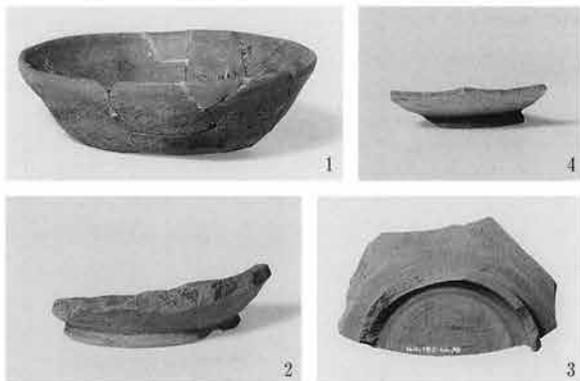
B-16号溝 出土遺物



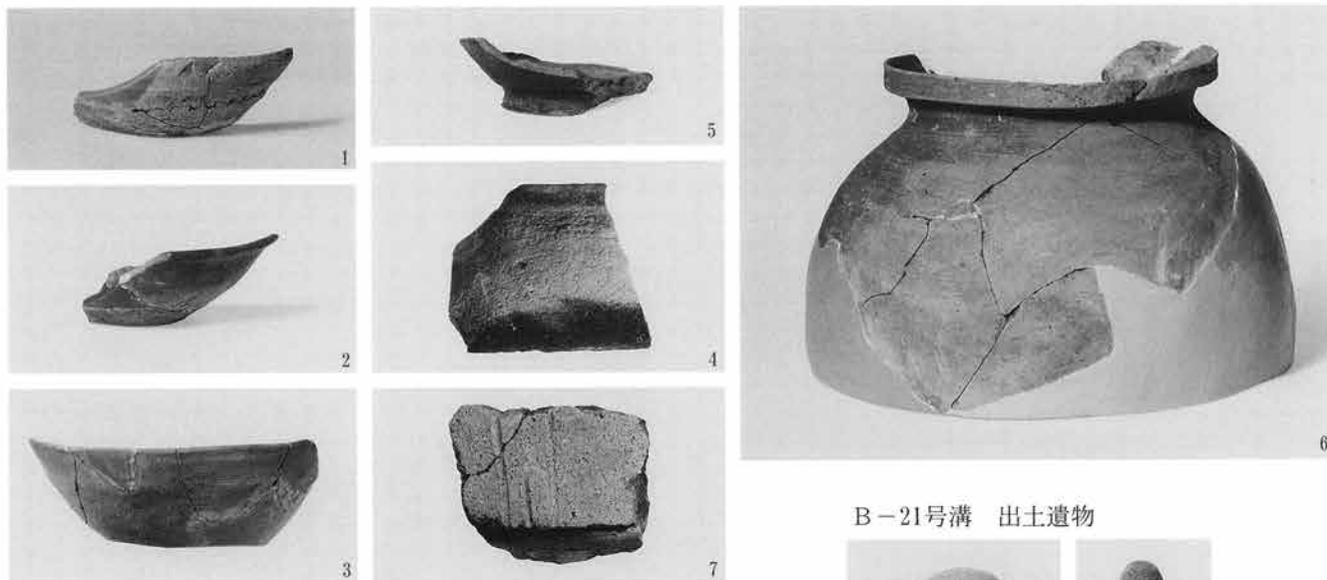
B-17号溝 出土遺物



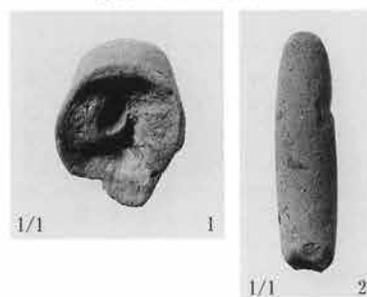
B-18号溝 出土遺物



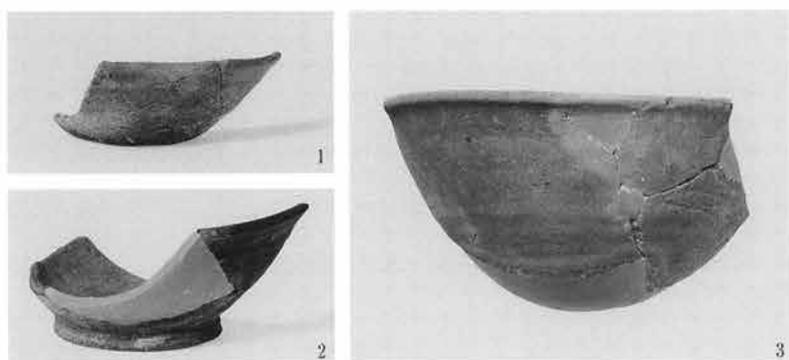
B-20号溝 出土遺物



B-21号溝 出土遺物



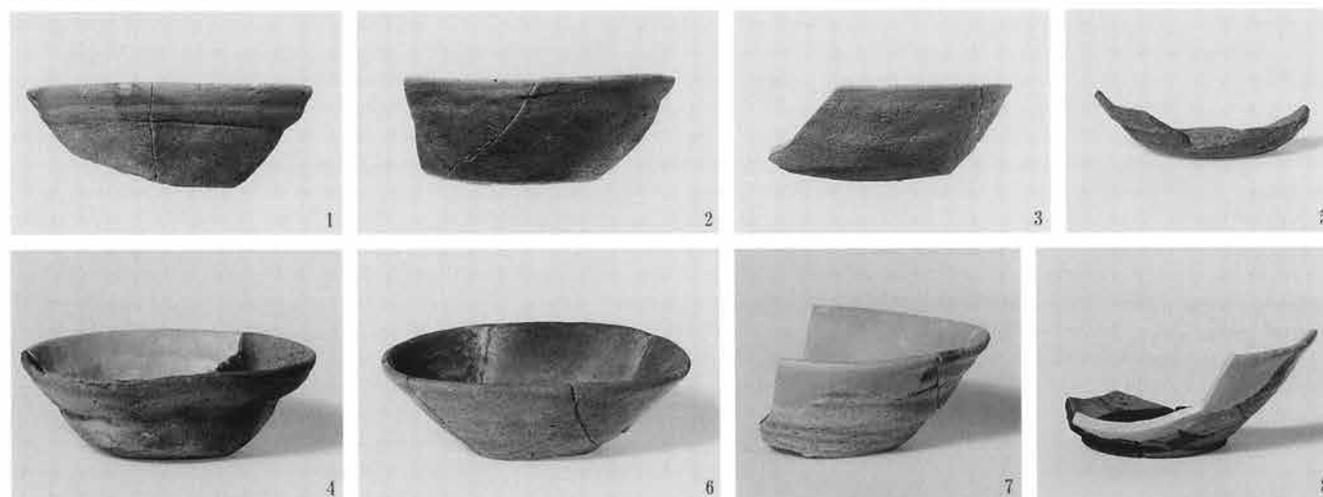
C-1号住居 出土遺物



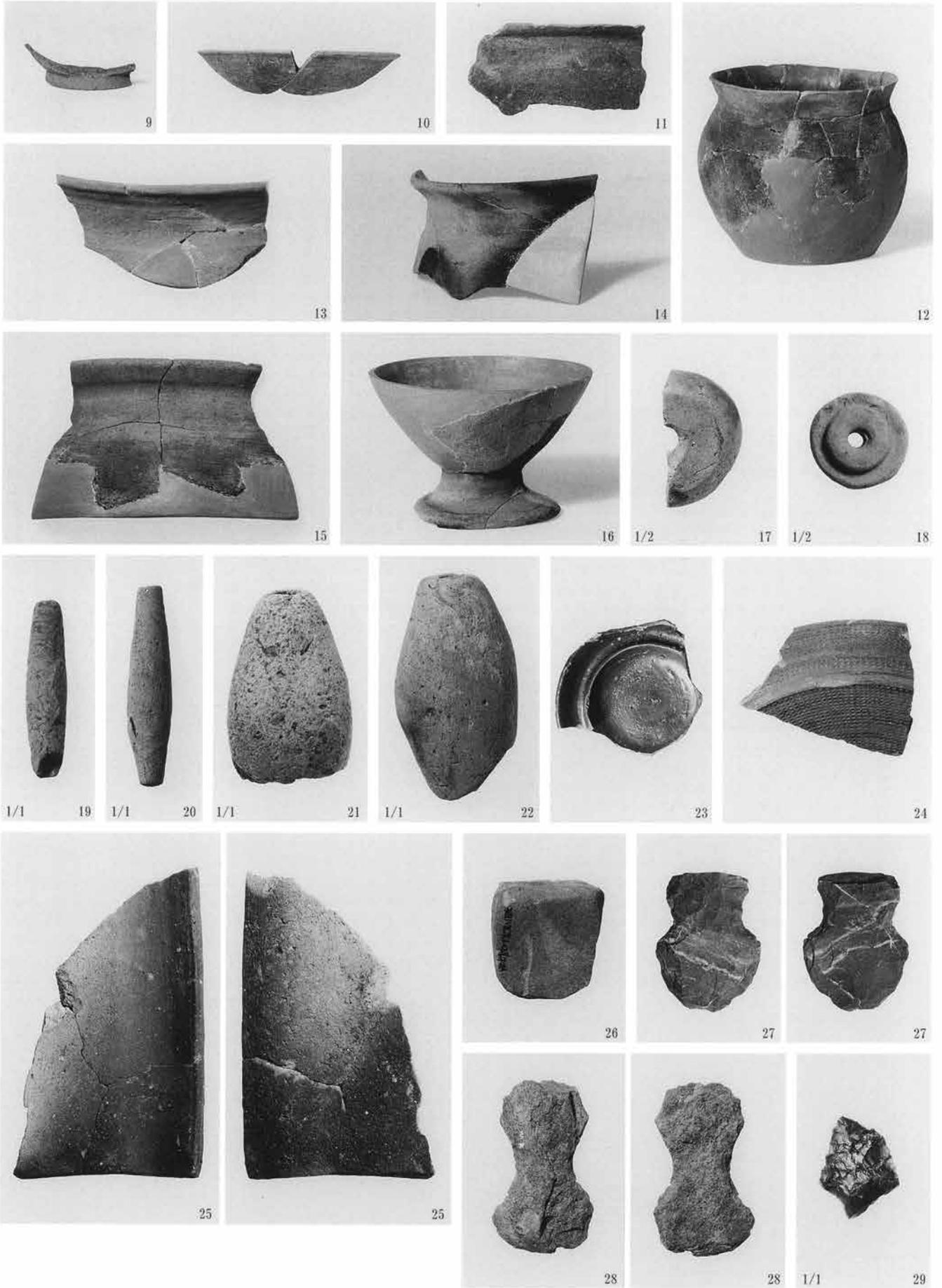
C-1号溝 出土遺物



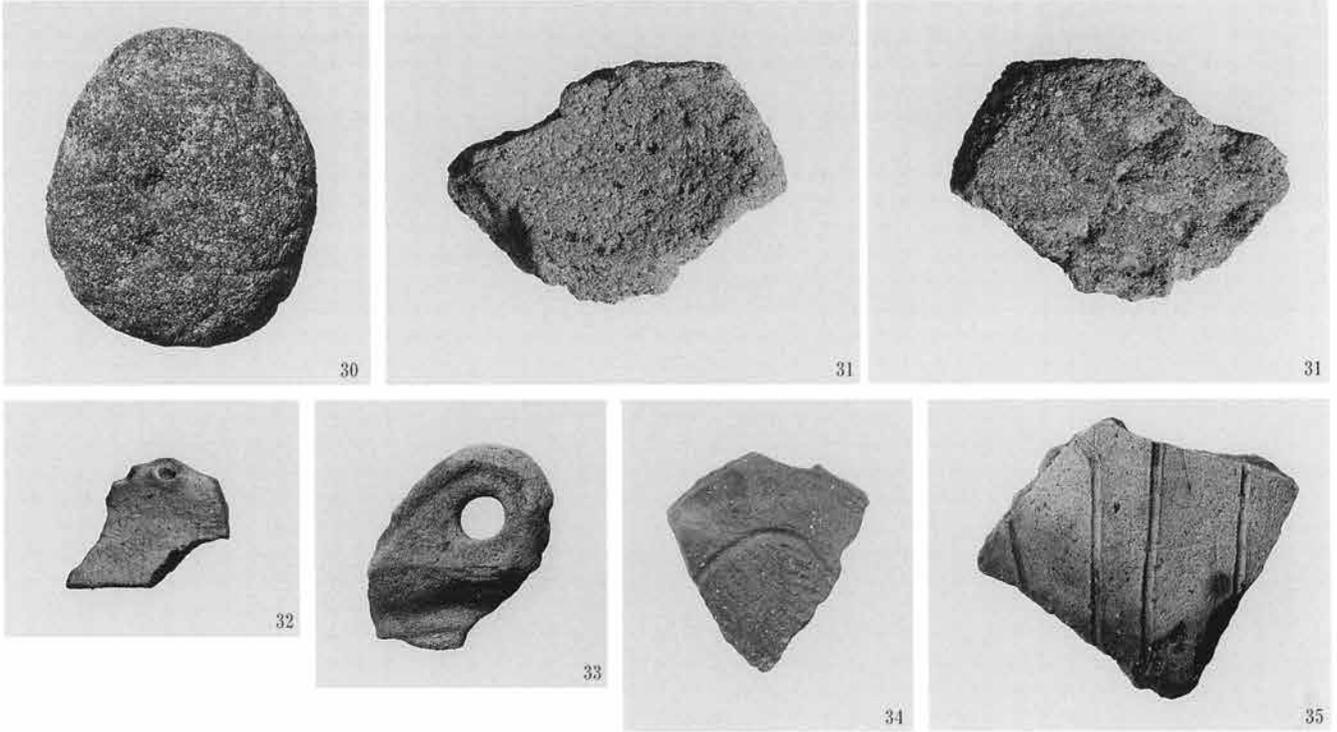
遺構外出土遺物(1)



遺構外出土遺物(2)



遺構外出土遺物(3)



線刻・暗文・墨書拡大 (1/2)



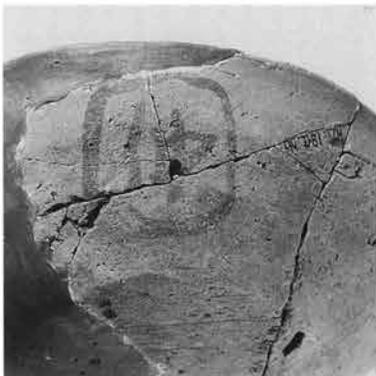
A-4号住居-2



B-20号住居-1



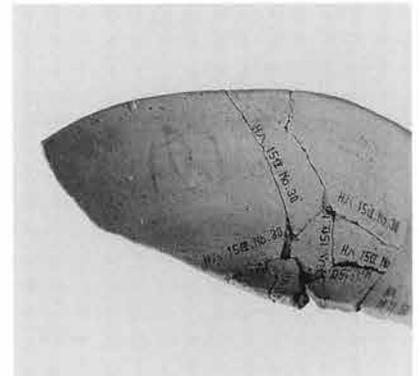
B-15号住居-7



B-18号住居-1 (外)



B-18号住居-1 (内)



B-15号住居-4

財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第394集

細谷南遺跡・細谷八幡遺跡

国道354号太田バイパス道路特殊改良一種事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第1集

平成19年2月16日印刷

平成19年2月28日発行

編集・発行／財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

〒377-8555 群馬県渋川市北橘町下箱田784番地の2

電話 (0279) 52-2511 (代表)

ホームページアドレス <http://www.gunmaibun.org/>

印刷／朝日印刷工業株式会社

細谷南遺跡
A~D区全体図
(1/200)



細谷八幡遺跡
B区全体図
(1/200)

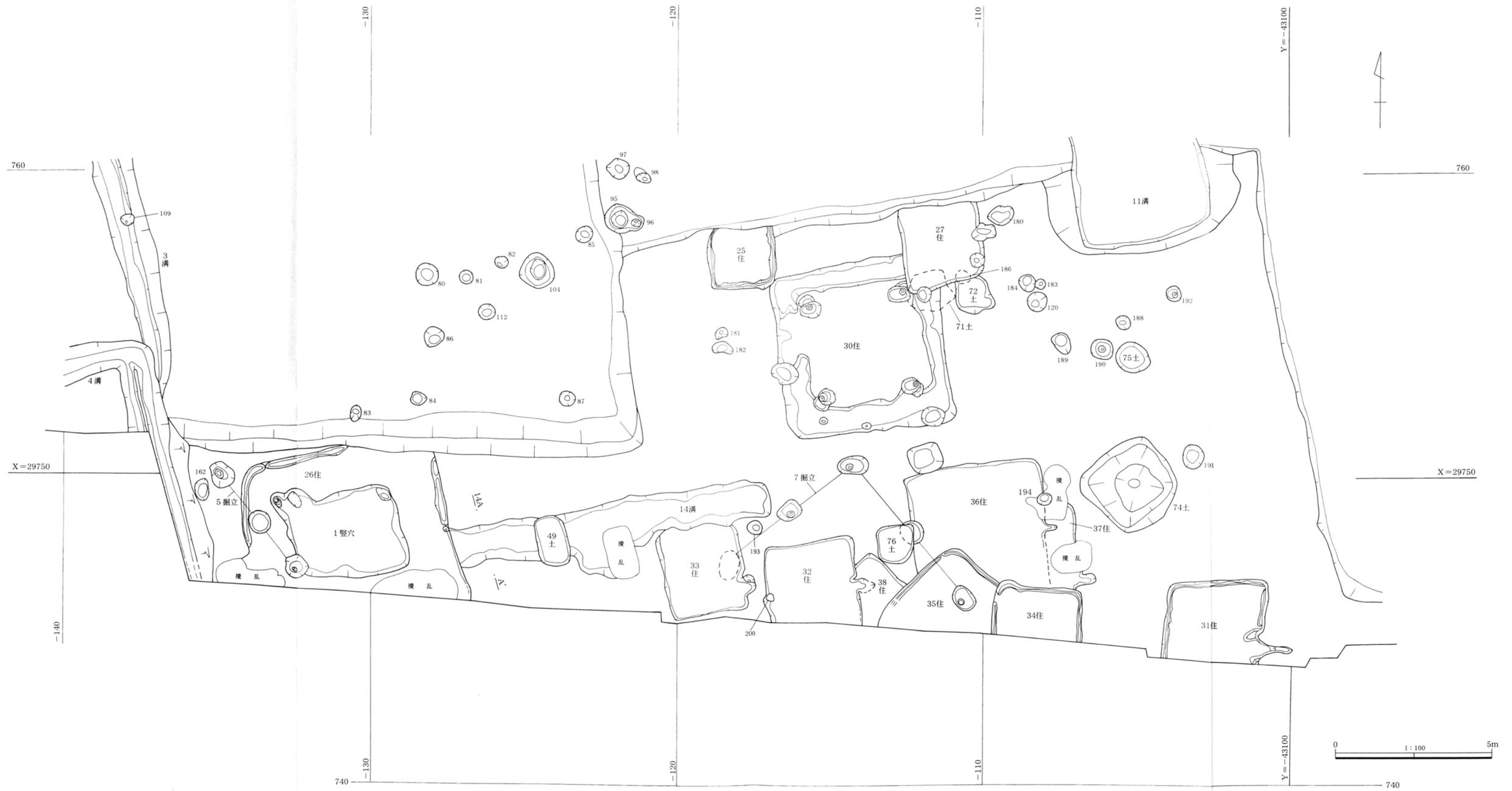


細谷南遺跡
A区全体図
(1/100)



付図 3

細谷南遺跡 D 区全体図 (1/100)



細谷八幡遺跡 A 区・C 区全体図 (1/200)

